

Title	百二十詠詩注校本：本邦伝存李嶠雜詠注
Sub Title	A variorum edition of the Hyakunijuei shichu : Japanese manuscripts of commentaries to Li Jiao's poetry
Author	山崎, 明(Yamazaki, Akira) Steininger, Brian
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2015
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.50 (2015. ) ,p.243- 383
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	山本英史前文庫長・川上新一郎教授退職記念
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20150000-0243">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20150000-0243</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

百二十詠詩注校本——本邦伝存李嶠雜詠注——

山崎 明

ブライアン・スタイニンガー

凡例

本書は『百二十詠詩注』の校本である。慶應義塾図書館蔵『百二十詠詩注』を底本とし、これを可能な限り忠実に翻刻して、諸本によって校訂した。但し本文を改めた際には、底本の体裁に遡及できるように努めた。翻刻の要領は以下の通りである。

一、漢字の字体は正字体に統一した。また異体字は概ね通行の字体に改めた。但し別義を有する異体字は改めなかった。例  
えは「后」には「後」字の義と帝王の妻子などの義があつて、単に「後」字の異体字とすることはできない。このような字

は異体字として用いられていても、敢えて改めずに底本表記のままとした。

一、校異に於いて、同義の異体字は異同を示さなかった。但し同義であつても、別義を有する異体字については異同を示した。  
一、表示できない漢字は、先ず点線で構造を示し、次いで部品を「」に入れて表した。その際、部品は左から右、上から下の順で示した。例えば、次の通りである。

例、

青	争
---	---

風	子
---	---

それぞれ「静」「學」を表す。

一、底本に限って、振仮名・送仮名・返点・音訓合符を翻刻した。  
一、漢字の量字は「々」で、片仮名の場合は底本の表記に則つ

て「、」と「/」で示した。また、文字省略の場合も底本に倣って「ー」で示した。

一、底本の仮名表記は濁音の有無に統一を欠くが、原本を尊重してそのまま翻字した。但し、ㄱ(コト)メ(シテ)などの合字の類は通常の仮名に改めた。

一、訓点ではできるだけ底本を尊重したが、明らかな誤りと認められ、そのまま存することで読解に支障を来すものについては、その文字上に×を冠して( )に入れて示した。例えば、文字の左下に(×二)とあれば、底本の当該箇所にある二点が誤りであることを意味する。また読解の便を考慮して、校定者が新たに返点を施す場合には( )に入れて補足した。

一、基本的に底本の振仮名や送仮名には手を加えなかった。但し底本が誤って返点や句読点を打ち、その誤読に従って仮名を付していたり、熟語の途中に誤って送仮名を付していたりする場合は、読解の障害となるため、その文字上に×を冠して( )に入れて示した。

一、底本には書名・人名等に朱引があるが、これを翻刻しなかった。

一、底本には句点が記されているが、規則性がなく誤りも多い

ため、句読点は校訂者の判断で施した。

一、底本に限って傍書・注記を翻字した。当該箇所の右傍に①②③などの○付きの番号を附し、「書入」の項に示した。なお底本の傍書・注記には僅かに訓点が附されている。本書はこれらを翻刻したが、その不足を補うことは最小限に留めた。

一、傍書・注記の校異は、「書入」の項にて当該文字の右傍に\*付きの番号を附し、その文末に( )に入れて示した。なお、底本に無く対校本にのみ見られる書入は翻刻しなかった。

一、行取りは底本の体裁に従わなかった。読解の便を考慮して、門目・題目・詩句本文を行頭から記し、門下・題下・句下の小字双行注は、行を改めて一格を低して記した。但し、序や目録、頭注等に見られる小字注は、字の大小を区別するため( )に入れて示した。

一、底本の張数とその表裏は( )に入れて示し、張移りに「」を施して、併記した。なお、表裏はオ・ウをもって略記した。例えば(38ウ)とあれば、以上の本文が三十八張裏であり、ここを以て張が移ることを意味する。

一、闕損箇所は、残画から文字が推定できる場合は「」に入れて示し、推定困難な場合は字数を計って□で示した。また複

数字で字数が判明しない場合は「」を以て替えた。

一、「校異」にて、底本の慶應義塾図書館蔵本を（底）と略称した。また対校に用いた諸本とその簡稱、校合範囲は次の通りである。

- ・前田育徳会尊経閣文庫蔵本（前） 001 〱 060
- ・天理大学附属天理図書館蔵本（天） 001 〱 120
- ・陽明文庫蔵本（陽） 031 〱 060

尊経閣文庫蔵本は上巻のみの闕本であり、陽明文庫蔵本は、嘉樹十首、靈禽十首、祥獸十首のみの残闕本である。故に両本の校合はその範囲に留まった。

一、校異は「」を隔てて、上に底本文、下に対校本異同本文を示し、対校本によって底本文を改めた際には上下を顛倒させた。故に常に上は校訂本文となり、下に言及されない対校本本文は底本文と同じということになる。例えば、次の通りである。

例、雪（天）―雲

これは底本の「雲」という本文を、天理本の「雪」によって改めたことを示す。また他本をも校合に用いる範囲であれば、天理本以外の対校本は底本と同じ「雲」であることを表

す。

一、ある対校本の内容が、文、或いは文節単位で、底本と大きく異なる場合には、「校異」にて先ずその対校本本文を示し、次いで底本と他本との異同を示した。その際、この底本と他本との校異には前項に述べた「」を用いた表記法を取ったが、例外的に先に示した対校本本文をその校異対象から外した。一、校異にて校訂本文に採用した長文を引く場合には、初めの二字と終わりの二字を以て、これに替えた。例えば「校異」にて再度「学而時習之。不亦説乎」という校訂本文を引く場合には、「学而」到「説乎」と略記した。

一、「校異」にて文単位で対校本の異同を示す場合に、その文に明かな誤字がある時は右傍に（ママ）と記した。

一、便宜上、各詩題の頭に001から120までの番号を附した。

（附記）

貴重な資料の閲覧と翻刻を御許可下さった慶應義塾図書館、尊経閣文庫、天理図書館、陽明文庫に衷心より御礼申し上げます。別けても陽明文庫長名和修氏には格別の御高配を賜った。特記して深甚の謝意を表したい。



〔上冊〕

百二十詠詩注上

故中書令鄭國公李嶠雜詠一百二十首

登仕郎守信安郡博士 張庭芳 註〔并序〕

嘗覽<sup>ム</sup>尊<sup>ニ</sup>德<sup>ヲ</sup>敘<sup>レ</sup>能<sup>ヲ</sup>述<sup>レ</sup>古<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>作<sup>ル</sup>。竊所<sup>ニ</sup>跂<sup>シ</sup>慕<sup>ス</sup>。情發<sup>ス</sup>

于中<sup>ニ</sup>。顧有<sup>レ</sup>闕<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>慎<sup>一</sup>言<sup>ニ</sup>、誠見<sup>レ</sup>貽<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>尤<sup>ニ</sup>悔<sup>一</sup>者<sup>ヲ</sup>矣。然夫楚雞<sup>ハ</sup>

雖<sup>レ</sup>謬<sup>ト</sup>。周鼠徒<sup>タリ</sup>珍<sup>ク</sup>。猶遇<sup>ニ</sup>兼<sup>ニ</sup>金<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>答<sup>ス</sup>。豈獨<sup>ニ</sup>噓<sup>ニ</sup>胡<sup>ニ</sup>致<sup>シ</sup>哂<sup>ス</sup>。頃<sup>ハ</sup>

尋<sup>ニ</sup>繹<sup>ス</sup>故<sup>ニ</sup>中書令鄭國公李嶠百二十詠<sup>ニ</sup>、藻麗詞<sup>ニ</sup>清<sup>ク</sup>、調諧<sup>ニ</sup>

律雅諧<sup>ニ</sup>。宏<sup>ニ</sup>溢<sup>ス</sup>逾<sup>レ</sup>於<sup>レ</sup>靈<sup>ニ</sup>運<sup>ニ</sup>、緻<sup>ニ</sup>密<sup>ニ</sup>掩<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>延<sup>ニ</sup>年<sup>ニ</sup>。特茂<sup>ニ</sup>霜

松<sup>ニ</sup>、孤<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>才<sup>ニ</sup>懸<sup>ニ</sup>皓<sup>ニ</sup>月<sup>ニ</sup>。高標<sup>ニ</sup>凜<sup>ニ</sup>々<sup>ニ</sup>、千載<sup>ニ</sup>仰<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>清<sup>ニ</sup>芬<sup>ニ</sup>、

明鏡<sup>ニ</sup>亭<sup>ニ</sup>々<sup>ニ</sup>、萬象<sup>ニ</sup>含<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>朗<sup>ニ</sup>耀<sup>ニ</sup>。味<sup>ニ</sup>夫<sup>ニ</sup>純<sup>ニ</sup>粹<sup>ニ</sup>、罕<sup>ニ</sup>測<sup>ニ</sup>端<sup>ニ</sup>倪<sup>ニ</sup>。

故燕公刺異詞曰、新詩冠<sup>ニ</sup>字<sup>ニ</sup>宙<sup>ニ</sup>。斯言<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>佞<sup>ニ</sup>、信<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>徵<sup>ニ</sup>。

於是<sup>ニ</sup>欲<sup>レ</sup>罷<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>能<sup>ス</sup>。研<sup>レ</sup>章<sup>ニ</sup>摘<sup>レ</sup>句<sup>ニ</sup>、輒<sup>ニ</sup>因<sup>ニ</sup>註<sup>ニ</sup>述<sup>ニ</sup>。思鬱<sup>ニ</sup>文<sup>ニ</sup>繁<sup>ニ</sup>。庶<sup>ハ</sup>

有<sup>レ</sup>補<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>珠<sup>ニ</sup>磨<sup>ニ</sup>、俾<sup>レ</sup>無<sup>レ</sup>至<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>凝<sup>ニ</sup>滯<sup>ニ</sup>。且欲<sup>レ</sup>啓<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>童<sup>ニ</sup>稚<sup>ニ</sup>。

焉<sup>ニ</sup>。敢貽<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>後<sup>ニ</sup>賢<sup>ニ</sup>。于時<sup>ニ</sup>巨唐<sup>ニ</sup>天寶<sup>ニ</sup>六年<sup>ニ</sup>龍集<sup>ニ</sup>強<sup>ニ</sup>圍<sup>ニ</sup>之<sup>レ</sup>所述<sup>也</sup>。

〔一ウ〕

〔書入〕①左傍に「賢人君子之事也」。②欄上に「止觀第十記、

璞者玉也。鄭人重<sup>ニ</sup>玉<sup>ニ</sup>璞<sup>ニ</sup>。若有<sup>レ</sup>得<sup>レ</sup>者、與<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>厚<sup>ニ</sup>賜<sup>ス</sup>。周

人聞<sup>レ</sup>之、窺<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>厚<sup>ニ</sup>賜<sup>ニ</sup>。周人風俗乃以<sup>ニ</sup>死<sup>ニ</sup>鼠<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>爲<sup>ニ</sup>玉<sup>ニ</sup>璞<sup>ニ</sup>。

以<sup>レ</sup>將<sup>レ</sup>詣<sup>レ</sup>鄭<sup>ニ</sup>。々人咲<sup>レ</sup>之。其人悟<sup>レ</sup>已<sup>レ</sup>答<sup>レ</sup>鄭人<sup>ニ</sup>云<sup>ニ</sup>、楚人鳳凰其

實<sup>ニ</sup>山<sup>ニ</sup>鷄<sup>ニ</sup>也。以<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>楚<sup>ニ</sup>王<sup>ニ</sup>重<sup>ニ</sup>鳳<sup>ニ</sup>、故<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>識<sup>レ</sup>鳳<sup>ニ</sup>者、路<sup>ニ</sup>行<sup>ニ</sup>見<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>擔<sup>ニ</sup>

山鷄<sup>ニ</sup>入<sup>レ</sup>上<sup>ニ</sup>、乃問<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>曰<sup>ニ</sup>、此何<sup>ニ</sup>鳥<sup>ニ</sup>也。擔者知<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>識<sup>レ</sup>、乃戲<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>

曰<sup>ニ</sup>、此鳳<sup>ニ</sup>凰<sup>ニ</sup>也。其人聞<sup>レ</sup>之、買<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>王<sup>ニ</sup>。其夜<sup>ニ</sup>死<sup>ス</sup>。明日獻<sup>ニ</sup>死者<sup>ニ</sup>、

王<sup>ニ</sup>以<sup>ニ</sup>十<sup>ニ</sup>萬<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>賜<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>。〔\*1云(前)〕—(底)は判読不可。\*2

之(前)―同上。\*3「其夜」到「賜之」―(前)は「得之

便死。楚王聞之、愧而召問之。亦謂實、以十萬而賜之。〕③

欄上に「宋愚人得<sup>ニ</sup>燕<sup>ニ</sup>石<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>吳<sup>ニ</sup>臺<sup>ニ</sup>之<sup>レ</sup>側<sup>ニ</sup>、以<sup>レ</sup>爲<sup>レ</sup>寶<sup>ニ</sup>。匱<sup>ニ</sup>十<sup>ニ</sup>重<sup>ニ</sup>巾<sup>ニ</sup>十

籠<sup>ニ</sup>。視<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>者、皆掩<sup>レ</sup>口<sup>ニ</sup>胡<sup>ニ</sup>噓<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>咲<sup>ス</sup>。④右傍に「法也」。⑤右傍に

「正也」。⑥右傍に「大也」。⑦右傍に「殷勤貌也」。⑧右傍

に「不雜□□也」。⑨右傍に「緒也」。また、欄上に「端倪<sup>ハ</sup>

始終也」。⑩左傍に「丁ノ異名也」。

〔校異〕 1百二十詠詩注上―1百二十詠詩註上(前)(天)。

〔陽〕は殘闕本であり、序ナシ、卷頭に「註百詠(上之下)」。 2―1ナシ(天) 3註(前)(天)―1詠 4跛―跋(天) 5ナ

シ―獨字下に「囑」(前) 6頃―頃(天) 7孤―孤(天) 8

凜―標(天) 9象―像(天) 10宙―寅(前) 11倭―侯(天)  
12於(天)―ナシ

乾象十首(日月星風雲煙露霧雨雪)  
坤儀十首(山石原野田道海河江洛)  
芳草十首(蘭菊竹藤萱萍菱瓜茅荷)  
嘉樹十首(松桂槐柳桐桃李梨梅橘)  
靈禽十首(鳳鶴烏鵲雁鳧鸞雉燕雀)  
祥獸十首(龍麟象馬牛豹熊鹿羊兔)  
居處十首(城門市井宅池樓橋舟車)  
服玩十首(牀席帷簾屏被鏡扇燭酒)  
文物十首(經史詩賦書檄紙筆硯墨)  
武器十首(劍刀箭弓弩旌旗戈鼓彈)  
音樂十首(琴瑟琵琶箏鐘簫笙笛舞歌)  
玉帛十首(珠玉金銀錢錦羅綾素布)

目録終

〔校異〕(陽)は殘闕本であり、副葉裏に嘉樹十首、靈禽十首、

祥獸十首の目録を書す。以下、(陽)の校異は當該箇所にのみ行  
う。1坤―坤(天) 2河―江(天) 3江河(天) 4禽(前)(天)  
(陽)―含 5鳥―鳥(前) 6鏡―鏡(前) 7墨―黑(前) 8簫  
(前)(天)―策 9笙―笛(天) 10笛―笙(天) 11舞―歌(天)  
12歌―舞(天) 13目録終―ナシ(天) (陽)

乾象十首

乾者天也。河圖括地象云、易大極是生兩儀。々々未分、  
其氣混沌。清濁既(2オ)分、伏者爲天、偃者爲地。  
物理論云、水土之氣昇爲天。爾雅云、春爲蒼天、夏爲  
昊天、秋爲旻天、冬爲上天。纂要云、東西南北曰  
四方、々々之隅云四維、天地四方曰六合。呂氏春秋曰、  
天有九野。東方蒼、東南方陽、南方炎、西南方朱、  
西方顯、西北方幽、北方玄、東北方變、中央鈞也。

〔書入〕①右傍に「閔也」。②右傍に「九天意也」。

〔校異〕1大極―有大極(天)。(天)により改むべきか。2昇  
―升(天) 3曰―云(天) 4顯、意により「顯」に改むべきか。

淮南子云、日出於暘谷、入於咸池、拂扶桑。是謂晨  
明。登於扶桑之上、爰始將行。是謂朏明。臻于衡  
陽。是謂禺中。對于昆吾。是謂正中。經于泉隅。

是謂高春。薄於虞泉。是謂黃昏。淪于蒙谷。是謂定  
昏。日西垂影在樹端。謂之桑榆。廣雅云、日名耀

靈。一名朱明。一名大明。亦名陽鳥。日御曰羲和。纂要  
云、日光云景、日影云晷。日氣曰暉、日初出曰旭、日昕

日晡、日温曰煦。在午曰亭午、在未云昃。日晚云  
日昏、日將落云薄暮。日西落光反照於東、謂之反景

也。造天地經云、佛令下寶應菩薩造日也。

日出扶桑路

淮南子曰、日出暘谷、拂扶桑也。

遼昇若木枝

淮南子曰、若木未有日。一在上、九在下。

雲間五色滿

京房易若候曰、視西方有大雲五色。其下有賢人  
隱。青潤蔽日、爲舉賢良。

霞際九光披  
東方朔十洲記曰、崑崙山有九霞映日也。

東陸蒼龍駕  
月令曰、春日從東青道。天子駕蒼龍仰春也。

南郊赤羽馳  
月令曰、夏日從南赤道。家語曰、赤羽若日也。

傾心比葵藿、朝夕奉一堯曦

曹植表曰、若葵藿、傾葉向太陽、雖不下爲之、廻光  
亦終向之者誠也。忠臣竊自比葵藿也。曦日光也。

〔書入〕①欄上に「淮南子曰、日經於東隅、是謂高春。頓  
于欄連石、是謂下春」。注、未暝時、上蒙先春曰高春。欲暝下

蒙、悉春曰下春。東隅一作泉隅欄連石。②欄上に「和名云  
混天之圖云、日異名云麗天人、金鳥、羲和、扶桑、陽和、重輪

也。天文志云、日陽也。宗積而成鳥。事林廣記云、扶桑山在東  
海中、地方萬里、去中國九十萬里。大真夫人、青童君之所居、

治山。有<sub>レ</sub>木如<sub>レ</sub>桑。上者數千里、大者三百圍、兩樹相與生。故曰扶桑。甚香赤色、千歲一實。仙人採食之、體生金、飛翔大<sub>レ</sub>虛。天上有金鳳凰也。日昇其鳳鳴、則天下群鷄皆鳴應之、日即出矣。

③欄上に「天文志云、月陰之精。月體、黑者謂之魄。望后生<sub>レ</sub>魄。混天圖云、盤古之君、龍首人。身長一丈。天高一丈。地厚一丈。呼爲<sub>レ</sub>風雨、吸爲<sub>レ</sub>雷電。開<sub>レ</sub>目曉、閉<sub>レ</sub>目夜。混沌之時、清濁未分、盤古死後、始有<sub>レ</sub>開闢。左目爲日、右目爲月、毛髮爲草木、骨節爲山林、小腸爲江、大腸爲海。血爲淮<sub>レ</sub>濱。在位九萬八千歲也。淮南子曰、月者大陰之精也。釋名云、月闕也。滿則缺也。晦則灰也。月死爲灰、月光盡似灰之。朔種也。弦月死復禪生也。弦月半名也。其形一旁直、若<sub>レ</sub>張弓。張望滿之名也。日月遙望者也。」④右傍に「始也。心也。」⑤右傍に「午時也。」⑥左傍に「北方有時日中也。」⑦欄上に「晷、以<sub>レ</sub>表度日也。晷、居美反。晷、奴見反。日氣也。晷、明不明之間也。映、於朗反。又於敬反。晷、不明也。吁、古旦反。晚也。」⑧右傍に「暖也。」⑨左傍に「一日也。日王云王者御座處也。」⑩左傍に「一日也。」〔校異〕 1 扶桑―於扶桑(天) 2 云―曰(天) 3 晷―映晷(天) 4 計―討(天) 5 所―處(天) 6 統―流(天) 7 ナシ―云字下に「春日」(天) 8 ナシ―也字下に「事林廣記云、扶桑山在東海

中、地萬里、去中國九十萬里。大真人青童君所治。歷天記云、日中有三足鳥、赤色。今案、文選謂之鳥。日本記謂之頭八咫鳥。田氏也(天)。 9 扶桑也―于扶桑(天) 10 若、意により「飛」に改むべきか。 11 有大雲五色―火雲五色(天) 12 「其下」到「隱」―ナシ(天) 13 ナシ―青字上に「其」(天) 14 爲―可(前)(天) 15 舉(前)(天)―學 16 山―山上(天) 17 也―ナシ(天) 18 從南赤道―南從赤道(天) 19 傾心―小心(天)。但し、(天)の「小」字は親本の闕損箇所に當たり、白抜きの子體で補寫す。 20 ナシ―藿字下に「之」(天) 21 之―ナシ(天) 22 廻―回(天) 23 忠臣―忠(天)

002 月

釋名曰、月者闕。大陰精滿則復缺。名<sub>レ</sub>夜光。月御望舒也。亦曰<sub>レ</sub>纖阿。又曰、月天之使也。積陰之寒氣久者爲<sub>レ</sub>水、々氣之精者爲<sub>レ</sub>月。河圖帝覽曰、月者金之精也。造天地經曰、佛令<sub>レ</sub>吉祥菩薩造<sub>レ</sub>月。

桂生<sub>三</sub>二十五夕

南中記曰、南洲有<sub>二</sub>八桂樹<sub>一</sub>、生<sub>三</sub>月<sub>二</sub>中<sub>一</sub>也。

暮開<sup>ク</sup>二八時

瑞應圖曰、堯時萋莢生<sup>レ</sup>庭。從<sup>レ</sup>朔至<sup>二</sup>二十五日<sup>一</sup>、々生<sup>二</sup>一葉<sup>一</sup>。

從<sup>二</sup>十一六日<sup>一</sup>、々落<sup>二</sup>一葉<sup>一</sup>也。

分<sup>テ</sup>擘<sup>レ</sup>度<sup>ル</sup>鵲鏡

神異記曰、昔有<sup>二</sup>夫婦<sup>一</sup>。將<sup>レ</sup>別。打<sup>テ</sup>鏡破。方執<sup>二</sup>一<sup>一</sup>片<sup>一</sup>以爲<sup>レ</sup>信。

其妻與<sup>レ</sup>人私<sup>一</sup>通。其片鏡化爲<sup>二</sup>飛鵲<sup>一</sup>、至<sup>レ</sup>夫前。夫乃知<sup>レ</sup>之。

後<sup>一</sup>人鑿<sup>レ</sup>鏡、因爲<sup>レ</sup>鵲安<sup>二</sup>背上<sup>一</sup>也。

流<sup>レ</sup>影入<sup>二</sup>蛾眉<sup>一</sup>

鮑明遠<sup>ハ</sup>翫<sup>レ</sup>月詩曰、娟<sup>々</sup>似<sup>二</sup>蛾眉<sup>一</sup>。

皎潔<sup>ニ</sup>疎<sup>ニ</sup>牖<sup>一</sup>

陸士衡詩曰、安<sup>ニ</sup>寢<sup>一</sup>北堂上、明月入<sup>二</sup>我牖<sup>一</sup>也。

玲麗<sup>ニ</sup>鑑<sup>ニ</sup>薄<sup>ニ</sup>帷<sup>一</sup>

阮嗣宗詩曰、薄帷鑑<sup>二</sup>明月<sup>一</sup>。

願陪<sup>二</sup>北堂宴<sup>一</sup>、長賦<sup>二</sup>西園詩<sup>一</sup>

魏曹植詩、公<sup>ニ</sup>子敬<sup>一</sup>愛<sup>レ</sup>客、終<sup>レ</sup>宴不知<sup>レ</sup>疲。(3ウ)又曰、

清夜遊<sup>二</sup>西園<sup>一</sup>、明月澄<sup>二</sup>清影<sup>一</sup>。

〔書入〕①右傍に「曹植也」。

〔校異〕 1日—云(天) 2ナシ—也(天) 3滿則(天)—滿剋

4ナシ—也字下に「淮南子曰、大陰之精也。晦出西方、見西方

謂之眺。朔見東方謂之月。又云、月御曰望舒(天) 5ナシ—又

字上に「釋名(天) 6覽—賢(天) 7「造天」到「造月」—ナ

シ(天) 8洲—州(天) 9々—ナシ(天) 10私(天)—和 11安

背上也—乘背上也(前)、案背上是也(天) 12清影—清景也(天)

003 星

釋名云、星者散也。言<sup>レ</sup>列<sup>レ</sup>位布<sup>レ</sup>散<sup>ス</sup>也。漢書云、星者金之散氣。

與<sup>レ</sup>人相應。凡萬物之精、上爲<sup>二</sup>列星<sup>一</sup>。漢書音義云、瑞星曰<sup>二</sup>

景<sup>一</sup>星。亦曰<sup>二</sup>德星<sup>一</sup>。妖星曰<sup>二</sup>孛星<sup>一</sup>。彗星曰<sup>二</sup>長<sup>一</sup>星。亦

曰<sup>二</sup>撓<sup>一</sup>搶。絶<sup>レ</sup>跡而去曰<sup>二</sup>飛星<sup>一</sup>。光跡相連曰<sup>二</sup>流星<sup>一</sup>。亦曰<sup>二</sup>

奔<sup>一</sup>星。瑞應圖曰、景星者星之精也。王者不<sup>レ</sup>私<sup>レ</sup>人、以<sup>レ</sup>官

使<sup>レ</sup>賢者在<sup>二</sup>位則見也。

蜀郡靈<sup>ニ</sup>槎<sup>一</sup>轉

博物志曰、海渚<sup>一</sup>人見<sup>二</sup>浮槎<sup>一</sup>。乃携<sup>レ</sup>糧<sup>上</sup>上<sup>レ</sup>槎、至<sup>二</sup>天河<sup>一</sup>見<sup>二</sup>

織<sup>一</sup>女。又<sup>一</sup>一人牽<sup>レ</sup>牛、以<sup>二</sup>支機<sup>一</sup>玉<sup>一</sup>石與<sup>レ</sup>人。令<sup>レ</sup>問<sup>レ</sup>蜀郡嚴

君平。々々々曰、某月日客星犯<sup>二</sup>斗牛<sup>一</sup>。即此人至<sup>二</sup>天河<sup>一</sup>也。

豐城寶氣新

晉書、張華<sup>一〇</sup>見<sup>二</sup>斗牛間、有<sup>三</sup>寶氣。乃令<sup>三三</sup>雷煥<sup>一〇</sup>爲<sup>二</sup>豐城令<sup>一</sup>。移<sup>レ</sup>獄屋、得<sup>レ</sup>掘<sup>一</sup>寶劍也。

將軍臨<sup>二</sup>北塞<sup>一</sup>。史記、鄒陽上書曰、衛先生爲<sup>二</sup>秦盡<sup>一</sup>長平之計。太白<sup>一四</sup>白蝕<sup>レ</sup>昴<sup>一</sup>。趙分<sup>一</sup>野。太白<sup>一四</sup>天之將<sup>一</sup>軍。趙有<sup>二</sup>飛狐<sup>一</sup>〔4才〕塞也。天子入<sup>二</sup>西秦<sup>一</sup>。

漢高祖入<sup>レ</sup>秦。五星聚<sup>二</sup>於東井<sup>一</sup>也。東歲星、南榮<sup>一</sup>惑星、西太白星、北辰<sup>一</sup>星、中鎮星也。

未<sup>レ</sup>作<sup>二</sup>臺輔<sup>一</sup>。天有<sup>二</sup>三臺星<sup>一</sup>。而象<sup>二</sup>三公尚書<sup>一</sup>也。

寧<sup>レ</sup>爲<sup>二</sup>五老臣<sup>一</sup>。

論語識曰、舜登<sup>二</sup>首陽山<sup>一</sup>、觀<sup>レ</sup>河、見<sup>二</sup>五老人<sup>一</sup>。々々々飛爲<sup>レ</sup>星。上入<sup>レ</sup>昴也。

今宵穎川曲、誰識<sup>レ</sup>聚<sup>二</sup>賢人<sup>一</sup>。後漢陳仲弓與<sup>二</sup>子姪<sup>一</sup>、夜遊<sup>二</sup>荀叔季和<sup>一</sup>。父子討<sup>レ</sup>論<sup>二</sup>穎川人<sup>一</sup>也。于時德星聚。大史奏曰、五百里內賢人聚也。

〔書入〕①左傍に「星也」。②右傍に「情思也」。③左傍に「堯有五嶽臣也」。④欄上に「賢人衆故德星出也」。

〔校異〕1者―ナシ(天) 2攬―機(天) 3日―ナシ(天) 4玉―ナシ(天) 5人―之(天) 6嚴君平―嚴君子平(天) 7々々々々々々々(天) 8某(前)―其9至―到(天) 10張(前)(天)―浪 11掘―ナシ(天) 12秦―秦將(天) 13盡―劃(天)。(天)により改むべきか。14太―大(天) 15北―北北(天) 16星―里(天) 17中鎮星也―口眞星(天) 18舜―愛(前) 19人―ナシ(前)(天) 20星―皇(前) 21仲弓―弓(天) 22ナシ―穎字上に「又」(天) 23德―ナシ(天)

004 風

々々名、鳶鳴、少女、銅鳥、石燕、虎嘯、龍吟、豐隆鈔云、風者汎也。能汎薄萬物。又風者天一地之使也。又陰陽怒爲風。元命包曰、天地怒而爲風。爾雅曰、暴風從<sup>レ</sup>上下曰<sup>レ</sup>頽、從<sup>レ</sup>下上曰<sup>レ</sup>颺。亦曰<sup>レ</sup>扶搖。廻<sup>二</sup>風曰<sup>レ</sup>飄。日出而風曰<sup>レ</sup>暴。陰<sup>一</sup>而風曰<sup>レ</sup>嘯。風雨<sup>レ</sup>土曰<sup>レ</sup>霾。春晴而風曰<sup>二</sup>光風和<sup>一</sup>風。餘風曰<sup>二</sup>緒<sup>一</sup>風。吹<sup>レ</sup>物有<sup>レ</sup>聲曰<sup>レ</sup>籟。(4ウ)終<sup>一</sup>日風曰<sup>二</sup>終<sup>一</sup>風。又風俗通、猛<sup>一</sup>風曰<sup>レ</sup>颺。涼<sup>一</sup>風曰<sup>レ</sup>颺。微<sup>一</sup>風曰<sup>レ</sup>颺。小<sup>一</sup>風曰<sup>レ</sup>颺。又八節風、立<sup>一</sup>春調<sup>一</sup>風至。春<sup>一</sup>分明庶風至。立<sup>一</sup>夏

清明風至。夏至景風至。立秋涼風至。秋分閭闔風至。

立冬下周風至。冬至廣莫風至。又春風、易緯曰、立春

條風至。春分明庶風至。爾雅云、春晴而風曰光風。

又夏風、呂氏春秋云、東南之風曰薰風。又秋風、梁元

纂要、秋風曰商風、金風、素節、高風、涼風、悲風。

又冬風、梁元帝纂要曰、冬風曰厲風、嚴風、朔風也。

落日正沈々、微風生北林、帶花疑鳳舞。

風動花似鳳舞。山海經曰、廣都之野、鸞自歌、鳳自舞。草

木冬夏有花也。

向竹似龍吟。

馬融長笛賦曰、龍鳴水中不見己。截竹吹之、聲音相似。

月影臨秋扇。

班婕妤詩曰、裁爲合歡扇、團々似明月。常恐秋節至、

動搖微風發、涼風奪炎熱也。

松聲入夜琴〔5才〕

々有風入松曲也。言風吹松作聲似鳴琴也。謝朓詩

曰、復此風中琴也。

若至蘭臺下、還拂楚王襟。

宋玉風賦曰、楚襄王遊蘭臺。有風颯然而至。乃披襟而

當之。楚王曰、快哉此風。

〔書入〕①右傍に「天也」。

〔校異〕1 龍一虎(天) 2 汎一汎動(天) 3 薄、意により「博」

に改むべきか。4 日一ナシ(天) 5 廻一回(天) 6 涼一屎(天)

7 微一激(天) 8 春風一ナシ(天) 9 要一云(天) 10 秋風日一

ナシ(天) 11 日一云(天) 12 冬風日一ナシ(天) 13 花一華(天)

14 己一也(天) 15 ナシ一也(天) 16 「涼風」到「熱也」、(天)

にナシ。17 也一ナシ(前) 18 「言風」到「琴也」一ナシ(天)

19 而一ナシ(天) 20 楚王一ナシ(天)

005 雲

①春秋元命包曰、陰陽聚爲雲。說文曰、雲山川氣也。從雨、云

象(二)回(一)轉形(二)也。零一雲覆(一)日也。雲久一陰也。淒一雨雲

起也。淅一雨雲貌也。西京雜記曰、雨雲曰油雲。雪雲曰

形雲。々師曰雲翳。慶雲、援神契曰、王者德至三山陵、

則慶雲出。西京雜記、瑞雲曰慶雲。亦曰景雲。又曰

卿雲也。

大梁白雲起

歸藏易曰、白雲出自蒼梧、飛入大梁也。

氛氳 殊未歇、錦文觸石來

左思蜀都賦曰、觸石吐氣、鬱氛氳。雲色似錦文。亦

似錦石。

蓋影凌天發

魏文帝詩曰、西北有浮雲、亭々如車蓋。

煙熅 萬年樹

煙熅雲彩也。洛陽殿前有(5ウ)上檀樹。一名萬年也。

掩映三秋月

通玄真經云、日月欲明、浮雲蔽之。

會入(大風歌)

漢高祖歌曰、大風起兮雲飛揚也。

從龍起蒼闕

易曰、雲從龍。曹植詩曰、蒼闕出浮雲也。

〔書入〕①欄上に「周禮、保章氏以五雲之色、辯吉凶水旱

豐饗之祲象」。鄭司農注云、二分至觀雲氣、青爲吉、白

爲災、赤爲兵荒、黑爲小、黃爲豐也。②左傍に「雨

欲降貌也。③欄上に「夏、連山易。殷、歸藏易。周、易」。

④右傍に「大家也」。

〔校異〕 1 說一誌(天) 2 云象(天) — 云雲象 3 雲、意によ

り「露」に改むべきか。4 澣(前)(天) — 「王弁」5 雲、意

により「屏」に改むべきか。6 亦—ナシ(天) 7 又—ナシ(天)

8 卿—郷(天) 9 也—ナシ(天) 10 氣、意により「雲」に改む

べきか。11 亦—又(天) 12 名—號(天) 13 萬年—萬年樹(天)

14 ナシ—也(天) 15 蒼闕—圓闕(天)

006 煙

鳥前切。火氣也。煙、連延切。飛火。煙、植鄰切。煙熅天地

氣。易作網緼。又雜俎、狼養煙直上、烽火用之。

瑞氣凌丹闕

晉書天文詩曰、慶雲若煙起。非煙非霧、郁々紛々。即

瑞氣

空濛 上翠微

空濛輕貌。翠微空中輕縹色也。

迴浮 雙闕路



唐太宗文皇帝京篇、日暮雙闕昏、長煙散空碧。  
遙拂九仙衣。

列仙傳曰、消々、投焰陽、九仙人霓裳凌煙也。

桑柘凝寒色

謝玄暉詩曰、桑柘起寒煙。

松篁暗晚暉

謝玄暉詩曰、松篁生暮煙。

還當紫霄上、時接白雲飛

江文通詩曰、畫成秦玉女、乘鸞向煙霧。

〔書入〕①右傍に「内裏也」。②欄上に「玄宗皇帝求霓裳羽衣

曲。羅浮云、臣折桂賞仙人。帝令彈此曲。九仙下時乘煙、

上時乘煙也」。③右傍に「相連貌」。

〔校異〕 1「煙連」到「鄰切」ナシ(天) 2非霧ナシ(天)

3空雲(天) 4太一(天) 5京景(天) 6ナシ(天)

7ナシ也(天) 8玄元(天) 9桑(天) 10日(天)

11霄(前) 宵12成一作(天)

007 露

露名、蛇遊、三危、飲龜。大戴禮云、露陰陽之氣也。夫陰

氣勝則凝爲霜雪、陽氣勝則散爲雨露。三禮義宗曰、白露

八月節、寒露九月節。白虎通云、甘露美露也。降則物無

不美盛矣。

滴瀝明花苑

謝靈運詩曰、花上露猶泫。

葳蕤泫竹叢

法光貌。謝惠運詩曰、泫々露盈條也。

玉垂丹棘下

漢書曰、伍被諫淮南王曰、臣見宮中、生荆棘、露

霑裳。

珠湛綠荷中

梁簡文帝詩曰、露文荷珠生。

夜警千年鶴

風俗通曰、千年鶴見露墜草葉上、則鳴舞也。

朝晞八月風

月令曰、秋涼風至、則白露降也。

願凝仙掌內、長奉未央宮

漢武帝於未央宮之西作金盤。仙人掌擎之，以承白露。和玉屑（6ウ）飲之，以求長生。

〔書入〕①欄上に「東方朔、天下吉凶計露色以知也。漢文帝怪之問。答曰、露又仙藥也。丹鍊。言不老不死藥。東朔聚露來、獻帝延齡術」。又一切吉味自露生。故云甘露也、「春苗令曝、秋稻令熟也」。②欄上に「荊棘諫意、王之有佞人讒人、如蓄之角與露刺人詒人也」。

〔校異〕1遊―游（前）2宗―（天）は「寮」に作りて、右傍に「宗敷」と書す。3曰―云（天）4花―華（天）5滋―滋（天）6也―ナシ（天）7伍（天）―任8ナシ―也（天）9秋―孟秋（天）10内―裏（天）

### 008 霧

元命包曰、霧陰陽之氣。陰陽怒而爲風、亂而爲霧。爾雅、地氣上天、不應爲霧。々謂之晦。今案、又水氣也。老子經云、在天爲霧露、在地爲泉源。

①曹公之夢澤

英雄記曰、曹操赤壁行。時至雲夢澤。逢大霧迷失道也。漢帝出平城。

漢書曰、高祖伐韓王信。々與匈奴圍高祖於平城。自逢雲霧雨雪、用陳平計得脫。

別有丹山霧、胎臙素月明

丹山丹穴也。多出雲霧。又出鳳凰。爾雅云、去中州

已南、戴日爲丹穴。

類煙霏稍重、方雨散還輕

謝玄暉詩云、朔風吹飛雨。空濛如薄霧、散漫似

輕埃。

儻入非熊絲

六韜曰、周文王欲獵、卜占之也。曰、得二物。非熊、

乃帝（7オ）王師。於涓泉時有霧見呂尚釣。便載歸。

爲大師。絲兆辭也。

寧思玄豹情

列女傳曰、陶荅子相陶。故政教不修、而蒙富。其妻曰、

妾聞、南山玄豹隱霧雨、七日不食。欲下以澤其毛衣

成中文章上。後荅子果被誅。

〔書入〕①欄上に「曹操與楚戰時也」。②欄上に「夢澤楚七之一也」。③欄上に「蒼子之妻意曰、豹七日不<sub>レ</sub>食而成<sub>二</sub>文章<sub>一</sub>。然汝今富而政不修。不答玄豹也」。

〔校異〕 1元命包―春秋元命包(前)(天) 2老子經―孝經(天)  
3在―ナシ(前) 4ナシ―也(天) 5壁(前)(天)―壁 6日  
―ナシ(天) 7逢―逢園逢(天) 8鳳凰―鳳(天) 9玄―元(天)  
10云―日(前)(天) 11ナシ―熊字下に「非熊」(天) 12清泉―  
渭水(天) 13也―ナシ(天) 14ナシ―子字下に「日」(天) 15故  
―ナシ(天) 16澤―渾(天) 17ナシ―文字上に「其」(天) 18後  
―ナシ(天)

009  
雨

雨名、濯枝、潤葉、化坎、霖霖、商羊、黑峽、離畢也。  
釋名云、雨水從<sub>レ</sub>雲下也。雨者輔也。言輔<sub>レ</sub>時生養。爾雅云、  
小雨曰<sub>二</sub>霖霖<sub>一</sub>。雨三日已<sub>レ</sub>上曰<sub>二</sub>霖<sub>一</sub>。久<sub>レ</sub>雨曰<sub>二</sub>霖<sub>一</sub>。霖、暴雨、  
凍雨、時<sub>レ</sub>雨、澍雨、纂要云、疾雨曰<sub>二</sub>驟雨<sub>一</sub>。徐雨曰<sub>二</sub>零雨<sub>一</sub>。  
々久曰<sub>二</sub>苦雨<sub>一</sub>。亦曰<sub>二</sub>愁霖<sub>一</sub>。雨<sub>レ</sub>水曰<sub>二</sub>潦<sub>一</sub>。雨<sub>レ</sub>雲曰<sub>二</sub>滄<sub>一</sub>。雨師  
曰<sub>二</sub>屏醫埤<sub>一</sub>也。爾雅云、今江浙四五月梅欲<sub>レ</sub>黃落、則水潤

土。溽<sub>二</sub>桂礎<sub>一</sub>皆汗。蒸鬱<sub>二</sub>成<sub>レ</sub>雨<sub>一</sub>。謂<sub>二</sub>之<sub>レ</sub>梅雨<sub>一</sub>。三月雨  
謂<sub>二</sub>之<sub>レ</sub>迎梅<sub>一</sub>。四月雨謂<sub>二</sub>之<sub>レ</sub>黃梅<sub>一</sub>。五月雨謂<sub>二</sub>之<sub>レ</sub>送梅<sub>一</sub>。荆  
楚歲時記、六月有<sub>二</sub>三日雨<sub>一</sub>。田家以爲<sub>二</sub>甘澤<sub>一</sub>。昌里相賀  
也。

西北雲膚起

公羊傳曰、(7ウ)觸<sub>レ</sub>石而出<sub>二</sub>雲霧<sub>一</sub>、膚寸<sub>二</sub>而合<sub>一</sub>。非<sub>レ</sub>終

朝雲遍<sub>二</sub>天下<sub>一</sub>者、唯太山乎。

東南雨足來

張景陽詩曰、雨足<sub>二</sub>灑<sub>二</sub>四海<sub>一</sub>。

靈童出海見

神異經曰、西海上有<sub>レ</sub>人。乘<sub>二</sub>白馬朱鬣<sub>一</sub>、白衣玄冠、從<sub>二</sub>十二

童子<sub>一</sub>。馳<sub>二</sub>水上<sub>一</sub>、流及之處雨降也。

神女向<sub>レ</sub>山迴

楚襄王遊<sub>二</sub>高唐觀<sub>一</sub>、夢<sub>二</sub>神女<sub>一</sub>曰、妾在<sub>二</sub>巫山之陽<sub>一</sub>。朝爲<sub>二</sub>

行<sub>レ</sub>雲、暮爲<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>雨也。

斜影風前合、圓文水上開

梁尚書王均詩曰、雨點散<sub>二</sub>圓文<sub>一</sub>、風生起<sub>二</sub>斜浪<sub>一</sub>也。

十旬無<sub>レ</sub>破<sub>レ</sub>塊

黃帝時、五日一風、々不<sub>レ</sub>鳴<sub>レ</sub>條。十日一雨、々不<sub>レ</sub>破<sub>レ</sub>塊。

九土信康哉

九土九州也。風雨調和、人皆安樂也。

〔書入〕①欄上に「黑蜺者小蛇也。雨則天舞也」。

〔校異〕1枝―被(天) 2蜺―唳(天) 3也―ナシ(天) 4暴

雨凍雨―暴雨日凍雨(天)。(天)により改むべきか。5時雨澍

雨―時雨日澍雨(天)。同上。6日(天)―ナシ 7屏翳埤也―

屏翳(天)。(天)により改むべきか。8蒸―遂(天) 9「四月

到「黃梅」―ナシ(天) 10日―時(天) 11甘澤―澤(天) 12相

賀也―□□日喜雨(天) 13霧―ナシ(天) 14非―不(天) 15終

―經(天) 16霏雨(天) 17太山―太山中(天) 18灑―張灑(底

(前)、漲(天)。意により改む。19四海、意により「四溟」に

改むべきか。20日―云(天) 21廻―回(天) 22ナシ―也字下に

「朝々暮々陽臺之下、且朝視之如言也」(天) 23均、意により「筠

」に改むべきか。24條―枝條(天) 25ナシ―也(天)

010 雪

々名、六―出、幽蘭、呈瑞、奪鮮、粉片、梅花、飄素

飛絮。大戴禮云、天地積陰、溫則爲雨、寒則爲雪。春秋

元命包曰、陰陽氣凝、雨爲雪。劉向五行傳、陰盛、雨雪

凝滯、而陰寒。陽氣薄、之不相入、則散、而爲(8オ)

雨霰。

瑞雪驚千里。

范彦龍詩曰、飛雪千里驚也。

從風暗九霄。

言暗及九、天雲霄。

地疑明月夜、山似白雲朝。

此鄭公之秀句。

逐舞花光散。

舞有七盤迴雪曲。言雪下似舞。

臨歌扇影飄。

歌有白雪曲。又有歌扇曲。班婕妤詩曰、新裂齊紈素、

皎潔如霜雪。裁爲合歡扇。

大周天闕路、今日海神朝。

太公六韜曰、武王伐紂、洛陽雪深一丈五尺、百神及四海

神來、闕下、助王伐紂。素車白馬、皆無轍跡也。

〔校異〕 1氣—ナシ(天) 2雨—ナシ(天) 3也—ナシ(天)

4雲—雪(天) 5廻—回(天) 6ナシ—也(天) 7ナシ—也(前)

8太—大(天) 9雪—日(前) 10百神—萬(天)

坤儀十首

坤者地也。易曰、至哉坤元、萬物資生、乃順承天。又曰、

坤、<sup>ハ</sup>地<sup>ノ</sup>勢<sup>ノ</sup>、<sup>シテ</sup>厚<sup>シ</sup>載<sup>ル</sup>物<sup>ヲ</sup>。含<sup>ム</sup>弘<sup>ク</sup>光<sup>ク</sup>大<sup>ニ</sup>、<sup>ニ</sup>品<sup>ノ</sup>物<sup>ヲ</sup>咸<sup>ニ</sup>亨<sup>ニ</sup>。牝<sup>ノ</sup>

馬<sup>ノ</sup>地<sup>ノ</sup>卑<sup>ク</sup>類<sup>シ</sup>、行<sup>ク</sup>地<sup>ニ</sup>無<sup>ク</sup>疆<sup>ニ</sup>。君<sup>ノ</sup>子<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>厚<sup>ク</sup>德<sup>ヲ</sup>載<sup>ル</sup>物<sup>ヲ</sup>。又曰、坤爲<sup>レ</sup>地、

爲<sup>レ</sup>母、爲<sup>レ</sup>布、爲<sup>レ</sup>釜、爲<sup>レ</sup>吝<sup>ニ</sup>嗇<sup>ニ</sup>、爲<sup>レ</sup>均、爲<sup>レ</sup>子、爲<sup>レ</sup>母<sup>ノ</sup>牛、

爲<sup>レ</sup>大<sup>ニ</sup>輿<sup>ニ</sup>、爲<sup>レ</sup>文、爲<sup>レ</sup>衆、爲<sup>レ</sup>柄、其於<sup>レ</sup>地、爲<sup>レ</sup>黑<sup>也</sup>。(8ウ)

〔書入〕 ①左傍に「惜也」。②左傍に「惜也」。

〔校異〕 1坤—坤(天) 2也—ナシ(天) 3「又曰」到「載物」、

坤厚載物(天) 4載—戴(前) 5光大(天) —大<sup>ニ</sup>光<sup>ク</sup> 6咸—

成(天) 7ナシ—疆字下に「又曰、地勢坤」(天) 8「爲均」到

「黑也」—ナシ(天) 9輿(前) —輿

011 山

爾雅云、土高有<sup>レ</sup>石曰<sup>レ</sup>山。釋名曰、山產<sup>ニ</sup>物<sup>ヲ</sup>。山頂<sup>ノ</sup>

曰<sup>レ</sup>冢。山脊曰<sup>レ</sup>岡。大而高曰<sup>レ</sup>嵩。小而高曰<sup>レ</sup>岑。銳<sup>ニ</sup>而高<sup>ニ</sup>

曰<sup>レ</sup>嶠。卑<sup>ニ</sup>而大曰<sup>レ</sup>嶷。小而衆曰<sup>レ</sup>巘。上大而下小曰<sup>レ</sup>巘。山有<sup>ニ</sup>

草木曰<sup>レ</sup>岵。無<sup>ニ</sup>草木曰<sup>レ</sup>岵。石戴<sup>レ</sup>土曰<sup>レ</sup>岵。土戴<sup>レ</sup>石曰<sup>レ</sup>

崔嵬。山東曰<sup>レ</sup>朝陽。山西曰<sup>レ</sup>夕陽。山足曰<sup>レ</sup>麓。山穴

曰<sup>レ</sup>岫。未<sup>レ</sup>及<sup>レ</sup>上曰<sup>レ</sup>翠微。上秀者曰<sup>レ</sup>峰。土山曰<sup>レ</sup>阜。曲阜

曰<sup>レ</sup>阿。大阜曰<sup>レ</sup>陵。小阜曰<sup>レ</sup>丘。泰山在<sup>ニ</sup>兗州泰符縣<sup>ニ</sup>。初學記

曰、泰山五嶽之東嶽也。五經通義、王者受<sup>レ</sup>命易<sup>ニ</sup>姓<sup>ニ</sup>、報<sup>レ</sup>功告<sup>レ</sup>成、

必於<sup>ニ</sup>岱宗<sup>ニ</sup>。百<sup>ノ</sup>物始<sup>ニ</sup>交<sup>ニ</sup>代<sup>ニ</sup>之處<sup>ニ</sup>。衡山在<sup>ニ</sup>衡州衡山縣<sup>ニ</sup>。周

禮云、荊州鎮曰<sup>レ</sup>衡山。々々記曰、衡山南嶽。至<sup>レ</sup>黃帝<sup>一</sup>、乃

以<sup>レ</sup>灋<sup>ニ</sup>爲<sup>レ</sup>副。爾雅云、霍山爲<sup>レ</sup>南嶽。蓋因<sup>ニ</sup>其制<sup>一</sup>也。

至<sup>レ</sup>漢武南巡<sup>一</sup>、又以<sup>ニ</sup>衡山遐<sup>ニ</sup>遠<sup>ニ</sup>阻<sup>ニ</sup>江<sup>ニ</sup>、乃<sup>レ</sup>徙<sup>ニ</sup>南嶽之祭<sup>一</sup>

於<sup>ニ</sup>灋山<sup>ニ</sup>。華山在<sup>ニ</sup>花州花陰縣<sup>ニ</sup>。初學記、華山五嶽西嶽也。

周官、豫州其鎮山曰<sup>レ</sup>華山。々々記曰、山頂有<sup>レ</sup>池、生<sup>ニ</sup>千葉

之蓮華<sup>一</sup>。服<sup>レ</sup>之羽化。因曰<sup>レ</sup>華山。嵩山在<sup>ニ</sup>洛京王屋縣<sup>ニ</sup>。

(9オ) 白虎通云、嵩高山者、中央之高嶽、獨加<sup>ニ</sup>高二<sup>ノ</sup>字<sup>一</sup>

者何。中央居<sup>ニ</sup>四方之中<sup>ニ</sup>而高。故曰<sup>レ</sup>嵩高。釋名云、

嵩或作<sup>レ</sup>崧。大而高曰<sup>レ</sup>崧。恆山在<sup>ニ</sup>定州恆山縣<sup>ニ</sup>。周禮、

并州其山鎮曰「恆山」。唐天文、大梁析木、其神主於恆山、辰星出焉。白虎通、北方恆山者何。陰終陽始、其道常久。故曰「恆山」。

仙嶺鬱 氛氳、峨々 吐翠氳

左思蜀都賦曰、鬱 氳氳 以翠微、岷 巍々 以峨々。

泉飛 一 道帶

天臺山記曰、天臺山上、瀑布水泉下、一道如帶。孫興公賦

曰、瀑布飛流界道。

峰出 半天雲

三秦記曰、花山峰如「半天雲」也。

古壁丹青色、新花錦繡文、已開「封禪處」

述異記曰、花嶽對黃河東首陽山。元是一山。即神靈所開。

今手跡見在「花嶽」。似「仙人掌」。脚迹在「首陽山」也。

希謁 聖明君

華山已開、求請「聖君封禪」。(9ウ)

〔書入〕①欄上に「坡詩序云、初赴中山」。連日風田「土夷」

埃、未「嘗得見太行」也。今將「適嶺表」。頗以是爲恨。

過臨「城內丘」、天氣忽清徹、西望「太行」、草木可數、岡巒北走、

崖谷秀傑。忽悟歎曰、吾南遷、其速返乎。退之登衡山之祥也。潛(隔二格)心默禱若有應也。②左傍に「仙也」。③左傍に「代山而謁之」。

〔校異〕 1家(天) 一「土豕」(底、塚(前) 2岷一廬(天)

3而一ナシ(天) 4岷一岷(天) 5究一衰(天) 6日一云(天)

7功一劫(天) 8云一ナシ(天) 9ナシ一州字下に「之」(天)

10副(天) 一嗣 11爲南嶽(天) 一爲南此 嶽 12制一副

(天) 13巡(前) (天) 一處 14徙(前) (天) 一從 15花華(前)

(天) 16花華(天) 17ナシ一嶽字下に「之」(天) 18有池 池

生(天) 19京(前) (天) 一景 20嵩高山(前) 一嵩山 21中央之

高嶽(天) 一中央高 之嶽 22析一折(天) 23出、意に上

り「位」に改むべきか。24ナシ一也(天) 25氣一氳(天) 26氣

一氣(天) 27氳氳一氳氳(前) 28ナシ一(前) 29記一語(前)

30上ナシ(天) 31瀑(前) 一曝 32水泉一飛泉(天)。(天)に

より改むべきか。33ナシ一流字下に「以」(天) 34花華(前)

35元一先(天) 36即一既(天) 37手跡一平蹤(天) 38迹蹤(天)

39也一ナシ(天) 40華山一華嶽(天)

012 石

物理論 土精爲石、々氣之核也。氣之生石、猶三人節

絡之生爪一牙。博物志、地以石爲之骨。陸志詞。

凝土也。

宗子維城固

毛詩曰、宗子維城也。漢書曰、高祖與弟子大牙相制、所謂

盤石之宗(×)也。

將軍飲羽威

漢書曰、李廣爲將軍。夜行見石、疑是虎。射之

沒羽、々云二箭毛也。

巖花鏡裏發

庾肩吾詩曰、石裏菱花發。

雲葉錦中飛

雲有金柯玉葉、有錦石。山又出雲。

入宋星初實

左傳曰、星殞於宋。視之、乃石也。

過湘燕早歸

風俗記曰、湘川零陵有石燕。遇雨、則飛過也。

儻因持補極

帝王世記曰、女媧練五色石、以補天之闕。

寧復想支機

事已見星詩注。織女以石支機。

〔書入〕①欄上に「冷石廬山記、陶淵明居栗里。大石。常醉

眠其上。名醒酒石。又李德裕、平原別墅有醒石、則踞之。

搜神記、陽雍伯設義漿、以給行旅。二年。一日有入、飲訖懷中

出石子一升、與之。謂曰、種此生美玉。及種、果得白璧。

②右傍に「天地」也。

〔校異〕 1々氣之核也―石土之氣核也(天) 2氣―土氣(天)

3節―筋(天) 4ナシ―也(天) 5志―ナシ(天) 6ナシ―曰

(天) 7也―ナシ(天) 8犬(前)―大 9鏡鐘(前) 10裏、

意により「鏡」に改むべきか。11賈―曰「雨具(前) 12儻(前)

(天)―償 13注―註(天) 14織女以石支機―(前)は詩句本文

と同じ字格で記す。

013 原

禹袁切。廣平曰原。亦州名。說文、本作遠。周禮、有遠

師<sup>一</sup>。注、邊地之廣平者。原即與<sup>レ</sup>屬同。<sup>5</sup> (100オ)

① 王粲銷<sup>レ</sup>憂日

王粲登樓賦曰、聊暇日以消憂。又曰、平原遠極目。

江淹起<sup>レ</sup>恨年

江淹恨賦曰、試望平原、蔓草縈骨。

帶<sup>レ</sup>川逢綺錯

帶<sup>レ</sup>川原、花草如綺錯也。

分<sup>レ</sup>隰迴 阡<sup>レ</sup>眼

高平曰原。下濕曰隰。分<sup>レ</sup>下隰、處<sup>レ</sup>其原。迴出也。

阡<sup>レ</sup>眠樹木貌也。

膾<sup>レ</sup>々 横<sup>レ</sup>周旬

詩曰、周<sup>レ</sup>原膾々。盛貌也。

莓<sup>レ</sup>々 關<sup>レ</sup>晉田

左傳曰、晉文侯聽<sup>レ</sup>輿<sup>レ</sup>人之誦曰、原田莓々也。

方<sup>レ</sup>知急難響、長在<sup>レ</sup>鵲鴿篇

詩曰、脊令在原、兄弟急難。

〔書入〕①欄上に「人憂則高登樓望遠開處散愁。在<sup>レ</sup>暗處則益<sup>レ</sup>愁故也。王粲是也」。②左傍に「野也」。③欄上に「響、水鳥

來<sup>レ</sup>廣原、離<sup>レ</sup>水、渴而急鳴。其急難響、如<sup>レ</sup>二人之兄弟其急難。毛詩脊令篇、周公且思<sup>レ</sup>管叔吾<sup>レ</sup>。不思作<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>如。此鳥之詩也。

〔校異〕1本「ナシ」(天) 2注「註」(天) 3之「也」(天) 4原

(前) (天) 「ナシ」5ナシ「也」(天) 6消銷(天) 7ナシ「

遠字下に「而」(天)。(天)により改むべきか。8也「ナシ」(天)

9濕「□」(天) 10隰「濕」(前) (天) 11出「云」(天) 12

侯「候」(天) 13輿「與」(天)

014 野

田野。說文云、郊外也。天有九野。見<sup>レ</sup>初天註。野羊者切。

鳳去秦郊迥

秦穆公女吹<sup>レ</sup>簫感<sup>レ</sup>鳳。因號<sup>レ</sup>秦郊爲<sup>レ</sup>鳳野。

鶉飛楚塞空

荆國圖曰、廣楚當<sup>レ</sup>翼軫。々々在<sup>レ</sup>巳、爲<sup>レ</sup>鶉尾。楚之分野。

蒼梧雲影去

歸藏易曰、白雲出<sup>レ</sup>自<sup>レ</sup>蒼梧野也。

涿鹿霧光通 (10ウ)

玄女戰法曰、黃帝與<sup>レ</sup>蚩尤<sup>レ</sup>戰<sup>レ</sup>於涿鹿野。三<sup>レ</sup>日三<sup>レ</sup>夜大<sup>レ</sup>霧也。



草<sup>クサ</sup>暗<sup>ク</sup>平原<sup>ヘイケン</sup>緑<sup>リキョク</sup> 花<sup>ハナ</sup>明<sup>メイ</sup> 春<sup>ハル</sup>徑<sup>キョウ</sup>紅<sup>ベニ</sup>

此鄭公之秀句也。

誰<sup>カ</sup>言<sup>フ</sup>板<sup>イタ</sup>築<sup>ツク</sup>士<sup>シ</sup>、獨<sup>ムカド</sup>在<sup>ニ</sup>傳<sup>ワタ</sup>巖<sup>イハ</sup>中<sup>ニ</sup>。

書<sup>シヤ</sup>曰<sup>ク</sup>、傳<sup>ワタ</sup>說<sup>セツ</sup>築<sup>ツク</sup>傳<sup>ワタ</sup>巖<sup>イハ</sup>之<sup>ノ</sup>野<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>。

〔校異〕 1 ナシ―田字上に「羊者反」(天) 2 云―ナシ (天) 3

ナシ―郊字上に「野」(天) 4 天―ナシ (前) 5 ナシ―也 (天)。

6 野羊者切―ナシ (天) 7 因―困 (天) 8 楚之―ナシ (天) 9

ナシ―梧字下に「之」(天) 10 也―ナシ (天) 11 法―弦 (天) 12

ナシ―鹿字下に「之」(天) 13 大―火 (天) 14 原 (天) ―廡<sup>ウ</sup>

15 秀句―佳句 (天) 16 傳―傳 (天)

015 田

徒<sup>ト</sup>年<sup>ネン</sup>切<sup>キ</sup>。釋<sup>シヤク</sup>名<sup>メイ</sup>曰<sup>ク</sup>、土<sup>ツチ</sup>已<sup>ニ</sup>耕<sup>ケ</sup>者<sup>シヤ</sup>曰<sup>ク</sup>田<sup>デン</sup>。々<sup>ト</sup>填<sup>ツク</sup>也<sup>ナリ</sup>。五<sup>イハ</sup>稼<sup>カ</sup>填<sup>ツク</sup>「滿<sup>マン</sup>其中<sup>ニ</sup>」也<sup>ナリ</sup>。

填<sup>ツク</sup>者<sup>シヤ</sup>塞<sup>サエ</sup>也<sup>ナリ</sup>。加<sup>カ</sup>也<sup>ナリ</sup>。滿<sup>マン</sup>也<sup>ナリ</sup>。

貢<sup>クニ</sup>禹<sup>ウ</sup>懷<sup>イ</sup>書<sup>シヤ</sup>日<sup>ニツク</sup>

漢<sup>カン</sup>書<sup>シヤ</sup>曰<sup>ク</sup>、貢<sup>クニ</sup>禹<sup>ウ</sup>上<sup>ニ</sup>書<sup>シヤ</sup>言<sup>フ</sup>、甲<sup>ケツ</sup>農<sup>ノウ</sup>不<sup>ズ</sup>登<sup>ル</sup>、天<sup>テン</sup>子<sup>シ</sup>減<sup>ヘ</sup>膳<sup>テン</sup>。

張<sup>テイ</sup>衡<sup>メイ</sup>作<sup>ス</sup>賦<sup>ヒ</sup>晨<sup>チン</sup>

後<sup>コト</sup>漢<sup>カン</sup>張<sup>テイ</sup>衡<sup>メイ</sup>、字<sup>ジ</sup>平<sup>ヘイ</sup>子<sup>シ</sup>。南<sup>ナン</sup>陽<sup>ヤウ</sup>之<sup>ノ</sup>人<sup>ニ</sup>也<sup>ナリ</sup>。作<sup>ス</sup>歸<sup>キ</sup>田<sup>テン</sup>賦<sup>ヒ</sup>。

① 杏花開<sup>キ</sup>鳳<sup>フウ</sup>一<sup>ニツク</sup>畛<sup>チン</sup>

世<sup>セ</sup>說<sup>セツ</sup>曰<sup>ク</sup>、杏<sup>キョウ</sup>花<sup>カ</sup>發<sup>ツク</sup>可<sup>ク</sup>耕<sup>ケ</sup>畛<sup>チン</sup>田<sup>テン</sup>徑<sup>キョウ</sup>也<sup>ナリ</sup>。花<sup>ハナ</sup>如<sup>ク</sup>鳳<sup>フウ</sup>文<sup>ブン</sup>也<sup>ナリ</sup>。

② 萑<sup>カン</sup>葉<sup>エフ</sup>布<sup>フ</sup>龍<sup>リウ</sup>鱗<sup>リン</sup>

世<sup>セ</sup>說<sup>セツ</sup>曰<sup>ク</sup>、萑<sup>カン</sup>蒲<sup>フ</sup>葉<sup>エフ</sup>生<sup>シユ</sup>可<sup>ク</sup>種<sup>シユ</sup>。班<sup>ハン</sup>孟<sup>メイ</sup>堅<sup>ケン</sup>西<sup>シ</sup>京<sup>キョウ</sup>賦<sup>ヒ</sup>曰<sup>ク</sup>、原<sup>ゲン</sup>濕<sup>シツ</sup>龍<sup>リウ</sup>鱗<sup>リン</sup>。

瑞<sup>ズイ</sup>麥<sup>マク</sup>兩<sup>リウ</sup>岐<sup>キ</sup>秀<sup>シユ</sup>

③ 后<sup>コト</sup>漢<sup>カン</sup>張<sup>テイ</sup>堪<sup>カン</sup>爲<sup>ス</sup>太<sup>タイ</sup>守<sup>シユ</sup>。人<sup>ジン</sup>歌<sup>カ</sup>曰<sup>ク</sup>、麥<sup>マク</sup>穗<sup>スイ</sup>兩<sup>リウ</sup>岐<sup>キ</sup>。

嘉<sup>カ</sup>禾<sup>カ</sup>九<sup>ク</sup>穗<sup>スイ</sup>新<sup>シン</sup>

九<sup>ク</sup>穀<sup>コク</sup>皆<sup>ケ</sup>合<sup>カフ</sup>穗<sup>スイ</sup>。言<sup>ハ</sup>太<sup>タイ</sup>平<sup>ヘイ</sup>「一<sup>イチ</sup>一<sup>イチ</sup>也<sup>ナリ</sup>」也<sup>ナリ</sup>。九<sup>ク</sup>穀<sup>コク</sup>、黍<sup>シ</sup>稷<sup>シキ</sup>、稻<sup>タク</sup>、秫<sup>シク</sup>、

麻<sup>マ</sup>、大<sup>ダイ</sup>豆<sup>トウ</sup>、小<sup>ショウ</sup>豆<sup>トウ</sup>、大<sup>ダイ</sup>麥<sup>マク</sup>、小<sup>ショウ</sup>麥<sup>マク</sup>九<sup>ク</sup>種<sup>シュウ</sup>。

寧<sup>テイ</sup>知<sup>チ</sup>帝<sup>テイ</sup>王<sup>ワウ</sup>力<sup>リキ</sup>、擊<sup>キキ</sup>壤<sup>リョウ</sup>自<sup>ジ</sup>安<sup>アン</sup>貧<sup>ヒン</sup>

帝<sup>テイ</sup>王<sup>ワウ</sup>世<sup>セ</sup>記<sup>キ</sup>曰<sup>ク</sup>、堯<sup>ヤウ</sup>時<sup>ジ</sup>、八<sup>ハチ</sup>十<sup>ジュウ</sup>老<sup>ラウ</sup>人<sup>ジン</sup>擊<sup>キキ</sup>土<sup>ツ</sup>塊<sup>クワイ</sup>於<sup>ニ</sup>路<sup>ロ</sup>。觀<sup>ケン</sup>者<sup>シヤ</sup>歎<sup>トク</sup>曰<sup>ク</sup>、大<sup>ダイ</sup>哉<sup>ヤ</sup>、

堯<sup>ヤウ</sup>爲<sup>レ</sup>君<sup>クニ</sup>。老<sup>ラウ</sup>人<sup>ジン</sup>曰<sup>ク</sup>、吾<sup>ウ</sup>鑿<sup>シユ</sup>井<sup>イ</sup>飲<sup>イン</sup>、耕<sup>ケ</sup>田<sup>テン</sup>食<sup>シク</sup>。帝<sup>テイ</sup>何<sup>ナニ</sup>力<sup>リキ</sup>於<sup>ニ</sup>我<sup>ガ</sup>哉<sup>ヤ</sup>。

〔書入〕 ①左<sup>サ</sup>傍<sup>ボウ</sup>に「種<sup>シュウ</sup>時<sup>ジ</sup>分<sup>ブン</sup>也<sup>ナリ</sup>」。②右<sup>ウ</sup>傍<sup>ボウ</sup>に「種<sup>シュウ</sup>時<sup>ジ</sup>分<sup>ブン</sup>也<sup>ナリ</sup>」。

〔校異〕 1 切―反 (天) 2 タ―ナシ (天) 3 加也滿也―滿加也

(天) 4 之―ナシ (天)

5 也―ナシ (天) 6 濕―隰 (前)。(前)により改むべきか。7

后―後 (前) (天) 8 張 (前) (天) ―漲 9 太守―漁陽太守 (天)

10 穗(前)(天) 一種 11 ナシ―岐字下に「秀」(天) 12 禾―木(前)  
13 秫―秣(天) 14 九種―ナシ(天) 15 ナシ―也(天) 16 記說  
(天) 17 鑿(天) 一曰「毆金」 18 ナシ―食字上に「而」(天)

016 道

徒皓切。理也。路也。直也。衆妙皆道也。說文。所レ行道也。

一―達謂ニ之道。釋名曰、道路也。蹈也。路露也。言人所ニ蹈

而露見也。

銅駝分鞏洛

々陽有銅駝道。鞏即與レ洛相接。故言分鞏洛也。一本

洛陽記曰、洛中銅駝道在宮南四會道頭也。

劍閣抵臨邛

蜀有劍閣山。作南道也。抵至也。臨邛即蜀都之名也。

紫微三千里

微道也。一本、微長道野。漢塞外道長三千里。土色紫。故

曰紫微也。(11ウ)

青樓十二重

京城有十二衢。々亦道也。一本、王褒詩曰、青樓臨大道。

鮑明遠京洛篇曰、風樓十二重也。

玉關塵似雪

燉煌郡、玉關地塞、道路蒼茫、多塵似雪也。

金穴馬如龍

晉王濟、字武子。以錢布地、置爲走馬埒。後漢書、車如

流水、馬如遊龍。或爲金穴也。一本、後漢光武郭皇

后弟況封錦蠻侯、賞賜數萬。京師人號況家爲金穴。

明帝馬皇后男爲肅宗皇帝。欲封諸男。大后不

許曰、吾於濯龍宮門上望見道中、諸外家車如流水、馬

如龍也。

今日中衢士、堯鱈更可逢

孟子曰、堯之道如中衢設榼。去來飲者、各得其所也。

言今日者、謂今時。君有道、同堯榼更可逢也。一

本、淮南子曰、聖人道如中衢榼。過者斟酌多少、各得其所

所宜也。

〔書人〕①欄上に「抵(多禮反)」。

〔校異〕1 切―反(天) 2 達―達(前)(天) 3 蹈也路―ナシ(天)

4 也―之也(天) 5 駝―馳(天) 6 也―ナシ(天) 7 褒―褒(天)。

(天)により改むべきか。8詩記(天)9大(天)10風  
一鳳(天)。(天)により改むべきか。11關一開(前)12塵一鹿  
(天)13似一仙(天)14埒一埒(天)15ナシ一曰(天)16或一  
或人(天)17郭一敦(前)18錦蠻侯(天)一錦蠻侯 意により  
「錦蠻侯」に改むべきか。19萬一方(天)20馬如龍也一馬如遊  
龍也(天)21鱣一樽(天)22聖人道(前)一晉人道(底)、聖之  
道(天)23其ナシ(天)

017 海

釋名云、海晦也。主引穢濁、其水黑而晦。博物志曰、  
天地四方、皆海水相通。地在其中、蓋無(12才)幾  
也。七戎六蠻、九夷八狄、形類不同。總而言、謂之四海。言  
皆近於海也。四海之外、皆復有海云々。按東海之別、有  
渤海。故東海共稱渤海。又通謂之滄海。南海別有  
漲海。西海之別有青海。北海之別有瀚海。  
習坎疏(丹壑)  
坎位下。水則歸海。有二坎德。故疏決衆流、皆歸於海。  
一本、易卦曰、重流而不盈。疏通也。言通於丹壑。々

々、丹丘之壑。在(日南郡之南)。即南海是也。

朝宗合紫微

詩曰、河彼流水。朝宗於海。言水朝海亦猶臣之歸君。

紫微宮名。故言合紫微宮。天帝所居。言海水通天河亦

如三人臣朝天天子於紫微宮中也。

三山巨鰲躍

海中有三山(三蓬萊、方丈、瀛州。因下拊鰲三足、以首

戴此山上、遂不(レ)動也。

萬里大鵬飛

南花真經曰、北溟海中有大魚。名鯢。化爲鳥曰鵬。六

月搏扶搖而上向海。一翥九萬里也。

樓寫春雲色(一)

漢書曰、江海之(12ウ)間、蜃氣如樓閣也。

珠含明月輝

海中有大蚌。出珠。故吳都賦曰、蚌蛤珠胎、與(レ)月(レ)全。

會當添霧露、方逐衆川歸

山不(レ)讓塵、故能成其高、海受霧露、亦能成其深。今

此意者、欲(レ)下同霧露以歸海也。一本、木玄虛海賦曰、薈蔚

雲霧、涓流決(レ)澗、莫(レ)不(レ)來往。此言小々涓滴若(レ)添霧露(二)

常逐<sup>ツ</sup>川也。

〔書入〕①欄上に「丹壑大海之名。江河川流來、疏鑿而益深也。」

②右傍に「飛時。六月翥心也」。③右傍に「廣貌」。④右傍に「水流貌」。

〔校異〕1博物志—物理論(天) 2幾—塞(天) 3ナシ—言字下に「之」(天) 4ターナシ(天) 5按(前) (天) —接(天) 6ナシ

—海字下に「之」(天)。(天)により改むべきか。7瀚(天) —潮8之也(天) 9沔(前) —汚(底)、灣(天) 10ナシ—水

字下に「之」(天) 11宮—ナシ(天) 12ナシ—宮字下に「二本、漢書曰、江漢朝宗于海。天上有紫微宮」(天) 13鰲—鼈(前) (天)

14躍—踊(天) 15三—ナシ(天) 16山—三山(天) 17花—華(天) 18月—日(天) 19也—ナシ(天) 20蚌—蚌(天) 21全—金(天)

22逐—遂(天) 23木—太(天) 24蒼—蒼(天) 25雲霧—雲露(前) 26涓(天) —涌 27決—決(天)

018 江

釋名曰、江者公也。出<sup>レ</sup>物不<sup>レ</sup>私。故曰<sup>レ</sup>公也。風俗通曰、江

者賁也。爲<sup>二</sup>其出<sup>レ</sup>物可<sup>レ</sup>賁。又有<sup>二</sup>九江<sup>一</sup>。一鳥白江、二蚌江、三鳥江、四嘉靡江、五畎江、六源江、七慶江、八提江、九菌江。

日夕三江望。

孔安國曰、江從<sup>二</sup>彭蠡<sup>一</sup>分爲三江、入震澤。故曰三江。

混天之圖云、三江、京江在荊州、松江在蘇州、浙江在杭州。

靈潮萬里廻。

郭景純江賦曰、呼<sup>レ</sup>吸萬里、吐<sup>レ</sup>納靈潮也。

霞津錦浪(13オ)動、月浦練光開。

謝玄暉詩曰、餘<sup>レ</sup>霞散成<sup>レ</sup>綺、澄<sup>レ</sup>江淨如<sup>レ</sup>練也。

湍似<sup>二</sup>黃牛<sup>一</sup>去。

盛弘之荊州記云、宜都西陵峽有<sup>二</sup>黃牛山<sup>一</sup>。江湍紆廻、途經<sup>二</sup>

信<sup>一</sup>宿(二)、猶望見<sup>レ</sup>之。行者歌曰、朝發<sup>二</sup>黃牛(二)、暮宿<sup>二</sup>黃牛、

三日將<sup>レ</sup>暮。黃牛如<sup>レ</sup>故也。

濤如<sup>二</sup>白馬來<sup>一</sup>

風俗記曰、海濤頭來有<sup>レ</sup>神。乘<sup>二</sup>白馬<sup>一</sup>引<sup>レ</sup>之。神仙傳云、是

伍子胥靈也。

英<sup>二</sup>靈已傑<sup>一</sup>士

人粟江一山氣生。尸子曰、出千人、曰英、勝萬人、曰傑也。

誰識卿雲才

司馬相如、字長卿。楊雄、字子雲。左思蜀都賦曰、江漢炳靈也。

世載其英(一)、蔚(二)若相如(一)、皜(二)若君平(一)。王褒暉

曄、秀發。楊雄含章而挺生。

〔書入〕①左傍に「」在水邊。故云津也。

〔校異〕1鳥一鳥(天) 2鳥一鳥(前) 3齒江(前)(天)一齒

江4ナシ一也(天) 5從一提(天) 6之ナシ(天) 7浙浙

(天) 8廻一回(天) 9練一線(天) 10玄一元(天) 11也一ナ

シ(天) 12云一曰(前)(天) 13峽(前)(天)一ナシ 14山一ナ

シ(天) 15記一通(天) 16土一出(天) 17戸一戸(天) 18載(天)

一戴 19ナシ一秀字上に「而」(天)。(天)により改むべきか。

20含(前)(天)一合 21ナシ一也(前)(天)

019 河

々圖曰、黃河出崑崙山東北角、剛山東北、流千里、折西

而行、至於蒲山。南流千里、至於本山。又流千里、至於恆雍。北流千里、至於下津。河水九曲、長者九千里、入于渤海。爾雅曰、九河、一徒駭、(13ウ)二天

史、三馬頰、四覆釜、五胡蘇、六簡、七潔、八釣盤、九鬲津。

河出崑崙中

風后對黃帝云、河出崑崙之墟。一本、漢書云、河源

崑崙山也。

長波接漢空

漢天也。言河以應天漢也。一本、言地河連、應

天一漢也。

桃花生馬頰

溱洧三月有桃花一水。衆士必執蘭以禳。河有九

名。一曰馬頰也。一本、黃河中有二桃花水一也。

竹箭入龍宮

言河水流急疾、如竹箭也。漢武帝時、河水決、從頓丘

南流、發牽二十萬里、救沃野、流趣龍宮也。一本、箭急流貌。龍宮河伯所居也。

德水千年變

河水千年一清。江賦曰、咨五才之并用、寔水德之靈

長。明<sup>メ</sup>河<sup>カ</sup>水<sup>スイ</sup>曰<sup>イハレ</sup>德<sup>トク</sup>水<sup>スイ</sup>也。史記曰、秦<sup>シ</sup>文<sup>ブン</sup>公<sup>コウ</sup>時、黑<sup>ク</sup>龍<sup>リウ</sup>從<sup>ス</sup>終<sup>シウ</sup>南山<sup>ナン</sup>出<sup>デ</sup>而飲<sup>イン</sup>渭<sup>ヱ</sup>水<sup>スイ</sup>。文公改<sup>カ</sup>黃<sup>ワウ</sup>河<sup>カ</sup>爲<sup>シ</sup>德<sup>トク</sup>水<sup>スイ</sup>也。又曰、黃河<sup>ワウ</sup>千<sup>セン</sup>年<sup>ネン</sup>一<sup>イチ</sup>清<sup>セイ</sup>。

榮光五色通

河<sup>カ</sup>水<sup>スイ</sup>清<sup>セイ</sup>變<sup>ヘン</sup>、爲<sup>シ</sup>五<sup>ゴ</sup>色<sup>シキ</sup>貌<sup>ボウ</sup>、則<sup>スレバ</sup>出<sup>デ</sup>圖<sup>ト</sup>書<sup>ショ</sup>。堯<sup>ヤウ</sup>時<sup>シ</sup>、榮<sup>エイ</sup>光<sup>コウ</sup>（14才<sup>サイ</sup>）塞<sup>サス</sup>河<sup>カ</sup>也。一<sup>イチ</sup>本<sup>ポン</sup>、尚<sup>シヤウ</sup>書<sup>ショ</sup>中<sup>チュウ</sup>侯<sup>コウ</sup>曰<sup>イハレ</sup>、堯<sup>ヤウ</sup>時<sup>シ</sup>榮<sup>エイ</sup>光<sup>コウ</sup>出<sup>デ</sup>河<sup>カ</sup>、休<sup>キウ</sup>氣<sup>キ</sup>四<sup>シ</sup>塞<sup>サス</sup>。龍<sup>リウ</sup>御<sup>イ</sup>甲<sup>カウ</sup>、赤<sup>セキ</sup>文<sup>ブン</sup>綠<sup>リク</sup>一<sup>イチ</sup>字<sup>ジ</sup>。甲<sup>カウ</sup>似<sup>シ</sup>龜<sup>キ</sup>背<sup>ヘイ</sup>五<sup>ゴ</sup>色<sup>シキ</sup>也。

若披<sup>ニ</sup>蘭<sup>ニ</sup>葉<sup>ニ</sup>撿<sup>ニ</sup>、還<sup>ニ</sup>沐<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>皇<sup>ニ</sup>風<sup>ニ</sup>

黃<sup>ワウ</sup>帝<sup>テイ</sup>至<sup>シ</sup>翠<sup>スイ</sup>嬌<sup>コウ</sup>之<sup>ノ</sup>淵<sup>エン</sup>（一）、有<sup>リ</sup>二<sup>ニ</sup>大<sup>ダイ</sup>鱸<sup>リウ</sup>魚<sup>イ</sup>（二）。折<sup>セツ</sup>溜<sup>リウ</sup>而<sup>シテ</sup>至<sup>リ</sup>則<sup>スレバ</sup>授<sup>ジュ</sup>二<sup>ニ</sup>圖<sup>ト</sup>天<sup>テン</sup>老<sup>ロウ</sup>。跪<sup>クワイ</sup>而<sup>シテ</sup>迎<sup>メイ</sup>之<sup>ヲ</sup>、蘭<sup>ラン</sup>葉<sup>エフ</sup>。以<sup>テ</sup>授<sup>ジュ</sup>黃<sup>ワウ</sup>帝<sup>テイ</sup>一<sup>イチ</sup>也。一<sup>イチ</sup>本<sup>ポン</sup>、天<sup>テン</sup>老<sup>ロウ</sup>曰<sup>イハレ</sup>、河<sup>カ</sup>出<sup>デ</sup>龍<sup>リウ</sup>圖<sup>ト</sup>。帝<sup>テイ</sup>迎<sup>メイ</sup>之<sup>ヲ</sup>。五<sup>ゴ</sup>色<sup>シキ</sup>異<sup>イ</sup>。其<sup>ノ</sup>魚<sup>イ</sup>昇<sup>セイ</sup>圖<sup>ト</sup>、蘭<sup>ラン</sup>葉<sup>エフ</sup>。朱<sup>シュ</sup>文<sup>ブン</sup>以<sup>テ</sup>授<sup>ジュ</sup>黃<sup>ワウ</sup>帝<sup>テイ</sup>。名<sup>ナ</sup>曰<sup>イハレ</sup>綠<sup>リク</sup>圖<sup>ト</sup>。撿<sup>ケン</sup>束<sup>スツ</sup>也。圖<sup>ト</sup>上<sup>ニ</sup>有<sup>リ</sup>二<sup>ニ</sup>蘭<sup>ニ</sup>葉<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>束<sup>スツ</sup>一<sup>イチ</sup>也。

〔書入〕①欄上に「夢大風吹トミル也。后風后至也」。②欄上に「蘭葉書字。又其上以蘭葉蓋之歟」。

- 〔校異〕1 本<sup>ポン</sup>山<sup>サン</sup>華<sup>カ</sup>山<sup>サン</sup>之<sup>ノ</sup>陰<sup>イン</sup>（天）2 又<sup>マタ</sup>一<sup>イチ</sup>東<sup>トウ</sup>（天）3 恆<sup>コウ</sup>一<sup>イチ</sup>植<sup>チキ</sup>（天）4 里<sup>リ</sup>一<sup>イチ</sup>ナシ（天）5 渤<sup>ボク</sup>一<sup>イチ</sup>勃<sup>ボク</sup>（前）6 日<sup>ニチ</sup>一<sup>イチ</sup>ナシ（天）7 大<sup>ダイ</sup>一<sup>イチ</sup>太<sup>タイ</sup>（天）8 潔<sup>セツ</sup>一<sup>イチ</sup>絜<sup>セツ</sup>（天）9 釣<sup>テウ</sup>一<sup>イチ</sup>鈎<sup>コウ</sup>（前）10 云<sup>クニ</sup>一<sup>イチ</sup>曰<sup>イハレ</sup>（前）（天）

- 11 地<sup>チ</sup>河<sup>カ</sup>連<sup>レン</sup>一<sup>イチ</sup>地<sup>チ</sup>阿<sup>ア</sup>連<sup>レン</sup>（底）（前）、池<sup>チ</sup>連<sup>レン</sup>（天）。意<sup>イ</sup>に<sup>ヨリ</sup>改<sup>カ</sup>む。
- 12 溱<sup>シン</sup>一<sup>イチ</sup>秦<sup>シン</sup>（天）13 有<sup>リ</sup>一<sup>イチ</sup>在<sup>シ</sup>（天）14 褻<sup>セツ</sup>一<sup>イチ</sup>拂<sup>フキ</sup>（天）15 也<sup>ニ</sup>一<sup>イチ</sup>ナシ（天）16 「一<sup>イチ</sup>本<sup>ポン</sup>」到<sup>リ</sup>「水<sup>スイ</sup>也」一<sup>イチ</sup>ナシ（天）17 ナシ一<sup>イチ</sup>急<sup>キウ</sup>字<sup>ジ</sup>上<sup>ニ</sup>に「馳<sup>シ</sup>」（天）18 水<sup>スイ</sup>一<sup>イチ</sup>ナシ（天）19 「從<sup>ジュウ</sup>頓<sup>トン</sup>」到<sup>リ</sup>「宮<sup>ミヤウ</sup>也」、（天）は「從<sup>ジュウ</sup>頓<sup>トン</sup>丘<sup>キウ</sup>南<sup>ナン</sup>流<sup>リウ</sup>入<sup>ニ</sup>渤<sup>ボク</sup>海<sup>カイ</sup>。其<sup>ノ</sup>五<sup>ゴ</sup>月<sup>ゲツ</sup>、河<sup>カ</sup>決<sup>ケツ</sup>漢<sup>ハン</sup>陽<sup>ヤウ</sup>郡<sup>クン</sup>流<sup>リウ</sup>、發<sup>ハツ</sup>卒<sup>ソツ</sup>十<sup>ジュウ</sup>萬<sup>マン</sup>救<sup>キウ</sup>沃<sup>ボク</sup>野<sup>ヤ</sup>、起<sup>キ</sup>自<sup>シ</sup>龍<sup>リウ</sup>淵<sup>エン</sup>宮<sup>キウ</sup>也」。20 牽<sup>ケン</sup>一<sup>イチ</sup>率<sup>ソツ</sup>（前）21 才<sup>サイ</sup>一<sup>イチ</sup>萬<sup>マン</sup>（天）22 并<sup>ヘイ</sup>一<sup>イチ</sup>竝<sup>テイ</sup>（前）（天）23 從<sup>ジュウ</sup>一<sup>イチ</sup>ナシ（天）24 而<sup>シテ</sup>一<sup>イチ</sup>ナシ（天）25 侯<sup>コウ</sup>一<sup>イチ</sup>候<sup>コウ</sup>（前）26 休<sup>キウ</sup>一<sup>イチ</sup>體<sup>テイ</sup>（天）27 似<sup>シ</sup>一<sup>イチ</sup>以<sup>テ</sup>（前）28 溜<sup>リウ</sup>（前）一<sup>イチ</sup>滔<sup>トウ</sup>（底）、流<sup>リウ</sup>（天）29 跪<sup>クワイ</sup>一<sup>イチ</sup>疏<sup>シュ</sup>（天）30 以<sup>テ</sup>一<sup>イチ</sup>ナシ（天）31 黃<sup>ワウ</sup>帝<sup>テイ</sup>一<sup>イチ</sup>皇<sup>ワウ</sup>帝<sup>テイ</sup>（天）32 也<sup>ニ</sup>一<sup>イチ</sup>之<sup>ヲ</sup>也（天）33 之<sup>ヲ</sup>一<sup>イチ</sup>ナシ（天）

020 洛

盧<sup>ロ</sup>各<sup>カク</sup>切<sup>キエ</sup>。水<sup>スイ</sup>名<sup>ナ</sup>。書<sup>ショ</sup>曰<sup>イハレ</sup>、導<sup>ドウ</sup>洛<sup>ラク</sup>自<sup>シ</sup>熊<sup>ク</sup>耳<sup>ニ</sup>。漢<sup>ハン</sup>書<sup>ショ</sup>作<sup>サス</sup>雒<sup>ラク</sup>。漢<sup>ハン</sup>火<sup>カ</sup>一<sup>イチ</sup>德<sup>トク</sup>也。忌<sup>キ</sup>水<sup>スイ</sup>者<sup>シャ</sup>也。故<sup>コ</sup>作<sup>サス</sup>雒<sup>ラク</sup>也。

九洛韶光媚

鞏<sup>コウ</sup>洛<sup>ラク</sup>、温<sup>オン</sup>洛<sup>ラク</sup>、河<sup>カ</sup>洛<sup>ラク</sup>、伊<sup>イ</sup>洛<sup>ラク</sup>、纏<sup>テン</sup>洛<sup>ラク</sup>、上<sup>ウ</sup>洛<sup>ラク</sup>、繩<sup>ジュウ</sup>洛<sup>ラク</sup>、穀<sup>コク</sup>洛<sup>ラク</sup>、泥<sup>ニ</sup>洛<sup>ラク</sup>也。三<sup>サン</sup>川<sup>セン</sup>物<sup>モノ</sup>候<sup>コウ</sup>新<sup>シン</sup>。洛<sup>ラク</sup>出<sup>デ</sup>二<sup>ニ</sup>九<sup>ク</sup>疇<sup>チュウ</sup>、禹<sup>ウ</sup>因<sup>イン</sup>而<sup>シテ</sup>第<sup>テイ</sup>之<sup>ヲ</sup>。三<sup>サン</sup>川<sup>セン</sup>謂<sup>イハレ</sup>河<sup>カ</sup>川<sup>ケン</sup>、洛<sup>ラク</sup>川<sup>ケン</sup>、伊<sup>イ</sup>川<sup>ケン</sup>也。

混天圖云、三川、秦川在荊州、洛川在河南、蜀川在益州。

花明丹鳳浦

黃帝遊玄圃。洛上有鳳凰、銜圖書、置帝前也。一本、神仙傳曰、周(14ウ)靈王太子晉吹笙洛濱。感鳳飛去。

故號伊水曰丹鳳浦也。

日映玉雞津

帝王世記曰、漢高祖母遊洛濱、吞玉雞而生高祖。因號曰玉雞津也。

元禮期仙客

後漢書、李膺、字元禮。爲河南尹。與大原郭林宗泛舟洛水。時人謂之神仙也。

陳王觀麗人

魏陳思王洛神賦曰、觀麗人于岩之畔也。

玄龜方錫瑞

綠字佇來臻

堯沈璧於洛。有龜負文背甲、赤綠字。上于壇也。

一本、錫賜也。孔安國曰、天與禹、洛出書。神龜負文而

出。列於背。是綠字也。

〔校異〕 1切一反(天) 2曰ナシ(天) 3雉各(天) 4纏

一纏(天) 5繩洛(前)(天) 一繩絡 6泥記(天) 7候(前)

(天) 一條 8洛河(天) 9第之第一而革之(天) 10(天)の

當該句下注ナシ 11後后(前) 12膺(前)(天) 一鷹 13ナシ

郭字上に「即」(天) 14之ナシ(天) 15也ナシ(前)

芳草十首

021 蘭

說文曰、蘭香草也。叢生山谷。紫莖赤節、綠葉光潤、一幹

一花、間有雙頭者。花兩三瓣。幽香清遠、可挹。花有

數品。或紫、或淺碧。花常在「春初」。雖冰霜之餘、高潔

自如。禾。(15オ)

虛室重招尋

易曰、同心之人、其言臭如蘭。古人亦謂香爲臭也。亦有

蘭室之。一本、文宣王曰、與好人相隨如入芝蘭之

室也。

忘言契斷金

易曰、二人同心、其利斷金、同心之契、言金雖堅可斷也。

言取其臭如蘭之意、以包二十句一也

英浮漢家酒

漢書郊祀志曰、寶鼎歌曰、百味旨一酒布一蘭生也。

雪儷楚王琴

々有幽蘭白雪之曲。儷偶也。宋玉曰、主人令一女子

爲臣炊彫胡之飯、彈中、幽蘭之曲也。一本、謝

惠連雪賦曰、楚王以幽蘭白雪麗曲也。楚之琴有幽蘭

白雪也。

廣殿輕香發

漢有蘭殿也。一本、漢武帝生綺蘭殿也。

高臺晚吟

古詩曰、月影入蘭臺。又曰、有幽蘭曲。故曰吟也。一本、

宋玉風賦曰、楚襄王遊蘭臺之宮。宋玉景差侍。有風颯然而

至也。

汾河應擢秀

漢武帝過汾水。秋風歌曰、蘭有秀分菊有芳分也。(15ウ)

誰肯訪山陰

王右軍與群賢禊於山陰蘭亭也。以山陰北汾河爲鄙。

故言、誰肯訪山陰也。一本、王羲之會稽山陰之蘭亭一也。

〔校異〕 1間(前)(天) 一開 2瓣(前)(天) 3ナシ一品

字下に「或白」(天) 4或一ナシ(前) 5ナシ一餘字下に「之」

(天) 6之也(天)、之也(前) 7好人一內人(前) 8布一有

(天) 9ナシ一蘭字下に「白雪」(天) 10麗曲一之曲(天) 11之

一ナシ(天) 12ナシ一雪字下に「曲」(天) 13ナシ一蘭字下に「之」

(天) 14日一日(天) 15風一ナシ(天) 16也一ナシ(前) 17義

(天) 一義

022 菊

爾雅、名落牆。或名日精。一名周盈、一名傳延年。有

紫莖氣香而味美者。服之、可亡疾延年。藥性論曰、

味苦甘平。主下風頭眩痛、目淚出、皮膚死、肌惡、風濕、

病一痢、血一氣上。一名節花、一名女莖、一名更生、一名傳延年、一名

陰成。正一月採根、三四月採葉、五六月採莖、九十月採花、

十一月採實。皆陰乾。菊有兩種。一一種莖紫氣香而味甘、



一種青莖ハ、ニシテ、イナルコト而大ニ似レ蒿也。

玉律ニ秋暮ス

十二月律以玉爲瑤也。故曰玉律也。蘭以春茂、菊以秋榮。

欲取其盛時也。故曰三秋暮也。一本、湘中記曰、有二人於舜陵廟中得玉瑀。獻之以調律呂也。

金精九日開

古詩曰、岸菊聚ニ新金。々精即菊也。其花色黃。故曰金（16才）精。九月九日盛開也。一本、秋西方金。菊是金精。

九月九日花開泛酒。

榮舒洛媛浦

曹植洛神賦曰、榮曜秋菊、葉茂春松。髣髴分若輕雲之

蔽月、飄飄兮若流風之回雪。

香泛二野人杯一

陶淵明以菊泛酒也。一本、陶潛詩曰、秋菊有佳色、裛

露掇其英。泛此忘憂物。其山上有大菊。洛水從

山流下。得其滋液二谷中三十餘家飲此水、上壽百

二十、其中年亦七十八十也。

蠶靡寒潭側

細密之貌。

萋茸曉岸隈

南陽有二菊潭、取此水爲酒。味甘、不醉人也。

今日黃花晚、無二復白一衣來一

陶淵明、九月九日採二菊東籬下一。江州刺史王弘使著二白一衣載酒來。江州今尋陽郡。出二晉書一也。今言二花晚、無一復人來也。

來也。

〔書入〕①左傍に「麗貌」。②右傍に「酒也」。

〔校異〕1 牆—牆(天) 2 傳延年(天)—傳延年 3 亡—已(天)

4 載—云(天) 5 苦(天)—若 6 主—生(天) 7 風頭—頭風

(天) 8 肌—□「月已」(天) 9 病痢—痺利(天)、痺痢(前)

10 傳延年(天)—傳延 11 而—ナシ(天) 12 似—作(天)。(天)

により改むべきか。13 也—ナシ(天) 14 盛(前)(天)—成 15

岸菊—山岩菊(天) 16 葉、意により「華」に改むべきか。17 「若

輕」到「回雪」—也(天) 18 密—蜜(前)(天) 19 著—者(天)

023 竹

說文作レ籐。冬生草也。象形、下垂者。箬箬、藥性論曰、味苦、平、

大寒主胸中疾熱。日花子曰、淡(16ウ)竹葉味辛、大寒無毒。治天行熱、狂狀、熱、頭痛、瘧疾、迷悶。主吐血、熱毒及歷癩、口瘡。利九竅、青竹如止肺癆、唾血、鼻衄、治五痔。晉書云、元康二年、巴西界竹生花、紫色、結實如麥。四聲字曰、草也。一云、非竹非木。兼名注云、筠、竹惣名也。

高幹楚江漬

楚詞曰、嬋娟之竹、寄生於江潭也。幹竹幹也。亦水之際謂之漬也。一本、禹貢荊州曰、惟箛箛、三江底貢。注曰、箛中矢幹。爾雅曰、大水溢為小水曰漬。文選曰、

梢雲以無踰。是則竹常有雲梢也。梢雲瑞雲也。蕭條含曙氣、白花搖鳳影。

鳳凰非梧桐不棲、非竹實不食。

青節動龍文

費長房乘竹杖、渡葛陂水、杖變為龍。一本、后漢書、費長房從壺公學仙、還家。壺公以青竹杖與之、騎變成龍、去葛陂也。

葉拂東南日

一本、爾雅曰、東南之美者、會稽之竹箭焉。

枝梢西北雲

古詩曰、日(17オ)出東南隅、西北有浮雲。以便而言

之。一本、左思吳都賦說竹曰、梢雲無以踰、嶰谷不能聯。嶰谷在崑崙、出好竹。崑崙在西北。誰知湘水上、流淚獨思君。

舜死蒼梧。二妃娥皇女英不從。泣染竹成斑也。一本曰、湘夫人舜妃也。舜崩於蒼桐。二妃奔哀。湘夫人淚染斑竹。皆一妃溺水死。故號湘夫人也。

(書入) ①欄上に「箇(奇隕反。竹名。說文、一箇也。一曰博碁也。又音。困桂也)」。②欄上に「箛(力固反。與箛同。美竹也。中箛也)」。③欄上に「梧(木名。堪矢)」。

- (校異) 1 箛一榦 (天) 2 管箛一籠箛 (天) 3 花一華 (前) (天) 4 曰一云 (天) 5 歷一[ ] [麻止] (天) 6 云一曰 (天) 7 竹一草 (天) 8 注一註 (天) 9 ナシ一也字下「史記云、千畝以其人千戶集也」 (天) 10 江潭 (天) 一江漬(底、江濱(前) 11 亦(天) 一竹 12 箛、箛 (天) 13 底一致 (天) 14 以無踰、意により「無以踰」に改むべきか。 15 ナシ一也 (天) 16 杖一枝 (天) 17 后一後(前) (天) 18 也一ナシ (天) 19 一本ナシ (天) 20 泪一

源(天) 21 死—葬(天) 22 蒼梧—蒼梧野(天) 23 蒼桐—蒼梧(天)

024 藤

爾雅、江東呼<sup>ハイゴ</sup>藟<sup>リ</sup>爲<sup>レ</sup>藤<sup>ト</sup>。詩曰、莫<sup>モ</sup>々<sup>カ</sup>葛<sup>カ</sup>藟<sup>リ</sup>。施<sup>シ</sup>于<sup>ニ</sup>條<sup>ニ</sup>枝<sup>ニ</sup>。

紫藤。又爾雅、似<sup>シ</sup>葛<sup>ニ</sup>而<sup>シ</sup>大<sup>シ</sup>也。蘇敬云、藤、其子狼跋也。

吐<sup>ツ</sup>葉<sup>ハ</sup>依<sup>レ</sup>松<sup>ノ</sup>磴<sup>ニ</sup>。

一—本、山—坂磴亦架也。

舒<sup>ヘ</sup>苗<sup>ヲ</sup>長<sup>ス</sup>—石臺<sup>ニ</sup>。

說苑曰、永陽有<sup>ニ</sup>岩壁<sup>一</sup>。立<sup>キ</sup>千<sup>一</sup>仞。岩上有<sup>ニ</sup>石臺<sup>一</sup>、爲<sup>ス</sup>神農

窟<sup>ト</sup>。々々前有<sup>ニ</sup>百藥<sup>一</sup>、又有<sup>ニ</sup>異藤<sup>一</sup>。

神農嘗<sup>テ</sup>藥<sup>ヲ</sup>罷<sup>シ</sup>

有<sup>ニ</sup>小鼠<sup>一</sup>藤<sup>一</sup>、一謂<sup>フ</sup>千<sup>一</sup>金<sup>一</sup>藤<sup>一</sup>。神農所<sup>レ</sup>識也。一本、神農嘗

藤<sup>ヲ</sup>爲<sup>シ</sup>藥<sup>ト</sup>。見<sup>ル</sup>本草<sup>ノ</sup>經<sup>ニ</sup>。

質子寄<sup>テ</sup>書<sup>ル</sup>來<sup>ル</sup>

始興記曰、晉時、(17ウ)有<sup>ニ</sup>質子<sup>一</sup>將<sup>テ</sup>歸<sup>ント</sup>。忽有<sup>レ</sup>人<sup>一</sup>寄<sup>レ</sup>書<sup>ト</sup>曰、吾家

有<sup>ニ</sup>懸藤<sup>一</sup>。果<sup>シ</sup>其<sup>レ</sup>言<sup>ニ</sup>也。一本、王韶始興記曰、晉時、有<sup>ニ</sup>質

子<sup>一</sup>將<sup>テ</sup>歸<sup>ト</sup>。有<sup>レ</sup>人<sup>一</sup>寄<sup>レ</sup>書<sup>ト</sup>曰、吾家在<sup>ニ</sup>中宿縣水亭廣石間<sup>一</sup>、有<sup>ニ</sup>藤

君<sup>一</sup>扣<sup>テ</sup>藤<sup>ト</sup>、有<sup>レ</sup>人<sup>一</sup>出<sup>テ</sup>。乃如<sup>シ</sup>其<sup>レ</sup>言<sup>ニ</sup>。果有<sup>レ</sup>人<sup>一</sup>出<sup>テ</sup>取<sup>レ</sup>書<sup>ト</sup>云、河伯命

レ君<sup>ニ</sup>。前<sup>ニ</sup>入<sup>レ</sup>水<sup>ニ</sup>、見<sup>ル</sup>宇<sup>ノ</sup>屋<sup>ノ</sup>甚<sup>ニ</sup>華<sup>ニ</sup>也。

色映<sup>ニ</sup>蒲<sup>ノ</sup>萄<sup>ノ</sup>架<sup>ニ</sup>。

張騫西域得<sup>ニ</sup>蒲<sup>ノ</sup>萄<sup>一</sup>、歸<sup>リ</sup>漢<sup>ニ</sup>也。一—本、言<sup>フ</sup>蒲<sup>ノ</sup>萄<sup>ノ</sup>與<sup>レ</sup>藤<sup>ノ</sup>同<sup>シ</sup>架<sup>ト</sup>。花

相<sup>シ</sup>映<sup>ス</sup>也。

花浮<sup>ニ</sup>竹<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>盃<sup>ニ</sup>。

宜城有<sup>ニ</sup>竹<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>酒<sup>一</sup>、浮<sup>レ</sup>蟻<sup>ノ</sup>飄<sup>レ</sup>脂<sup>ト</sup>。野人有<sup>ニ</sup>藤<sup>ノ</sup>花<sup>ノ</sup>酒<sup>一</sup>。故云<sup>ニ</sup>

竹<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>盃<sup>ニ</sup>也。一—本、藤<sup>ノ</sup>花<sup>ノ</sup>泛<sup>レ</sup>酒<sup>ト</sup>。竹<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>酒<sup>ノ</sup>名<sup>也</sup>。

金堤不<sup>レ</sup>相<sup>シ</sup>識<sup>ス</sup>。

周公作<sup>ニ</sup>金<sup>ノ</sup>藤<sup>一</sup>。成王不<sup>レ</sup>知<sup>シ</sup>周<sup>ノ</sup>公<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>忠<sup>ト</sup>勤<sup>ト</sup>也。緘<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>金<sup>ト</sup>。或云<sup>ニ</sup>

金<sup>ノ</sup>封<sup>ニ</sup>也。一—本、言<sup>フ</sup>藤<sup>ノ</sup>附<sup>レ</sup>架<sup>ト</sup>上<sup>ニ</sup>、不<sup>レ</sup>在<sup>ニ</sup>金<sup>ノ</sup>堤<sup>ニ</sup>也。

玉潤幾年<sup>ノ</sup>開<sup>ス</sup>

一—本、藤<sup>ノ</sup>色<sup>ノ</sup>滋<sup>レ</sup>潤<sup>ト</sup>、如<sup>シ</sup>璧<sup>ノ</sup>也。

〔書入〕①左傍に「開心也」。②欄上に「金藤書也。在廟也。依是周公忠彰也」。

〔校異〕1爲—名(天) 2莫—藟(天) 3枝、意により「牧」

に改むべきか。4又—ナシ(天) 5大—太(天) 6云—曰(天)

7也—子(天)。(天)により改むべきか。8ナシ—吐字上に「卿

(前) 9一本—ナシ(天) 10々—ナシ(天) 11ナシ—也(天)

12 藤脂(天) 13 日一云(天) 14 寄奇(前) 15 在ナシ(天)  
16 君一居(天) 17 宇屋甚華一宇室其華(天) 18 野人一野(天)  
19 盃一ナシ(天) 20 金藤、意により「金藤」に改むべきか。21  
幾年一幾重(天)

025 萱

毛詩作諼。孔子曰、諼訓忘、非草名。爾雅曰、諼忘也。

季子引「嵇叔夜養生論」曰、合歡蠲怒、諼草忘憂。復言諼者

本於此。玉篇作蕙。神農經曰、中藥養性、謂合歡蠲怒、

萱草忘憂也。

①(ウリノシテ)ス  
屣步尋(18オ)「芳草」

一本、屣徙也。借音。又云、屣不躡距也。

忘憂自結叢

羸州有忘憂草花、名長樂。即萱草也。

葉舒春夏綠、花吐淺深紅

言其葉春夏常綠。花色則淺深不同。

色湛仙人露

仙人飲露。故云、仙人露也。言萱草上墜露、色則湛然也。

一本、花上有甘露(一)。  
香傳少女風

管輅車過清河裴使君。時大旱。輅曰、今日當雨。樹上有少女風。少時果雨也。一本、易說卦、兌爲少女。兌屬西方。兌風也。

含(ニ)レ(ニ)貞北堂下

古詩曰、幽萱樹北堂。一本、詩曰、焉得萱草、言樹之背。注曰、背北堂也。

曹植動文雄

曹植作「宜男草賦」(一)。萱一名「宜男草」也。風土記曰、宜男草如蓮也。懷妊婦人佩之、必生男也。

〔書入〕①欄上に「屣又作躡。與諧同。說文、舞屣也。」

〔校異〕1 子一氏(天) 2 生一性(前) 3 者一有(天) 4 蕙一

蘼(天) 5 「中藥」到「憂也」一本不見(天) 6 屣步一歩屣(天)

7 一本一ナシ(天) 8 徙一履(天) 9 也一ナシ(天) 10 結一結

(天) 11 綠一綠(天) 12 甘一中(天) 13 河一何(天) 14 說一兌

(天) 15 含一今(前) 16 背一皆(天) 17 ナシ一懷字上に「宜」(天)

18 人一入(天)

許慎說文曰、萍草也。無根、浮水而生。有青紫二種。葉皆

細、對生。梗長一寸計。本草、大者爲(一八ウ)レ萍。

沈在水中、亦無根。著見鹿鳴註。藥性論、味辛酸、無

毒。主暴熱、身痒、下水氣、及消渴。日華子、治

熱毒風、湯火瘡、風癩。

二月虹初見

月令曰、季春之月、虹始見、萍始生也。今言二月者、蓋

避下三字也。又三月之節候初、生前三月、稍同也。

三、清蟻正浮

三、清酒名。南都賦曰、浮蟻如萍。以虹初見萍生、其文

相連。故先言虹、以出萍意也。又浮蟻如萍、實非萍也。

以類言成實耳。文人共用之、不嫌也。一本、禮曰、稻醴

清糟、黍醴清糟、梁醴清糟。張平子南都賦曰、醪敷徑寸、

浮蟻若萍也。

青蘋含吹轉

其大者曰蘋、小者曰萍。亦猶鴻雁之屬也。言雁則可兼

鴻也。宋玉風賦曰、大王之風、起於青蘋之末。

紫葉映波流

萍葉多紫色。言萍恆隨流、遇坻坻則止也。一本、吳均詩

曰、瀾漫紫萍流。

屢逐明神薦

左傳曰、蘋蘩蕙藻之菜、可薦於鬼神。

頻隨旅客(一九オ)遊

鄭玄書曰、萍浮南北池也。一本、旅客如萍流也。

既能甜似蜜、還囊就王舟

家語曰、楚昭王渡江。有物大如斗、圓而赤。觸王舟。

問孔子。々々曰、萍實也。霸者獲之。其大如斗、赤如日。

割而食之、甜如蜜也。

〔書入〕①欄上に「葑(達潰反、木茂也)」。②欄上に「冬中立春、

來心也」。③欄上に「ワタリ一寸ト云也。一寸ノ間浮也」。④欄

上に「王、雄風。小人、雌風」。

〔校異〕1葑對(天) 2註ノ注(天) 3ナシ一曰(天) 4華

一花(天) 5ナシ一云(天) 6湯火瘡陽火瘡(底)前、渴

火瘡(天)。意により改む。7風癩風口疔軟(底、風癩(天)、

風口疔軟)前。意により改む。8生去(天) 9稍梢(天)

10蟻蟻(前)。前により改むべきか。11以次(天) 12醪

敷徑寸一醪。〔專文〕經寸(天) 13若一君(天) 14末一本(前) 15ナシ也(天) 16恆一值(天) 17坭一抵(天) 18吳一已(天) 19瀾一關(天) 20蘋一萍(天) 21池ナシ(天) 22萍實也(前) (天)一萍也 23之ナシ(天) 24ナシ也字下に「文宣王曰、童謠曰、楚王渡江、得萍實。大如斗、赤如日。割而食之、甜如蜜也」(天)

027 菱

格物論<sub>二</sub>菱陵也<sub>一</sub>。生<sub>二</sub>水中<sub>一</sub>、葉浮<sub>レ</sub>水、莖有<sub>レ</sub>刺。或四一角、或三角。或紫苞、或青苞。肉白、生噉<sub>レ</sub>甘脆。悉熟能飽<sub>レ</sub>人。

鉅野韶光媚

鉅野澤名。在<sub>二</sub>涿縣南<sub>一</sub>。言韶光欲<sub>レ</sub>暮、則菱葉繁盛也。廣志曰、巨野菱大<sub>二</sub>於常菱<sub>一</sub>也。韶光二月名。

東平春溜通

幽明錄曰、東平郡呂求、湖中見<sub>二</sub>一女採<sub>レ</sub>菱、身衣<sub>二</sub>荷葉<sub>一</sub>。

因問曰、非<sub>レ</sub>鬼乎。女云、子不<sub>レ</sub>聞。荷衣蕙帶、悠然而來、忽不見。化爲<sub>レ</sub>獺而去也。

影搖<sub>二</sub>江浦月<sub>一</sub>

言月照<sub>二</sub>江浦之上<sub>一</sub>、菱影搖動、與<sub>レ</sub>月影相合也。

香引<sub>二</sub>棹歌風<sub>一</sub>

言采<sub>レ</sub>蓮、采<sub>レ</sub>菱、皆(19ウ)有<sub>レ</sub>棹歌也。郭璞江賦曰、忽

忘<sub>レ</sub>夕而宵歸、詠<sub>二</sub>採菱以叩<sub>レ</sub>舷<sub>一</sub>。是棹歌義也。

日色翻<sub>二</sub>池上<sub>一</sub>

言池中有<sub>レ</sub>菱。故言日色翻<sub>二</sub>池上<sub>一</sub>也。

潭花發<sub>二</sub>鏡中<sub>一</sub>

日照<sub>二</sub>鏡中<sub>一</sub>、則菱花發。言潭中有<sub>レ</sub>菱。故云、花發<sub>二</sub>鏡中<sub>一</sub>也。又

一本、鏡有<sub>二</sub>菱花<sub>一</sub>、潭又似<sub>レ</sub>鏡也。

五湖多<sub>レ</sub>賞樂<sub>一</sub>

五湖大明湖名也。多於<sub>レ</sub>此采<sub>レ</sub>蓮、采<sub>レ</sub>菱。故云多<sub>レ</sub>賞樂也。

一本、吳地記曰、大湖灣曲分爲<sub>二</sub>五湖<sub>一</sub>。梁費昶采菱詩曰、菱

家五湖口也。事林廣記云、青草湖、大湖、丹陽湖、謝陽湖、

彭蠡湖也。混天圖云、東大湖在<sub>二</sub>蘇州<sub>一</sub>、西青草湖在<sub>二</sub>嶽州<sub>一</sub>、南

丹陽湖在<sub>二</sub>宣州<sub>一</sub>、北謝陽湖在<sub>二</sub>楚州<sub>一</sub>、中彭蠡湖在<sub>二</sub>洪州<sub>一</sub>也。

千里望<sub>レ</sub>難<sub>レ</sub>窮

一本、言廣遠也。

〔校異〕 1ナシ也字下に「一名菱生」(天) 2葉浮水一葉浮水

上(天) 3 苞一色(天) 4 蒸一蒸(天) 5 巨野一鉅野(天) 6  
呂一品(天) 7 湖中一湘中(前)(天) 8 ナシ一忽字上に「急」  
(天) 9 也一ナシ(天) 10 采一採(天) 11 舷一船(天) 12 又一  
ナシ(天) 13 采一ナシ(天) 14 費祠、意により「費祀」に改む  
べきか。15 大湖一大明湖(天) 16 一本一ナシ(天)

028 瓜

① 廣志、凡瓜之所<sub>レ</sub>出、以<sub>二</sub>遼東、廬江、燉煌之種<sub>一</sub>爲<sub>レ</sub>美。藥  
性論、蒂味苦、寒、有毒。主<sub>二</sub>浮腫、下<sub>一</sub>水、殺<sub>二</sub>蠱毒<sub>一</sub>、效  
逆、上氣<sub>一</sub>。

欲<sub>レ</sub>識<sub>二</sub>東陵味<sub>一</sub>

東陵侯邵平以<sub>レ</sub>避<sub>二</sub>秦難<sub>一</sub>、種<sub>二</sub>瓜青門外<sub>一</sub>。

青門五色(20才)瓜

阮藉詩曰、五色曜<sub>二</sub>朝日<sub>一</sub>。則瓜有<sub>二</sub>五色<sub>一</sub>也。一本、西

京雜記云、邵平爲<sub>レ</sub>秦封<sub>二</sub>東陵侯<sub>一</sub>也。秦破而爲<sub>二</sub>布衣<sub>一</sub>、種<sub>二</sub>瓜

於<sub>二</sub>長安東門<sub>一</sub>。瓜有<sub>二</sub>五色<sub>一</sub>、味美、因號<sub>レ</sub>焉。

龍蹄遠<sub>二</sub>珠履<sub>一</sub>

瓜有<sub>二</sub>虎瓜<sub>一</sub>、龍蹄之號也。一本、廣志曰、遼東、廬江、燉

煌之瓜并美。號曰<sub>二</sub>女臂瓜<sub>一</sub>、龍蹄瓜<sub>一</sub>。古詩曰、瓜一田<sub>一</sub>  
不<sub>レ</sub>納<sub>二</sub>履也<sub>一</sub>。

女臂動<sub>二</sub>金花<sub>一</sub>

瓜有<sub>二</sub>女臂、羊角、密筍之名<sub>一</sub>。一本、似<sub>二</sub>黃金<sub>一</sub>也。

六一子方呈<sub>レ</sub>瑞

東陵先賢傳曰、李融爲<sub>レ</sub>政、得<sub>二</sub>里人心<sub>一</sub>。致有<sub>二</sub>嘉祥瑞<sub>一</sub>。瓜  
生<sub>二</sub>六一子<sub>一</sub>共<sub>二</sub>一莖<sub>一</sub>也。璽<sub>レ</sub>之、慰<sub>レ</sub>勞、遷<sub>二</sub>廣陵太守<sub>一</sub>  
也。

三一仙實可<sub>レ</sub>嘉

一本、吳志曰、孫鍾於<sub>二</sub>富春種<sub>レ</sub>瓜<sub>一</sub>。有<sub>二</sub>三人乞<sub>レ</sub>瓜<sub>一</sub>。鍾  
與<sub>レ</sub>之。又設<sub>レ</sub>食、三人愧曰、爲<sub>レ</sub>君取<sub>二</sub>好葬地<sub>一</sub>、自記<sub>レ</sub>之。

後得<sub>二</sub>三代天子<sub>一</sub>也。化爲<sub>レ</sub>鶴而去也。

終期奉<sub>二</sub>締綵<sub>一</sub>、謁<sub>レ</sub>帝行<sub>レ</sub>非<sub>レ</sub>除

禮曰、爲<sub>二</sub>天子削<sub>レ</sub>瓜<sub>一</sub>、副<sub>レ</sub>之、巾以<sub>レ</sub>締、爲<sub>二</sub>國君<sub>一</sub>

華<sub>レ</sub>之、巾以<sub>レ</sub>綵。(20ウ)

〔書入〕① 欄上に「毛韻、瓜、古華切。蔓生蔬也。佩觿集曰、  
俗以<sub>二</sub>苳蔣之苳<sub>一</sub>爲<sub>レ</sub>瓜」。

〔校異〕1 ナシ一曰(天) 2 效逆(天) 一 效癩逆 3 侯(前)

候(底)、條(天) 4 避(辟)(天) 5 云(日)(前)(天) 6  
 爲(ナシ)(天) 7 長安(長安城)(天) 8 焉(也)(天) 9 號(一  
 名)(天) 10 并(竝)(前)(天) 11 龍蹄瓜(帝踈瓜)(天) 12 也  
 一(ナシ)(天) 13 密箒(一(ナシ)(天)。意により「蜜箒」に改む  
 べきか。14 名(者)(天) 15 ナシ(也)(天) 16 ナシ(似字上に  
 「花」(天) 17 里(史)(天) 18 璽(金)(前) 19 慰(尉)(天)  
 20 鐘(鐘)(前)(天) 21 春(一(ナシ)(天) 22 紘(天) 一(紘)(天) 23  
 ナシ(瓜字下に「者」(天) 24 華(萃)(天) 25 紘(前)(天)  
 一(紘)(天)

029 茅

郭璞曰、茅、屬菅者、已漚之名。未漚但名爲茅。爾雅云、  
 白花野菅也。陸云、似茅也。爾雅云、蕝、杜茅、祭祀可(一  
 以縮(一)酒、可(一)以供(祖)也。

楚國供(王)曰

左傳、齊桓公伐(楚)。責(苞)茅之貢不(入)、無(以)縮(一)酒。

衡陽入(貢)年

尚書、荊州貢(善)茅。衡陽即荊州。

麇(苞)青野外(一)

詩曰、野有(死)麇(一)、白(茅)苞(之)。麇(牝)鹿也。

鷗(嘯)綺(楹)前(一)

沈約詩曰、茅棟(嘯)愁(鷗)也。

堯帝成(茨)罷(一)

墨子曰、堯爲(君)儉(約)、茅(茨)不(剪)、材(椽)不(削)。

殷湯祭(雨)旋(一)

殷湯七年(大)旱。禱(桑)林、身(爲)犧、藉(以)白(茅)。

方期(大)君(錫)一(一)

尚書曰、王者封(五)色(土)爲(社)。建(諸)侯、則各割(其)方(色)土  
 與(之)、使(立)社。蕝(以)黃(土)、苴(以)白(茅)。々々取(一)其

潔(一)、黃(土)者取(一)王(者)覆(一)四(方)也。錫(賜)也。

不(懼)小(巫)捐(一)

南華真經曰、小(巫)見(大)巫、拔(茅)而(走)也。在(女)曰(巫)也。

(211オ)

〔書入〕①欄上に「蕝(桑)鹿切。白(茅)也」。

〔校異〕1 ナシ(也)(天) 2 花(華)(天) 3 似(茅)(仙)茅(天)

4 祀(花)(天) 5 伐(前) 一(代) 6 善(責)(天) 7 約(緇)(天)



8也―ナシ(天) 9材椽不削―ナシ(天) 10熏―覆(天) 11取  
(前)(天) ―ナシ 12黃土―黃(天) 13大―木(天) 14拔 援  
(天)

030 荷

說文云、其莖茄、其葉蓮、其本密、其根藕、其實蓮的、其心  
曰蕙。未發爲「菡萏」、既發爲「芙蓉」。亦曰「水芙蓉」。鄭  
夾際云、荷花註謂「芙蓉」。然荷花豈濕中所生。必水芙  
蓉是也。

新溜滿澄陂

大曰陂、小曰池。謂黃叔度註云、若萬頃之陂。言荷生於  
陂湖。故言。一本、爾雅云、澤障曰陂也。

圓荷影若規

々圓也。言荷葉圓似規也。

風來香氣遠 日落蓋陰移

言荷葉圓似蓋。人多云「荷蓋」。陰猶影。

魚戲排細葉

細青色。謝玄暉詩曰、魚戲新荷動也。

龜浮見綠池

千歲龜遊蓮葉上。也。一本、梁簡文帝詩曰、神蔡上荷心也。

魏朝難接影

魏文帝遊芙蓉池、作二首。群臣皆作詩也。

楚服且同枝

楚詞曰、荷爲衣、葭爲帶。荷有枝。一本、離騷曰、製芙蓉一

以爲衣也。

〔書人〕①欄上に「蕙與細同。乙東反。蓮的中。又音億。②左  
傍に「カメナリ」。

〔校異〕 1 茄―茹(天) 2 蓮―葭(天) 3 密―蜜(前)(天) 4

其心―中心(天) 5 鄭夾際―鄭交際(天)。意により「鄭夾際」

に改むべきか。 6 蓉―容(前) 7 花―華(天) 8 水芙蓉(天)

―木芙蓉 9 叔―舛(天) 10 云―曰(天) 11 也―ナシ(天) 12 ナ

シ―影字下に「離騷曰、叢之芳似荷蓋也」(天) 13 神蔡―神祭(天)

14 ナシ―也(天) 15 芙荷―芙蓉(天)。意により「芙蓉」に改む

べきか。

嘉樹十首(21ウ)

031 松

格物論 松木大者數圍、高十數丈。礪<sup>①</sup>何多一節、皮極<sup>テ</sup>麤<sup>ク</sup>、厚如龍鱗<sup>②</sup>。盤<sup>③</sup>根<sup>④</sup>膠<sup>⑤</sup>枝、四時青々、不改<sup>⑥</sup>柯<sup>⑦</sup>葉<sup>⑧</sup>。春

二三月、抽<sup>⑨</sup>蕤<sup>⑩</sup>、生<sup>⑪</sup>花<sup>⑫</sup>、結<sup>⑬</sup>子<sup>⑭</sup>。然數品也。三針<sup>⑮</sup>爲<sup>⑯</sup>一栝<sup>⑰</sup>子<sup>⑱</sup>、五針<sup>⑲</sup>爲<sup>⑳</sup>一崧<sup>㉑</sup>子<sup>㉒</sup>松<sup>㉓</sup>。其<sup>㉔</sup>脂<sup>㉕</sup>味<sup>㉖</sup>苦<sup>㉗</sup>。入<sup>㉘</sup>地<sup>㉙</sup>千<sup>㉚</sup>歲<sup>㉛</sup>、爲<sup>㉜</sup>一茯苓<sup>㉝</sup>、又千歲<sup>㉞</sup>爲<sup>㉟</sup>一琥珀<sup>㊱</sup>、大<sup>㊲</sup>松千歲<sup>㊳</sup>、其<sup>㊴</sup>精<sup>㊵</sup>化<sup>㊶</sup>爲<sup>㊷</sup>青<sup>㊸</sup>牛<sup>㊹</sup>、爲<sup>㊺</sup>一龜<sup>㊻</sup>。

鬱々<sup>㊼</sup>高山<sup>㊽</sup>表<sup>㊾</sup>、森々<sup>㊿</sup>幽澗<sup>㋀</sup>。陸

劉公幹詩曰、亭々<sup>㋁</sup>山上<sup>㋂</sup>松<sup>㋃</sup>。左思詩云、鬱々<sup>㋄</sup>澗<sup>㋅</sup>底<sup>㋆</sup>松<sup>㋇</sup>也。陸

邊也。鶴<sup>㋈</sup>栖<sup>㋉</sup>君<sup>㋊</sup>子<sup>㋋</sup>一<sup>㋌</sup>樹<sup>㋍</sup>。

千<sup>㋎</sup>年<sup>㋏</sup>鶴<sup>㋐</sup>栖<sup>㋑</sup>於<sup>㋒</sup>松<sup>㋓</sup>一<sup>㋔</sup>樹<sup>㋕</sup>。君<sup>㋖</sup>子<sup>㋗</sup>一<sup>㋘</sup>樹<sup>㋙</sup>葉<sup>㋚</sup>似<sup>㋛</sup>松<sup>㋜</sup>。曹<sup>㋝</sup>爽<sup>㋞</sup>曾<sup>㋟</sup>種<sup>㋠</sup>之<sup>㋡</sup>於<sup>㋢</sup>中<sup>㋣</sup>庭<sup>㋤</sup>也。一<sup>㋥</sup>本<sup>㋦</sup>、神<sup>㋧</sup>異<sup>㋨</sup>記<sup>㋩</sup>曰、榮<sup>㋪</sup>陽<sup>㋫</sup>郡<sup>㋬</sup>南<sup>㋭</sup>有<sup>㋮</sup>二<sup>㋯</sup>石<sup>㋰</sup>室<sup>㋱</sup>。々<sup>㋲</sup>后<sup>㋳</sup>有<sup>㋴</sup>一<sup>㋵</sup>孤<sup>㋶</sup>松<sup>㋷</sup>。千<sup>㋸</sup>丈<sup>㋹</sup>、雙<sup>㋺</sup>鶴<sup>㋻</sup>栖<sup>㋼</sup>其<sup>㋽</sup>上<sup>㋾</sup>。晨<sup>㋿</sup>必<sup>㊀</sup>接<sup>㊁</sup>翹<sup>㊂</sup>、夕<sup>㊃</sup>輒<sup>㊄</sup>偶<sup>㊅</sup>影<sup>㊆</sup>。

廣<sup>㊇</sup>志<sup>㊈</sup>曰、君<sup>㊉</sup>子<sup>㊊</sup>一<sup>㊋</sup>樹<sup>㊌</sup>似<sup>㊍</sup>一<sup>㊎</sup>椹<sup>㊏</sup>松<sup>㊐</sup>也。

風<sup>㊑</sup>拂<sup>㊒</sup>二<sup>㊓</sup>大<sup>㊔</sup>夫<sup>㊕</sup>枝<sup>㊖</sup>。史<sup>㊗</sup>記<sup>㊘</sup>曰、秦<sup>㊙</sup>始<sup>㊚</sup>皇<sup>㊛</sup>封<sup>㊜</sup>二<sup>㊝</sup>大<sup>㊞</sup>山<sup>㊟</sup>。逢<sup>㊠</sup>風<sup>㊡</sup>雨<sup>㊢</sup>、乃<sup>㊣</sup>隱<sup>㊤</sup>二<sup>㊦</sup>松<sup>㊧</sup>樹<sup>㊨</sup>。後<sup>㊩</sup>遂

封<sup>㊪</sup>二<sup>㊫</sup>五<sup>㊬</sup>松<sup>㊭</sup>、爲<sup>㊮</sup>二<sup>㊯</sup>大<sup>㊰</sup>夫<sup>㊱</sup>樹<sup>㊲</sup>也。

百<sup>㊳</sup>尺<sup>㊴</sup>條<sup>㊵</sup>陰<sup>㊶</sup>合<sup>㊷</sup>。張<sup>㊸</sup>茂<sup>㊹</sup>先<sup>㊺</sup>詩<sup>㊻</sup>曰、松<sup>㊼</sup>生<sup>㊽</sup>隴<sup>㊾</sup>阪<sup>㊿</sup>上<sup>㋀</sup>、百<sup>㋁</sup>尺<sup>㋂</sup>下<sup>㋃</sup>無<sup>㋄</sup>枝<sup>㋅</sup>也。

三<sup>㋆</sup>十<sup>㋇</sup>歲<sup>㋈</sup>蓋<sup>㋉</sup>影<sup>㋊</sup>(22才)披<sup>㋋</sup>。松<sup>㋌</sup>一<sup>㋍</sup>樹<sup>㋎</sup>千<sup>㋏</sup>年<sup>㋐</sup>、枝<sup>㋑</sup>偃<sup>㋒</sup>如<sup>㋓</sup>蓋<sup>㋔</sup>。一<sup>㋕</sup>本<sup>㋖</sup>、玄<sup>㋗</sup>中<sup>㋘</sup>記<sup>㋙</sup>曰、松<sup>㋚</sup>一<sup>㋛</sup>脂<sup>㋜</sup>沒<sup>㋝</sup>地<sup>㋞</sup>、千<sup>㋟</sup>年<sup>㋠</sup>爲<sup>㋡</sup>一<sup>㋢</sup>茯苓<sup>㋣</sup>。抱<sup>㋤</sup>朴<sup>㋦</sup>子<sup>㋧</sup>曰、天<sup>㋨</sup>凌<sup>㋩</sup>偃<sup>㋪</sup>蓋<sup>㋫</sup>之<sup>㋬</sup>松<sup>㋭</sup>也。

論<sup>㋮</sup>語<sup>㋯</sup>、孔<sup>㋰</sup>子<sup>㋱</sup>曰、歲<sup>㋲</sup>寒<sup>㋳</sup>、然<sup>㋴</sup>后<sup>㋵</sup>知<sup>㋶</sup>二<sup>㋷</sup>松<sup>㋸</sup>一<sup>㋹</sup>柏<sup>㋺</sup>之<sup>㋻</sup>後<sup>㋼</sup>凋<sup>㋽</sup>一<sup>㋾</sup>也。

山<sup>㋿</sup>溝<sup>㊀</sup>問<sup>㊁</sup>和<sup>㊂</sup>嶠<sup>㊃</sup>一<sup>㊄</sup>曰、千<sup>㊅</sup>一<sup>㊆</sup>丈<sup>㊇</sup>松<sup>㊈</sup>、雖<sup>㊉</sup>二<sup>㊊</sup>磊<sup>㊋</sup>一<sup>㊌</sup>落<sup>㊍</sup>多<sup>㊎</sup>一<sup>㊏</sup>節<sup>㊐</sup>、致<sup>㊑</sup>一<sup>㊒</sup>於<sup>㊓</sup>大<sup>㊔</sup>厦<sup>㊕</sup>二<sup>㊖</sup>、有<sup>㊗</sup>二<sup>㊘</sup>棟<sup>㊙</sup>一<sup>㊚</sup>梁<sup>㊛</sup>之<sup>㊜</sup>用<sup>㊝</sup>也。一<sup>㊞</sup>本<sup>㊟</sup>、范<sup>㊠</sup>雲<sup>㊡</sup>詠<sup>㊢</sup>松<sup>㊣</sup>詩<sup>㊤</sup>云、凌<sup>㊦</sup>風<sup>㊧</sup>知<sup>㊨</sup>二<sup>㊩</sup>勁<sup>㊪</sup>一<sup>㊫</sup>節<sup>㊬</sup>。孫<sup>㊭</sup>卿<sup>㊮</sup>子<sup>㊯</sup>曰、歲<sup>㊰</sup>寒<sup>㊱</sup>無<sup>㊲</sup>二<sup>㊳</sup>以<sup>㊴</sup>松<sup>㊵</sup>一<sup>㊶</sup>柏<sup>㊷</sup>凋<sup>㊸</sup>一<sup>㊹</sup>也。

〔書入〕①欄上に「礪(又作磊、同礪)」。②右傍に「曲貌也」、欄上に「柯(衆小石貌)」。③欄上に「蕤(與葉同也)」。④欄上に「栝(他念反、木枝也、與栝同)」。⑤左傍に「松名」。⑥欄上に「傳曰、昔在天婦二人、俱隱此石室、年既數百、化成雙鶴矣」。⑦左傍に「連貌也」、欄上に「磊落(イロコ也)」。

〔校異〕1(陽)の當該題下注は「抱朴子曰、松脂偷入地、千

歲爲伏苓。僮佺好食松、能飛行、健走。於皮中有脂、狀如龍形。名曰飛節芝。松變爲青牛狀。龜採食其實、得長生也。又曹爽會種之於庭也。云、榮陽郡南有石室。室後有孤松十丈也。雙鶴栖其上。又云、君子枝似櫻松。威々外明。又云、千年之鶴栖於松樹。君子樹葉似松（云々）。2ナシ―花字下に「細子也。淮南子說、山川千歲、松下有伏苓、上有兔絲也」(天) 3結―ナシ(天) 4也―ナシ(天) 5五針―三針(天) 6若―若(天) 7千歲―千年(天) 8爲―ナシ(天) 9山―巖(陽) 10睡―垂(天)(陽) 11(陽)は首聯の各句に注を付す。第一句の注は「左思詠史詩曰、鬱々澗底松、離々山上苗。以彼徑寸莖、蔭此百尺條」。第二句の注は「森々孤秀貌。垂邊也」。12云―曰(天) 13底―庭(天) 14ナシ―千字上に「晉宮閣記曰、華林園中有君子樹三株。似松也」(天) 15后―後(天) (陽) 16ナシ―雙字上に「常有」(陽) 17鶴―白鶴(天) 18翹―羽(陽) 19夕輒偶影―并影(陽) 20ナシ―(陽)は影字下に「傳云、昔夫妻俱隱此室、年既數百、化成白鶴。一者爲人所害、餘隻猶存也」。21櫻松―櫻桃(陽) 22ナシ―(陽)は也字下に「案鄭公君子樹、唯言松也。論語、子曰、歲寒然後知松柏之後彫也。言、大寒之歲、衆木皆死、柏小彫。平歲衆木有不死者。故須歲寒而後別也。喻凡人與君子同在濁世、

然後知君子之行不苟容也。而二子者注不斥曰松。一人曰似松、一人曰似櫻桃也。潘嶽閑居賦曰、三桃表櫻胡之別。注曰、含桃今謂之櫻桃也。西京雜記曰、上林苑有胡桃也。皆以形相似謂桃也。彌知君子樹之不似也」。23大山―太山(前)。(前)により改むべきか。24遂―ナシ(陽) 25五―ナシ(天) 26大夫―五大夫(天) 27ナシ―也字下に「引勘史記不曰松」(陽) 28先―光(陽) 29阪―坂(天) 30也―ナシ(天) (陽) 31千歲―千年(前) (天) (陽)。(前)等により改むべきか。32(陽)の當該句下注は「或難曰、世人與松樹不得終始。誰謂松樹千年乎。抱朴子答、千年之松、其枝四如偃蓋。是以知之也。見抱朴子□「單俞」蒙曰、天陵偃蓋之松、大谷倒生之柏也」。33脂―枝(天) 34ナシ―沒字下に「入」(天) 35之―ナシ(天) 36(陽)の當該句下注は「歲寒見上文。孤子曰、桃木蒨於一時、々至而後殺。至於松柏、經隆冬而不彫、蒙霜雪而不變。可謂得其貞之也」。37ナシ―曰(天) 38后―後(天) 39凋―彫(前) 40問―同(陽) 41於―之(天) 42大厦―大家(天) 43云―曰(前) (天) (陽) 44ナシ―之也(陽) 45「孫卿」到「凋也」、(陽)にナシ。46ナシ―凋字下に「知」(天)

①<sup>1</sup> 格物叢話<sup>ニ</sup> 桂<sup>ハ</sup>稜<sup>シ</sup>木也。一名木犀也。叢<sup>ニ</sup>生岩嶺之間<sup>ニ</sup>、故名<sup>ニ</sup>

岩<sup>ニ</sup>桂<sup>一</sup>。花<sup>ニ</sup>數<sup>一</sup>品、或白、或紅、或黃、或紫也。黃者能著<sup>レ</sup>子。

不<sup>レ</sup>如<sup>ニ</sup>紅<sup>一</sup>紫者佳<sup>一</sup>。

未<sup>レ</sup>植<sup>ニ</sup>銀<sup>一</sup>宮裏<sup>ニ</sup>

古詩曰、銀<sup>ニ</sup>宮<sup>一</sup>長<sup>ニ</sup>舊<sup>一</sup>栽<sup>ニ</sup>也。

寧<sup>ニ</sup>移<sup>一</sup>玉<sup>ニ</sup>殿<sup>一</sup>幽<sup>ニ</sup>

金屋<sup>一</sup>、玉殿、皆以貴名也。一本、銀宮、玉殿、皆仙<sup>一</sup>聖所

居。漢有<sup>ニ</sup>桂<sup>一</sup>宮殿<sup>ニ</sup>也。

枝<sup>ニ</sup>生<sup>一</sup>無<sup>レ</sup>限<sup>一</sup>月

江洪詩曰、庭<sup>中</sup>無<sup>レ</sup>限<sup>一</sup>月。庾<sup>ハ</sup>肩吾詩曰、桂<sup>長</sup>欲

侵<sup>レ</sup>輪也。言月中有<sup>ニ</sup>桂<sup>一</sup>樹<sup>ニ</sup>。

花<sup>ハ</sup>滿<sup>ニ</sup>自然<sup>一</sup>秋

言桂<sup>ハ</sup>花<sup>ニ</sup>發<sup>一</sup>於<sup>ニ</sup>秋<sup>一</sup>。一本、桂<sup>ハ</sup>秋<sup>冬</sup>有<sup>レ</sup>花。

俠<sup>ハ</sup>客<sup>ニ</sup>條<sup>一</sup>爲<sup>レ</sup>馬

々名<sup>ニ</sup>桂<sup>一</sup>條<sup>ト</sup>也。言遊<sup>ハ</sup>俠人所<sup>レ</sup>馭。古詩曰、俠<sup>客</sup>控<sup>ニ</sup>絕<sup>一</sup>景<sup>ト</sup>也。

一本、如淳曰、同<sup>ニ</sup>是<sup>一</sup>非<sup>一</sup>曰<sup>レ</sup>俠也。

仙人<sup>ハ</sup>葉<sup>ニ</sup>作<sup>一</sup>レ<sup>レ</sup>舟

楚詞云、沛<sup>吾</sup>兮乘<sup>ニ</sup>桂<sup>一</sup>舟<sup>ト</sup>也。言有<sup>ニ</sup>桂<sup>一</sup>葉<sup>舟</sup>也。黃帝見<sup>レ</sup>乃<sup>レ</sup>爲<sup>レ</sup>舟

也。一本、王子年拾遺錄曰、仙人<sup>ハ</sup>乘<sup>ニ</sup>桂<sup>一</sup>葉<sup>舟</sup>也。

願<sup>ハ</sup>君<sup>ニ</sup>期<sup>一</sup>道<sup>術</sup>、攀<sup>折</sup>可<sup>レ</sup>淹<sup>留</sup>

漢書、淮南王劉安愛<sup>ニ</sup>道<sup>一</sup>術<sup>ト</sup>。感<sup>ニ</sup>八<sup>一</sup>仙<sup>公</sup>、共<sup>ニ</sup>八<sup>一</sup>仙<sup>攀</sup>桂<sup>ト</sup>。

作<sup>ニ</sup>招<sup>一</sup>隱<sup>賦</sup>曰、攀<sup>ニ</sup>桂<sup>一</sup>枝<sup>ト</sup>兮聊<sup>淹</sup>留<sup>也</sup>。

〔書入〕①欄上に「本草經曰、桂冬夏常青不枯。莊子曰、春花秋英」。②右傍に「馬也」。

〔校異〕1〔陽〕の當該題下注は「廣州志、桂出合浦、生女高山之嶺。負霜翠、即鬱然如春。又曰、番禺有人桂樹。呂氏春秋、桂之美者、枯搖之桂。南越志曰、蠹委桂叢而爲窠也」。2也<sup>一</sup>ナシ

シ(天) 3之<sup>一</sup>ナシ(天) 4或紅或黃<sup>一</sup>或黃或紅(天) 5ナシ<sup>一</sup>紫字下に「之」(天) 6也<sup>一</sup>ナシ(天) 7〔陽〕の當該

句下注は「漢桂宮殿言以桂木爲殿。或云、中有桂樹、因以爲名。銀宮、玉殿、皆以貴名之也」。8桂(前)(天) 9江洪<sup>一</sup>洪

江(天)、(陽)は「洪供」に作りて、右傍に「江洪イ」。10日<sup>一</sup>云(陽) 11庭<sup>一</sup>廷(天) 12無<sup>一</sup>華(陽) 13庾肩吾<sup>一</sup>庚扇吾(陽)

14輪<sup>一</sup>論(陽) 15〔陽〕の當該句下注は「會稽郡南有泰山。高八九里。山上多桂。秋則花白之也」。16〔陽〕の當該句下注は「古

詩、俠客控絕景。天寶集、王昭君詞云、琴悲桂條上、留怨柳花

前。桂條馬名也。彼言御者之乘。此言遊俠之乘也。如淳曰、同是非曰俠之也。17一本「ナシ」(天) 18云「曰」(陽) 19沛吾(陽)「吾」(陽) 師(底) (前)、吾沛(天) 20兮「號」(天) (陽) 21「黃帝」到「舟也」——「ナシ」(陽) 22安「女」(前) 23共八仙攀桂「攀桂安」(陽) 24招「ナシ」(陽) 25攀(前) (天) (陽) ——舉「26ナシ」——桂字前に「檀」(陽) 27兮「號」(陽)

033 槐

1 春秋說題曰、槐、木者虛、景之精也。元命包曰、樹槐而聽<sub>3</sub>訴<sub>2</sub>其下<sub>1</sub>者。槐之言歸也、情見歸實也。爾雅注云、葉小<sub>1</sub>而青<sub>2</sub>曰<sub>3</sub>槐、葉大<sub>1</sub>而黑<sub>2</sub>曰<sub>3</sub>檉。葉畫<sub>1</sub>合<sub>2</sub>、夜開<sub>3</sub>、謂<sub>4</sub>之守<sub>5</sub>宮槐也。暮<sub>1</sub>律移<sub>2</sub>寒火<sub>3</sub>

周書、月令曰、冬取<sub>1</sub>槐<sub>2</sub>檀<sub>3</sub>之火<sub>4</sub>。

7 春宮長<sub>1</sub>舊<sub>2</sub>栽<sub>3</sub>

8 爾雅曰、守宮槐(23才)葉畫<sub>1</sub>合<sub>2</sub>、夜開<sub>3</sub>也。

葉生<sub>1</sub>馳<sub>2</sub>道側<sub>3</sub>

馳<sub>1</sub>道御<sub>2</sub>道也。一本、左思吳都賦曰、馳道平如<sub>1</sub>砥、樹以<sub>2</sub>青<sub>3</sub>槐<sub>4</sub>也。

花落<sub>1</sub>鳳庭<sub>2</sub>隈<sub>3</sub>

有<sub>1</sub>鳳闕<sub>2</sub>。故曰<sub>3</sub>鳳庭也。一本、周成王時、鳳遊<sub>1</sub>庭<sub>2</sub>。庾信

槐樹賦曰、開<sub>1</sub>花建始<sub>2</sub>之殿、落<sub>3</sub>實睢陽<sub>4</sub>之園。將<sub>5</sub>離集<sub>6</sub>鳳也

烈<sub>1</sub>士懷<sub>2</sub>忠<sub>3</sub>至<sub>4</sub>

趙道驟<sub>1</sub>諫<sub>2</sub>晉靈公<sub>3</sub>。々患<sub>4</sub>之。使<sub>5</sub>鋤麇<sub>6</sub>往<sub>7</sub>殺<sub>8</sub>之。見<sub>9</sub>遁

朝服<sub>1</sub>假<sub>2</sub>寢<sub>3</sub>。麇<sub>4</sub>曰、不<sub>5</sub>怠<sub>6</sub>三<sub>7</sub>恭<sub>8</sub>敬<sub>9</sub>、民之主也。殺<sub>10</sub>三<sub>11</sub>民<sub>12</sub>之

主<sub>1</sub>、不<sub>2</sub>忠<sub>3</sub>、違<sub>4</sub>君<sub>5</sub>之命<sub>6</sub>、不<sub>7</sub>信<sub>8</sub>。不<sub>9</sub>如<sub>10</sub>死<sub>11</sub>。遂<sub>12</sub>觸<sub>13</sub>槐<sub>14</sub>而<sub>15</sub>死<sub>16</sub>。

一本、左傳曰、晉靈公使<sub>1</sub>鋤麇<sub>2</sub>殺<sub>3</sub>趙盾<sub>4</sub>也。且<sub>5</sub>往<sub>6</sub>見<sub>7</sub>恭<sub>8</sub>、

麇<sub>1</sub>自<sub>2</sub>觸<sub>3</sub>槐<sub>4</sub>而<sub>5</sub>死<sub>6</sub>也。

鴻儒訪<sub>1</sub>道<sub>2</sub>來<sub>3</sub>

槐市、學名也。諸儒講<sub>1</sub>論<sub>2</sub>槐<sub>3</sub>下<sub>4</sub>。一本、三輔黃圖曰、大學

列<sub>1</sub>槐<sub>2</sub>數<sub>3</sub>百<sub>4</sub>行<sub>5</sub>。諸生朔<sub>1</sub>望<sub>2</sub>會<sub>3</sub>此<sub>4</sub>。各將<sub>5</sub>卿<sub>6</sub>郡<sub>7</sub>所<sub>8</sub>出<sub>9</sub>物<sub>10</sub>、賣

之<sub>1</sub>。及<sub>2</sub>經<sub>3</sub>傳<sub>4</sub>論<sub>5</sub>議<sub>6</sub>於<sub>7</sub>槐<sub>8</sub>下<sub>9</sub>。號<sub>10</sub>槐市<sub>11</sub>也。

何<sub>1</sub>當<sub>2</sub>赤<sub>3</sub>墀<sub>4</sub>路<sub>5</sub>

赤<sub>1</sub>墀<sub>2</sub>、丹<sub>3</sub>墀<sub>4</sub>也。謂<sub>5</sub>天<sub>6</sub>子<sub>7</sub>階<sub>8</sub>墀<sub>9</sub>也。一本、魏文帝槐賦曰、

殿<sub>1</sub>中<sub>2</sub>槐<sub>3</sub>盛<sub>4</sub>暑<sub>5</sub>之<sub>6</sub>時<sub>7</sub>、余<sub>8</sub>遊<sub>9</sub>其<sub>10</sub>下<sub>11</sub>也。

疎<sub>1</sub>幹<sub>2</sub>擬<sub>3</sub>三<sub>4</sub>臺<sub>5</sub>

周禮曰、三<sub>1</sub>槐<sub>2</sub>象<sub>3</sub>三<sub>4</sub>公<sub>5</sub>位<sub>6</sub>也。(23ウ)象<sub>1</sub>天<sub>2</sub>有<sub>3</sub>三<sub>4</sub>臺<sub>5</sub>星<sub>6</sub>也

〔書入〕①右傍に「星也」。②左傍に「極也」。

〔校異〕 1 (陽) の當該題下注は「虛星之精也。爾雅曰、守宮槐、晝合而夜舒也。太清方云、十月上巳日取子服之、顔色長生通耳」。

2 虛景―虛星 (天) 3 訴―訟 (天) 4 注―註 (天) 5 ナシ―葉字上に「而」(天) 6 ナシ―火字下に「淮南子曰、老槐生火、久而爲燐、不恠」(陽) 7 春―青 (前) 8 (陽) の當該句下注は「爾雅曰、守宮槐葉晝聳、宵炕。曰、聳合也。炕張(也)。言晝卷合、夜舒布也」。9 也―ナシ (天) 10 「馳道」到「道也」―ナシ (陽)

11 一本ナシ (陽) 12 平―ナシ (陽) 13 樹以―樹以樹以 (陽) 14 也―ナシ (陽) 15 ナシ―也字下に「應劭漢書注曰、天子道也。古之表道、或松槐也」(陽) 16 「有鳳」到「庭也」―ナシ (陽)

17 鳳遊庭―鳳遊於庭 (天)、鳳風遊於庭 (陽) 18 槐樹賦―枯樹賦 (陽)。(陽) により改むべきか。19 之 (前) (天) (陽) 也 20 將―引 (天) 21 也―之 (陽) 22 烈―列 (天) (陽) 23 ナシ―趙字上に「史記曰、鋤倪晉靈公力士」(陽) 24 管―ナシ (陽) 25 タ―ナシ (天) 26 鋤斲―鉏斲 (前)、鋤倪 (陽) 27 往殺―殺往 (陽)

28 見通朝服假寢、(陽) は「遁衣朝服而假寢」。29 寐―寐 (前) 30 斲―倪 (陽) 31 忘―忘 (陽) 32 民―人 (陽) 33 不忠―忠 (天) 34 ナシ―也 (陽) 35 遂―以頭 (陽) 36 「一本」到「死也」、(陽)

にナシ。 37 鋤斲―鉏斲 (前) 38 盾―遁 (天) 39 恭儉―恭侯 (天) 40 講論―論 (陽) 41 ナシ―槐字上に「於」(天) (陽) 42 槐―ナシ (陽) 43 數―如 (陽) 44 各將卿郡所出物―各持郷所物 (天)、各本部所出物 (陽) 45 經―徑 (前) 46 ナシ―論字上に「相」(陽) 47 ナシ―號字上に「故」(陽) 48 ナシ―市字下に「出」(天) 49 (陽) の當該句下注は、先ず一本注の「魏文」到「下也」を記し、次いで「赤墀」到「墀也」を記す。以下、これを踏まえて異同を記す。 50 ナシ―丹字上に「亦」(陽) 51 也―之也 (陽) 52 ナシ―殿字上に「文昌」(陽) 53 也―ナシ (天)、之也 (陽)

034 柳

兼名苑云、青楊、一名蒲柳、一名小楊。唐韻曰、赤莖柳也。崔豹古今註、一名獨(交)。微風大搖、故以名。說文作レ柳也。

楊柳正氣氤、含レ煙摠翠氤。

言柳盛茂、色氤氳、含レ煙翠色美也。

檐前花似雪。

一本、并レ村日檐。

樓際葉如レ雲。

言<sup>1</sup>柳<sup>2</sup>花<sup>3</sup>絮<sup>4</sup>如<sup>5</sup>白<sup>6</sup>雪<sup>7</sup>、條<sup>8</sup>葉<sup>9</sup>青<sup>10</sup>翠<sup>11</sup>似<sup>12</sup>雲<sup>13</sup>。一本、摠<sup>14</sup>佳<sup>15</sup>句<sup>16</sup>也。

夜<sup>1</sup>星<sup>2</sup>浮<sup>3</sup>龍<sup>4</sup>影<sup>5</sup>

二十八<sup>1</sup>宿<sup>2</sup>有<sup>3</sup>柳<sup>4</sup>星<sup>5</sup>、故<sup>6</sup>言<sup>7</sup>夜<sup>8</sup>星<sup>9</sup>也。柳<sup>10</sup>葉<sup>11</sup>似<sup>12</sup>龍<sup>13</sup>之<sup>14</sup>鱗<sup>15</sup>也。故<sup>16</sup>二

曰<sup>1</sup>龍<sup>2</sup>影<sup>3</sup>。一本、南<sup>4</sup>方<sup>5</sup>有<sup>6</sup>柳<sup>7</sup>星<sup>8</sup>。

春<sup>1</sup>池<sup>2</sup>寫<sup>3</sup>鳳<sup>4</sup>文<sup>5</sup>

柳<sup>1</sup>條<sup>2</sup>似<sup>3</sup>鳳<sup>4</sup>羽<sup>5</sup>翼<sup>6</sup>。若<sup>7</sup>映<sup>8</sup>池<sup>9</sup>有<sup>10</sup>鳳<sup>11</sup>文<sup>12</sup>彩<sup>13</sup>也。一<sup>14</sup>本<sup>15</sup>、有<sup>16</sup>柳<sup>17</sup>池<sup>18</sup>。

映<sup>1</sup>柳<sup>2</sup>似<sup>3</sup>鳳<sup>4</sup>文<sup>5</sup>。

短<sup>1</sup>簫<sup>2</sup>何<sup>3</sup>以<sup>4</sup>奏<sup>5</sup>

一<sup>1</sup>本<sup>2</sup>、梁<sup>3</sup>簡<sup>4</sup>文<sup>5</sup>帝<sup>6</sup>折<sup>7</sup>柳<sup>8</sup>詩<sup>9</sup>曰、城<sup>10</sup>高<sup>11</sup>短<sup>12</sup>簫<sup>13</sup>發<sup>14</sup>也。古<sup>15</sup>詩<sup>16</sup>曰、短<sup>17</sup>簫<sup>18</sup>

有<sup>1</sup>楊<sup>2</sup>柳<sup>3</sup>曲<sup>4</sup>也。

攀<sup>1</sup>折<sup>2</sup>爲<sup>3</sup>思<sup>4</sup>君<sup>5</sup>

祖<sup>1</sup>孫<sup>2</sup>登<sup>3</sup>詩<sup>4</sup>曰、欲<sup>5</sup>驗<sup>6</sup>傷<sup>7</sup>攀<sup>8</sup>折<sup>9</sup>、三<sup>10</sup>春<sup>11</sup>橫<sup>12</sup>笛<sup>13</sup>中<sup>14</sup>。一<sup>15</sup>本<sup>16</sup>、樂<sup>17</sup>府<sup>18</sup>

折<sup>1</sup>(24オ)楊<sup>2</sup>柳<sup>3</sup>曲<sup>4</sup>是<sup>5</sup>思<sup>6</sup>行<sup>7</sup>人<sup>8</sup>意<sup>9</sup>也。

〔書入〕①欄上に「村(聚坊也)」。

〔校異〕1(陽)に當該題下注ナシ 2曰一云(前)(天) 3ナ

シ一云(天) 4獨、意により「獨搖」に改むべきか。5ナシ一

名字下に「之」(天) 6也一ナシ(天) 7氣一氤(陽) 8含一合

(前) 9氣一氣(天) (陽) 10翠色美一美翠(陽) 11(陽)の當

該句下注は「神農本草經曰、柳花一名柳絮、似絮也。言花白似

絮、々又似雪之也」。12一本ナシ(天) 13村一材(天) 14檐

簷(天) 15(陽)の當該句下注は「莊子曰、天上雲絮如魚鱗。

言柳葉亦似龍。柳雲皆有如鱗之象。故曰、如雲之也」。16白雪一

白雲(天) 17浮一煥(陽) 18(陽)の當該句下注は「渾天圖曰、

天上有柳也。此星屬南方、朱鳥宿。故言夜星也。柳葉似龍之鱗、

龍影也」。19曰一云(天) 20ナシ一也(天) 21春一青(前) 22ナ

シ一柳字上に「古詩曰、種柳陝池邊」(陽) 23鳳羽翼一鳳翼(陽)

24「一本」到「鳳文」一ナシ(陽) 25一本ナシ(天) (陽) 26

折柳詩一折楊柳詩(陽)。(陽)により改むべきか。27也一ナシ

(陽) 28曰一ナシ(陽) 29楊柳曲一折楊柳曲(陽) 30ナシ一詩

字上に「樓」(陽) 31傷(天) (陽)一楊 32一本本(陽) 33

樂府一古樂府(陽) 34ナシ一折字上に「有」(陽) 35也一ナシ(天)

(陽)

035 桐

爾雅曰、櫟<sup>1</sup>、梧<sup>2</sup>也。榮<sup>3</sup>桐<sup>4</sup>木也。花<sup>5</sup>陽<sup>6</sup>國<sup>7</sup>志<sup>8</sup>曰、益<sup>9</sup>州<sup>10</sup>有<sup>11</sup>梧<sup>12</sup>桐<sup>13</sup>木<sup>14</sup>。

其<sup>1</sup>花<sup>2</sup>彩<sup>3</sup>如<sup>4</sup>絲<sup>5</sup>。人<sup>6</sup>績<sup>7</sup>以<sup>8</sup>爲<sup>9</sup>布<sup>10</sup>。衛<sup>11</sup>詩<sup>12</sup>疏<sup>13</sup>、梓<sup>14</sup>實<sup>15</sup>桐<sup>16</sup>皮<sup>17</sup>曰<sup>18</sup>椅<sup>19</sup>。即

梧<sup>1</sup>桐<sup>2</sup>也。三<sup>3</sup>月<sup>4</sup>花<sup>5</sup>開<sup>6</sup>、紫<sup>7</sup>也。

孤秀嶧陽兮

書曰、嶧陽孤<sup>1</sup>桐。言嶧山出<sup>2</sup>桐、中<sup>3</sup>琴瑟<sup>4</sup>。

亭々出<sup>1</sup>衆林<sup>2</sup>

亭々、獨高貌也。

春花雜<sup>1</sup>鳳影<sup>2</sup>

鳳凰非<sup>1</sup>梧桐<sup>2</sup>不<sup>3</sup>栖。故言雜<sup>4</sup>鳳影<sup>5</sup>。

秋葉弄<sup>1</sup>珪陰<sup>2</sup>

周成王剪<sup>1</sup>桐葉<sup>2</sup>爲<sup>3</sup>珪<sup>4</sup>、以封<sup>5</sup>唐叔<sup>6</sup>也。一<sup>7</sup>本、史記曰、周

成王與<sup>1</sup>唐叔虞<sup>2</sup>戲<sup>3</sup>、剪<sup>4</sup>桐葉<sup>5</sup>爲<sup>6</sup>珪<sup>7</sup>、曰、封<sup>8</sup>叔虞<sup>9</sup>。史佚曰、

天子無<sup>1</sup>戲言<sup>2</sup>。遂封<sup>3</sup>於唐<sup>4</sup>也。

忽被<sup>1</sup>夜風激<sup>2</sup>、遂遭<sup>3</sup>朝露侵<sup>4</sup>

言梧桐早凋。故云然也。一<sup>1</sup>本、此鄭公之興也。庚信梧樹賦

曰、既低<sup>1</sup>垂於霜露<sup>2</sup>、亦撼<sup>3</sup>頓於風煙<sup>4</sup>。

不<sup>1</sup>因<sup>2</sup>將<sup>3</sup>入<sup>4</sup>爨<sup>5</sup>、誰爲<sup>6</sup>作<sup>7</sup>鳴琴<sup>8</sup>

蔡邕聞<sup>1</sup>竈中桐炮聲<sup>2</sup>。因取<sup>3</sup>此桐<sup>4</sup>、爲<sup>5</sup>焦尾琴<sup>6</sup>。一<sup>7</sup>本、後

漢書、蔡邕在<sup>1</sup>吳<sup>2</sup>、見<sup>3</sup>人燒<sup>4</sup>桐<sup>5</sup>。取<sup>6</sup>之<sup>7</sup>作<sup>8</sup>琴<sup>9</sup>。號<sup>10</sup>焦尾琴<sup>11</sup>也。

(24ウ)

〔書入〕①欄上に「撼〔所六反。到也〕」。②左傍に「カマ也」。

〔校異〕1〔陽〕の當該題下注は「月令曰、清明桐始花。寧州

有桐。其花采如絲。續以爲南華。南王往賢良、知梧桐生於東嵬。

2 概—□「ヲ親」(天) 3 木—本(天) 4 花—華(天) 5 續(天)

—續(天) 6 開—ナシ(天) 7 也—ナシ(天) 8 出—ナシ(天) 9

琴瑟(前)(天) —瑟琴(底)、作琴瑟(陽) 10 ナシ—也(陽)

11 獨高貌也—獨高之貌(陽) 12 鳳凰(天) 13 ナシ—鳳字上に

「翰苑曰、桐木花如白蠶」(陽) 14 ナシ—也(陽) 15 秋葉—秋月

(陽) 16 弄珪陰—(陽) は弄字左傍に「桂龍イ」。17 「周成」到

「叔也」、(陽) にナシ。18 唐叔—唐叔虞(天) 19 一本—ナシ(陽)

20 唐叔虞—叔虞(天) (陽) 21 史佚—史(天)、史佚(陽) 22 唐

—虞(天) 23 ナシ—(陽) は也字下に「或本、珪作龍字。牧叔

七發曰、龍門之桐、高百尺而無枝。龍門山多桐而峻峻也。言桐

生峻處、無人取用。懷我、徒然死。唯有秋夜明月、照之而也」。

24 遭—逢(陽) 25 朝露—霜露(陽) 26 (陽) は頸聯の各句に注

を付す。第五句の注は「枚叔七發曰、龍門之桐、其根半死半生、

冬則悲風漂霰、飛雪之所激也」。第六句の注は「張景陽七命曰、

寒山之桐、出自大冥。晞三春之溢露、愬九秋之島颯。輕雪寫其

根、霏霜封其條。庚信枯樹賦曰、既低垂於霜露、亦撼頓於風標



之也」。27 庾信「庾肩假」(天) 28 梧桐賦「梧桐樹賦」(天)。校異 26 所引「陽」により「枯樹賦」に改むべきか。29 楳嶼、意により「楳嶼」に改むべきか。30 (陽) の當該句下注は「龍金集刺 桐曰、朽□「木幹」成燹。抱宮商於竈。裏注曰、後漢蔡邕、字 伯皆。陳留國人也。善音律。吳人有燒桐以爨者。邕從外來聞竈 中有桐炮聲、甚美音。即取爲琴。其尾猶燹。故號燒尾琴也。此 詠鄭公之興也。凡每句皆奇意、不徒然也」。

1 西京雜記云、漢初修「上林苑」、群臣遠「方各獻」名菓。有「

緗核桃、紫文桃、霜桃」也。

獨有「成」蹊處

6 史記曰、桃李不言、下自成蹊。々道也。

紅桃發「井傍」

古詩曰、桃生「露井上」。

含風如「咲臉」裏「露似」啼粧

8 言桃「花向」風則開、如「咲臉」也。裏「露則濕」如「人之啼粧」。

隱「士顏」應「改」

神仙傳曰、高丘公服「桃騰仙」也。一本、列仙傳曰、魯女生餌 1 麻。經「八十餘年」、色如「桃花」。

仙人路漸長

桃源記曰、晉時、武陵人捕「魚」、忽逢「桃花源」、兩岸夾「水」。

々流入「山」、有「數百步」、中有「二人及雞」云。秦時人避「

風」雨、在此也。

還欣「上林苑」、千歲奉「君王」。

漢武帝內傳曰、武帝得「西王母桃」。食之、美。帝收「核」、

欲「種」之上林中。王母曰、此桃三千年始就「實」。(25才)

〔書入〕①右傍に「亂也」。

〔校異〕1 (陽) の當該題下注は「桃者五木之精。故厭伏邪氣 制百鬼。此似木云、酒清桃花而飲之、除百病、好容色也」。2 云

「曰(天) 3 菓「果(天) 4 也」ナシ(天) 5 蹊「溪(前) 6

(陽) の當該句下注は「史記曰、李廣、隴西成紀人。大史公曰、

余睹李將軍悛々如鄙人、口不能道辭。及死之日、天下知與不知、

皆爲盡以哀。諺曰、桃李不言、下自成蹊。此言雖小、可以論大

之也」。7 咲「笑(前) (天) 8 (陽) は韻聯の各句に注を

附し、第三句の注は「駱君蕩子從軍賦曰、花有情而獨笑。言桃

花開風如美人之笑。卓文君臉如芙蓉。桃花與芙蓉色相似。故通稱險也。第四句の注は「花嶠漢書云、梁冀妻孫壽、色美而善爲妖能、作愁眉啼粧。言桃花霑露似美人之泣儀也」。9啼帝(前)10改(陽)は「變」に作りて、左傍に「改」。11桃(ナシ)(天)12列仙傳(陽)13魯女生(魯女絶穀華山(陽))14ナシ(陽)15(陽)の當該句下注は「桃源記曰、晉大康年中、武陵人捕魚、自順溪行、失路遠近。忽逢桃林。夾岸數百步、無雜草木。芳花鮮美、落英繽紛。漁人甚異之、復前行、故窮。其盡水源、便得山。有山小口。即捨船從口入。樵夫裁通人、行數十步許、得土地平曠、屋宇巖然。有良田名池桑竹奇樹。隴階交通、雞犬相聞。其中往來、種作。男女衣著悉如外人。黃髮、并怡然自足。漁人奇問之。答曰、避秦家亂、入此處。與世人絶來往戶。今武陵源是之也」。16岸(天)17(陽)の當該句下注は「二本、漢武帝得西王母桃、食之。欲種之上林苑中。王母曰、此花二千年、始實也。上林天子苑也。漢武內傳曰、西王母以七月七日降帝宮、命侍女素桃、須臾盛王盤七枚。大如鴨卵、形圓色青、以呈王母。々々以四枚與帝、自食三枚。帝食之美。留其桃將種之上林苑中。王母曰、此桃三千年一花發、三千年一結子。非此所生。忽於朱馬窓中見東方朔曰、此小兒已經三度、偷此桃

也。18日(天)云(天)19ナシ(天)之字下に「實」(天)20收(天)21核(天)は「横」に作りて、右傍に「核也」。22上林中(天)上林苑中(天)23實(天)ナシ(天)24ナシ(天)也(天)

037 李

1 西京雜記曰、上林苑有(紫)李、青綺李、青房李。杜陵有(金)李。陸士衡、中山之縹李(天)也。

潘嶽閑居暇

潘安仁閑居賦曰、房陵朱仲之李。

王戎戲(天)陌晨

王戎、年七(歲)、與諸兒(戲)於陌(上)。見(道)傍(有)李樹、生(子)枝折(翻)。諸兒競(往)取。戎曰、樹生(道)傍(多)子、必苦。果如(其)言(也)。一(本)、王戎(少)時、見(道)李(多)子、知(李)苦(不)取(也)。

蝶(來)芳徑(馥)

桃(李)無(言)下(成)蹊(徑)也。一(本)、李(下)路(曰)徑。

鶯(囀)合(枝)新

鶯(蝶)飛(時)、花(葉)正(新)。

葉暗青房晚

言花初開時、下裏處青。故言青房晚。葉既繁則晚。

花房漸落。故言晚也。一本、花下曰房也。

花明玉井春

古詩曰、桃李露井上。李樹生桃傍。言花明井忽春也。一本、神仙傳曰、五原蔡誕云、吾上天。又至崑崙山。

有玉李、明光而堅。以玉水之洗之、乃食之也。

方知有靈幹、特用表真(25ウ)人。

老子母於李樹下生白陽。生而能言。指李樹曰、

爲此我姓也。一本、玄元皇生於李樹下也。

〔書人〕①欄上に「抱朴子曰、五原蔡誕、入山而還、期(25ウ)家到(25ウ)崑崙山(25ウ)。有玉李、形如世間李。光明洞徹而堅。須玉

井水洗之。便斬而可食之。

〔校異〕1〔陽〕の當該題下注は「西京雜記、帝初修上林苑、

群臣遠方各獻名菓樹。有朱李、文李、青條李、青房李、車下李、

合燕李。廣志曰、南居李四月乃熟。2曰ナシ(天)3有(前)

(天)ナシ4李ナシ(前)5陸士衡(天)陸志衡6ナ

シ衡字下に「賦」(天)7縹綺(天)8閑(前)(天)(陽)

間9暇假(陽)10潘安仁潘嶽(陽)11仲中(陽)12ナ

シ李字下に「注曰、王逸荔枝賦曰、房陵縹李。朱仲未詳(陽)

13歳ナシ(陽)14傍旁(陽)15枝折折枝(陽)16日一田

(天)17也之也(陽)18二本到取也(陽)にナシ。

19少(天)一小20也ナシ(天)21徑徑(前)(陽)22(陽)

は二句一聯に注を付し、頸聯の注に「兼名苑曰、合枝一名麗枝。

注曰、李子也。桃李無言、下成蹊徑。蝶飛嚙花葉、正新之也。

23無木(天)24ナシ曰(天)25裏裏(天)、裏(陽)26處

青處々青(陽)27故言青故言青(陽)28晚ナシ(陽)

29晚ナシ(天)、暗(陽)30二本到房也(陽)にナシ。

31ナシ也字下に「兼名苑曰、房陵一名青房李也。五月熟也(陽)

32桃李(前)33井ナシ(天)34忽亦(陽)35日云(陽)

36五原ナシ(天)(陽)37又至至又(陽)38堅鑒(天)(陽)

39洗(陽)は「流」に作りて、左傍に「沈イ」。40ナシ字字

下に「字伯陽」(陽)41白陽伯陽(天)(陽)。(天)等に改む

べきか。42而ナシ(陽)43指損(陽)44爲此我姓也此爲

我姓也(陽)45ナシ也字下に「老子經序曰、老者上世之真人

也」(陽)46玄元皇玄元皇帝(天)、玄元星(陽)47生ナシ

(陽)

① 魏文詔云、眞定郡梨大、如<sub>レ</sub>拳、甘<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub>蜜、脆<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub>菱、可<sub>二</sub>以<sub>一</sub>解

煩釋<sub>二</sub>結<sub>一</sub>。本草、梨曰<sub>二</sub>快<sub>一</sub>菓。說文曰<sub>二</sub>梨<sub>一</sub>菓。從<sub>レ</sub>、<sub>二</sub>木

ノ、利<sub>レ</sub>聲<sub>二</sub>。爾雅、梨山<sub>一</sub>橋。西京雜記、上林苑有<sub>二</sub>紫<sub>一</sub>梨、大<sub>一</sub>谷

梨、縹<sub>一</sub>梨<sub>二</sub>。地理志、河中府有<sub>二</sub>鳳<sub>一</sub>栖梨。宋張敷云、梨是

百菓之宗也。

擅<sub>一</sub> 美玄光側

漢武帝內傳曰、太<sub>一</sub>上之藥有<sub>二</sub>玄<sub>一</sub>光之梨<sub>二</sub>也。

傳 芳<sub>一</sub>潮海中

廣志曰、洛陽北芒山大谷、張公夏<sub>一</sub>梨、海內唯一<sub>一</sub>樹也。一本、

瀚海生<sub>二</sub>美<sub>一</sub>梨也。

鳳文疎<sub>二</sub>蜀郡<sub>一</sub>

蜀地有<sub>二</sub>鳳<sub>一</sub>梨也。一本、蜀郡出<sub>二</sub>鳳<sub>一</sub>文梨也。

花影麗<sub>二</sub>新豐<sub>一</sub>

廣志曰、新豐箭谷梨、關以<sub>一</sub>西皆有<sub>レ</sub>名也。西京新豐出<sub>二</sub>

好<sub>一</sub>梨。

春暮條應<sub>レ</sub>紫

蜀都賦曰、紫梨<sub>一</sub>津潤。言梨條自然<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>紫也。一本、庾肩吾詩

曰、梨寒<sub>一</sub>更紫也。

秋來葉早<sub>レ</sub>紅

言秋<sub>一</sub>則葉早<sub>レ</sub>紅也。一本、庾肩吾<sub>二</sub>6才<sub>一</sub>詩曰、梨<sub>一</sub>紅大谷晚

也。張公之大谷梨也。

若今逢<sub>二</sub>漢主<sub>一</sub>、還冀識<sub>二</sub>張公<sub>一</sub>

漢光武上<sub>一</sub>壇封<sub>二</sub>太山<sub>一</sub>。壇上見<sub>二</sub>醉<sub>一</sub>梨酸棗。主者云、百<sub>一</sub>官

上<sub>一</sub>者、人之所<sub>レ</sub>置也。張公即夏梨也。一本、廣志曰、洛陽

北芒山谷有<sub>二</sub>張公<sub>一</sub>梨。漢武帝重<sub>レ</sub>之也。

〔書入〕①欄上に「漢武帝御宿園有大梨。如三五升瓶、落地則

破。名消梨也」。②右傍に「血氣」。

〔校異〕1〔陽〕の當該題下注は「漢書、淮北榮濟之間十樹梨

與千戶侯等」。2拳<sub>一</sub>奏<sub>二</sub>天<sub>一</sub>。3蜜<sub>一</sub>密<sub>二</sub>前<sub>一</sub>。4ナシ<sub>一</sub>以字上に

「梨<sub>一</sub>底<sub>二</sub>前<sub>一</sub>。天<sub>一</sub>。意により改む。5ナシ<sub>一</sub>云<sub>二</sub>天<sub>一</sub>。6ナ

シ<sub>一</sub>也<sub>二</sub>天<sub>一</sub>。7大谷梨<sub>一</sub>青梨<sub>二</sub>天<sub>一</sub>。8有<sub>一</sub>上<sub>二</sub>天<sub>一</sub>。9云<sub>一</sub>曰<sub>二</sub>天<sub>一</sub>

10菓<sub>一</sub>果<sub>二</sub>天<sub>一</sub>。11也<sub>一</sub>ナシ<sub>二</sub>前<sub>一</sub>。12漢武帝內傳<sub>一</sub>漢武內傳<sub>二</sub>陽

13太上之藥<sub>一</sub>大上之藥<sub>二</sub>前<sub>一</sub>。天<sub>一</sub>、太山之上藥<sub>二</sub>陽<sub>一</sub>。14之<sub>一</sub>ナ

シ<sub>一</sub>陽<sub>二</sub>15芒<sub>一</sub>一<sub>レ</sub>芒<sub>二</sub>天<sub>一</sub>。16大谷<sub>一</sub>谷<sub>二</sub>陽<sub>一</sub>。17ナシ<sub>一</sub>唯字下に「有

〔陽〕18生<sub>一</sub>出<sub>二</sub>天<sub>一</sub>。〔陽〕19也<sub>一</sub>之也<sub>二</sub>陽<sub>一</sub>。20蜀地<sub>一</sub>蜀北<sub>二</sub>前

21蜀郡<sub>一</sub>象郡<sub>二</sub>陽<sub>一</sub>。22也<sub>一</sub>ナシ<sub>二</sub>陽<sub>一</sub>。23ナシ<sub>一</sub>梨字下に「西京

新豐出好梨也」(陽) 24 花華(天) 25 ナシ―新字上に「西京  
 (陽) 26 關開(陽) 27 ナシ―也字下に「二本」(天) 28 「西京  
 到」好梨、(陽) にナシ。29 西京―西京雜記(天) 30 也―色(陽)  
 31 一本―ナシ(陽) 32 ナシ―秋字下に「來」(陽) 33 葉―梨葉(陽)  
 34 「張公」到「梨也」―ナシ(天) 35 酸―□「西爰」(陽)  
 36 主―至(前) 37 者人之―ナシ(陽) 38 二本―到「公梨、(陽)  
 にナシ。39 有―ナシ(天) 40 漢武帝重之也―漢武帝重之(天)、  
 漢帝重也(陽)

039 梅

詩義疏曰、梅杏類也。其樹葉如レ杏而黒甘。西京雜記、漢修上  
 林苑、群臣各獻名菓(二)。(一)有候梅、紫花、同心梅、  
 紫蒂梅、麗枝梅。花譜、蠟梅本非梅類。以三其與レ梅  
 同時香、又相近、色酷似蜜脾、故名蠟梅。最先開  
 也。深黃如紫煙檀、花密香濃、名檀香梅。此品  
 最佳。私云、蠟梅、世間以レ此而爲梅、故此存也。可レ散  
 レ疑者也。  
 院―樹斂寒光、梅花獨早芳

言梅花臘月中雪開。故言斂寒早芳也。

雪含朝暝色、風引去來香

言雖雪同レ梅、朝暝之色、而香隨去來之風(26ウ)

也。楊雄梅花詩曰、影隨朝日、遠香遠便風來。

舞袖廻春徑

樂府有梅花落曲。故云舞袖也。

歌塵起畫梁

楚詞曰、有梅梁。韓娥一唱、餘聲繞梁、三日不絕、

動梁塵。又見冲虛真經。又仙人絶動梁塵也。

若能長止渴

魏武帝行役汲郡、失道。軍士皆渴。帝詐曰、前有梅樹

多レ子、酸可レ止渴。士卒聞之、口水皆出。又仙人飲

瓊漿。

何暇泛瓊漿

一本、離騷、花酌既陳、有瓊漿。言熟梅和漿、可

止渴。

〔書入〕①欄上に「酷(酒厚淳也。熟味也)」。〔校異〕1(陽)の當該題下注は「武帝上林苑、群臣各獻名菓。有傑梅

紫花紫<sup>シキ</sup> 麗支梅也。葉。2 候梅—紅梅(天)。意により「候梅」に改むべきか。3 ナシ—朱梅(前)(天) 4 紫花—紫梅(天) 5 ナシ—也(天) 6 色—ナシ(天) 7 蜜—密(前) 8 也—色(天) 9 紫煙檀—紫檀(天)。(天)により改むべきか。10 密—蜜(天) 11 名—各(天) 12 「私云」到「者也」—ナシ(天) 13 雪—雪裏(天) (陽) 14 (陽)の當該句下注は「言雪在樹木之枝、朝隈含梅花之色。太宗文皇帝賦得花庭霧詩曰、色含輕重霧、香引去來風也。15—ナシ(天) 16 也—ナシ(天) 17 「楊雄」到「風來、(天)にナシ。18 楊雄、意により「楊炯」に改むべきか。19 違意により「遠」に改むべきか。20 遠、意により「遂」に改むべきか。21 便—使(前) 22 ナシ—也字下に「邊讓花賦曰、妙舞麗於陽阿。又曰、振花袂以逶迤之也」(陽) 23 (陽)の當該句下注は「楚辭曰、有梅梁。仲虛真經曰、韓娥唱歌、餘響繞梁、塵起。列子曰、昔韓娥之齊、匱糧、過雍門、鬻歌假食。既去、餘音繞梁、三日不絕。梁上塵隨飛也」。24 沖—仲(前) 25 ナシ—云(天) 26 又—ナシ(天) 27 ナシ—魏字上に「世説曰」(陽) 28 役—投(陽) 29 道—三(陽) 30 軍士—軍(陽) 31 詐—謬(陽) 32 ナシ—酸字上に「甚」(陽) 33 之—ナシ(陽) 34 口水皆出—口皆水出(陽) 35 「又仙」到「瓊漿」—ナシ(陽) 36 暇—假(天) (陽) 37 一本

—ナシ(天) 38 ナシ—騷字下に「云」(天)、「日」(陽) 39 花—華(陽) 40 「言熟」到「止渴」、(陽)は「以梅泛瓊漿、未詳也」。41 熟—熱(天)

040 橘

1 孔安國云、小曰橘、大曰柚。異物志、橘白花、赤實、皮馨香、有<sup>レ</sup>味。春秋運斗樞、璇<sup>1</sup>樞星散爲<sup>レ</sup>橘也。

萬里聲根植<sup>6</sup>

橘<sup>6</sup> 柚生<sup>2</sup>江南、因<sup>レ</sup>君爲<sup>レ</sup>羽翼。言其在<sup>レ</sup>遠。故言萬里也。

一—本、曹植橘賦曰、施<sup>1</sup>播萬里而遙植也。

千株布葉繁<sup>3</sup>

史記曰、江陵千株橘、其人與<sup>2</sup>千戶侯<sup>3</sup>等是也。又李衡於<sup>4</sup>江(27才)陵<sup>1</sup>種<sup>2</sup>千株橘<sup>3</sup>。臨<sup>レ</sup>終謂<sup>レ</sup>其子<sup>4</sup>曰、吾令<sup>5</sup>千戶奴<sup>6</sup>交<sup>レ</sup>種<sup>7</sup>橘<sup>8</sup>、成<sup>9</sup>年別收<sup>10</sup>絹<sup>11</sup>一疋<sup>12</sup>。號<sup>13</sup>之<sup>14</sup>千頭木奴<sup>15</sup>也。

既榮—潘子賦<sup>1</sup>

潘安仁有<sup>2</sup>橘賦<sup>3</sup>也。一—本、潘安仁閑居賦曰、芳<sup>4</sup>枳樹<sup>5</sup>籬<sup>6</sup>。周禮<sup>7</sup>

曰、橘踰<sup>8</sup>淮而北<sup>9</sup>、曰<sup>10</sup>枳<sup>11</sup>。

方顯—陸生言<sup>1</sup>

後漢書、陸續年七歲、於九江見袁術。々々出橘。陸續懷  
三枚去、別拜、橘墮地。術曰、陸即懷橘、績曰、歸遺於  
母也。

玉蘂含霜動、金衣逐吹翻

橘花白、子赤。故云玉蘂金衣。蘂花也。一本、李元士歎

曰、梁上青麗、盧橘是生。(×)金衣素袖(×)也。

願隨湘水曲

一本、湘中記曰、照潭無底、橘獨浮也。又曰、瀟湘有橘

洲也。

長茂上林園

司馬長卿上林賦曰、盧橘夏熟、黃甘橙棗也。註曰、黃甘、

橘屬、而味精、棗亦橘類也。張揖曰、小橘也。出武陵。言

從遠地以近於君也。

〔校異〕 1 (陽)の當該題下注は「禹貢曰、揚州厥有橘柚。周

禮、橘踰淮南北爲枳。淮南子、夫橘之江北爲橙也。2云「曰(前

(天) 3異一忌(天) 4ナシ云(天) 5花華(天) 6(陽

の當該句下注は「曹植橘賦曰、橘萬里而遙植。江文通雜體曰、

橘柚在南國、因君爲羽翼。晏子曰、江南爲橘。江北爲枳。々之

爲木、芳而多荊、可以爲籬。言其在遠。故言萬里之也。7播

橘(天) 8株樹(陽) 9與一ナシ(陽) 10等一ナシ(陽) 11

陵一凌(陽) 12令一ナシ(天) 13千一十(陽) 14也一ナシ(天)

15ナシ也字下に「言利博也(天)、二本、李衡於武陵龍陽州

上、種千株之甘橘也(陽) 16潘安仁有橘賦也「潘嶽、字安仁。

西征賦曰、潘子憑軾西征。安仁有又橘賦也(陽) 17「二本」到

「賦曰」一又作閑居賦曰(陽) 18而一ナシ(陽) 19ナシ也(天)

(陽) 20後漢書「后漢書(前)、陳壽國志(陽) 21陸續年七歲

「陸續、字公記。年六歲(陽) 22々々々々(陽) 23陸續一ナシ

(天)、績(陽) 24三枚一數枚(陽) 25ナシ一拜字下に「之(陽

26橘一而(陽) 27ナシ一郎字下に「爲客(陽) 28ナシ一橘字下

に「何也(陽) 29ナシ一歸字上に「欲(陽) 30於一ナシ(陽

31(陽)は頸聯の各句に注を附し、第五句の注は「橘花、玉潤

色白。故曰、玉蘂含霜動也」、第六句の注は「李尤七歎曰、梁土

青麗、盧橘是主。金衣素裏也。32李元士歎一元士歎(天)。校

異31所引(陽)注により「李尤七歎」に改むべきか。33梁上、

同上(陽)注により「梁土」により改むべきか。34盧一廬(天)

35素袖一素裏(天)。(天)により改むべきか。36一本一ナシ(陽

37日一ナシ(天) (陽) 38照潭一昭澤(陽) 39橘一橘洲(陽) 40

「又曰」到「洲也」、(陽)にナシ。41瀟湘—瀟湘(前)(天) 42  
橘洲—橘州(天) 43上—(陽)は「生」に作りて、左傍に「上」。  
44(陽)の當該句下注は「言從遠地以近於君也。司馬相如上林  
賦、盧橘夏熟。又曰黃甘橙棗。橙棗小橘之也」。45司馬長卿—司  
馬卿(天) 46熟—熱(天) 47註—注(天) 48ナシ—橘字下に「  
(天) 49ナシ—言字上に「意(天)」

靈禽十首 (27ウ)

〔校異〕 1禽(前)(天)(陽) 1含

041 鳳

雄曰鳳、雌曰凰。鸞、鳳雛。羣鳥見、則天下太平也。

事林廣記曰、海上十洲、鳳麟洲在西方海中。地方二千五百  
里、四面有弱水。金毛不浮。上多麒麟、鳳凰。因而  
爲名。出反魂香、續紋膠。又名集弦膠。仙人煮  
鳳凰喙、麒麟角、合煎作膠、青色如碧玉。一名  
連金泥。此神物也。上有青花之宮、素丹林府。皆神  
上真之所居治焉。世人不能得到也。

有鳥自丹穴

々々之山有鳥。其形如鶴、五彩而文。名曰鳳凰也。

一本、山海經曰、丹穴山有丹穴、出鳳凰。爾雅云、去中  
州以南、戴日爲丹穴也。

其名曰鳳凰

雄曰鳳、雌曰凰。亦曰鸞。其文多赤曰鳳、多青曰鸞  
也。

九包應靈瑞

九包者、一曰歸命、二曰合度、三曰耳聰、四曰屈申、五曰  
色形、六曰首冠、七曰距鉤、八曰音激揚、九曰腹有戶也。

一本、天老曰、鳳形、麟前、鹿后、蛇(28才)頭、魚尾、  
駕鸞細膺文、龜背、龍膺、燕頤、雞喙、是九包也。

五色成文章

鳳則龍膺、龜背等、五色成文也。一本、五彩暮、則宿丹穴、  
見則天下太平也。

屢向秦樓側

秦穆公女、名弄玉。爲起鳳樓、與簫史一居。每吹簫有  
鳳凰集。又周時、鳳鳴于岐山。

頻過洛水傍



4 黃帝遊<sup>レ</sup>洛水上<sup>二</sup>。鳳凰銜<sup>レ</sup>圖<sup>一</sup>。置<sup>レ</sup>黃帝前<sup>一</sup>。一本、周靈王太  
子晉吹<sup>レ</sup>笙、感<sup>レ</sup>鳳於洛水之陽<sup>一</sup>也。

鳴<sup>レ</sup>岐今已見

4 周語云、周之將興、鸞鷟鳴<sup>レ</sup>于岐山<sup>一</sup>。鸞鷟即鳳凰。

阿閣<sup>レ</sup>行<sup>レ</sup>來翔

堯即<sup>レ</sup>政、鳳凰巢<sup>レ</sup>于阿閣也。一本、韓詩外傳曰、黃帝時、

鳳凰集<sup>レ</sup>於阿閣也。

〔書入〕①欄上に「格物論曰、鳳瑞應鳥。太平之世則見。其爲

形之、雞頭、蛇頸、燕頤、龜背、魚尾、五彩色也。高六尺計。

非梧桐不栖、非竹實不食、非醴泉不飲。凡所栖止、衆禽必隨之

而集。故曰、羽蟲三千有六十、而鳳凰爲之長。然象鳳有五。

多赤者鳳、多青者鸞、多黃者鷟、多紫者鸞、多白者鶴也。

〔校異〕1〔陽〕の當該題下注は「瑞應圖曰、鳳大精也。有六

像之。頭像天、口像日、背像月、翼像風、足像地、尾像偉。又

行鳴曰歸嬭、上鳴曰啼伏、夜鳴曰善哉、昏鳴曰駕也、飛鳴曰即玄。

生出東方君子國。高六尺許。見即天安寧。又韓詩外傳云、父

老說黃帝鳳凰之狀、首戴德、背負仁、頸荷義、膺抱信、足履正、

尾繫武。山海經云、鳳首文曰德、翼文曰順、背文曰義、膺文曰信、

云々。易繫辭曰、鳳之毛自成文字。2也―ナシ(天) 3日―

云(天) 4洲―州(天) 5弱水―瀾水(天) 6金毛―禽毛(天)。

(天)により改むべきか。7麒麟鳳凰―鳳麒麟鳳(天) 8因―目

(天) 9反魂香―返魂香(天) 10ナシ―麒麟上に「及」(天) 11

花―華(天) 12宮―言(天) 13之―ナシ(天) 14能―可(天)

15ナシ―也字下に「格物論、鳳瑞應鳥、太平之世則見。其爲形

色、雞頭、蛇頸、燕頤、龜背、魚尾、五彩色、高六尺許。非梧

桐不栖、非竹實不食、非醴泉不飲。凡所栖止、衆禽必隨之而集。

故曰、羽蟲三百有六十、而鳳凰爲之長。然象鳳有五。多赤者鳳、

多青者鸞、多黃鷟、多紫者鸞、多白者鶴也」(天) 16ナシ―々字

上に「山海經云」(陽) 17其形―狀(天) (陽) 18五―玉(天)

19「一本」到「鳳凰」―ナシ(陽) 20云―曰(陽) 21去―ナシ

(天) 22亦―赤(陽) 23歸命―包命(前)(天) (陽)。(前)は

包字右傍に「歸イ」。(前)等により改むべきか。24合度―含慶

(天)、命度(陽) 25色彩―色彩(前)(天) (陽) 26首冠―冠首

(天)、冠距(陽) 27鈎―釣(天) 28激揚―激(陽) 29腹有戸―

腹有文(前)(天)、腹文腹有文(陽)。(前)は文字右傍に「戸

イ」30也―ナシ(天) (陽) 31「前鹿」到「膺文」、(前)にナ

シ。32后―後(天) (陽) 33蛇頭―蛇頸(天) (陽) 34細膺文―

細文(天)(陽) 35ナシ―也字下に「五采出東方君子之國、翱翔四海之外、過崑崙、濯羽弱水、暮宿丹穴。見則天下太平。山海曰、飲食自歌自舞。見則天下太安寧。漢時鳳凰數出、爲靈端也。是或本也」(陽) 36(陽)の當該句下注は「山海經曰、首文曰德、翼文曰順、背文曰義、膺文曰仁、腹文曰信。廣雅說鳳云、鷄頭鷺頰、蛇頸、龜背、魚尾。雌名曰鳳也」。37(陽)の當該句下注は「列仙傳曰、簫史秦穆公時、善吹簫、能致孔雀白鶴。穆公女字弄玉。好之、乃以女妻之。爲造樓棲之。遂教弄玉作鳳鳴、居數十年、吹簫作鳳聲。鳳凰來飛止其樓。一朝夫婦共逐鳳凰去。爲作鳳女雍宮之也。一本、天老曰、鳳形、麟前、鹿後、蛇頸、魚尾、鷺鷥細文、龜背、燕頰、鷄喙、是九包也。五采暮宿丹穴、見則天下太平也」。38名―ナシ(天) 39山―ナシ(天) 40ナシ―也(天) 41(陽)の當該句下注は「事已具洛詩注」。直下に同筆にて「或云、黃帝洛水上遊時、鳳凰嚙鬣、帝前遊也」と續くが、句下雙行の小字注より僅かに小さく、欄外にまで及ぶ。書入と見做すべきか。42圖―(前)は「口」に作る。圖字の略體か。43陽―傍(天) 44周語云―ナシ(天) 45鷺鷥即鳳凰―鳳一名鷺鷥(陽) 46ナシ―堯字上に「尚書仲候曰」(陽) 47政―位(陽) 48千―ナシ(陽) 49也―「注曰、阿屋榮、宮中之御門曰閣也」(陽)

50二本「到「閣也」、(陽)にナシ。51外―ナシ(前)

042 鶴

々名仙驥、丹哥、丁令威也。浮丘伯相鶴經曰、鶴陽鳥也。而出於陰。因金氣、乘火精、而自養。金數九、火數七。故七十年、小變、十六年、大變、萬六千年變止、千六百年形定。體尚潔、故色白。聲聞天。故(28ウ)頭赤。食於水、故喙長。軒於前、故後指短。栖於陸、故足高而尾凋。翔於雲、故毛豐。而肉疎。大喉。以吐舊、故脩頸以納新、故壽不可量。蓋羽族之宗長、而仙人之驥也。

黃鶴遠聯翩

一本、江摠詩曰、黃鶴飛遠。相鶴經曰、鶴陽鳥也。因金氣、依水精、行必依三洲島止。不集三林木。蓋羽族之宗長、仙人之驥。千六百年形定也。色白不食。謂仙禽也。

從鷺下紫煙  
言 鷺鶴俱是仙人所乘。故言從鷺向煙霧也。一本

郭景純詩曰、鶴乗<sub>レ</sub>煙<sub>二</sub>。江文通詩曰、乘<sub>レ</sub>鸞向<sub>二</sub>煙霧<sub>一</sub>也。

翱翔一萬里

一本、文選疏曰、燕雀附<sub>二</sub>於鴻鶴<sub>一</sub>、則翱翔萬里<sub>二</sub>也。

來去幾千年

神仙傳曰、遼東城門有<sub>二</sub>華表柱<sub>一</sub>。忽有<sub>二</sub>鶴來<sub>レ</sub>集上<sub>一</sub>、少年欲

射<sub>レ</sub>之。鶴即飛去、徘徊<sub>二</sub>空中<sub>一</sub>、語曰、有<sub>レ</sub>鳥々々々<sub>二</sub>丁令威<sub>一</sub>、

去<sub>レ</sub>家千年今來歸。城郭如<sub>レ</sub>故人民非、何不<sub>レ</sub>學<sub>レ</sub>仙塚累累々。

已<sub>ニ</sub>慙<sub>一</sub>青田側<sub>一</sub> (29才)

鶴出<sub>二</sub>青田<sub>一</sub>。縉雲郡有<sub>二</sub>青田縣<sub>一</sub>。一本、永嘉郡記曰、沐溪

野<sub>二</sub>青田縣<sub>一</sub>有<sub>二</sub>雙白鶴<sub>一</sub>。人云<sub>二</sub>神仙之所養也<sub>一</sub>。

來遊<sub>二</sub>紫禁前<sub>一</sub>

衛懿公好<sub>レ</sub>鶴。與<sub>二</sub>大夫祿<sub>一</sub>也。一本、鮑明遠舞鶴賦曰、

啜<sub>二</sub>清響<sub>一</sub>於丹墀<sub>一</sub>。

莫<sub>レ</sub>言空警<sub>レ</sub>露

風俗通曰、千年鶴見<sub>二</sub>露隨<sub>二</sub>于草葉上<sub>一</sub>、則鳴<sub>レ</sub>舞焉<sub>一</sub>。

猶<sub>レ</sub>冀<sub>一</sub>聞<sub>二</sub>天<sub>一</sub>

鶴性警<sub>レ</sub>。聞<sub>二</sub>露<sub>一</sub>滴<sub>二</sub>則鳴<sub>一</sub>。言<sub>二</sub>鶴鳴者非<sub>二</sub>止警<sub>レ</sub>露<sub>一</sub>、亦冀聞

天也。詩曰、鶴鳴<sub>二</sub>九臯<sub>一</sub>、聲聞<sub>二</sub>于天<sub>一</sub>。

〔書入〕①右傍に「氏也」。②右傍に「名也」。③欄上に「九臯

八定所ノ名ニハアラス。サワノ山ヨリ落處。九ノマカリノテ

アル處ヲ九ト云也。又ハ處ノ名ニテモアリ。(＊アリーアラス

(前))

〔校異〕1〔陽〕の當該題下注は「文公相鶴經曰、鶴陽鳥、鳥

知夜半。爲州族之泉長、仙人之驥驪。馬頭役身、燕膺、翼雀毛、

龜背腹、斬前垂後。八百歲。昭王耳」。2々名ナシ(天) 3哥

一奇(天) 4日ナシ(天) 5陽鳥(天) 一隰鳥 6而一故(天)

7出一遊(天)。(天)により改むべきか。8萬六千年、意によ

り「百六十年」に改むべきか。9陸一陰(天) 10足(天) 一是

11疎(天) 一竦<sub>カスル</sub> 12喉一侯(前) 13舊一ナシ(天)。(天)によ

り改むべきか。14以一川(天) 15而一ナシ(天) 16〔陽〕の當該

句下注は「述異志曰、苟懷隨道士王聖、東遊江夏。樓上見西南、

有人駕黃鶴來樓中。因號黃鶴樓。韓詩外傳曰、田饒事魯哀公百而

不見察。謂哀公曰、夫鷄有五德。君猶曰論食者、以其所從來

近也。夫黃鶴一舉千里、止君園池、啄君稻梁。君貴之、其以其

所從來遠也。遂去也。江惣守曰、黃鶴飛々遠也。17黃鶴飛遠、

校異16引所〔陽〕注により「黃鶴飛々遠」に改むべきか。18日

一云(天) 19陽鳥(前) (天) 一陽鳥 20水精一火精(天)。(天)

により改むべきか。21鳥—與(天) 22也—ナシ(天) 23ナシ—  
 (天) は禽字下に「是仙人所乘。故言從鸞向煙霧也」。次句の注  
 の移りである。24(陽)の當該句下注は「江文通別賦曰、駕鶴  
 上漢、鸞鸞騰天。李氏注曰、張僧鑑豫記曰、洪井西有鸞岡。舊  
 記曰、鴻崖先生乘鸞所憩處也。鸞岡西有鶴嶺。王子喬控鶴所經  
 過處也。江氏賦謂、仙人之同乘鸞鶴。故言從鸞下紫煙也。江文  
 通詩曰、乘鶴向煙霧。郭景純詩曰、駕鴻乘紫煙。25「言鸞」到  
 「霧也」—ナシ(天)。26煙—紫煙(天) 27ナシ—煙字上に「言  
 鸞鶴俱」(天)。28一本—ナシ(陽) 29鶴—白鶴(陽) 30即—群  
 (天) 31日—云(天) 32千—三千(陽) 33年—歲(前) 34載(陽) 34來歸(前) 35(陽) —歸來 35ナシ—也(天) 36非  
 —稀(陽) 37塚累々—塚累(天)、家壘(陽) 38出—ナシ(空格  
 (前) 39縣—則縣(陽) 40ナシ—也(天) (陽) 41郡—群(前)  
 42沐(天) (陽) —休 43ナシ—野字下に「有(天) 44青田縣—  
 ナシ(陽) 45之—ナシ(天) (陽) 46ナシ—衛字上に「春秋閔公  
 傳云(陽) 47鶴—鶴賦(天) 48與—ナシ(天) 49也—ナシ(陽)  
 50ナシ—祿字下に「々有乘軒者。注云、鶴衣以錦繡也」(陽) 51  
 ナシ—埤字下に「鳴舞也」(天)、埤字下に「紫禁丹埤同天子之  
 所遊息之處也」(陽) 52「風俗」到「舞焉」—ナシ(陽)。(陽)

は尾聯に對して注を付す。そのため當該句下には注ナシ。53隨  
 —墮(前) (天) 54千—ナシ(天) 55焉—ナシ(天) 56聞—ナシ  
 (陽) 57鶴鳴者(天) —鶴者鳴者(底) (前)、鶴鳴(陽) 58止  
 —正(陽) 59冀—勇(陽)

043 鳥

鶯斯、女鵲、口巧婦、黑鳥、格物論、鳥鴉別名。有レ小而  
 多レ群。腹下白者名レ鴉。鳥反ニ哺其母、名ニ慈鳥。一種大喙  
 白頸、南人謂之鬼雀、鳴則有凶咎。說文、孝鳥。時  
 一呼。凡鳥之屬皆從焉。或云、衆合惟食、是從。古人  
 鳥字象レ形也。  
 日路朝飛急。  
 日中有三足鳥。陽精也。一本、淮南子曰、日中有三  
 足鳥。踐踏也。  
 霜臺夕影寒。  
 霜臺御史臺也。前漢朱博、字子元。爲御史大夫。府中有二  
 一(29ウ) 柏樹、常有野鳥數千集。宿其上。朝去  
 暮來。因號曰鳥臺也。

聯翩依二月樹一

魏文帝詩曰、月明星稀、鳥鵲南飛。繞樹三匝、何枝可<sub>レ</sub>依。

一本、魏求已詠鳥詩曰、月樹幾徘徊。

迢遞繞風竿

鄭玄相風賦曰、栖神鳥於竿首。何<sub>レ</sub>風鳥焉。夏禹始作二

檣、鳥伺風也。一本、船檣上鳥在風竿。魏求已詩曰、風竿

一纏遶。

白首何年改

史記曰、燕太子丹質於秦、欲歸。秦君曰、烏頭白、馬生角、

得還。太子仰天歎。烏頭即白、馬生角也。

清琴此夜彈

琴中有夜鳥啼曲一也。

靈臺如可託、千里向長安

々々靈臺上有相風銅鳥一也。一本、西京雜記云、長安靈臺

上有鳥。如有千里風至、鳥即向風鳴動。

〔校異〕 1鳥一鳥(前) 2(陽)の當該題下注は「瑞應圖曰、

鳥孝鳥、々飛翔、翅爲陽氣升。鳥哺德、一名鷲鳥也」。3鷲斯

鷲斯(前)、鷲斯(天)。(前)により改むべきか。4鳥一鳥(前)

5小一少(天) 6鳥一鳥(天) 7ナシ一母字下に「者」(天) 8

喙一啄(天) 9ナシ一云(天) 10鳥(前) (天) 一鳥 11呼一叫

(天) 12鳥、意により「鳥」に改むべきか。13從一ナシ(天)

14字一學(天) 15日一ナシ(陽) 16也一之也(陽) 17史一使(前)

18前漢一漢書(陽) 19有一柏樹一列柏樹(陽) 20集宿一栖(陽)

21來一集(陽) 22號日一號(天)、名(陽) 23也一ナシ(天) (陽)

24ナシ一(陽)は臺字下に「號爲朝夕鳥。今案、鳥宜鳥之鳥

讀顏氏家訓、詰上說云、晨去暮來、號朝夕鳥。而文士往々誤作

鳥鳶用也。是以知鄭公亦誤也」。25依一倚(前) 26一本一ナシ(陽)

27求一永(天) 28ナシ一也矣(天) 29鳥一鳥(前)、ナシ(陽)

30焉一ナシ(天) 31始作檣鳥伺風也一所作也(陽) 32在一有(天)

33一ナシ(天) 34ナシ一也(天) 35改一(陽)は「變」に作

りて、右傍に「改」(陽)の當該句下注は「燕丹書稱、燕太

子丹質於秦。積有年載。請秦求歸。秦王曰、烏白首、馬生角、

當聽子歸。丹於是、仰天歎、鳥爲之白首、俯地歎、馬爲之生角。

秦王驚乃許歸也」。37日一ナシ(天) 38歎一欲(天) 39有一在(天)

40夜鳥啼曲一鳥夜啼曲(陽) 41「々々」到「鳥也」、(陽)にナ

シ。42有一ナシ(天) 43銅鳥一釣鳥(前) 44云一曰(陽) 45有

鳥一鳥(天)、有相風銅鳥(陽) 46ナシ一也(天) (陽)

格物論、鵲一名飛駁。善爲巢。開戶背大歲。其聲

椋々然、人噪則喜。爾雅、鵲鵲醜、其飛澒。月(30才)令

季冬、鵲始巢。毛詩正義、鵲之爲鳥、畏人而遠人。自相隨、

有匹、郭云、竦翅上下、飛則縮脚于腹下。以冬至之日

作巢。

不分荊山抵

鹽鐵論曰、荊山之下、以玉璞(一)抵鵲。抵投也。

甘、從石印飛

常山張顛讀書、鵲銜石函來。中有印。顛後至大尉也。

一本、后漢張顛爲梁相。天新雨、后有烏鵲飛近地。

令人擲墮地。後爲圓石。搥破之、得一金印。其文

曰、忠孝侯之印

危、巢畏風急

鵲巢知風、有高下也。一本、南華真經曰、鵲知樹高城

之危、而巢高枝之巔。城壞巢折、凌風而起。

遶樹覓星稀

樂府詩曰、月明星稀、烏鵲南飛。繞樹三匝、何枝可依。

嘉 逐行人一至

陸賈曰、乾鵲噪、行人至也。一本、俗見鵲喜云、行人

欲至也。淮南子、乾鵲知來也。

愁 隨織女歸

風俗記曰、七月七日、烏鵲填河、成橋織女渡之。

儻遊二明鏡裏、朝夕奉(30ウ)光輝

鏡中鑄鵲形。亦名鵲鏡。事已見二月詩註也。

〔書入〕①右傍に「星也」。②欄上に「竦敬也」。

〔校異〕1(陽)の當該題下注は「説文、鵲陽鳥。々先物而動、

先事而應。見於東風之象。今夫節不巢、祭氣不通。故言不東風。

小寒之日、鵲始巢。王者改之、好生惡殺。則鵲之巢不俯而窺也。

鵲一名飛駁鳥也。2駁(天)一駁(天) 3ナシ一人字下に「聞其

(天) 4ナシ云(天) 5鳥一鳥(天) 6子一子(天) 7ナシ

一也(天) 8下一傍(陽) 9以一似(陽) 10ナシ也(陽) 11

投一捉(天) 12(天)の當該句下注は、先ず「后漢」到「之印」

を記し、「二本」として、「常山」到「尉也」を記す。以下、こ

れを踏まえて校合に用いた。13「常山」到「尉也」、(陽)にナ

シ。14常山―後漢(天) 15顛―影(天) 16一本―ナシ(陽) 17

后漢張顛—常山張影(天) 18 天—文(陽) 19 后(前)—ナシ(底)、  
 後(天) (陽) 20 後—ナシ(前) (天) (陽) 21 捷破之—ナシ(陽)  
 22 其—ナシ(天) (陽) 23 之—ナシ(天) (陽) 24 ナシ—也(前)  
 (天) (陽) 25 (陽) は印字下に「顛後至大尉也」。26 (陽) の  
 當該句下注は「莊子曰、鶴上高城之堦、巢於高楡之上。城壞楡  
 折、凌風而翔。故君子之居世也、得義行、失時則鶴起。司馬彪  
 曰、堦最高危限之處也。起飛之也」。27 ナシ—風字下に「起」(天)  
 28 也—ナシ(天) 29 華—花(天) 30 樹—ナシ(天) 31 凌—逆(天)  
 32 (陽) の當該句下注は「事已解鳥詩經」。33 匝—(前) は「聲」  
 に作り、圈點を付して、欄上に「匝イ」。34 依—倚(前) 35 (陽)  
 の當該句下注は「西京雜記、陸賈曰、烏鵲嘉而行人至。蜘蛛襲  
 而事喜。凡鵲聲緩者號曰喜也」。36 乾鵲噪—千鵲啄(天) 37 ナシ  
 —曰(天) 38 知來—知客來(天) 39 (陽) の當該句下注は「淮  
 南子曰、乾鵲去來、七月七日、烏鵲填河成橋、織女渡。一本、  
 風俗記曰、七月七日、鵲毛填河爲橋、與織女過也。或主本、乾  
 作干也。鏡中鑄鵲形、亦名鵲鏡也」。40 風俗記—風俗通(天) 41  
 曰—云(天) 42 之—也(天) 43 奉—生(天)、(陽) は「奉」に  
 作りて、左傍に「生」。44 「鏡中」到「鵲鏡」、(陽) にナシ。45  
 鏡—鐘(前) 46 也—ナシ(天) (陽)

045 雁

格物論曰、雁陽鳥也。泊江湖洲渚之間。動計千一百又二、  
 大者居其中、令雁奴圍而警察。飛有先後行列。秋南  
 而春北。鴻又其大者。羽毛純白也。  
 春暉滿朔方  
 朔北方也。  
 歸雁發衡陽  
 雁從衡山之陽而北歸也。  
 望月驚弦影  
 國語云、更羸善射。虛弦落雁。言月弦落雁。言月弦時  
 似弓。故言望月驚弦影也。  
 排雲結陣行  
 言雁群飛有行列、似陣雲。  
 往還倦南北、朝夕苦風霜  
 左思蜀都賦曰、晨覺旦至、候雁銜蘆。木落南翔冰泮北徂。  
 寄語能鳴伴  
 莊子、舍人主人有雁。一能鳴。一不能鳴。乃殺不能  
 能鳴者、烹之。一本、南華真經曰、主人欲殺雁。其子  
 曰、一能鳴、一不能鳴。主人曰、殺不能鳴也。

相隨入<sup>テ</sup>帝鄉<sup>ニ</sup>（31オ）

一本漢書蘇武在<sup>ニ</sup>匈奴<sup>ノ</sup>奴中<sup>ニ</sup>。以<sup>テ</sup>帛書繫<sup>テ</sup>雁足<sup>ニ</sup>。飛還<sup>ル</sup>長安上林中<sup>ニ</sup>也。

〔書入〕①欄上に「淮南子、雁啣蘆南翔以避<sup>テ</sup>。繳箭有<sup>レ</sup>綸曰<sup>レ</sup>綸。

即綸也。謂以絲係矢而射。孟子、繳而射之。（\*繪<sup>ニ</sup>繪<sup>ニ</sup>繳<sup>ニ</sup>（前））

〔校異〕1〔陽〕の當該題下注は「周書曰、白露之日鴻來。禮曰、大夫執雁、取候時而民禮用雁、納綵用雁。々々有以先從行列爲鷺也。雁至衡陽而廻歸也」。2曰<sup>レ</sup>云（天）3也<sup>レ</sup>ナシ（天）

4大<sup>一</sup>丈（天）5其中<sup>一</sup>華（天）6春<sup>一</sup>青（前）7〔陽〕は第一句に第二句を續け、その聯下に注して「爾雅曰、朔方北方也。

呂氏春秋曰、季秋之月候雁來。言北方之地極寒。故雁附南方送寒也。得暖氣乃北歸。凡雁出入皆從衡山之陽也。西京賦曰、上春候來、秋就溫。南翔衡陽、北棲雁門也」。8〔陽〕の當該句下

注は「毛詩天保曰、如月<sup>□</sup>〔糸桓〕。毛萇傳曰、<sup>□</sup>〔糸桓〕弦也。鄭玄箋云、月上弦而就盈。淮南子曰、月初生未滿如弓。國語曰、羸善

射。彎虛弦落雁。見半月之形、驚疑弓弦之影也」。9陣<sup>一</sup>陳（天）

10ナシ<sup>一</sup>言字上に「一本〔陽〕11群<sup>一</sup>ナシ（陽）12雲<sup>一</sup>ナシ（陽）13ナシ<sup>一</sup>陣字下に「又雁群飛似陣行。言雁飛爲<sup>レ</sup>烈似軍陣行烈也。

駱駝雁曰、陣照通宵月、書封幾夜夜霜。此注兼下句朝夕苦風霜之也」〔陽〕14〔陽〕は頸聯の各句に注を付す。第五句の注は「崔

豹古今注曰、雁自河北度河南、瘠瘦能高飛、不畏燿激。江南沃饒、每至還河北、體肥不能高飛、恐爲虞人所得、常銜蘆長數寸、

以防燿激焉。左思蜀都賦曰、晨鳥覺且來、候雁銜蘆。水落南翔、水泮北徂」。第六句の注は「洗休文詠湖中雁詩曰、唼流牽弱藻、

斂翮帶餘霜也」。15且<sup>一</sup>曰<sup>一</sup>（天）16候<sup>一</sup>侯（天）17衛<sup>一</sup>御（天）18氷<sup>一</sup>求（天）19泮<sup>一</sup>伴（天）20〔陽〕の當該句下注は「莊子、

舍主人。々々有二雁。其子曰、一能鳴。一不能鳴。主人不能鳴者殺、享之也」。21舍<sup>一</sup>舍（天）22不<sup>一</sup>下（天）23〔陽〕の當該

句下注は「漢書曰、蘇武、字子卿。漢武帝時、爲郎將使匈奴。乃幽置武大窖中、不與飲食。天雪、武卧齧雪數日、不死。匈奴

以爲神、乃徙於北海無人處、牧羊。後聞武帝崩、南向悲啼嘔血、且夕臨哭。乃昭帝即位、與匈奴和親、求於匈奴。々々言武死已

久。後漢復至、武夜行得見漢使者。具自陳導、教使者語匈奴、言天子射上林中得雁、々足有係帛書、言武其澤中。使者如武言

以語匈奴。々々放是放武令還。兼名苑曰、雁一名陽鳥、一名傳書。亦名送故。注云、雁本生高柳北、而大寒至九月、度南就暖。

故名陽鳥。蘇武在匈奴思漢地。特每就市買生雁、書帛係雁脚、



放之。長安人々得雁、々脚係書言也。24ナシ―曰(天) 25在(天)  
—有 26ナシ―雁字上に「於(天)

046 鳧

格物論 鳧野鴨也。色白、頭上有毛。數百爲群、多泊江  
江海間沙上。食沙石、皆消化。唯食海蛤不消、隨其  
糞出。且其曹蔽天下。聲如風雨。所至田間稻梁必爲  
之空。史遊急就章云、水鳥翁也。

颯沓睢陽溪

颯沓、群飛貌。梁有睢陽水。一本、漢書曰、梁孝王於睢

陽園中作鳧雁之池也。

浮遊漢渚隈

一本、班孟堅西都賦曰、鳧鷖鴻雁。朝發河海、夕宿江漢。

浮沈往來、雲集霧散。

錢飛出井見

取青鳧血、以塗錢、能令錢更歸也。葛仙公取二十一錢、令三

人投井中。錢一々成鳧飛出也。一本、漢時有青鳧錢。

鶴引入琴哀

有飛鳧引、有別鶴引。故云、入琴哀。一本、鮑明

遠樂府曰、春燕萃池、風散梅、聞雁對弄、影催合歌、

擊淚能言人幾時爲爾、寧不作田中雙飛鳧、(31

之)可作雲間比翅鶴。

李陵賦詩罷

李陵與蘇武詩曰、雙鳧俱北飛、一鳧獨南翔。

王喬曳尾來

后漢書、王喬、河東人。爲葉令。每月朔望詣臺。怪其

數至無中、車馬、令大史伺之。有雙鳧從東南來。乃

以羅張之、得一雙之鳥。

何當歸大液

一本、漢武帝造大液池、在建章宮北。斑固西都賦曰、鳧鷖

鴻雁翱翔。朝發河海、夕宿江漢。沈浮往來、雲集

霧散。

翔集動成雷

木玄虛海賦曰、鳧雛離桃、鶴子淋滲也。註曰、大液池其間

布滿充積之。一本、楊雄羽獵賦曰、鳧鷖振鷺、上下砢砢

聲若雷霆。

〔書入〕①欄上に「擊（於煥切）。②欄上に「碎（披萌反。大聲）。③欄上に「磕（苦蓋反）」。

〔校異〕 1（陽）に當該題下注ナシ。 2鴨也―ナシ（天） 3皆―背（天） 4食―餐（天） 5隨―（天）は「隨」に作りて、左傍に「墮」。 6間―澗（天） 7鳥―鳧（前） 8（陽）の當該句下注は「漢書曰、梁孝王於睢陽國中作鳧雁之地也。颯沓、辟飛貌」。

9群―郡（天） 10ナシ―也（天） 11園―國（天） 12之池―ナシ（天） 13一本―ナシ（陽） 14班（前）（天）（陽）―斑 15孟―ナシ（陽） 16西都賦―兩都賦（陽） 17「浮沈」到「霧散」―ナシ（陽） 18（陽）の當該句下注は「漢時有青鳧錢。以鳧血塗之。鳧足鳥不能相離。故以鳧血塗錢、留傍。其錢更歸來也。葛仙公取十錢、令人投井中。錢一々飛出也。是其類也」。 19ナシ―井字上に「於」（天） 20成鳧―ナシ（天） 21（陽）の當該句下注は「有飛鳧引、有別鶴引。故曰、入琴哀也。崔豹古今注曰、別鶴操、商陵牧子所作也。娶妻五年而無子。父兄將爲之改娶。妻聞之、中夜起、倚戶而悲嘯。牧子聞之、愴然而悲。乃歌曰、將乖比翼隔天端。山川悠遠路漫漫。攬衾不寢食忘餐。後人因爲樂章焉。言回有飛鳧別鶴引、竝琴中奏之也。鮑明遠樂府詩曰、春燕差池風散梅、聞惟對影弄琴催。含歌擊淚不能言、人主幾時爲樂。寧

作野中雙飛鳥、不作雲間比翅霜也。 22引（前）は右傍に「イ歌也」。 23春―青（前） 24差池―蹉跎（天） 25對―ナシ（天） 26合―令（天） 27擊―曰「臨午」（天） 28淚―涸（天） 29雙飛（天） 30可作―不忤（天） 31與―贈（陽） 32ナシ―翔字下に「我獨留斯館、子今還故鄉」（陽） 33鳧―（陽）は「鳧」に作りて、左傍に「寫」。 34（陽）の當該句下注は「風俗通曰、後漢孝明帝時、尚書郎河東王喬遷爲葉令。喬有神術。每月朔望、常自縣詣臺朝。帝怪其來數而不見車騎。密令大史伺望之。言其臨至、輒有雙鳧從東南飛來。於是、伺鳧至、舉羅張之、但得一隻鳥焉。乃詔尚方診視、則四年所賜尚書官屬履」。 35后―後（天） 36葉―業（天） 37大史（前）（天）―大夫 38從―役（天） 39東南―南（天） 40乃―ナシ（天） 41羅―網（前） 42大―太（陽）。（陽）により改むべきか。 43「鳧鷖」到「霧散」、（陽）は「鳧鷖鴻雁、沈浮往來」。 44翺翔―翔（天）。意により省くべきか。 45河―ナシ（天） 46江漢―河漢流（天） 47沈浮―浮沈（天） 48ナシ―散字下に「一本、木玄虛海賦曰、鳧鶴離旋、鶴子林溲。注曰、大液池其間布滿充積之也」（陽）。この注は底本では第八句下に見える。 49「木玄」到「積之」、（陽）にナシ。 50木―太（天） 51曰―云（天） 52離―□「倚隹」（天） 53溲―參（前）、溲（天）

54 註一注(前) 55之ナシ(天) 56鶯(陽) 57磁(陽) 磁カイヌ(磁)

58 羣一曰「雨迢」(陽) 59 ナシ一(陽) は曰「雨迢」字下に小字

にて「二本、木玄虛海賦曰、鳧(雜) 離徒成雷。」

047 鶯

1 格物論、鶯名、倉庚、黎黃、鷓鴣、黃栗留。或謂之搏黍、  
或謂之黃一鳥。三四月間鳴、聲音圓滑。

芳樹雜花紅、群鶯亂曉空、吟分折柳吹

6 有折柳曲也。一一本、鶯(32オ)聲似折楊柳曲。

韻嬌一落梅風

11 有落梅曲也。一一本、聲似落梅花曲也。言鶯聲入

風中、似落梅曲也。

寫轉 清一歌裏

詩曰、鶯啼一歌扇後。一一本、勝於絃裏。

含啼 妙管中

19 一一本、言鶯聲勝於歌聲又妙管之中也。

遷喬若可(糞) 幽谷響還通

詩曰、相彼鳥矣、獨求友聲。出自幽谷、遷于喬木。

詩曰、黃鳥于飛、其鳴啾々。

〔校異〕 1 (陽) に當該題下注ナシ 2 名一一名(天) 3 ナシ一

一名(天) 4 黎黃(天) 一梨黃 5 鷓一制(天) 6 ナシ一有字上

に「古詩短簫」(陽) 7 一本言(陽) 8 曲ナシ(天) 9 ナシ

一也(天) 10 韻嬌一嬌韻(陽) 11 「有落」到「二本」一ナシ(陽)

12 聲似落梅花曲也一聲入風中以落梅花曲也(陽) 13 「言鶯」到

「曲也」一ナシ(陽) 14 曰一云(天) 15 後一后(前) 16 ナシ一

也(陽) 17 「二本」到「絃裏、(陽) にナシ。18 絃裏一絃祠(天)

19 (陽) の當該句下注は「天寶文苑集曰、谷裏鶯和弄玉簫」。

於一ナシ(天) 21 之一ナシ(天) 22 (陽) の當該句下注は、初

めに「詩曰」として「黃鳥」到「啾々(皆々)」を記し、「又曰」

として「相彼」到「喬木」を記す。以下、これを踏まえて異同

を記す。23 木一本(前) 24 啾一皆(天) (陽)

048 雉

爾雅曰、雉有數一種。青質五色曰雞雉。長尾走且鳴

曰「鷓雉」。黃色、自呼曰「鳴雉」。似「山雞」而小冠曰「

驚雉<sup>ト</sup>。五色備成章曰<sup>レ</sup>翬<sup>ト</sup>。此左傳所謂五雉也。又曰、白者爲<sup>二</sup>中瑞<sup>一</sup>、黑者爲<sup>二</sup>下瑞<sup>一</sup>也。

白雉振朝聲、飛來表太平<sup>一</sup>

周武王時、越裳國貢白雉。故言表太平也。左太仲蜀都賦曰、白雉朝雝也。一本、瑞應圖曰、白雉見則太平。

楚郊疑鳳出<sup>一</sup>

尹文子曰、楚人(32ウ)擔山雞。即雉也。有<sup>レ</sup>人間<sup>レ</sup>之。

答云鳳凰。此人千金買<sup>レ</sup>之、欲獻楚王。雉夜死、乃明日

獻<sup>レ</sup>死者。王之償<sup>二</sup>金十倍<sup>一</sup>也。

陳寶若雞鳴<sup>一</sup>

秦文公獲<sup>二</sup>石<sup>一</sup>于陳倉北坂<sup>ニ</sup>、祠<sup>ル</sup>之。當<sup>レ</sup>夜、光暉若<sup>二</sup>流星<sup>一</sup>、從<sup>レ</sup>東來。若<sup>二</sup>雉聲<sup>一</sup>。似<sup>レ</sup>雞。作<sup>レ</sup>寶雞祠<sup>一</sup>。故名陳寶<sup>一</sup>也。一本、史記曰、秦穆公獵得<sup>二</sup>雌雉<sup>一</sup>、失<sup>レ</sup>雄者、乃立祠<sup>一</sup>於陳倉北坂<sup>ニ</sup>。其夜來聲若<sup>レ</sup>雉。又似<sup>レ</sup>雞鳴號<sup>レ</sup>陳寶鳴雞<sup>ト</sup>也。

童子懷仁至<sup>一</sup>

后漢魯恭爲<sup>二</sup>中牟令<sup>一</sup>、有善政。河南尹使<sup>二</sup>掾察<sup>レ</sup>之。郊外見<sup>レ</sup>雉。謂<sup>レ</sup>童子曰、何不取<sup>レ</sup>之。童子曰、春雉方雛、不<sup>レ</sup>忍<sup>レ</sup>死殺<sup>レ</sup>也。一本、后漢書、魯恭爲<sup>二</sup>中牟令<sup>一</sup>。雉馴<sup>二</sup>桑下<sup>一</sup>、童子<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>側。明<sup>レ</sup>魯恭之仁<sup>一</sup>、德所<sup>レ</sup>感也。

童子<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>側。明<sup>レ</sup>魯恭之仁<sup>一</sup>、德所<sup>レ</sup>感也。

中郎作<sup>レ</sup>賦成<sup>一</sup>

潘安仁兼<sup>二</sup>虎賁中郎將<sup>一</sup>、作<sup>レ</sup>射雉賦<sup>一</sup>也。

幸君看<sup>レ</sup>飲啄<sup>一</sup>

南華真經、澤雉十步一啄、百步一飲。

耿介獨含<sup>レ</sup>情<sup>一</sup>

潘安仁射雉賦、厲<sup>二</sup>耿介之專心<sup>一</sup>、兮、參<sup>二</sup>雄雌之姁姿<sup>一</sup>。

(93オ)

〔校異〕 1雉、(陽)は「鳩」に作り、當該題下注として異體字「雉」のみを記す。2日—云(天) 3雉—ナシ(天) 4雞雉、

意により「鷄雉」に改むべきか。5也—ナシ(天) 6越裳國—越管國(天)、越管(陽) 7左太仲—ナシ(陽) 8也—ナシ(陽)

9太平—天下太平(陽) 10ナシ—也(天) 11ナシ—(陽) は平字下に「一本、史記曰、秦穆公獵得<sup>レ</sup>雌雉<sup>ト</sup>。失<sup>レ</sup>雄者、乃立祠於陳倉坂。其夜來聲若<sup>レ</sup>雉。又似<sup>レ</sup>鷄鳴號<sup>レ</sup>陳寶鳴鷄<sup>ト</sup>」12云—曰(陽) 13

人—ナシ(陽) 14千—十(天) (陽) 15乃—ナシ(陽) 16之—ナシ(陽) 17償—賞(陽) 18倍—信(陽) 19千—則(陽) 20暉—輝(陽) 21若雉聲—雉若聲(陽) 22ナシ—又(陽) 23雞—鷄鳴(陽) 24寶雞祠—寶鳴鷄(陽) 25ナシ—也(陽) 26ナシ—(陽)

童子<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>側。明<sup>レ</sup>魯恭之仁<sup>一</sup>、德所<sup>レ</sup>感也。

是也字(校異25) 下に「兼名苑曰、陳倉、一名石鷄。注曰、長  
 安陳倉山有石鷄。趙高燒山。々鷄飛去。石鷄不能去、而鳴聲聞  
 四千里。」27「故名」到「雞也」ナシ(陽) 28(陽)の當該句  
 下注は「後漢書曰、魯恭、字仲康。扶風人也。遷中牟令。建初  
 七年、田「虫冀」傷稼。犬牙侵界、不入中牟。河南君袁安聞、又  
 疑其不實、使仁恕緣服親往察之。恭隨行阡陌、俱坐桑下、有雉  
 止其傍。有童兒。何不捕之。兒言、將雛不忍繫。親懼然而起、  
 與恭訣曰、所以來者、欲察君之政迹耳。今田「虫十」西、不犯  
 稼一異也。雉馴桑下二異也。童子懷仁心三異之也」。29后漢「ナ  
 シ(天) 30掾(前)一椽 31何不取之「河不取(天) 32后「後  
 (天) 33德「能(天) 34南華真經「南花真經(前)、莊子(陽)  
 35ナシ「日(天) (陽) 36百步一飲「ナシ(陽) 37ナシ「飲字下  
 に「求畜於籠罩之中乎」(陽) 38射「ナシ(陽) 39厲「勵(陽)  
 40專心「惠心(天)、貞心(陽) 41參「夸(天) 42姿「恣(陽)  
 43ナシ「也(天)、之也(陽)

049 燕  
 月令、玄鳥春到、秋乃歸。詩註、燕、乙鳥。有三種。紫胸

輕小者越燕。色白者數百歲燕。胸斑聲大者胡燕。  
 天「女伺」辰至  
 1。崔豹古今注曰、燕一名天女。又云、玄鳥。伺、分也。一本本、  
 月令云、仲春玄鳥至伺候也。辰、時也。  
 玄衣澹「碧空  
 ①。燕色黑。故云玄衣。一名玄鳥也。  
 蹉跎「沐二時雨  
 1。一本、蹉跎飛貌也。零陵有石一燕、得雨則飛翔也。  
 ②。鵷鷖舞「春風  
 鵷鷖飛「貌也。  
 相「賀雕「楹側  
 淮南子曰、大廈將成、燕雀相賀也。  
 雙「飛翠幕中  
 吳季札宿於戚。聞鐘聲曰、夫子獲罪於是、若燕巢  
 幕也。一本、左傳曰、吳季札聘衛、至戚、見孫文子曰、  
 夫子在、此、猶燕之巢于幕也。  
 莫「驚留「爪去、猶冀識「吳宮  
 々々人留「爪、記其更來。又云、今年巢此、剪其爪。后  
 必至也。一本、吳地記曰、燕留爪於館娃宮。后天火燒宮

也。(337)

〔書入〕①欄上に「差池作蹉跎非也」。

〔校異〕1〔陽〕に當該題下注ナシ 2ナシ―月字上に「禮記」

(天)。3玄―云(前) 4春―青(前) 春分(天) 5秋乃歸―秋

分及(天) 6ナシ―也(天) 7三―二(天) 8「色白者數百歲

燕、胸斑聲大者胡燕」、(天)は「胸斑聲大者胡燕、色白者數百

歲燕也」。9班―班(前) 10〔陽〕の當該句下注は「崔豹古今注

曰、燕名天女。月令云、仲春玄鳥至。注云、玄鳥、燕也。燕以

施生時來、巢堂宇而孚。嫁娶之象也。媒氏之官以爲候也。伺候

也。辰、時也。11注―註(天) 12又云玄鳥―ナシ(天) 13候―

侯(天) 14也―之也(陽) 15蹉跎―差池(陽) 16〔陽〕の當該

句下注は「詩云、燕々于飛、差池其羽。毛萇曰、燕駟也。燕之

於飛必差池其羽。鄭玄曰、差池謂張舒其尾翼也。時雨已具石詩

注。17飛翔―飛(天) 18也―ナシ(天) 19ナシ―貌字下

に「趙飛燕者平陽公主妓人也。能輕舞於臺上。故名爲飛燕之也」

(陽) 20賀―(陽)は「駕」に作りて、左傍に「賀イ」。21雕(陽)

―彫 22〔陽〕の當該句下注は「左氏傳、吳公子季札、自衛如晉、

宿於戚。注云、戚、孫文子之邑也。聞鍾聲焉。曰、異哉。吾聞

之也。辯而不德、必加於戮。注云、辯猶爭也。夫子獲罪於君、

以在此。注云、孫文以戚叛也。懼猶不足。而又何樂。夫子之在

此、猶燕之巢于幕上也。注曰、言至危也。君又在殯。而可以樂

乎。遂去之。翠幕以翠鳥之羽毛、飾幕之也」。23是―此(天) 24

爪―不(陽) 25更來―來(天)、決來(陽) 26后―後(天) 27日―云(陽)

28ナシ―也字下に「楊雄方言曰、吳有館娃宮之

也」(陽)

050 雀

格物論曰、雀小鳥也。常依人<sup>3</sup>也。崔豹古今注、黃雀一名

嘉賓、一名鷦鷯。爾雅云、桃蟲鷦鷯。註桃雀也。俗呼爲

巧婦鳥。小黃雀也。

大厦將成、日

大厦<sup>8</sup>將成、日

嘉賓集 杏梁<sup>1</sup>

崔豹古今注曰、雀名嘉賓。言接<sup>2</sup>宿人家<sup>3</sup>如賓客。古詩

曰、蘆<sup>1</sup>家蘭<sup>1</sup>室杏爲<sup>2</sup>梁。一本、司馬長卿長門賦曰、刻<sup>1</sup>木蘭<sup>1</sup>

以爲<sup>1</sup>椽<sup>1</sup>兮、飾<sup>1</sup>文杏<sup>1</sup>以爲<sup>1</sup>梁。

銜書表周瑞

周武王時、赤雀銜丹書至其戶。

入幕應王祥

晉書曰、王祥、字休徵。孝事後母宋氏。庭內有二株

丹椽。母令守之。飛風雨不替。母病、欲得黃

雀炙。祥深思之。乃有十數黃雀自入幕中。取以供母也。

暮宿空城裏

鮑照空城雀篇曰、朝食野田粟。一本鮑照詩曰、空城

雀噪

朝游漣水傍

論語疏曰、公冶長解鳥語。在獄見群雀噴々曰、向漣水

邊、有三車翻覆黍粟。壯牛角折、相將往啄。驗之、果

如(一)其言也。

願(三四才)齊鴻鵠志

史記曰、陳涉曰、燕雀安知鴻鵠之志也。

希逐鳳凰翔

諸葛恪答費禕曰、爰植梧桐、以待鳳凰。何燕雀自稱

來翔也。一本韓詩外傳曰、夫鳳凰初起也、遙千里。籓

籓之雀、超然自知不逮及遠實一矣。

〔校異〕 1 (陽)に當該題下注ナシ。 2 日ナシ (天) 3 也

ナシ (天) 4 注ナシ (天) 5 一名ナシ (天) 6 鷦鷯 (天)

7 註ナシ (天) 8 (陽)の當該句下注は「見燕詩注」。 9 日云

(天) 10 名一名(陽) 11 嘉喜(底) 12 「言接」到「賓客」、

(陽)にナシ。 13 接宿人家(前) (天) 接人家 14 古詩古

記(天) 15 爲ナシ(陽) 16 榰榰(前) (天) (陽) 17 以ナ

シ(天) 18 ナシ也(前) (天) 之也(陽) 19 (陽)の當該句

下注は「周武王時、有黃雀銜書至戶也。尚書中候曰、季秋之月、

赤雀銜丹書入豐、止于昌戶。是周大瑞之也」。 20 其戶昌戶 (天)

21 ナシ也(前) (天) 22 (陽)の當該句下注は「晉書、王祥事

後母。々病、欲得黃雀炙。祥孫思之、乃有十數雀自入幕中、取

以供母也。晉諸公讚曰、王祥、字休徵。琅琊臨沂人。以居正恪素

稱祥世家曰、祥父融娶高薛氏。主祥氏、卒。繼室以廬江朱氏。

晉陽秋曰、祥後母朱氏數譖祥。々逾恭謹。肅廣矣孝子傳曰、祥

後母忽欲黃雀炙。祥自卒難獲、須臾、有黃雀數十飛入其幕中。

母之所願無不得焉。至誠如此之也。 23 休林 (天) 24 後一后(前)

25 宋氏朱代 (天)。意により「朱氏」に改むべきか。 26 椽椽

祥獸十首

(前) 27 令守之(天) — 令<sup>△</sup>二<sup>底</sup>之守<sup>底</sup> 28 飛<sup>△</sup>ナシ(天) 29 照  
 一 昭(天) (陽) 30 篇(天) (陽) 一 扁<sup>△</sup> 31 日<sup>△</sup>云(天)、日(陽)  
 32 粟<sup>△</sup>栗(陽) 33 二本<sup>△</sup>到<sup>△</sup>「雀噪」、(陽)にナシ。 34 城<sup>△</sup>ナ  
 シ(前) 35 游<sup>△</sup>遊(天) (陽) 36 漣<sup>△</sup>連(天) 37 (陽)の當該句  
 下注は「公治長解鳥語。在獄見群雀相呼而笑。吏曰、治長似解  
 鳥語。問之治長曰、雀々噴々曰、自漣水邊有車翻黍粟、牡牛角  
 折、相將往。驗之、果如其言。出論語疏之也」。 38 向<sup>△</sup>ナシ(天)  
 39 「黍粟」到「果如」(前)(天) — (底)は當該部を削去して  
 闕す。 40 涉<sup>△</sup>陟(天) 41 也<sup>△</sup>哉(陽) 42 (陽)の當該句下注は  
 「費禱<sup>△</sup>使<sup>△</sup>。至群臣皆不起猶食、孫權輟食。樓朝<sup>△</sup>曰、鳳凰來翔、  
 麒麟吐哺、驢騾無知是。伏食如故。諸葛恪答、爰<sup>△</sup>桓<sup>△</sup>梧桐以待鳳  
 凰。何燕雀自稱來翔也。一本、韓詩外傳曰、夫鳳凰之初起也、  
 遙々千里。潘籬<sup>△</sup>之雀、超然自知不及遠。 43 恪<sup>△</sup>格(天) 44 爰  
 一 奚(天) 45 籬<sup>△</sup>簿(前) 籬(天) 46 之(前)(天) — 之<sup>△</sup>之<sup>△</sup> 47  
 超(前)(天) — 起<sup>△</sup>不<sup>△</sup>木(天) 49 遠<sup>△</sup>賓<sup>△</sup>— 遠(天)

051 龍

格物論、龍水<sup>△</sup>物鱗蟲之長也。有<sup>△</sup>鱗曰蛟龍、有<sup>△</sup>翼曰應龍、  
 有<sup>△</sup>角曰虺龍、無<sup>△</sup>角曰螭龍、未<sup>△</sup>升曰蟠龍。然善  
 變化。能幽能明、能小能大。春分而登<sup>△</sup>天、秋分而入<sup>△</sup>川。古  
 有<sup>△</sup>畜<sup>△</sup>龍者、可<sup>△</sup>參<sup>△</sup>而擾<sup>△</sup>也。五靈之物、莫<sup>△</sup>靈<sup>△</sup>於龍。  
 御<sup>△</sup>燭耀<sup>△</sup>幽<sup>△</sup>都<sup>△</sup>  
 北方有<sup>△</sup>幽山<sup>△</sup>。日月照<sup>△</sup>光<sup>△</sup>不<sup>△</sup>及。有<sup>△</sup>龍<sup>△</sup>御<sup>△</sup>燭耀<sup>△</sup>。出入<sup>△</sup>乃<sup>△</sup>爲<sup>△</sup>  
 晦明<sup>△</sup>也。一本、山海經曰、鐘山之神名<sup>△</sup>燭龍<sup>△</sup>。視<sup>△</sup>爲<sup>△</sup>  
 晝、瞑<sup>△</sup>爲<sup>△</sup>夜。幽都北方也。鐘山崑崙山也。  
 含<sup>△</sup>章<sup>△</sup>擬<sup>△</sup>鳳雛<sup>△</sup>  
 徐宜<sup>△</sup>曰、諸葛亮爲<sup>△</sup>臥龍<sup>△</sup>。龐士元鳳雛也。又鳳有<sup>△</sup>五<sup>△</sup>彩<sup>△</sup>。膺<sup>△</sup>  
 似<sup>△</sup>龍章<sup>△</sup>。故龍亦得<sup>△</sup>云<sup>△</sup>擬<sup>△</sup>鳳彩<sup>△</sup>也。一本、世(34ウ)說  
 云、閔鴻見<sup>△</sup>陸雲<sup>△</sup>曰、此兒若非<sup>△</sup>龍駒<sup>△</sup>、當<sup>△</sup>鳳凰<sup>△</sup>。言有<sup>△</sup>龍  
 章鳳姿<sup>△</sup>也。  
 西秦飲<sup>△</sup>渭水<sup>△</sup>  
 辛氏三秦記曰、黑龍從<sup>△</sup>南山<sup>△</sup>出、飲<sup>△</sup>渭水<sup>△</sup>。行<sup>△</sup>處<sup>△</sup>名<sup>△</sup>云龍  
 首山<sup>△</sup>  
 東洛薦<sup>△</sup>河圖<sup>△</sup>  
 舜幸<sup>△</sup>洛、有<sup>△</sup>黃龍<sup>△</sup>從<sup>△</sup>水<sup>△</sup>出、薦<sup>△</sup>圖<sup>△</sup>、鱗甲成<sup>△</sup>字<sup>△</sup>也。舜令<sup>△</sup>左<sup>△</sup>右



寫<sup>レ</sup>之。一本、河圖曰、黃帝游<sup>レ</sup>洛、至<sup>二</sup>翠嬀之泉<sup>一</sup>。魚龍圖、蘭<sup>一</sup>葉朱<sup>一</sup>文、授<sup>レ</sup>之也。

帶<sup>レ</sup>火移<sup>二</sup>星陸<sup>一</sup>

尚書傳曰、火蒼龍<sup>一</sup>中星。言日月行、皆於<sup>二</sup>星次<sup>一</sup>、謂<sup>二</sup>之陸<sup>一</sup>。秋西行、謂<sup>二</sup>之西陸<sup>一</sup>。故曰龍火西頽也。一本、史記曰、黃帝於<sup>二</sup>荊山<sup>一</sup>鑄<sup>レ</sup>鼎、蒼龍之中星也。

騰<sup>レ</sup>雲出<sup>二</sup>鼎湖<sup>一</sup>

黃帝於<sup>二</sup>鼎湖<sup>一</sup>乘<sup>レ</sup>龍去也。一本、史記曰、黃帝於<sup>二</sup>荊山<sup>一</sup>鑄<sup>レ</sup>鼎、有<sup>レ</sup>龍下、迎<sup>レ</sup>上<sup>レ</sup>天。故其地曰<sup>二</sup>鼎湖<sup>一</sup>也。或鑄<sup>レ</sup>鼎、々化成<sup>レ</sup>龍、來迎也。

希逢<sup>二</sup>聖人用<sup>一</sup>

一本、聖人龍行虎步。易曰、飛<sup>レ</sup>龍在<sup>レ</sup>天。曰、利<sup>レ</sup>見<sup>二</sup>大人<sup>一</sup>。

庭闕奉<sup>二</sup>晨趨<sup>一</sup>

易曰、飛<sup>レ</sup>龍在<sup>レ</sup>天。曰、利<sup>レ</sup>見<sup>二</sup>大人<sup>一</sup>。古有<sup>二</sup>參龍氏<sup>一</sup>。參養也。一本、西京有<sup>二</sup>蒼龍闕<sup>一</sup>。每<sup>レ</sup>旦諸臣趨<sup>二</sup>闕<sup>一</sup>下<sup>二</sup>(35才)<sup>一</sup>乃入<sup>レ</sup>朝也。

〔校異〕 1 (陽) の當該題下注は「魚龍河圖曰、龍鱗蟲之長。」

能幽能明、能大能小、能長能短。春分登天、秋分入水、有鱗曰蛟龍、有翼曰應龍、有角曰虬、無角曰螭龍、未昇天曰蟠龍。王者不漉池而漁。德建深泉、則應氣而遊池沼。 2 能幽一ナシ(天)

3 小一少(天) 4 有一ナシ(陽) 5 幽山一幽都(陽) 6 照光一光(陽) 7 照一昭(陽) 8 乃一ナシ(天) (陽) 9 燭龍一龍燭(陽) 10 暝爲夜一暝爲夜(天)、暝爲之夜(陽) 11 也一ナシ(陽) 12 也一之也(陽) 13 徐宜一徐直(陽)。意により「徐元直」に改むべきか。 14 日一云(陽) 15 土一雪(前) 16 龍一ナシ(陽) 17 鳳彩一鳳凰彩(前) 18 一本一到「說云」一「晉書曰、陸雲十五歲」

(陽) 19 閔鴻一關閔鴻(底) (前) (天)、閔鳴(陽)。意により改む。 20 陸雲一陸雲(底) (前)、陸雪(天)、之(陽)。校異 18 所引(陽) により改む。 21 龍駒一駒(天) 22 鳳凰一鳳雛(陽) 23 ナシ一也(陽) 24 ナシ一有字上に「陸雲(陽) 25 辛氏一ナシ

(陽) 26 南山一終南山(陽) 27 處一ナシ(天) 28 ナシ一也(天) 29 ナシ一山字下に「或云、變爲山、名龍山之也」(陽) 30 黃龍一青龍(陽) 31 從一ナシ(陽) 32 「舜令」到「寫之」、(陽) にナシ。 33 之一也(天) 34 魚龍圖一黃龍圖(前)、黃圖(天)、龍圖

(陽) 35 ナシ一圖字下に「云」(天) 36 尚書傳一「尚書曰、日永、星火、以正中夏。注曰」(陽) 37 ナシ一龍字下に「之」(陽) 38

「一本」到「星也」、(陽)にナシ。39ナシ―蒼字上に「火」(天)40「黃帝」到「二本」―ナシ(陽)41地―處(陽)42也―(陽)は「之也」に作りて、左傍に「二本、黃帝於鼎湖乘龍去」。43「或鑄」到「迎也」、(陽)にナシ。44成―ナシ(天)45用―步(天)。(陽)は左傍に「歩イ」。46二本―ナシ(陽)47天―田(陽)48日―ナシ(陽)49大人―於大人(天)50ナシ―人字下に「古有參龍氏。參養也」(陽)51「易」曰「到」養也―ナシ(陽)52入―人(陽)

052 麟

格物論云、麒麟屬身、馬足、牛尾、黃色、圓蹄、一角。々端有肉、高一丈二尺。合仁抱義。行步中規、折旋中矩、音中鐘呂。游必擇土、翔而后處。不履生蟲、不折生草。不群居、不旋行。不犯陷阱、不羅網罟。中國有聖人則至。麟鳳五靈、王者之嘉瑞、而麟爲三之首。牝曰麒麟、牡曰麟。

漢時應祥開  
漢書、上幸雍、獲白麟。置雍時之。一本、漢武帝祠雍

立時。獲白麟、作歌。因立麟時。  
魯郊西狩廻

魯哀公西狩、獲麟也。

寄音中鐘呂

上雍 獲麟。終軍曰、音中鐘呂、步中規矩。一本、詩

曰、麟音中鐘呂。王者至仁則至也。

成角喻英才

家語、學者如牛毛、成者如麟角。

畫象臨仙閣

漢圖二功一臣廿八將象於麒麟閣也。

藏書入(ニ)スレ帝臺(一)

藏天一下祕書於麟閣中也。一本、漢有祕書處也。

莫驚今吐(レ)哺、爲(35ウ)レ觀鳳凰來

孫權饗蜀使費禕。迎(×)救(×)群臣曰、使至、勿起。

禕至、皆不起、孫權不輟食。禕嘲曰、鳳凰來翔、麒麟吐

哺、驢騾無知、伏復食如故。諸葛恪答曰、爰植梧桐、

以待鳳凰。是何燕雀自稱翱翔。何不彈射、使還

故鄉也。出吳志也。

〔書入〕①〔底〕は「沼」に作りて、左傍に「ヲロ也」。

〔校異〕 1〔陽〕の當該題下注は「爾雅曰、麟麇身、牛尾一角。說文云、仁獸也。毛詩疏曰、麟馬足、黃色、圖題、角端有肉。」

音中黃鐘。王者至仁則出。文載禮、毛蟲三百六十而麟爲長。

禮曰、麟鳳龜龍曰四靈（\*上層に「大載禮云、毛蟲三百六十而

麟爲之長」と書入あり）。2合一含〔前〕 3中一ナシ〔天〕 4后

一後〔天〕 5旋行一旅行〔天〕。〔天〕により改むべきか。6陷

〔前〕一沼〔底〕、沼〔天〕、7羅羅〔天〕、8時、〔陽〕は右傍

に「趾イ」。9〔陽〕の當該句下注は「漢武帝祠雍立時。獲白麟、

作歌。因立麟時也。春秋感精府曰、麟一角。明海内共一主也。

王者不刻胎、不剖鄒、則出於郊。漢書曰、上幸雍、獲白麟。置

雍時。10ナシ一曰〔天〕 11之一也〔天〕 12祠雍立時一幸雍祠五

時〔天〕 13麟時一麒麟祠也〔天〕 14廻一回〔天〕 15寄一奇〔陽〕

16雍一ナシ〔陽〕 17ナシ一也〔天〕 18詩一記〔天〕、詩義

〔陽〕 19家語 家語曰〔天〕、語曰〔陽〕 20如麟角一「麟角」

〔字間に空格あり〕〔天〕 21廿八一二十八〔天〕 22閣一中

〔陽〕 23ナシ一也字下に「二本、漢時畫功臣象於麒麟閣」〔陽〕

24麟閣中 麒麟閣中〔天〕、麟閣之中〔陽〕 25麟臺 麒麟臺〔天〕

26處一三〔天〕 27之一也〔陽〕 28迎一無迎〔天〕、送〔陽〕 29

不一ナシ〔陽〕 30復一ナシ〔前〕 31恪 格〔天〕 32爰一ナシ〔天〕

33稱一ナシ〔天〕 34翺翔一來翔〔陽〕 35不彈射一不彈不射〔陽〕

36使〔天〕 〔陽〕一使 37也一ナシ〔陽〕 38也一ナシ〔天〕 〔陽〕

053 象

1 范至能虞衡志、象出二交趾山谷。惟雄者有二兩長牙。頭不

レ可俯、頸不レ可廻。口隱二於頤。去レ地尚遠。運動以レ鼻

爲用、一軀之力皆在レ鼻。將レ行先以レ鼻拄レ地、乃移步足。

鼻端甚深、可下以レ開闔一取レ物。中有二少肉一來レ物。雖二芥

子一亦可レ拾。每以レ鼻取レ食、飲レ水、亦以レ鼻吸而捲レ之。足亦

如レ柱、無レ指而有レ爪。甲形如レ栗也。登二山下之峻坂。又

涉レ水甚捷。出レ象之處名曰象山也。

鬱林開レ郡畢

漢武帝平二南越、開鬱林象郡也。

維揚作レ貢初

楊州貢二齒革。注〔36オ〕曰、齒象牙也。見于尚書也。

萬推方演レ夢

張茂嘗夢大象、問萬推。々曰、君當得太守、以レ音

言<sup>レ</sup>之<sup>ノ</sup>獸音守也。終不爲<sup>レ</sup>善。象以<sup>レ</sup>牙焚身。後果滅也。

一本 異說苑志曰、會稽張茂、字禕康。夢<sup>二</sup>大象<sup>一</sup>、問<sup>二</sup>萬推<sup>一</sup>。

々以下、<sup>レ</sup>爲<sup>二</sup>當<sup>一</sup>太守<sup>二</sup>而不<sup>レ</sup>善<sup>一</sup>。象者獸也。取守之義。

象有<sup>レ</sup>齒、焚<sup>レ</sup>其身。後茂爲<sup>二</sup>吳興太守<sup>一</sup>。王敦使<sup>二</sup>沈充<sup>一</sup>殺<sup>レ</sup>之。

也。

惠子正焚<sup>レ</sup>書

未詳。蔣子萬機論曰、莊周婦死而歌。有<sup>レ</sup>人曰、象見<sup>二</sup>子

皮、無<sup>レ</sup>遠<sup>レ</sup>近<sup>レ</sup>、必泣<sup>レ</sup>之。莊周何忍哉。惠子聞<sup>レ</sup>之、乃請焚<sup>レ</sup>其

書也。

執<sup>レ</sup>燧奔<sup>二</sup>吳城<sup>一</sup>

吳伐<sup>レ</sup>楚、々執<sup>二</sup>燧於象<sup>一</sup>、奔。吳軍敗也。一本、左傳曰、楚

與<sup>レ</sup>吳戰。楚執<sup>レ</sup>燧象、與<sup>レ</sup>走<sup>レ</sup>吳軍也。

量<sup>レ</sup>舟入<sup>二</sup>魏壚<sup>一</sup>

吳嘗致<sup>レ</sup>象於魏。太祖<sup>レ</sup>欲<sup>レ</sup>知<sup>レ</sup>輕<sup>レ</sup>重。公子蒼舒曰、牽<sup>二</sup>上

舟<sup>一</sup>中<sup>一</sup>、以刻<sup>レ</sup>舟、以<sup>レ</sup>土量<sup>レ</sup>其輕<sup>レ</sup>重、即知<sup>二</sup>斤數<sup>一</sup>也。

六<sup>一</sup>牙行致<sup>レ</sup>遠

一本、法華經說、普賢菩薩騎<sup>二</sup>六<sup>一</sup>牙白象。々聆<sup>レ</sup>言則跪<sup>二</sup>、

素<sup>一</sup>牙<sup>二</sup>、<sup>レ</sup>玉潔<sup>一</sup>。載<sup>レ</sup>、<sup>レ</sup>籍所<sup>レ</sup>、<sup>レ</sup>美<sup>一</sup>、服<sup>レ</sup>、<sup>レ</sup>重致<sup>レ</sup>遠也。

千葉奉<sup>二</sup>高<sup>一</sup>（36ウ）居<sup>二</sup>

普賢經曰、乘<sup>二</sup>六<sup>一</sup>牙白象也。一本、妙法蓮華經曰、文殊師利乘<sup>二</sup>師子白象<sup>一</sup>、坐<sup>二</sup>千葉蓮華<sup>一</sup>。

〔校異〕 1〔陽〕の當該題下注は「説文、象馬鼻牙。南越之大獸。三歳一乳。象身四足而形大。南越志曰、象牙一丈餘。脱其角則

深藏之。削伐得。不爾、則窮其主。運干。搖光之精、散爲象。

郭璞象贊曰、内兼十年、月不踰、望頭與尾、動若丘從」。2頭

一頭（天） 3廻一因（天） 4去一志（天） 5挂一柱（天） 6移

一ナシ（天） 7少一小（天） 8肉（前）（天） 一内 9物一ナシ

（天） 10亦可拾（天） 一不亦可捨之 11亦一ナシ（天） 12也

一ナシ（天） 13之一ナシ（天） 14峻坂一峻坂（底）（前）、峻坂

（天）。意により改む。15又一ナシ（天） 16名一ナシ（天） 17也

一ナシ（陽） 18維楊一睢楊（天）、睢陽（左傍に「楊イ」）（陽）

19千一ナシ（天）（陽） 20〔陽〕の當該句下注は「異苑志曰、會

稽張茂、字禕康。夢<sup>二</sup>大象<sup>一</sup>、問<sup>二</sup>萬推<sup>一</sup>。々曰、君當得本（右傍に「大

イ」）郡。以音言之。夫象者獸、取守之義也。而不爲<sup>レ</sup>善。象有<sup>レ</sup>齒、保其

身。茂後爲<sup>二</sup>吳興太守<sup>一</sup>。王敦使<sup>二</sup>沈充<sup>一</sup>殺<sup>レ</sup>茂也」。21音一奇（天） 22終

一然（天） 23ナシ一焚字上に「可」（天） 24後一后（前） 25也一

之也（天） 26異說苑志、意により「異苑」に改むべきか。27々

一ナシ(天) 28王敦使沈充殺茂也(校異20所引陽)——王敦池  
 宛殺茂也(底)、王使耶沈殺茂也(天)、王敦沈宛殺茂也(前)  
 29蔣子(陽)——莊子 30萬機論——方論(陽) 31歌——哥(陽) 32有  
 人曰——ナシ(陽) 33ナシ——象字上に「夫」(陽) 34ナシ——子字上  
 に「夫」(陽) 35ナシ——皮字下に「兮」(陽) 36泣之——位(天)、  
 泣(陽) 37莊周——周(陽) 38也——之也(陽) 39ナシ——吳字上に  
 「左思傳曰」(陽) 40伐(前)——代 41燧——燧志(陽) 42曰——ナ  
 シ(天) 43楚——錢(陽) 44與走吳軍也——與奔吳軍敗也(天)、與  
 奔吳軍敗(陽) 45(陽)の當該句下注は「魏志、鄧哀王蒼舒、  
 武帝小子也。九歲有成人之智。吳孫權獻大象。帝欲知斤兩、問  
 群臣、莫知。舒曰、置象船上、刻水至之處、秤物校之、可知之  
 也」。46「吳書」到「於魏」——ナシ(天) 47(陽)の當該句下注  
 は、「觀普賢經曰、普賢菩薩、身量音聲色像無邊。欲來此國、入  
 自在神通、促身令小。以智慧力、化乘白象。其爲六牙、七支跂  
 地。異物志曰、象、聽言則跪。素牙玉潔、載箱所美。服重致遠也。  
 妙法蓮華經曰、釋迦牟尼佛語普賢菩薩、若人誦此經、我乘六牙  
 白象、詣其所」。48聆——听(天) 49跪(校異47所引陽)——疏  
 50玉潔(校異47所引陽)——王梁 51(陽)の當該句下注は、  
 「神中第曰、淨土之蓮、千葉也。普賢菩薩、乘六牙白象。其象

鼻有花。々上化佛坐。故曰、高居。52乘——ナシ(天) 53文珠師  
 利(前)(天)——文珠師 54ナシ——子字下に「曰」(天) 55華——花  
 (前)

054馬

周禮、凡馬八尺以上爲龍、七尺以上爲駮、六尺以上爲  
 馬。又春秋祭馬祖天駟。夏祭先牧。冬祭馬步。  
 天馬來從東

漢武帝天馬歌曰、天馬從東道。一本、漢武帝伐大宛胡、  
 得千里馬。歌曰、天馬來從東道也。

嘶驚御史聽

後漢書曰、桓典、字公雅。爲御史。性正直、常乘驄馬。  
 人語曰、行人且止、避驄馬御史也。

蒼龍遙逐日

一一本、蒼龍、逐日、共馬名也。

紫燕迴追風

言馬行疾、能追風、追日也。紫燕、追風、馬名也。  
 明月承鞍上

一本、鞍似<sup>ハ</sup>初<sup>ハ</sup>月<sup>ニ</sup>。

浮<sup>ハ</sup>雲<sup>ハ</sup>落<sup>ル</sup>蓋<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>。

浮雲亦馬名也。言鞍上有<sup>レ</sup>月、車中有<sup>レ</sup>蓋。故言<sup>ニ</sup>、<sup>×</sup>浮雲

落<sup>ル</sup>蓋<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>也。一<sup>ニ</sup>本、雲似<sup>ハ</sup>連<sup>ル</sup>蓋<sup>ニ</sup>也。

得<sup>ル</sup>隨<sup>フ</sup>穆<sup>ス</sup>天<sup>子</sup>。

一本、穆天子傳曰、周穆王以<sup>ニ</sup>八<sup>一</sup>駿<sup>一</sup>、馬<sup>ニ</sup>乘<sup>ル</sup>、騏驎<sup>一</sup>、驊騮<sup>一</sup>、

驃<sup>一</sup>驪<sup>一</sup>、綠<sup>一</sup>〔37才〕耳、山<sup>一</sup>子<sup>一</sup>、遊<sup>ル</sup>瑤池<sup>ニ</sup>。見<sup>ル</sup>王母<sup>一</sup>、日<sup>一</sup>行

萬<sup>一</sup>里<sup>一</sup>焉。

何<sup>ノ</sup>暇<sup>ナ</sup>唐<sup>ノ</sup>成<sup>ノ</sup>公<sup>ニ</sup>。

左傳曰、唐成公如有<sup>ニ</sup>驪<sup>一</sup>驪<sup>一</sup>也。

〔書入〕①欄上に「漢文帝自代還。有良馬九疋。一浮雲、二赤

電、三絕群、四逸驃、五紫燕、六綠耳、七驄龍、八紫麟、九絕

塵」。②欄上に「驊騮、騏驎、織離、騏驎、龍媒、腰褭、驪驪、

駃騠、飛黃、駒駮、乘黃、皆駿馬名也。又秦始皇有名馬七疋。

一追風、二白兔、三躡景、四追電、五飛翮、六銅爵、七晨鳧。

〔\*騶駼(前)〕—騶駼 ③欄上に「八駿。周穆王處行天下、駟

八龍之駿馬。一名絕地、二名翻羽、三奔霄、四方超影、五踰輝、

六超光、七騰霧、八挾翼」。

〔校異〕1〔陽〕の當該題下注は「春秋說題云、精爲馬。十二

月而生也」。2ナシ—日(天) 3馬—ナシ(天) 4以上—ナシ(天)、

以下(前) 5又—久云(天) 6ナシ—也(天) 7「漢武」到「東

道」—ナシ(陽) 8一本—ナシ(陽) 9伐代(天) 10大宛胡

—大宛(陽) 11歌—天馬歌(陽) 12ナシ—來字下に「兮」(天)

〔陽〕(天)等により改むべきか。13也—之也(陽) 14〔陽〕

の當該句下注は「後漢書、御史桓典、字公雅。乘驄馬。好執法。

京都朝廷語曰、行々直止、避驄馬御史之也。一本、桓(上層に

「柏イ」典、爲御史。常乘驄馬」。15後—后(前) 16語—謂(天)

17共—ナシ(天)、竝(陽) 18ナシ—也字下に「言馬行疾逐日、

因號曰逐日」(陽) 19〔陽〕の當該句下注は「紫燕、追風、竝馬

名也。疾走追風。因號曰追風也」。20也—ナシ(天) 21追風—ナ

シ(天) 22ナシ—馬字上に「竝」(天) 23也—ナシ(前) 24承—

來(天) 25亦—升(前) 26名—ナシ(天) 27也—ナシ(陽) 28

「一本」到「蓋也」、(陽)にナシ。29—ナシ(天) 30連蓋—

車蓋(前) 31八駿—八駿馬(陽) 32馬乘—赤驥(陽) 33騏驎—

黃渠(陽) 34驃驪—ナシ(陽) 35綠耳(前)—綠耳(底)、騶駼(天)

〔陽) 36山子—天子(陽) 37王母—毒(天)、西王母(陽) 38日—

日(天) 39焉—焉也(天)、也(陽) 40暇—假(天) (陽) 41如—如

楚(天) (陽) 42 驢驪—驢驪(天)、兩驢驪馬(陽) 43 ナシ—驢字  
下に「子常欲之、弗與。三于止之。唐人竊馬而獻于常。々々歸  
唐侯。馬融曰、驢驪寫也。馬似之也。《事文文》凡馬八尺以上爲  
龍、七尺以上爲駮、六尺爲馬矣」(陽)

055 牛

格物論云、牛大—性也。數種也。赤色曰「驛桐」。黃曰「悖」。  
白曰「惟」。黑曰「聲」。純色曰「犧牲」。雜色曰「□□」。「牛巨」  
惟(一) 水—牛青色也。牛母曰「牝」。父曰「牯」。子曰「犢」。

商歌初入相

甯戚至—齊、飲—牛。夜扣—角歌。齊桓公知—其賢。舉—以爲相。  
史記曰、甯戚候—齊桓公出、扣—牛角—歌曰、南山粲—々、  
白石爛—々。中有—鯉魚—、長尺—有半。生不—逢—于堯與—舜  
禪—。短—布單—衣。纒—至—飢。長夜漫—々。何時—且。桓公舉—以爲  
相。商山亦名南山焉。

燕陣早橫— 功

史記、齊與—燕戰。田單取—子—頭—牛—、以—五—彩—衣—、結—火—於—尾—、  
穿—城—頭—出—。燕軍大敗。

欲—向—桃—林—下—

書曰、武王放—牛—於—桃—林—之—下—也。

先過—梓—樹—中—

史記曰、秦—文—公—伐—南—山—。梓—樹—中—有—青—牛—。出—走—入—豐—水—也。

在(37ウ) 吳頻喘—月

漢相邴吉見—吳—人—乘—牛—喘—。令—息—駕—以—調—陰—陽—。又曰、

吳—牛—見—月—而—喘—。一—本—、郭—子—曰—、滿—奮—在—晉—武—帝—殿—。坐—見—二—窓—

瑠—璃—扉—明—。奮—畏—風—焉—。帝—咲—之—、如—吳—牛—見—月—而—喘—。

奔—楚—屢—驚—風—

齊—伐—楚—。々—對—曰—、君—處—北—海—、寡—人—處—南—海—、惟—是—風—馬—牛—

不—相—及—也—。一—本—、幽—明—錄—曰—、楚—巴—丘—縣—自—金—剛—以—上—廿—里—

有—黃—金—潭—。有—人—釣—得—一—金—牛—、鎖—引—之—。金—牛—出—聲—奔—

吐—風—波—。其—駭—牛—乃—入—潭—。因—號—曰—「金—牛—潭—也—」。

不—降—三—五—丁—士—、如—何—九—折—通—

秦—惠—王—欲—伐—蜀—、路—不—通—。乃—刻—石—爲—牛—、置—金—粟—於—前—。

蜀—王—使—三—五—丁—力—士—取—牛—。秦—相—張—儀—隨—後—以—伐—蜀—。遂—通—九—折—

之—道—也—。一—本—、蜀—王—本—記—曰—、秦—惠—王—欲—伐—蜀—。乃—刻—「作—

五—石—牛—於—城—都—道—、置—金—於—其—後—。有—人—詐—云—、有—三—石—牛—入—

山—出—金—、鑿—山—求—之—。人—將—金—餅—棄—於—山—中—云—、是—牛—

屎<sup>57レ</sup>衆<sup>58</sup>。五丁<sup>59</sup>力士<sup>60</sup>聞<sup>61</sup>之、乃鑿<sup>62</sup>山、成<sup>63</sup>九折坂<sup>64</sup>。路<sup>65</sup>乃通<sup>66</sup>。(3  
8才)

〔書入〕①右傍に「或作梓也」。②右傍に「古郎反」。③欄上に  
「鎖<sup>67</sup>蘇果反。銀鑄。俗作鎖<sup>68</sup>」。

〔校異〕1〔陽〕の當該題下注ナシ。2云「曰(前)(天)3牲  
―牡(前)4也―ナシ(天)5驛―梓(天)6帷―推(天)7  
色―ナシ(天)8帷―推(天)9ナシ―也(天)10〔陽〕の當  
該句下注は「史記曰、齊桓公夜出、迎賓。甯戚飼牛車下。扣牛  
角而商哥曰、南山<sup>69</sup>研、白石爛。生不逢堯與舜。短布單衣菅至舛。  
從昏飼牛至夜半。長夜漫々何時旦。公君與語、悅之以爲相之也。  
一本、甯戚至齊。食牛、夜扣角、爲商哥。齊桓公知其賢、舉  
以爲相」。11飲―校異10所引〔陽〕により「飼」に改むべきか。  
12牛―ナシ(天)13有―ナシ(天)14千―ナシ(天)15單(前)  
(天)―短16焉也(天)17〔陽〕の當該句下注は「左傳、樂  
毅爲燕將。伐齊攻入臨淄。盡取齊財寶、輸之燕。齊臣田單保於  
即墨、燕兵圍之。單乃收城中、得千餘頭牛。爲絳繪衣、盡<sup>70</sup>以五  
彩龍文、束兵刃於其角、束葦於尾、濯脂燒其端。鑿城作數十、  
夜縱牛、壯士五千人隨其後。牛尾熱、怒而奔燕軍。々々夜大驚。

尾上炬火、光明炫耀。燕軍視之、皆龍文。所觸皆死傷。五千因  
銜枚擊之。燕軍大敗、殺其將騎劫。追亡逐北、所亡七十餘城皆  
復。乃迎襄王於莒、入臨淄而聽政也」。18放―教(前)19於―ナ  
シ(天)〔陽〕20ナシ―也字下に「示後伐更不用征伐之事也」〔陽〕  
21〔陽〕の當該句下注は「列女傳曰、秦文公伐梓樹。化爲牛。

以騎擊之。騎不勝、或墜地、髮解被髮。牛畏之、入豐水。故秦  
自是置旄頭騎、先驅。22伐―代(天)23「漢相」到「而喘」、〔陽〕  
にナシ。24令―今(天)25一本ナシ〔陽〕26窓―北窓〔陽〕  
27明―明徹〔陽〕28風焉―風(天)、ナシ〔陽〕29咲―笑(前)  
〔陽〕30如―〔陽〕は「奮曰、臣」に作り、臣字下に補入符あ  
りて、左傍に「似イ」。31ナシ―也(天)、之〔陽〕32「齊伐」  
到「及也」、〔陽〕にナシ。33馬牛―牛馬(天)34金剛―金岡〔陽〕。  
〔陽〕により改むべきか。35以上―已上(天)〔陽〕36廿―二十  
(天)〔陽〕37ナシ―有字上に「古」〔陽〕38牛―ナシ〔陽〕39  
ナシ―之字下に「滿一船」〔陽〕40ナシ―「釣人以刀斫得數」〔陽〕  
41其駭牛乃入潭―又牛及潭〔陽〕42號(前)(天)〔陽〕―合<sup>71</sup>  
日―ナシ(天)44「秦惠」到「通也」、〔陽〕にナシ。45使―伐  
(前)46「以伐」到「作五」、(天)にナシ。47五石牛―五牛〔陽〕  
48城都道―都道〔陽〕49金―金粟〔陽〕50於―ナシ(天)51有



人詐云—又詐云(陽) 52 出金—不出(陽) 53 ナシ—擊字上に「合」

(陽) 54 人—又令人(陽) 55 金餅—金餅(天) 56 牛—石牛(陽)

57 屎衆—屎(天) (陽) 58 五丁力士—五丁士(天) (陽) 59 ナシ

—折字下に「之」(陽) 60 坂—道(陽) 61 ナシ—路字上に「故」

(陽) 62 ナシ—也(天)、之也(陽)

056 豹

格物論云、豹毛赤黃。其紋黑。如錢而中空。比々相次。

又有玄豹、猛健不減於虎豹。似熊、小頭痺脚、

黑白駁紋。能舐食銅鐵、骨節強直也。中實少髓。或云

豹之白者。

車法擊—降周一

一本、周武王造豹尾車也。

鼪文闡—大猷

象君子豹變。言其文以開大猷。闡開也。一本、後漢竇

攸爲尚書郎。光武會靈臺、得鼠如豹。攸曰、鼪鼠也。

見爾雅。帝乃詔諸弟子、就攸受爾雅。猷道也。

還將—君子變

易曰、君子豹變。其文蔚也。

來藴—太公謀

太公兵書、有豹韜龍韜也。一本、太公作韜鈴豹略。藴

積也。

委質超—羊韜

論語、子貢曰、虎豹之韜、猶犬羊之韜也。註云、皮去毛

曰韜。虎豹與犬羊別者、正以毛文異耳。

飛名列—虎侯

天子三侯、以熊虎豹皮爲之。侯者射的也。射中以威

諸侯。故稱侯。見周禮。

若今逢—(38ウ)霧雨、長隱—南山幽

陶荅子妻曰、妾聞南山有玄豹、得雲霧、則不食。養其

毛衣也。商洛山在河南。故言南。列女傳文也。

〔校異〕 1 (陽) の當該題下注はナシ。 2 云—曰(天) 3 健—

候(天) 4 也—ナシ(天) 5 ナシ—也(天) 6 降—隆(陽) 7

一本—ナシ(陽) 8 也—ナシ(陽) 9 ナシ—車字下に「崔豹古

今注云、豹尾車周制也」(陽) 10 鼪、(陽) は右傍に「鼪イ」。 11

ナシ—象字上に「豹尾車」(陽) 12 開—闡(陽) 13 後—后(前)

14 靈臺（陽） 15 鼠（陽） 16 「如豹」到「道也」（陽）

にナシ。 17 太公（天） 18 韜鈴（陸） 19 豹略（陽）

略（陽） 20 也（陽） 21 註云「注曰（陽） 22 耳（天）、

耳也（陽） 23 侯（天） 24 ナシ（三字上）に「有」（陽） 25 爲之

（天）（陽） — 爲（陽） 26 故（陽） 27 ナシ（天）（陽）

28 南（陽） は右傍に「商イ」。 29（陽）の當該句下注は「商洛

山有陶之南。 陶荅子妻謂南山玄豹之事戒荅子。 既見霧詩注。 鄭

公感荅子妻言、 欲比玄豹、 以避濁監。 故曰、 長隱商山幽山幽之

也。 30 荅子答（天） 31 妾（ナシ）（天） 32 雲霧（雨霧）（天） 33

列女傳文也（ナシ）（天）

057 熊

格物論云、 熊大似豕、 而性輕健。 山居。 能攀緣上高樹、

見人則顛倒投地而下。 行數千里、 悉有踰伏之所。

冬多入穴而藏、 蟄始春而出。 掌爲珍味。 羆似熊、 黃白

紋、 長頭高脚。 亦猛而多力也。

導洛宜陽右

尚書曰、 導洛自熊耳。 註曰、 熊耳山在宜陽之西。 故爲右

也。  
乘（春）別館前

射熊館在螭屋縣也。 西都賦曰、 離宮別館卅六所。 一本、 漢

武帝元鼎二年、 幸射熊館。 又射熊待春時。

照儀匠漢日

漢元帝與照儀幸虎圈、 鬪熊。 熊逸攀檻。 有熊出欲上

殿、 群臣皆走。 照儀自當熊而立。 左右格殺熊。 上問之

曰、 妾聞猛獸得人而止。 妾恐至御坐、 故身當之。 是

匡王也。 （39オ）見列女傳也。

大傳翊周年

周文王欲獵。 卜曰、 得二一物。 非熊非羆。 乃帝王師。 於

渭濱得呂望。 爲太公。 號曰尚父也。 一本、 賈誼書

曰、 文王使太公望傳太子發。

列射三侯滿

一本、 射有三侯。 以熊虎豹皮一帖射的。

興師七步旋

尚書曰、 周武王伐紂。 誓師曰、 今爾衆士、 如熊如羆。 不

懲二六步七步、 乃止齊焉。

莫言舒紫褥

拾遺錄曰、周穆王得紫熊於仲虛也。仲虛所名也。有<sup>レ</sup>人曰、有熊席<sup>一</sup>而無熊褥<sup>一</sup>也。李公意<sup>一</sup>當鋪紫褥<sup>一</sup>於熊席上<sup>一</sup>耳。

猶冀飲<sup>一</sup>清泉<sup>一</sup>

一本、沖虛真經曰、黃帝與炎帝戰<sup>一</sup>阪泉之野<sup>一</sup>、帥<sup>一</sup>熊羆狼<sup>一</sup>豹<sup>一</sup>獬豸<sup>一</sup>爲前驅<sup>一</sup>、<sup>一</sup>鷓鴣鷹<sup>一</sup>爲旗幟<sup>一</sup>。此以<sup>レ</sup>力使禽獸者也。

〔書人〕①欄上に「鷓鴣何葛反。似雉。大青」。

〔校異〕1〔陽〕の當該題下注は「說文云、熊似豕、居山東<sup>一</sup>。墊<sup>一</sup>」。

2多<sup>一</sup>ナシ(天) 3羆(天) 4也<sup>一</sup>ナシ(天) 5註<sup>一</sup>注(陽)  
6之<sup>一</sup>ナシ(天) 7故爲右也<sup>一</sup>故爲之右耳(陽) 8墊屋縣<sup>一</sup>縣(天) 9西都賦<sup>一</sup>西京賦(陽) 10卅六<sup>一</sup>三十六(天) 11ナシ<sup>一</sup>也(陽) 12一本<sup>一</sup>ナシ(陽) 13ナシ<sup>一</sup>年字下に「春(陽) 14ナシ<sup>一</sup>館字下に「之也」(陽) 15又射熊待春時<sup>一</sup>得春時也(天)、ナシ(陽) 16照<sup>一</sup>昭(前) (天) 17〔陽〕の當該句下注は「照儀、漢元帝馮昭儀也。上幸入虎園。有熊欲上。列女傅、馮昭儀、馮奉世之女。從元帝虎園鬪獸。熊放、攀檻欲上殿。昭儀等皆走、馮昭儀直前當熊。左右格殺熊。天子問、人情皆懼。何故當熊。」

對曰、妾聞猛獸得人而止。妾恐熊至御座。故以身當之。帝嗟歎、以此敬重焉。身當之、是其匡主也。18坐<sup>一</sup>座(天) 19大<sup>一</sup>太(天) (陽) 20卜曰<sup>一</sup>史占之曰(陽) 21非熊非羆(前) (天) (陽) 一非<sup>レ</sup>羆非<sup>レ</sup>熊<sup>一</sup> 22ナシ<sup>一</sup>王字下に「之」(天) (陽) 23ナシ<sup>一</sup>於字上に「果」(陽) 24也<sup>一</sup>ナシ(陽) 25書<sup>一</sup>著(天) 26傳<sup>一</sup>傳(天) 27侯(前) (天) (陽) 一候 28〔陽〕の當該句注は「三侯見上文也」。29帖<sup>一</sup>得帖(天) 30ナシ<sup>一</sup>也(天) 31帥<sup>一</sup>帥(陽) 32尚書曰<sup>一</sup>ナシ(陽) 33武王<sup>一</sup>文王(陽) 34伐<sup>一</sup>代(陽) 35ナシ<sup>一</sup>愆字下に「于」(天) (陽) 36止(陽) 一心 37拾遺錄<sup>一</sup>王字年拾遺錄(陽) 38周穆王得紫熊於仲虛也<sup>一</sup> (天) は也字ナシ、周穆王時紫熊文褥也(陽) 39仲虛所名也<sup>一</sup>所名也(天)、ナシ(陽) 40有人曰<sup>一</sup>一本雜記(陽) 41而<sup>一</sup>ナシ(陽) 42李公意<sup>一</sup>以李公意々々(陽) 43當<sup>一</sup>ナシ(天) 44紫褥<sup>一</sup>褥(陽) 45耳<sup>一</sup>也(天) 46沖虛真經<sup>一</sup>仲虛真經(前) (陽) 47曰<sup>一</sup>ナシ(天) 48炎帝<sup>一</sup>太帝(天) 49阪泉之野<sup>一</sup>汲泉之野(天)、阪泉(陽) 50帥<sup>一</sup> (天) 一帥(底) (前)、ナシ(陽) 51熊羆狼豹獬豸<sup>一</sup>熊羆(陽) 52「鷓鴣」到<sup>一</sup>者也、(陽) にナシ。53鷓鴣<sup>一</sup>雕(天)

格物論云、鹿性多驚烈。能別良草。他獸多屬三十二辰及八卦。惟鹿不然。麋牝也。麋子也。至於麕、鹿之絶、有力者。一千年爲蒼鹿。又百年化白鹿。又五百年爲玄鹿。々々有麋、有麋、有麋(39ウ)有麋、有麋。々々二角、似麋、牛尾。麋大麋、旄尾、豹足。麋即麋也。麋冬至角解。鹿夏至角解。鹿又鹿之大者也。

涿野關中冀

一本、史記、黃帝與蚩尤戰涿鹿之野。在冀州城外也。

秦原關帝圻

秦有白鹿原也。一本、三秦記曰、周平王時、白鹿常出此原。因名曰白鹿原。今西京內苑也。

奈花開舊苑

西國有奈苑鹿苑也。國王出獵。見兩群鹿、各五百頭。

王欲盡殺之。鹿王即白國王曰、今若盡殺群鹿、肉當臭壞。請每日進一鹿、以供王廚。於王又得群鹿、亦得子孳長。王從之。每日進一鹿。次至一懷孕鹿、々即白鹿王言、我懷子。身終不惜。俱未全死。願取下次。王不許。下次誰當替汝者。既不得免。即往彼

鹿一邊云、我鹿王不見慈憫。此鹿王又不龍越。即自替此鹿、供王廚、往至廚所。王見此鹿身形有異、毛彩可憐。乃問之。鹿王具說前意。若此。國王乃歎曰、我是人頭、汝是(40才)鹿頭。遂則盡放群鹿、以置鹿苑也。

萍葉吐前詩

々々曰、呦々鹿鳴、食野之萍。我有嘉賓、鼓瑟吹笙。

道士乘仙日

仙人韓衆乘鹿也。劉根初學道、到花陰。見一人乘白鹿、從中十餘玉女上。根頓首、乞一言。神人曰、爾聞有

韓衆否。根答曰、實聞有之。神人曰、我是也。一本、

列仙傳曰、衛叔卿在中山。漢武帝時、有白鹿至殿前。曰、我衛叔卿也。乃失之。帝使梁伯往中山、求

得其兒。名度世。共往花山、見共人石上博戲也。

先生折角時

五鹿先生、字元宗、能談說。朱雲折之。故時人語曰、五鹿嶽々、

朱雲折之。或語曰、五鹿嶽々、朱雲折二其角。

方懷二丈夫志、抗手別心一期

子商遊趙、與平原君客鄒文季節相善。時文別節、流涕。

子商遊趙、與平原君客鄒文季節相善

時文別節、流涕。

子商抗<sup>テ</sup>手曰、亦子爲<sup>ニ</sup>丈夫<sup>一</sup>。豈如<sup>レ</sup>鹿聚<sup>乎</sup>。一本、孔叢曰、子商遊<sup>ニ</sup>于趙<sup>一</sup>。平原君客有<sup>ニ</sup>鄒文季<sup>一</sup>節。昔友<sup>ニ</sup>相善<sup>一</sup>。及<sup>レ</sup>還魯、文與節相送<sup>ニ</sup>三<sup>一</sup>(40ウ)宿、流涕。子商曰、始吾謂<sup>ニ</sup>此<sup>一</sup>二子丈夫<sup>一</sup>、乃<sup>レ</sup>今如<sup>レ</sup>婦人<sup>一</sup>也。商抗<sup>レ</sup>手曰、余有<sup>ニ</sup>四方之志<sup>一</sup>。豈<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>謂<sup>ニ</sup>鹿聚<sup>一</sup>而常群聚<sup>ニ</sup>也<sup>一</sup>。

〔書入〕①右傍に「音牽」。

〔校異〕1〔陽〕の當該題下注は「爾雅云、麀牝。曰其子。麀絶有力。麀搖光之精散爲鹿。衡傳曰、鹿生三年、其角自墮。抱朴曰、鹿壽千歲滿五百歲、即色白。瑞應圖曰、王者承先聖法度無所遺失、即白鹿來耳」。2麀、(底)は異體字「麀」に作る。

3ナシ—也字下に「□〔鹿邑〕牡也」(天) 4麀—麀(天) 5麀—麀(天) 6麀—鹿(天) 7豹足、意により「狗足」に改むべきか。8鹿(前)(天) — ナシ 9麀(前)(天) — 麀 10一本— ナシ(陽) 11也—之(陽) 12「秦有」到「原也」— ナシ(陽) 13三—王(天) 14日(前)(天) (陽) — (底)は蟲損。15日— ナシ(陽) 16内苑—苑内(陽) 17ナシ—也字下に「秦有白鹿原」(陽) 18(陽)の當該句下注は「西國有柰花鹿苑也。大論云、昔波羅柰王入山遊獵。見二鹿群。數各五百、各有一鹿主。身七

寶色、是釋迦菩薩。復有一主。是提婆達多。菩薩鹿主見王殺其群黨、起大悲心、直至王前。諸人競射、飛箭如雨。王見鹿無所恐懼、必有深意。救命勿射。鹿王至、跪白王言、以小事一時令鹿受於死苦。若以供饌、當差以送每日一鹿。王善其言。於是二主各差之送、以當調達。群中有一母鹿白其主言、我死分當而我懷子。子非死次、願取下次。王怒之曰、誰不惜命、次來但去(右傍に「イ子」)。母思惟言、我王無慈、橫嗔怒。即至菩薩王所、具白王言、大王仁慈、如我今日、天地曠遠、無所控告。具以事白。菩薩王言、我不理、狂殺其子。若非次、更差後次、何遣唯我代々。思惟、既定即自送身、遣鹿母還群。菩薩鹿王往到廚所。衆人見之、怪其自來、以白皇(右傍に「王イ」)。亦怪之。王問曰、群鹿盡耶。而忽自來。鹿王言、大王仁慈、人無犯者、但滋茂無有盡時。但彼群鹿歸告於我、々愍之。故非分差、是亦不可。若縱而不救、無異木石。是身不久、必不免死。慈救苦厄、其德無量。若人無慈、與虎狼何別。王聞語即從座起、而說偈言、我實是畜獸、名曰人頭鹿。汝雖是畜生、名爲鹿頭人。以理而爲人、不以形爲人。我從今日始、不食一切肉。我以無畏施、亦可安汝意。諸鹿得安、王得仁信。鹿群所故名鹿苑。佛初於此而轉法輪。從樹爲名曰柰苑。言候新春以柰花初發於舊樹。故曰舊苑

也。19 秦苑 (前) (天) — 秦苑 20 肉 — 內 (天) 21 於王又得群鹿  
 — 王得群鹿 (天) 22 從 — 後 (天) 23 ナシ — 日字下に「盡次」 (天)  
 24 ナシ — 次字上に「後」 (天) 25 懷 — 孃 (天) 26 憫 — ナシ (天)  
 27 王廚 — 王廚前 (天) 28 往至廚所 — ナシ (天) 29 々々曰 — 毛詩鹿  
 鳴曰 (陽) 30 ナシ — 萍字下に「毛萇傳曰、華大萍也。鹿得萍草、  
 吻々然鳴、而相招呼。鄭氏箋云、萃、賴蕭也」 (陽) 31 「我有」到  
 「吹笙」、(陽) にナシ。 32 笙 — 箏 (天) 33 韓衆 — ナシ (陽) 34  
 劉 — 劉 (陽) 35 花 — 華 (天) (陽) 36 神人曰 — 神人乃住曰 (陽)  
 37 有韓衆否 — 有韓衆不 (天)、有之 (陽) 38 「根答」到「有之」、  
 (陽) にナシ。 39 根 — ナシ (天) 40 ナシ — 日字下に「即」 (天)  
 (陽) 41 在中山 — 中山人也 (陽) 42 ナシ — 山字下に「服雲母得  
 仙」 (陽) 43 中山 — 山中 (陽) 44 共 (前) (天) (陽) — 其 45 ナ  
 シ — 見字下に「無」 (天) 46 也 — 之也 (陽) 47 (陽) の當該句下  
 注は「漢書、五鹿充名宗、爲博博士。用權當世、能談說。而朱  
 雲有口辯、莫有能折者。曾抗首請、論難速折五鹿君。々々々不  
 能答。諸儒爲之曰、五鹿嶽々、朱雲折其角也。一本、五鹿先生  
 充宗、能談說。朱雲論折之。故時人語云、五鹿嶽々、朱雲折角  
 也」。(天) の當該句下注は「五鹿嶽々、朱雲折其角」。48 丈夫 —  
 大夫 (陽) 49 (陽) の當該句下注は「孔叢子曰、子高遊趙。平

原君客有鄒文節者。與高相友善。及將還魯。諸故人訣既畢。文  
 節相送三宿。臨別、文節流涕交頤。「自止十頁」(右傍にオトカヒ  
 フ。頤に同じか)。子高徒抗手而已。其徒問曰、先生與彼有戀乎。  
 子高曰、始吾謂此二子大夫、乃今知婦人也。人生四方之志、豈鹿啄而  
 常群聚哉。一本、子高遊趙、與平原君客鄒文節相友善。臨別、  
 文節流涕。子高且抗手曰、二子爲大夫、豈如鹿群聚乎。50 子商、  
 子高の誤字か。51 季節 — 李節 (天) 52 時 — 臨 (天) 53 干 — ナシ  
 (天) 54 ナシ — 節字下に「者」 (天) 55 昔友相善 — 友善 (天) 56  
 也 — 乎也 (天)、也哉 (前)

059 羊

格物論曰、牡一歲曰<sub>レ</sub>牝、三歲曰<sub>レ</sub>牝。牝一歲曰<sub>レ</sub>特、三歲  
 曰<sub>レ</sub>牝。吳羊<sub>レ</sub>牝曰<sub>レ</sub>羯。殺羊<sub>レ</sub>牝曰<sub>レ</sub>羯。羔者羊之子也。羴五月  
 之牛羴也。

跪飲懲<sub>二</sub>澆<sub>一</sub>俗

孔子爲<sub>二</sub>魯司寇<sub>一</sub>。沈猶氏不<sub>二</sub>敢晨飲<sub>一</sub>其羊。舊<sub>レ</sub>俗澆<sub>レ</sub>則<sub>レ</sub>以晨  
 飲<sub>レ</sub>羊。家語曰、文宣王爲<sub>二</sub>司寇<sub>一</sub>。沈猶氏不<sub>二</sub>敢朝飲<sub>レ</sub>羊矣。  
 又記曰、羊跪<sub>レ</sub>飲<sub>レ</sub>母乳、似<sub>レ</sub>有禮也。言羊猶<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>禮、而

可レ誠澆俗也。

行驅夢逸材<sup>キカウテル</sup>

帝王世記、黃帝夢<sup>ル</sup>大風吹<sup>テ</sup>天下<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>塵垢<sup>ヲ</sup>、皆去<sup>ト</sup>。又夢<sup>ル</sup>一人

執<sup>リ</sup>千鈞之弩<sup>ヲ</sup>、驅<sup>テ</sup>群羊<sup>ヲ</sup>。帝寤<sup>リ</sup>歎<sup>シ</sup>曰、風者號<sup>シ</sup>令<sup>テ</sup>執政也。天<sup>ノ</sup>下

豈有<sup>レ</sup>二姓風名后<sup>一</sup>。夫<sup>レ</sup>千鈞之弩<sup>ハ</sup>、異力者。群<sup>レ</sup>羊<sup>ハ</sup>、善牧者。

天<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>一豈有<sup>レ</sup>二姓力名牧<sup>一</sup>者、求<sup>レ</sup>之爲<sup>レ</sup>相也。即<sup>チ</sup>風后爲<sup>レ</sup>

レ牧。於<sup>テ</sup>牧偶用爲<sup>レ</sup>相<sup>ト</sup>之。

仙人叱<sup>シ</sup>石去<sup>ク</sup>

列女傳、黃初平<sup>（41才）</sup>叱<sup>シ</sup>石爲<sup>レ</sup>羊<sup>ト</sup>而去<sup>ク</sup>。一本、黃初平

於<sup>テ</sup>金花山<sup>ニ</sup>牧<sup>レ</sup>羊。々盡化爲<sup>レ</sup>石。兄問<sup>テ</sup>羊何在<sup>ニ</sup>。初平叱<sup>シ</sup>之、

皆起爲<sup>レ</sup>羊也。

童子馭<sup>リ</sup>車來<sup>ル</sup>

衛玠少時、乘<sup>リ</sup>白<sup>シ</sup>羊<sup>一</sup>。於<sup>テ</sup>洛陽<sup>ノ</sup>市<sup>ニ</sup>共<sup>ニ</sup>視<sup>テ</sup>者感<sup>シ</sup>曰、誰家

碧<sup>シ</sup>壁<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>見<sup>テ</sup>晉書<sup>一</sup>。

夜玉含<sup>シ</sup>星動<sup>ク</sup>

易類謀曰、西嶽<sup>ニ</sup>天有<sup>レ</sup>玉羊星<sup>一</sup>狼<sup>一</sup>星<sup>一</sup>在<sup>レ</sup>末。々爲<sup>レ</sup>羊<sup>ト</sup>。

晨毛映<sup>シ</sup>雪開<sup>ク</sup>

單于以<sup>テ</sup>蘇武置<sup>テ</sup>大窖<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>、絶<sup>シ</sup>飲<sup>シ</sup>食<sup>ヲ</sup>。武以<sup>テ</sup>氈并<sup>シ</sup>雪餐<sup>シ</sup>之<sup>ヲ</sup>。

毛<sup>ノ</sup>白如<sup>シ</sup>雪也。又蘇武在<sup>レ</sup>匈奴<sup>ノ</sup>中<sup>ニ</sup>、以<sup>テ</sup>羊<sup>一</sup>毛<sup>一</sup>裏<sup>シ</sup>雪吞<sup>シ</sup>也。

莫<sup>ク</sup>言<sup>フ</sup>鴻漸<sup>ノ</sup>力<sup>、</sup>長牧<sup>ニ</sup>上<sup>ノ</sup>林限<sup>一</sup>

公孫<sup>ト</sup>式<sup>ト</sup>、皆有<sup>レ</sup>鴻漸<sup>ノ</sup>力<sup>一</sup>。ト式爲<sup>レ</sup>中郎<sup>一</sup>。布衣<sup>ノ</sup>牧<sup>ニ</sup>羊<sup>ト</sup>

上<sup>レ</sup>林<sup>中</sup>也。一本、漢書贊曰、公孫弘<sup>、</sup>ト式<sup>、</sup>倪寬<sup>、</sup>皆以<sup>テ</sup>鴻漸

之翼<sup>ニ</sup>、因<sup>テ</sup>於<sup>テ</sup>燕雀<sup>、</sup>遠<sup>ニ</sup>迹<sup>シ</sup>羊豕<sup>ノ</sup>之間<sup>ニ</sup>。ト式牧<sup>ニ</sup>羊<sup>ト</sup>上<sup>レ</sup>林<sup>中</sup>。

漢武帝見<sup>テ</sup>羊肥<sup>、</sup>即使<sup>テ</sup>問<sup>レ</sup>之。答<sup>シ</sup>曰、先除<sup>レ</sup>惡<sup>ニ</sup>群<sup>一</sup>者<sup>、</sup>理<sup>レ</sup>人

亦然<sup>一</sup>。乃拜<sup>シ</sup>侯代<sup>レ</sup>令<sup>也</sup>。

〔書入〕①欄上に「羯（居謁反。與羯同）。桃（雉矯反。羝（丁

兮反。牡羊）。牂（子唐反。羝羊）。搏（布莫反。斃獸也。似羊、

九尾四耳、目在背上。或作搏）。羣（亡具反。六月生羊也）。

〔校異〕1（陽）の當該題下注ナシ。2曰一云（天）3ナシ一

桃字下に「々、雉矯反」（天）4牂一□「牛孛」（底）（前）（天）。

□「牛孛」は特の誤字。5者一ナシ（天）6之一ナシ（天）7

犂五月之牛羣也一犂未成羊也。五月生務羊也」（天）8（陽）

の當該句下注は「六禮、有羊跪飲母乳、似有禮。故備也。或本、

跪作絶字也。孔子爲魯司冠、沈猶氏不敢晨飲其羊。舊俗洗則晨

飲。晨飲羊出家語之也」。9氏一子（前）10ナシ一記字下に「曰」

（天）11鈞一鈞（天）12群羊一群羊數萬（陽）13寤一寤（天）

14也一垢去后也（陽）15天下豈有姓風名后一天下豈有姓風名

后者(天)、天下豈有風姓名垢者(陽) 16 夫一史(陽) 17 ナシ一  
 也(陽) 18 群羊一驅群羊(陽) 19 善牧一牧人也(陽) 20 一ナ  
 シ(陽) 21 求之爲相也ナシ(陽) 22 「即風」到「相之」、(陽)  
 は「乃得風后力牧於海隅、用爲相之也」。(陽) により改むべき  
 か。23 即一則(前) 24 於牧偶用爲相之—於力牧偶用爲相之也(天)  
 25 叱一擁(天) (陽) 26 (陽) の當該句下注は「神仙傳、皇初平且  
 丹溪人。年十五、家使牧羊。有道士見其良謹、便將至金華山石  
 室中。卅年不復念家。其兄初起行索、見一道士。別至金華山得  
 見其弟。悲喜語畢、初起曰、羊何在。平曰、近在山東。初起往  
 視、不見羊。但見白石。還謂初平曰、山東無羊。平曰、兄自不  
 見。便與俱往。初平曰、叱々羊起。白石皆起、羊數萬起之也」。  
 27 叱一起(天) 28 黃一皇(天) 29 花一華(前) (天) 30 兄一ナシ  
 (天) 31 初平叱之—平之(天) 32 起一起石(天) 33 衛玠少時—  
 「衛玠烈傳曰、玠群伍之中、實有異人望。齟齬時」(陽) 34 共視  
 者感曰—觀者咸曰(陽) 35 碧一ナシ(前) (陽) 衍字か。36 見  
 一ナシ(陽) 37 ナシ—也(前) (天) 38 謀—誰(天) 39 西嶽天有  
 玉羊星狼星在未—西嶽天玉羊星狼星在未(天)、<sup>1</sup>「西嶽亡玉羊。  
 狼玉羊。狼星在未」(陽) 40 々爲羊—爲羊也(天)、未爲之羊也  
 (陽) 41 餐一咽(陽) 42 也—之也(陽) 43 「又蘇」到「吞也」、

(陽) にナシ。44 又一ナシ(天) 45 也—之(天) 46 (陽) の當  
 該句下注は内容が前後轉倒する。初めに「漢書」到「令也」を  
 記し、その後に「一本」として、「公孫」到「中也」を記す。47  
 公孫—公孫弘(陽) 48 也—ナシ(陽) 49 倪寬—倪寬(天)、兒寬  
 (陽) 50 困—因(陽) 51 迹—趣(陽) 52 羊(前) (天) (陽) —  
 (底) は蟲損。53 見羊肥—曰肥(陽) 54 即使—ナシ(天) (陽)  
 55 群—郡(天) (陽) 56 侯—候(陽)

060 窺<sup>1</sup>

① 2 格物論曰、兔鼠形、尾遍彎短、毛色褐、耳銳且卓、口缺。  
 長鬚、尻九孔、跌居、趨捷善走。舐雄毛(而) (41ウ) 孕  
 子。從口出レ子。媿或曰媿媿。其狡者曰媿。又其  
 大者前足寸餘、後足數一尺。行則後足一躍數一尺、止則  
 仆レ地。謂之蹶兔。亦曰蹶巨驪。或謂兔無レ雄。望月而  
 孕也。  
 上蔡鷹初擊  
 李斯上蔡人。爲秦丞相。被刑。乃顧其子曰、吾欲下與  
 牽黃犬一出上蔡東門(而)、逐中狡兔上。豈可得哉。



平岡兔不<sub>レ</sub>稀

沈約詩、平岡走<sub>二</sub>寒兔<sub>一</sub>。

目隨<sub>二</sub>槐葉<sub>一</sub>長

南華真經曰、槐之生也、入<sub>二</sub>季春<sub>一</sub>、五日而兔目、十日而

鼠耳也。

形逐<sub>二</sub>桂條<sub>一</sub>飛

馬名<sub>二</sub>桂條<sub>一</sub>、又名<sub>二</sub>赤兔<sub>一</sub>。故言逐<sub>二</sub>桂條<sub>一</sub>飛上<sub>也</sub>。一本、

馬名<sub>二</sub>飛兔<sub>一</sub>。言兔走、馬亦走也。

漢月澄<sub>二</sub>秋色<sub>一</sub>

月中有<sub>二</sub>玉兔<sub>一</sub>。月陰之精也。或成<sub>レ</sub>獸象<sub>レ</sub>兔也。

梁園映<sub>二</sub>雪暉<sub>一</sub>

漢書、梁孝王有<sub>二</sub>園雪賦<sub>一</sub>曰、遊<sub>二</sub>於兔園<sub>一</sub>也。謝惠連雪賦曰、

不<sub>レ</sub>樂<sub>二</sub>遊<sub>一</sub>於兔園也。

唯當<sub>二</sub>感<sub>一</sub>純孝、郭郭引<sub>二</sub>兵威<sub>一</sub>上

後漢方諸居<sub>レ</sub>喪孝。感<sub>二</sub>白兔<sub>一</sub>〔42才〕來。盜賊義<sub>レ</sub>之、不<sub>レ</sub>入<sub>二</sub>

其里<sub>一</sub>也。一本、孝子傳曰、顧秦吳人也。父<sub>一</sub>母亡。廬<sub>二</sub>于塚次<sub>一</sub>。

爲<sub>二</sub>劫賊<sub>一</sub>所<sub>レ</sub>逼。忽有<sub>二</sub>白兔<sub>一</sub>。走入<sub>二</sub>郭郭<sub>一</sub>、人使<sub>二</sub>兵

逐<sub>レ</sub>兔、々走<sub>レ</sub>赴<sub>レ</sub>廬。賊亡<sub>レ</sub>而走。太守乃表<sub>二</sub>其門閭<sub>一</sub>也。

〔書入〕①欄上に「讒（乃僕反。婉也。婉（匹萬反。子也）。  
龜（土岩反。似狸。巨當作駟驢。音虛似驪）」。

〔校異〕 1 菟 | 兔（前） 2（陽）の當該題下注は「莊子、

兔舐雄毛而孕。及其生子、從口中出之（出論衡）。また右傍に

同筆にて「事文文、兔大者曰龜（廣志）。兔望月而孕（博物志。

兔口有缺、尻有九孔（崔豹古今注）」と書す。書寫者による書入

か。3 日 | ナシ（天） 4 遍 | 一遍（天） 5 毛（前）（天） |（底）

は蟲損。6 趨捷善走舐雄毛（天） | 趨 | 捷。善舐 | 雄毛 |（底）、

趨捷善舐雄毛（前） 7 孕子（前） | 日 | 孕皿 | レ子（底）、孕生

子（天） 8 從 |（天）は「漢」に作り、右傍に「從歟」。9 狡 |

狹（天） 10 後 | 后（天） 11 寔巨驢 寔巨驢驢（前）、寔巨驢（天）。

意により「寔寔巨驢」に改むべきか。12 ナシ | 也（陽） 13 與 |

與若復（陽） 14 出上蔡東門（前）（天） | 上蔡東門 |（底）、俱出

上蔡東門（陽） 15 哉 | 乎（陽） 16 ナシ | 哉字下に「一本、李斯

臨刑、顧其子曰、思與汝俱臂鷹、出上蔡東門、逐狡兔、不可得

也」 17 兔 | 菟（陽） 18 「沈約」到「寒兔」 | ナシ（陽） 19

ナシ | 也（天） 20（天）の當該句下注は「南華真經曰、槐之生、

入季春、三月兔目也。一本、槐之生也、入季春、五日而兔目、

十日而鼠耳也」。21 南華真經曰 | 南華真經曰（前）、ナシ（陽）

22也―ナシ(陽) 23ナシ―耳字下に「見南華真經文也」(陽) 24

(陽) の當該句下注は「馬有桂條、飛兔之名。皆古之駿馬也。

言月中有桂。又有兔。宛如桂條之與飛兔相逐不後之也」。25ナシ

―月字上に「春秋元命苞曰、日月兩設以詹諸與兔者、陰陽雙居」

(陽) 26或―ナシ(陽) 27(陽) の當該句下注は「西京雜記曰、

梁孝王好宮室苑園之樂、築兔園。謝惠連雪賦曰、梁王不樂、遊

於兔園。又曰、俄而微霰零、密雪下」。28「謝惠」到「園也」―

ナシ(天) 29(陽) の當該句下注は「孝子傳曰、顧秦吳人也。

父母亡、廬于塚次。爲劫賊所逼(左傍に「追イ」。忽有白兔走

入郭郭。人吏兵逐兔、々走起廬。賊捕諸王而走。起太守表其門。

後漢方諸曰、居喪孝。感白兔來。盜賊義之、不入其里」。また、

同筆にて次のように續く。「事文云、孕婦不食兔肉。令兒口缺(博

物志)。兔者明月之精(典略)。又云、宋人有耕者。田中有株。

兔走觸、折頸而死。因釋耕守株、冀復得兔。爲宋國所笑(韓子)。

この部分、句下雙行の小字注より更に小さく、欄外にまで及ぶ

書寫者による書入か。30後―后(前) 31白―日(天) 32義(天)

―美(底)(前) 33孝子傳―孝傳(天) 34賊―賦(天)

百二十詠詩注上終(42ウ、以上上冊)

〔校異〕百二十詠詩注上終―百二十詠註上終(前)、ナシ(天)。

なお、殘闕本である(陽)は、尾に「註百詠(上之下)」と題す。

〔下冊〕

百二十詠詩註下

〔校異〕(天)の下巻卷首に「同詠註下 登仕郎守信安郡 博士

張庭芳 註。

居處十首

混天圖云、黃帝有熊氏、姓公孫、名軒轅。生九子、乃置

九州。長子封冀州、次子荊州、三青州、四徐州、五豫州、

六雍州、七梁州、八兗州、九揚州。造三城市屋宇。使祝融

制鑪、蒼頡造文字。置舟、船、衣服、干戈、弧矢。

在位一百年。漢書曰、張良勸漢祖曰、夫關中左崤函、右

隴蜀<sup>一</sup>。沃野千里<sup>一</sup>。南有<sup>二</sup>巴蜀之饒<sup>一</sup>、北有<sup>三</sup>胡苑之利<sup>一</sup>。阻<sup>四</sup>三面<sup>一</sup>守<sup>二</sup>、獨以<sup>三</sup>一面東<sup>一</sup>、制<sup>四</sup>諸侯<sup>一</sup>。所謂金城千里、天府之國也。

〔校異〕 1 徐州 除州(天) 2 兗州 楚州(天) 3 揚州 楊州(天) 4 宇一守(天) 5 ナシ―着字上に「使」(天) 6 頡―頡(天) 7 曰―ナシ(天) 8 祖 都(天) 9 關―關(天) 10 胡(天) 一故

061 城

釋名、城盛也。盛受<sup>二</sup>國<sup>一</sup>都<sup>三</sup>。秦淮南子、鯨作<sup>レ</sup>城。五<sup>一</sup>經異義、天子之城高九<sup>一</sup>仞、公<sup>一</sup>侯七<sup>一</sup>仞、伯五<sup>一</sup>仞、子<sup>一</sup>男三<sup>一</sup>仞。四<sup>一</sup>塞稱<sup>二</sup>天府<sup>一</sup>。

張良勸<sup>二</sup>高祖<sup>一</sup>曰、都<sup>レ</sup>秦地<sup>一</sup>。有<sup>二</sup>四<sup>一</sup>塞之固<sup>一</sup>。此金城千里、天府之國也。一<sup>一</sup>本、張良勸<sup>二</sup>漢高祖<sup>一</sup>曰、都<sup>レ</sup>秦<sup>一</sup>。曰、秦地沃野<sup>一</sup>。此金城千里、天府之國也。混天圖云、四<sup>一</sup>塞<sup>一</sup>東<sup>一</sup>夷西<sup>一</sup>戎、南<sup>一</sup>蠻、北<sup>一</sup>狄。(一ウ)

三河建<sup>二</sup>洛都<sup>一</sup>

三<sup>一</sup>河、々<sup>一</sup>東、河<sup>一</sup>南、河<sup>一</sup>內也。周公作<sup>レ</sup>洛邑於中<sup>一</sup>土<sup>一</sup>。一<sup>一</sup>本、

言東城表裏界壤、有<sup>三</sup>一河之國<sup>一</sup>也。

霏雲滿<sup>二</sup>城闕<sup>一</sup>、白<sup>一</sup>日麗<sup>二</sup>城隅<sup>一</sup>。

一<sup>一</sup>本、劉休玄詩云、落宿<sup>二</sup>半<sup>一</sup>逢<sup>二</sup>城<sup>一</sup>、浮雲靄<sup>二</sup>層阿<sup>一</sup>。詩曰、浮雲上<sup>二</sup>層阿<sup>一</sup>。史記、非<sup>レ</sup>煙非<sup>レ</sup>雲、郁々紛々、慶雲也。

一<sup>一</sup>本、古詩曰、月出<sup>二</sup>城南隅<sup>一</sup>也。

獨<sup>二</sup>下仙人鳳、群<sup>一</sup>飛御史烏。

漢宣帝時、有<sup>レ</sup>鳳集<sup>二</sup>上林<sup>一</sup>。爲<sup>レ</sup>鳳風殿。鳳城因<sup>レ</sup>此爲<sup>レ</sup>名。鳳爲<sup>二</sup>仙人之所<sup>一</sup>乘。故曰<sup>二</sup>仙人鳳也<sup>一</sup>。一<sup>一</sup>本、秦穆公女弄玉吹<sup>レ</sup>簫下<sup>レ</sup>鳳。因號<sup>二</sup>丹鳳城也<sup>一</sup>。御史府中有<sup>レ</sup>烏、宿柏樹上。亦曰<sup>二</sup>烏臺<sup>一</sup>。古詩曰、莫<sup>レ</sup>嫌城上塞也。一<sup>一</sup>本、漢時、

烏集<sup>二</sup>御史臺<sup>一</sup>。又童謠曰、城上烏畢逋也。

何辭<sup>二</sup>一萬里、邊<sup>一</sup>徼拒<sup>二</sup>匈奴<sup>一</sup>。

秦始皇令<sup>二</sup>蒙恬與<sup>一</sup>公子扶蘇、築<sup>二</sup>長城萬里<sup>一</sup>、以拒<sup>二</sup>匈奴<sup>一</sup>。

一<sup>一</sup>本、秦始皇使<sup>二</sup>蒙恬築<sup>一</sup>長城東西<sup>二</sup>二萬里<sup>一</sup>、以捍<sup>二</sup>匈奴<sup>一</sup>。

(一ウ)

〔書入〕 ①右傍に「飛心也」。

〔校異〕 1 ナシ―云(天) 2 都―郡(天) 3 ナシ―也(天) 4

ナシ―曰(天) 5 之―ナシ(天) 6 稱(天) 一禰<sup>二</sup>七固一國(天)

8 ナシ―城字下に「此金城(天) 9 表裏―裏(天) 10 阿―闕(天)  
11 一本―ナシ(天) 12 日―云(天) 13 月―日(天)。(天) によ  
り改むべきか。14 鳥―鳥(天) 15 鳳―鳳凰(天) 16 府中―府内  
(天) 17 蘇―横(天)

062 門

莫奔切。問也。聞也。毛詩正義云、王之郭門曰臯門、王  
之正門曰應門。四聲字苑云、門所<sub>三</sub>以通<sub>二</sub>出入<sub>一</sub>。世唐令  
云、門<sub>一</sub>舍、三<sub>二</sub>品以上<sub>一</sub>、五<sub>一</sub>加<sub>レ</sub>木<sub>二</sub>三<sub>一</sub>間。五<sub>一</sub>品以上、三<sub>二</sub>間  
兩<sub>一</sub>下。六<sub>一</sub>品以下及庶<sub>一</sub>人、不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>過<sub>二</sub>一<sub>一</sub>間兩<sub>一</sub>下<sub>二</sub>。

赫々 彤闥敞 煌々 紫禁隈

爾雅云、宮中門、謂<sub>二</sub>之闥<sub>一</sub>。彤赤色也。煌々光彩貌。紫禁宮  
門也。一本、天子所<sub>レ</sub>居、象<sub>二</sub>天上紫微宮<sub>一</sub>。其門曰禁門。故  
曰<sub>二</sub>紫禁<sub>一</sub>。

阿房萬戶列、闔闔九重開

秦始皇造阿房宮、建章宮。千門萬戶也。洛陽城闔闔門西向有<sub>二</sub>  
大門九<sub>一</sub>重。一本、西京有<sub>二</sub>闔闔門<sub>一</sub>。

疏廣遺<sub>レ</sub>榮去、于公待<sub>レ</sub>封來

疏廣爲<sub>二</sub>大傅<sub>一</sub>。謝歸。群<sub>一</sub>公設<sub>二</sub>祖道<sub>一</sub>、出<sub>二</sub>東都門<sub>一</sub>。一本、  
漢書、疏廣及姪、受爲<sub>二</sub>太子<sub>一</sub>子傅。解印綬。掛<sub>二</sub>長安東門<sub>一</sub>。

西京歸<sub>レ</sub>故<sub>一</sub>鄉也。東海<sub>一</sub>于公修<sub>レ</sub>門。公曰、吾有<sub>二</sub>陰德<sub>一</sub>。門  
令<sub>二</sub>三<sub>一</sub>少<sub>一</sub>高<sub>一</sub>大<sub>一</sub>容<sub>二</sub>駟馬車<sub>一</sub>。后<sub>二</sub>至<sub>一</sub>定國、爲<sub>二</sub>廷尉<sub>一</sub>。一本、  
漢書、于定國爲<sub>二</sub>廷尉<sub>一</sub>、理<sub>二</sub>淫平<sub>一</sub>。乃造<sub>レ</sub>宅曰、(2才)其門

令<sub>レ</sub>容<sub>レ</sub>車。爲<sub>二</sub>吾子孫<sub>一</sub>必封<sub>レ</sub>也。漢書曰、于公爲<sub>二</sub>獄吏<sub>一</sub>。有<sub>二</sub>陰  
德<sub>一</sub>。修<sub>レ</sub>其門<sub>一</sub>曰、容<sub>レ</sub>駟馬高蓋、吾子孫必有<sub>二</sub>封<sub>一</sub>。果<sub>二</sub>至于  
定國、爲<sub>二</sub>廷尉<sub>一</sub>。亦<sub>二</sub>漢<sub>一</sub>于定、字曼倩、父<sub>二</sub>于定<sub>一</sub>公其門壞。父<sub>一</sub>老

共治<sub>レ</sub>之。公曰、可<sub>レ</sub>高<sub>二</sub>大其門<sub>一</sub>。令<sub>レ</sub>容<sub>二</sub>駟馬高車<sub>一</sub>。我治<sub>レ</sub>  
獄多<sub>二</sub>陰德<sub>一</sub>。子孫必有<sub>二</sub>興者<sub>一</sub>。至<sub>二</sub>定國<sub>一</sub>爲<sub>二</sub>丞相<sub>一</sub>、子永爲<sub>二</sub>  
御史大夫<sub>一</sub>。

誰知金馬路、方朔有<sub>二</sub>奇才<sub>一</sub>

東方朔、字曼倩。待<sub>二</sub>詔金馬門<sub>一</sub>。一本、漢書、東門京善<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>馬、  
鑄<sub>レ</sub>銅作<sub>レ</sub>馬<sub>一</sub>式。武帝令<sub>レ</sub>立<sub>二</sub>於魯班門外<sub>一</sub>。曰<sub>二</sub>金馬門<sub>一</sub>。今吏部  
西<sub>一</sub>門也。

〔校異〕 1 ナシ―上字下に「四品以上」(天) 2 以―ナシ(天)

3 紫禁―紫微(天) 4 ナシ―也(天) 5 宮―ナシ(天) 6 有―  
ナシ(天) 7 京―ナシ(天) 8 少―ナシ(天) 9 后―後(天)

10 定國―于定國(天) 11 亦―前(天) 12 于定―于定國(天) 13 于定公―于公(天) 14 容―客(天) 15 式―或(天)

細柳龍鱗映

昆明池西有市。言柳葉似龍鱗。長安城有柳市似

龍鱗也。

長槐兔目陰

槐初生五日、似兔目。有二槐市學名也。

徒知觀衛玉

衛玠乘白羊、入於洛陽市。觀者感謂之玉人。也。

誰肯掛秦金

呂不韋招諸儒、撰呂氏春秋既成。乃懸金於秦咸陽

市、有三能加減一字、與之千金。見史記。

〔校異〕 1 匱―遺(天) 2 古詩注曰―古今註(天)。(天)に

より改むべきか。 3 也―ナシ(天) 4 君―居(天)。意によ

り「店」に改むべきか。 5 以―ナシ(天) 6 鬻―貨鬻(天)

7 ナシ―也(天) 8 并―竝(天) 9 ナシ―云(天) 10 於燕市

(天)―燕於市 11 目―日(天) 12 觀(天)―視 13 觀(天)

―視 14 感―咸(天) 15 不―夫(天) 16 秦―秦城(天) 17 減

(天)―咸

063 市

風俗通曰、市恃也。言交易而退、恃以不匱也。古詩注曰、闔者市之垣、闔者市之門、肆者所以陳貨鬻之物也。君者所以置鬻之物也。

闔闔開三市、旗亭起二百尋

一本、闔闔市門。周禮有三市。朝時而市、日中

而(2ウ)市、夕時而市。并販夫、販婦、及百族爲主。

旗亭市門樓

漸離初擊筑

荆軻至燕與高漸離飲於市。酒酣漸離擊筑。荆軻

慷慨立方傍若無人。一本、史記、高漸離於燕市擊

筑、送荆軻入秦也。

司馬正彈琴

司馬相如善彈琴。還成都、與文君當壚酤酒。

相如犢鼻裋於市滌器也。見漢書。

易云「巽平水而上レ水井。々養而未窮也。改邑不改井」又曰、井德之地也。井以辨義也。四聲（3オ）字苑云、井鑿地取水井也。辨色立成云、桔槔鐵索井也。

玉甃談「仙客」、銅臺賞「魏君」

周禮、有井甃。々、蓋修井墀也。有出玉井。故通言玉甃也。列仙傳曰、蘇耽啓母曰、有賓來會、大受性當仙、令招耽悉去。恨違供養。今年多屬此井水。可飲得無患恙。過於供養也。一本、蔡誕云、仙人有井也。魏武帝有銅雀臺、水井臺也。一本、魏銅雀臺園中南有金虎臺、北有水井臺也。

蜀都 宵映火

蜀都賦曰、火井沈榮於幽泉。一本、蜀志曰、臨邛有火井。諸葛亮一窺更盛也。

杞國 旦生雲

孫堅討董卓。至於杞國已井上出五色雲。一本、陳留風俗記曰、雍丘縣有杞夏公。杞井上致雲霧。雍丘故曰杞國也。

向日蓮花淨、合風李樹薰

文選賦曰、重蓮披於倒井也。一本、日照井似蓮花。又有蓮井。王逸魯（3ウ）靈光殿賦曰、圓泉方井倒植荷葉也。古詩曰、桃生露井上、李樹依桃傍。

已開千里國

論語曰、導千乘之國。註曰、屋三爲井。々十爲城。々出革車一乘。然則千乘之賦其地千城也。又封畿千里、則爲一國也。一本、秦地金城千里、天府之國也。秦國東井之分野也。

還叶三五星文

漢高祖入秦、五星聚東井。々々秦之分野也。

〔書入〕①右傍に「彖之文也」。②左傍に「繫辭之文」。

- 〔校異〕 1 ナシ―井字下に「也」(天) 2 也―ナシ(天) 3 云―
- 日(天) 4 周禮―周易云(天) 5 大―ナシ(天) 6 悉―ナシ(天)
- 7 悉―悉(天) 8 宵―霄(天) 9 沈―洗(天) 10 旦―且(天)
- 11 討―計(天) 12 已―杞(天)、意により「見」に改むべきか。
- 13 上―能(天) 14 杞―杷(天) 15 傍―旁(天) 16 城―通々十爲
- 城(天) 17 幾―畿(天) 18 城―地(天) 19 ナシ―井字下に「々
- 也」(天)

劉熙釋名云、宅擇也。言擇主處而營之也。易云、上古穴而

野處也。后一世聖人易之、以宮室。上棟下宇。以庇二

風雨。蓋取二諸益也。

寂々蓬蒿徑、喧々湫隘廬

張仲尉之所居、蓬蒿沒人也、開二行徑。見後漢書也。

晏子宅近市、齊景公欲更之、爽愷二曰、晏子宅近市、湫隘

多喧囂也。見于左傳也。

屢逢二(4才)長者轍

漢書云、陳平張負隨至其家、々乃負郭窮巷、以席爲門。

々外多長者之車轍。故曰、固有下美如陳平而長食者上乎。

卒與女也。前漢陳平、家貧讀書、美可娶婦。富人莫與

貧者、平又愧之。張負有女孫。五嫁之夫死。負債平

至其家也。

時引故人車

陶潛詩曰、門外隔深轍。頗廻故人車。一本、晉書、陶

家貧、故人載酒、又有從。

孟母卜隣罷

孟軻小兒時、宅近墓。多爲築作之聲。母曰、此非眞養子

處也。遂再徙近學。母曰、眞養子處也。后乃成天一儒也。

一本、孟子曰、孟軻母三徙擇隣、後近學以教軻也。

將軍辭第初

霍去病將軍伐匈奴有功。漢帝爲造北闕甲第。去病曰、

匈奴未滅。臣無以爲家。

誰憐草玄處、獨對二一牀書

楊雄居家草大玄經。故云、獨對二牀書。詠史詩曰、寂々

楊子宅、所講在玄虛也。見于漢書。(4ウ)

〔書入〕①右傍に「易之卦也」。②左傍に「高清處也」。③欄上  
に「自内裏北方臣家作云也。甲次第也」。

〔校異〕1 擇一ナシ(天) 2 擇一釋(天) 3 云一曰(天) 4 也  
一ナシ(天) 5 后一後(天) 6 ナシ一以字上に「々々々」(天) 7  
一ナシ(天) 8 見于左傳也一ナシ(天) 9 故一歸(天) 10 娶  
一取(天) 11 五嫁一吾婦(底、丘嫁(天)。意により改む。

12 陶潛一陶淵明(天) 13 載一裁(天) 14 ナシ一也(天) 15 遂一  
逐(天) 16 學一淳(天) 17 子一ナシ(天) 18 也一之(天) 19 隣  
一知(天) 20 詠史詩一詠史記詩(天) 21 講一謂(天) 22 見于漢

書一〔見〕漢書(天)

說文云、池者陂也。從沝、水、地聲。風俗通云、孫子

有傘城湯池之說。後人因此開地爲池、以養魚鱉。

玉篇云、蓄水也。淮南子云、決塘發械、許慎曰、械所以

通陂之竇也。

日落天泉暮

日出暘谷浴咸池、至虞泉即暮也。一本、西京大液池內

有二天泉池也。

煙虛習池靜

峴山南習都有二養魚池。一本、襄陽記曰、峴山南有二大魚

池。習都家園池也。季倫飲於此泉。

鏡潭明月輝

有二水鏡。言潭水如下鏡中有明月一暉上。故庾肩吾詩曰、潭

似新磨鏡。潭通池。故曰潭有二月光相映也。

錦磧流霞景

言磧文照爛如錦。又磧水淺石見也。霞彩爛々如錦

也。又蜀有二濯錦池。一本、此鄭公之佳句也。

花搖二丹鳳色、雲浮二濯龍影

一本、西京有二丹鳳池也。荀勗從中書監爲尚書令、人

賀之。勗曰、奪我鳳凰池何賀有濯龍池也。(5才)一本、

東京有二濯龍池也。漢明帝馬皇后造織室一處也。

欲識二江湖心、秋來賦三潘省

々中直宿作二秋興賦一曰、譬猶池魚籠鳥而有二江湖

山藪之思、於是染翰操紙、慨然而賦。于時秋也。故

以二秋興命篇也。

〔校異〕 1 湯陽(天) 2 說設(天) 3 蓄(天) 4 蕃(天) 5 塘(天)

6 墟(天) 7 械(天) 8 彼(天) 9 浴咸池(天) 10 底(天) 11 習都、意により「習都」に改むべきか。

12 也(天) 13 ナシ(天) 14 照(天) 15 彩(天) 16 從(天) 17 慨(天)

18 也(天) 19 ナシ(天) 20 也(天) 21 照(天) 22 昭(天) 23 彩(天) 24 影(天)

25 從(天) 26 後(天) 27 慨(天) 28 概(天)

29 樓

067 樓

說文云、樓重屋也。亦閣也。釋名云、以爲牖戶諸射孔

高明、觀遠樓々然也。門上爲之以望、謂之譙門。而

其美麗者謂之麗譙也。考聲字苑云、今謂臺上構屋爲二



樓閣。今案俗謂朱雀門爲二重閣是也。

百一尺重城際、千尋大道隈。

一本、江惣詩曰、透迤百尺樓。王褒詩曰、青樓臨大道。

七尺尺尋、八尺尺常。

落星臨畫閣、井幹起高臺。

左太沖吳都賦曰、饗戎旅于落星之樓也。劉逵注曰、在建

鄴東南。漢武帝造井幹樓、高五十丈、在建章宮之內。

幹者井(5ウ)垣也。幹音寒。

舞隨綠珠去、簫將弄玉來。

晉書曰、石崇於金谷園作樓。綠珠於上歌舞。孫秀奪

綠珠自投舞樓下而死。秦穆公女弄玉共蕭史吹簫

於樓上、感鳳也。

銷憂乘暇日、誰識仲宣才。

王仲宣登樓賦曰、聊假日以銷憂也。言假借日也。暇者非也。

〔校異〕 1云一日(天) 2諸一請(天) 3謂之一ナシ(天) 4

也一ナシ(天) 5俗一倍(天) 6ナシ也(天) 7沖(天) 一

仲 8戎(天) 一我 9之一ナシ(天) 10達一達(天) 11ナシ一

在字上に「樓」(天)。(天)により改むべきか。12建鄴(天) 一建

13者一ナシ(天) 14上一樓上(天) 15玉一ナシ(天) 16「言假

到「非也」一言假暇日者非也(天)

068 橋

釋名云、橋水梁也。廣志、獨木之橋曰約。今謂之略約也。

水上橫木、所以渡也。爾雅注云、即水橋也。楊氏漢抄

云、葱臺橋兩所豎之柱、其頭似葱花、故云也。

烏鵲填應滿

風俗記曰、七月七日、織女會牽牛。烏填河爲橋。故

庾信詩曰、寄語彫陵鵲、填河未可飛。事已具見鵲詩。

黃公去不歸

張良遊下邳圯橋上、爲黃石公取履。黃公乃授兵書

與子房。々々後覓黃石公不得。唯望見山上、

有黃石公靴也。見漢書也。

色疑虹(6才)始見、形似雁初飛

一本、橋形似虹也。橋有雁齒。言橋形如雁也。古詩曰、

雁行橫二月浦、虹影臥江流也。

巧作七星影、能圖半月暉

一 一本、花陽國志曰、蜀守李求造<sup>二</sup>七<sup>一</sup>橋、上應<sup>二</sup>七<sup>一</sup>星也。蜀都城西<sup>一</sup>南有<sup>二</sup>市橋<sup>一</sup>。長老傳曰、李求造<sup>レ</sup>橋、上應<sup>二</sup>七<sup>一</sup>星也。

一 一本、橋似<sup>二</sup>半月<sup>一</sup>。

即<sup>レ</sup>今滄海晏、無<sup>二</sup>復白<sup>一</sup>雲威<sup>一</sup>

三齊記曰、秦始皇作<sup>二</sup>石<sup>一</sup>橋<sup>一</sup>以過。又令<sup>下</sup>人住<sup>二</sup>蓬萊山<sup>一</sup>

採<sup>上</sup>菓。望<sup>レ</sup>見山上<sup>一</sup>有<sup>二</sup>白<sup>一</sup>雲、忽有<sup>レ</sup>風引<sup>二</sup>龍舟<sup>一</sup>也、不<sup>レ</sup>得<sup>レ</sup>到<sup>二</sup>三<sup>一</sup>神<sup>一</sup>山<sup>一</sup>。言<sup>今</sup>聖主有感、滄海晏然、亦無<sup>レ</sup>雲威<sup>一</sup>也。

〔校異〕 1 之<sup>一</sup>ナシ (天) 2 約<sup>一</sup>約 (天) 3 爾雅注<sup>一</sup>爾雅 (天) 4

云<sup>一</sup>曰 (天) 5 豎 (天) 一 豎 6 柱<sup>一</sup>株 (天) 7 語 (天) 一 詩 8

ナシ<sup>一</sup>也 (天) 9 黃公<sup>一</sup>黃石公 (天) 10 兵書<sup>一</sup>兵法書 (天) 11 雁

齒<sup>一</sup>雁次 (天) 12 橋<sup>一</sup>齒橋 (天) 13 雁<sup>一</sup>雁行 (天) 14 ナシ<sup>一</sup>古字

上に<sup>一</sup>故<sup>一</sup> (天) 15 花<sup>一</sup>華 (天) 16 七橋<sup>一</sup>橋 (天) 17 「蜀都」到

「星也」<sup>一</sup>ナシ (天) 18 滄<sup>一</sup>瀆 (天) 19 ナシ<sup>一</sup>過字下に「不成」

(天) 20 龍舟 (天) 一 舟龍 21 山<sup>一</sup>仙 (天) 22 也<sup>一</sup>云々 (天)

069 舟

器物叢話、以<sup>二</sup>其周<sup>一</sup>流<sup>一</sup>曰<sup>レ</sup>舟、以<sup>二</sup>其修<sup>一</sup>水而行<sup>一</sup>曰<sup>レ</sup>船。皆

以濟<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>通也。又別<sup>一</sup>名曰<sup>レ</sup>艦。々其版<sup>一</sup>屋也。又謂<sup>二</sup>之<sup>一</sup>艨艟。一。楫<sup>一</sup>以刺<sup>レ</sup>船。棹<sup>一</sup>以撐<sup>レ</sup>船。艫<sup>一</sup>以進<sup>レ</sup>船。舵<sup>一</sup>以正<sup>レ</sup>船。帆<sup>一</sup>幔也。檣<sup>一</sup>帆<sup>一</sup>竿也。舳<sup>一</sup>舻<sup>一</sup>在<sup>二</sup>船<sup>一</sup>之後<sup>一</sup>。方言云、關東謂<sup>二</sup>之<sup>一</sup>舟<sup>一</sup>、關西謂<sup>二</sup>之<sup>一</sup>船<sup>一</sup>。廣韻云、艇<sup>一</sup>小<sup>一</sup>船也。釋名云、二<sup>一</sup>人之所<sup>レ</sup>乘也。(6ウ)

征<sup>レ</sup>棹<sup>一</sup>三江暮、連<sup>レ</sup>檣<sup>一</sup>萬<sup>一</sup>里廻

江賦曰、萬<sup>一</sup>里連<sup>レ</sup>檣。々帆柱也。三江<sup>一</sup>楊子<sup>一</sup>吳江、松江、浙江、

是也。

相鳥風處轉、畫<sup>レ</sup>鷁<sup>一</sup>浪前開

檣柱上有<sup>二</sup>相<sup>一</sup>風銅鳥<sup>一</sup>、時俗謂<sup>二</sup>五<sup>一</sup>兩也。一<sup>一</sup>本、船上

風<sup>一</sup>竿有<sup>二</sup>相<sup>一</sup>風鳥<sup>一</sup>。船頭畫<sup>レ</sup>作<sup>レ</sup>鷁<sup>一</sup>鳥。一<sup>一</sup>本、鷁<sup>一</sup>水鳥也。

故畫<sup>二</sup>於舟<sup>一</sup>也。

羽客乘<sup>レ</sup>霞至、仙人弄<sup>レ</sup>月來

一<sup>一</sup>仙人有<sup>二</sup>霞舟<sup>一</sup>、有<sup>二</sup>玉<sup>一</sup>舟也。一<sup>一</sup>本、仙人有<sup>二</sup>紫霞舟<sup>一</sup>、

有<sup>二</sup>青霞舟<sup>一</sup>也。一<sup>一</sup>本、王子年拾遺錄曰、仙人乘<sup>二</sup>桂<sup>一</sup>舟<sup>一</sup>以

弄<sup>二</sup>月<sup>一</sup>波、即蓬萊仙人也。

方今同<sup>二</sup>傳說<sup>一</sup>、飛<sup>レ</sup>楫<sup>一</sup>巨<sup>一</sup>川隈

尚書曰、殷高宗命<sup>二</sup>傳說<sup>一</sup>云、若濟<sup>二</sup>巨<sup>一</sup>川、用<sup>レ</sup>汝爲<sup>二</sup>舟<sup>一</sup>楫也。

〔校異〕 1 話一談 (天) 2 又一ナシ (天) 3 幢 (天) 一 田 〔舟章〕 4 廣韻云一ナシ (天) 5 艇一舟艇 (天) 6 釋名云一ナシ (天) 7 之一ナシ (天) 8 廻一回 (天) 9 江一ナシ (天) 10 畫一畫 (天) 11 也一ナシ (天) 12 即一印 (天) 13 尚書一書 (天) 14 宗一宋 (天) 15 云一ナシ (天)

070 車

器物發揮<sup>1</sup>、車輅也。陸行用之、所以引<sup>ナリク</sup>重而致<sup>ツ</sup>遠<sup>ニ</sup>。車有<sup>ニ</sup>大小<sup>一</sup>。各通<sup>ニ</sup>其用<sup>一</sup>。輅大車、輅小車、輅輕<sup>一</sup>車、輅挽<sup>一</sup>車、輅輓<sup>一</sup>車、輅重載<sup>一</sup>衣服<sup>一</sup>車。兵車有<sup>一</sup>輓輓輓之別<sup>一</sup>。輅端鐵曰<sup>ニ</sup>輅轄<sup>一</sup>。輅飾曰<sup>レ</sup>軹。軸頭曰<sup>レ</sup>軹。車脂<sup>ニ</sup> (7オ) 輅曰<sup>レ</sup>輅。輅輪曰<sup>レ</sup>輅。輅車之所<sup>ニ</sup> 以載<sup>一</sup>也。車前軹曰<sup>レ</sup>軹。輅端持<sup>ニ</sup>衡<sup>一</sup>。木曰<sup>レ</sup>輅。輅端上曲<sup>ニ</sup> 鈎<sup>一</sup>。衡曰<sup>レ</sup>軌。車軹下曲者曰<sup>レ</sup>輅。然<sup>レ</sup>輅輿車之要也。

天子馭<sup>一</sup>金根、蒲輪關<sup>ニ</sup>四門<sup>一</sup>

天子法駕<sup>ニ</sup>金根車<sup>一</sup>也。一 一本、車名也。又太平御覽曰、秦始皇爲<sup>ニ</sup>金天子孫<sup>一</sup>。故以<sup>ニ</sup>金根之名<sup>一</sup>、々々玩<sup>一</sup>好之具<sup>一</sup>、因車名<sup>ニ</sup>金根車<sup>一</sup>也。根本之。漢武帝以<sup>ニ</sup>安車蒲輪<sup>一</sup>、徵<sup>ニ</sup>魯中公<sup>一</sup>。

關<sup>ト</sup>四門<sup>一</sup>、言徵<sup>ニ</sup>四方之賢<sup>一</sup>人也。一 一本、漢書曰、以<sup>ニ</sup>蒲輪迎<sup>一</sup>二枚乘<sup>一</sup>。以<sup>レ</sup>蒲裹<sup>レ</sup>輪、取<sup>ニ</sup>其安穩<sup>一</sup>也。四門<sup>ト</sup>四方門也。廣<sup>ニ</sup>關召<sup>一</sup>賢人<sup>一</sup>也。

五神趨<sup>ニ</sup>雪路<sup>一</sup>、雙<sup>一</sup>轍似<sup>ニ</sup>雷奔<sup>一</sup>

一 一本、事<sup>ニ</sup>已見<sup>一</sup>雪詩注<sup>一</sup>。周武王伐<sup>レ</sup>紂時大雪。五<sup>ト</sup>大夫乘<sup>ニ</sup>車馬<sup>一</sup>至<sup>レ</sup>門。使<sup>三</sup>尚父器<sup>ヲ</sup>粥進<sup>ニ</sup>五車<sup>一</sup>。左太冲蜀都賦曰、車馬雷奔。轟<sup>ニ</sup>闐々<sup>一</sup>、若<sup>ニ</sup>風<sup>一</sup>流<sup>レ</sup>雨散、漫<sup>ニ</sup>數百<sup>一</sup>里間也。一 一本、司馬相如長門賦曰、雷殷<sup>ニ</sup>々<sup>一</sup>而響起<sup>レ</sup>兮、聲象<sup>ニ</sup>君車之音<sup>一</sup>也。

丹<sup>一</sup>鳳栖<sup>ニ</sup>金轄<sup>一</sup>、非熊載<sup>ニ</sup>寶軒<sup>一</sup>

楊子雲甘泉賦曰、乘<sup>レ</sup> (7ウ) 輿<sup>ニ</sup>適登<sup>一</sup>。夫鳳凰兮翳<sup>ニ</sup>花芝<sup>一</sup>。注云、鳳凰車飾也。又言車轄刻<sup>レ</sup>作鳳凰也。一 一本、天子有<sup>ニ</sup>鳳凰車<sup>一</sup>、作<sup>ニ</sup>鳳於轄上<sup>一</sup>也。周文王欲<sup>レ</sup>獵、卜<sup>ニ</sup> (7) 占之<sup>一</sup>曰、得<sup>ニ</sup>一物<sup>一</sup>、非熊。乃得<sup>ニ</sup>呂望<sup>一</sup>、同載<sup>レ</sup>而歸。有<sup>ニ</sup>金轄玉輅<sup>一</sup>。故言<sup>ニ</sup>寶軒<sup>一</sup>也。

無<sup>レ</sup>階<sup>ニ</sup>添<sup>一</sup>虛左<sup>一</sup>、光<sup>レ</sup>乘奉<sup>ニ</sup>三言<sup>一</sup>

一 一本、史記曰、魏公子無忌使<sup>レ</sup>迎<sup>ニ</sup>朱亥<sup>一</sup>。自御<sup>レ</sup>車過<sup>レ</sup>市、虛<sup>ニ</sup>左<sup>一</sup>而得<sup>レ</sup>。魏公子無忌聞<sup>ニ</sup>嬴賢<sup>一</sup>、自御<sup>レ</sup>車虛<sup>レ</sup>左<sup>一</sup>、以迎<sup>レ</sup>之。魏王曰、寡人有<sup>レ</sup>寶。照<sup>ニ</sup>前後車<sup>一</sup>十二乘也。一 一本、惠王與<sup>ニ</sup>齊威王會<sup>一</sup>。魏王曰、寡人有<sup>ニ</sup>徑寸珠<sup>一</sup>。照<sup>ニ</sup>車前後十二乘<sup>一</sup>。齊

威王曰、吾賢一臣。爲二國之寶。吾二臣有二檀子者、守二南城、則楚人不二敢爲、東取二泗水土、一諸侯、皆來朝。吾臣有二盼子者、使守二高唐、則趙人不二敢東渡漁於河。吾吏有二黔夫者、使守二徐州、則燕人祭二北門、趙人祭二西門、從而從者七千餘家。治臣有二種首者、使治二盜賊、則道不拾遺。將三以照二千里、豈持二十二乘哉。惠王慙不レ快而去也。(8オ)

〔校異〕 1 揮(天) — 輝 2 軺(天) — 車居 3 車(ナシ)(天)  
4 鈎(鈎鈞)(天) 5 輓(輓)(天) 6 太(大)(天) 7 微(微)(天)  
8 事(ナシ)(天) 9 雪(雲)(天) 10 注(註)(天) 11 ナシ(大字)  
上に「丈」(天) 12 闌々(圓々)(天) 13 ナシ(雨字上に「如」(天)  
14 夫(天) 15 花(華)(天) 16 注云(註曰)(天) 17 ナシ(贏)  
字上に「侯」(天) 18 贏(贏)(天) 19 一(ナシ)(天) 20 照(昭)(天)  
21 車(ナシ)(天) 22 十二乘(十乘)(天) 23 ナシ(惠字上に「魏」  
(天)。(天) により補うべきか。 24 寇(冠)(底)、冤(天)。意  
により改む。 25 泗水土(上土)(天) 26 七(也)(天) 27 持(治持)  
照(天) 28 快(憚)(天)

服玩十首

071 牀

釋名曰、牀、裝也。所<sub>レ</sub>以自裝載也。服虔通俗文曰、牀三尺五寸曰榻板、獨坐曰枰、八尺曰牀也。

傳開有二象牀、曠昔薦君王。

戰國策曰、孟嘗君至楚、々獻象牙牀。登徒子送之、見孟嘗、<sub>(X)</sub>門人曰、象牙牀直千金也。曠字發聲也。昔猶

レ前也。

玳瑁千金起、珊瑚七寶裝

一、本、漢武帝作象牙牀、與李夫人。以玳瑁金銀起<sub>レ</sub>裝也。漢武帝內傳、以珊瑚爲牀。一、本、漢武帝內傳

曰、西王母爲珊瑚牀、著柏梁臺上。又作七寶牀<sub>(X)</sub>於<sub>(X)</sub>桂宮中<sub>(X)</sub>也。

桂筵含柏馥、蘭籍拂沈香

桂筵、桂席。東宮故事曰、堂有二素柏局牀。一、本、桂席含<sub>(X)</sub>柏牀<sub>(X)</sub>而香。楚詞曰、蕙有二芬芳兮蘭籍也。一、本、蘭爲<sub>(X)</sub>牀、

沈香爲<sub>(X)</sub>牀、此也。

願奉二羅帷夜、長承二秋(8ウ)月光

古詩曰、明月爰皎々、照我羅惟牀。憂愁不能寐、  
羅衣起徘徊。

〔書入〕①欄上に「毛韻、毒瑁龜屬。亦作毒日月」。

〔校異〕1牀(天)―狀2五寸(天)―五尺3也―ナシ(天)

4徒(天)―從5字―ナシ(天) 6ナシ―曰(天) 7ナシ―也

(天) 8堂―後當(天) 9局―局(天) 10舍―ナシ(天) 11詞

―詩(天) 12牀―席(天) 13此―ナシ(天) 14爰―何(天) 15

羅惟牀(天)―羅牀惟 16寐―寢(天)

072 席

釋名云、席釋也。可卷、可釋也。毛詩曰、我心匪席、不

可卷也。廣韻云、薦席。又籍也。大戴禮曰、周武王踐阼、有

席銘。亦姓。晉席坦也。

避座承宣父、重筵揖戴公

孝經曰、子曰、參、先王有至德要道、以訓天下。

曾子避席曰、參不敏、何足以知之。孔子曰、復席也。

後漢書曰、元日上命雅講論。不勝者輒奪其席。戴憑獨

坐三五十席。一本、後漢戴憑爲侍中。正朝講妙。帝  
賜二席數十重。

桂香浮半月、蘭氣襲迴風

拾遺錄曰、蓐葉菜草、形如半月。可爲席也。一本、

桂席乘月也。上賜趙后弟迴風席也。一本、司馬長卿長

門賦曰、搏芬若以爲枕兮、席荃蘭而苞香。

舞拂流霞上、歌清白雪中

一本、流霞席也。言於席上舞下拂流霞之羽服也。

鮑照詩曰、蜀琴抽白雪。庾肩吾詩曰、絲席清沈撫之。

一本、謝靈運雪賦曰、俄而微霰零、密雪下。梁王乃歌

北風於衛詩、詠南山於周雅。又曰、相如於是避席而起。

又曰、初嬈嬈於墀廡、末禁盈於帷席也。

將文綺色、舒卷帝王宮  
紂之時婦人、皆歌鄭坐文綺席。一本、漢武帝趙昭儀

有綺席也。

〔書入〕①左傍に「席名」。②欄上に「萑、齒改反。香草」。③

欄上に「嬈嬈、雪賦作便娟」。④欄上に「墀廡好貌也。又云、迴

遊貌也」。⑤欄上に「禁輕迴貌也」。⑥欄上に「趙昭儀美人聰名

也」(\*1左傍に「代也」。\*2左傍に「名也」)

〔校異〕 1云―曰(天) 2席―ナシ(天) 3也―ナシ(天) 4  
曰―ナシ(天) 5周―ナシ(天) 6阼―祚(天) 7ナシ―下字

下に「民用和睦、上下無怨。女知之乎」(天) 8席―座席(天)

9ナシ―也(天) 10廻―回(天) 11茵―筵(天) 12ナシ―香字

下に「襲兮」(天) 13照―昭(天) 14絲席清沈、意により「綺席

清絃」に改むべきか。 15謝靈運―謝惠運(天) 16霰―霞(天)

17密―霽(天) 18梁王(天)―梁上 19起―却(天) 20鄭―郢曲

(天)

073 帷

説文、在旁曰帷。釋名曰、圍也。以自障帷也。器物叢説、幃、

圍也。以自圍在二四旁。在上曰幕、上承塵曰帘、十下

四旁悉周、曰幃、亦曰幃、小者曰斗帳、形如二覆斗、單帳

曰幃、牀前帷曰檐也。

久閉先生戸、高褰太守車

董仲舒常閉戸下帷讀書也。一本、後漢書、孫敬閉戸下帷

讀書。號曰閉戸先生也。後漢書、賈琮爲冀州刺史。舊典

州傳驂、駕垂帷迎堦。琮曰、刺史遠(9ウ)視廣闊、乃命褰

之。百一姓皆震悚之也。一本、後漢賈琮爲太守。褰帷。

羅將翡翠合、錦逐鳳凰舒

古詩曰、珠繩翡翠帷。又曰、羅帷自麤鷹之。一本、屈平

招魂曰、翡翠帷、幃飾高堂。此二也。西王母珊瑚爲牀、

紫錦爲帳也。一本、錦帷有鳳凰文也。

明月彈琴夜、清風入幌初

阮嗣宗詩曰、薄帷鑑明月、起坐彈鳴琴。范曄妻詩

曰、傘薄綠羅帷、因風時暫舉。一本、阮嗣宗詩曰、夜中

不能寐、起坐彈鳴琴。薄帷鑑明月、清風吹我

衿。幌帷之對也。

方知決勝策、黃石遺二兵書

張良得黃石公兵書、決二勝於帷幄之中。故高祖曰、夫

運二籌帷幄之中、決二勝千里之外。吾不如此子房也。

〔校異〕 1帷―惟(天) 2帷、意により「圍」に改むべきか。

3上在下(天) 4太―大(天) 5也―ナシ(天) 6書―ナシ

(天) 7刺―刺(天) 8典(天)―一曲 9后―後(天) 10之―也

(天) 11二―ナシ(天) 12ナシ―珊字上に「以」(天) 13錦―ナ

シ(天) 14 范花(底)、危(天)。意により改む。15 宗(宋)(天)

盤龍文、又珠簾畫(作龍文)、々相映。(10ウ)

074 簾

釋名曰、簾廉也。自鄣蔽爲廉恥也。楊雄方言曰、宋魏

陳楚江淮之間謂之簾也。南楚謂之(10才)蓬箔也。自

關以西而謂之箔也。

曉風清竹殿、初日映秦樓

洛陽故事有竹殿詩曰、潭蕩入簾風。一本、竹宮之殿也。

古詩曰、日出東南隅、照我秦氏樓也。

暖々籠珠網、織々上玉鉤

一本、漢武帝爲趙昭儀作眞珠簾也。楚詞曰、網戶珠綴

也。又曰、網戶納珠綴。鮑照曰、玉鉤隔綺窓也。一

本、庾肩吾詩曰、珠簾新上鉤

窓中月影入、戶外水精流

湘東王詩曰、簾間雲影入。又杜詩曰、入簾殘月影、高枕

遠江聲。漢宮儀詩曰、有水精簾也。

巧作盤龍勢、長從飛燕遊

西京雜記、漢武帝爲趙飛燕造照陽殿綠瑠璃戶。々皆刻作

〔書入〕①左傍に「日不明貌也、又光貌也」。

〔校異〕1 日(云)(天) 2 方言曰(日)(方)(言)(底)(天)。意によ

り改む。3 宋(天) 1 宗 4 簾(天) 5 也(ナシ)(天) 6 以

西而(而)(天) 7 氏(代)(天) 8 照(昭)(天) 9 納(網)(天)

10 綴(網)(天) 11 ナシ(也)(天) 12 間(開)(天)。(天)により

改むべきか。13 杜(柱)(天) 14 枕(機)(天) 15 從(天) 1 徒 16

ナシ(日)(天) 17 珠(朱)(天) 18 ナシ(畫)(字)(上)(亦)(天)

075 屏

六帖云古之屏風隔二人之形也。釋名、屏風障風也。古者辰

之遺象也。西京雜記曰、七尺屏風也。

洞徹琉璃敞、威紆屈膝廻

西京雜記曰、上有遺趙飛燕第雲母屏風及窓、瑠璃屏風也。

一本、滿奮侍晉武帝、見北窓瑠璃屏風光明洞徹、疑有

風也。郭子曰、滿奮在晉武帝坐、見北窓瑠璃屏風畏風

帝咲曰、宛如吳牛喘(日)月也。鄴中記曰、石虎爲金銀屈膝

屏風也。

錦中雲母列、霞上織成開

王莽作雲母屏風也。一本、後漢鄭公爲大尉、舉第五倫

爲司空。每朝見公曲躬。帝以雲母屏風隔。東宮故事

曰、太子納妃。有屏風十二條、織成染連銀鈎。一本、

石虎作織成雲霞屏風。

山水含春動、遊仙倒景來

一本、山水畫屏也。抱朴子曰、有山水屏風、有遊山

屏風也。春秋傳曰、言有居上界天者從下照。故曰、倒景

也。一本、屏畫作(一)才(二)仙(三)人(四)下(五)天(六)而來(七)也。

修身行謁帝、誰辯作銘才

一本、京兆舊事曰、蕭詡爲巴郡太守。以父老歸。又有

客、常立屏風後自應命也。三輔決錄曰、和帝南巡。過

汝南。何敞有二刻畫屏風、爲帝設。命侍中黃香作銘

曰、古務彫鏤隔人、忠以竭節、義以修身。一本、后漢

何敞爲汝南太守。帝巡都見有二刻鏤屏風。帝令侍中

黃香作銘也。

〔書入〕①欄上に「展屏風類也」。②左傍に「曲也」。③左傍に

「屏名也」。

〔校異〕1六(天)―古2ナシ(天) 3日(天) 4尺

―夕(天) 5廻(天) 6半(天) 7咲(天) 8ナ

シ(天) 9遊山(天) 10謁帝(天) 11京(天) 12又(天)

13ナシ(天) 14命(天) 15隔(天) 16后(天)

17太(天) 18巡(天) 19有(天) 20ナシ(天)

21大(天) 22後(天) 23後(天)

076 被

身章撮要、被寢衣也。大被曰衿、單曰襦。世上或以錦

綉(一)、或以布素、或以楮皮爲之。取其暖(二)且適(三)也。

桂友尋東閣、蘭交聚北堂

吳均詩曰、結交當桂友。西京雜記、公孫弘爲丞相。時

故一人高賀尋交之。弘以布被給之。公孫弘開東閣招

賢人也。文宣王曰、與好人之交、如入芝蘭之室。后

漢孟宗爲大被、芳友臥(一)。北堂(二)取(三)文對(四)耳。

象筵分錦繡、羅薦合鴛鴦(一)ウ

象牙席(二)上(三)、以(四)錦(五)繡(六)作(七)被(八)也。鴛鴦(九)錦(十)被(十一)也。



桃李同一歡密、塵泥別一恨長

魏文帝詩曰、南國有佳人。容華若桃李。古詩、文綵

雙鴛鴦、裁爲合歡被。曹子建詩曰、孤妾常獨栖。君若

清路塵、妾如深水泥。古詩曰、昔時同一衿、今卒

若胡越。

孔懷欣共寢、花萼幾含芳

詩曰、兄弟孔懷。后漢姜肱兄弟共被寢也。詩曰、常棣之花、

鄂不韡々。喻管蔡失道。一本、今姜肱兄弟共被、如

花萼之芬芳也。

〔書入〕①右傍に「濁也」。②右傍に「遠也」。③左傍に「輝貌也」。

〔校異〕1衿—衾(天) 2世上—世人(天) 3楮皮—楮紙皮(天)

4東閣—東閣(天) 5ナシ—曰(天) 6高賀(天) —高駕 7

ナシ—開字下に「戸」(天) 8后—後(天) 9文—交(天) 10筵

—筵(天) 11以—ナシ(天) 12密—蜜(天) 13深水—濁水(天)

14寢—寐(天) 15花—華(天) 16常—棠(天) 17韡—「韡」

(天) 18喻—前(天)

077 鏡

器物論、鏡之爲言景也。言有光景也。所以照形之物也。

用精銅鑄之。亦曰鑑。蓋人短於目見。必須假

此觀面。然設之於前。雖有妖異、本形皆不容量

也。

明鏡拂塵埃

庾信詩曰、玉匣開明鏡、輕灰暫拭塵。言鏡久不照、

則生埃塵也。

含情(12才)朗魏臺

異苑曰、山雞愛其毛、照水即舞。魏武帝陶方獻

山雞。公子蒼舒令抵大鏡置其前、山雞鑑形而舞不

止。除之則止。詠鏡曰、飛魏宮知本性也。

月中鳥鵲至、花裏鳳凰來

言鏡形似月。又鑄鏡、作鳥鵲鳳凰之形。庾信作詩曰、

開花不隨春。謝朓詩曰、對鳳臨清水。

玉彩疑冰徹

言有二玉鏡及寶鏡、謂以寶玉裝飾之。言鏡光彩疑徹

似冰。梁簡文帝云、鏡如水不見水也。

金輝似日開

亦名曰「金鏡」。言其光如二日之光彩也。

方知樂彥輔、自有「鑑」人才。

樂廣、字彥輔。有「試鑑」。爲「吏部侍郎」。時人比之「冰鏡」。言將「鏡」。樂彥因有「鑑人之明」也。

〔校異〕 1 ナシ―曰(天) 2 之―ナシ(天) 3 也―ナシ(天)

4 妖―殊(天) 5 久―反(天) 6 山雞―雞(天) 7 陶、意によ

り「南」に改むべきか。8 作―ナシ(天) 9 ナシ―也(天) 10

之―也(天) 11 疑―凝(天) 12 帝―公(天) 13 云―曰(天) 14

氷―水(天) 15 ナシ―光字下に「照」(天) 16 試鑑 識鑑(天)

17 ナシ―時字上に「言」(天)

078 扇

楊雄法言、扇自「關」而東謂「之」之「筵」、自「關」而西謂「之」之「扇」。四聲

字苑、所「以」取「風」也。又作「筵」。一名「筵」。(1 2 3)「音捷」(4)作

「筵」。

翟羽舊傳名、蒲葵實曉清

崔豹古今注曰、雉尾扇起於殷高宗也。晉書曰、有「人」任「中

宿縣」。罷還詣「謝安」。々問「其資」。答曰、唯有「蒲葵」

扇五萬。安石取「其中」、知「者」授「之」。京師士庶競如「市」也。

花輕不滿「面」、羅薄誰障「聲」

曹植有「九花扇賦」。又有「青羅扇」。

逐「暑」台「風」轉、臨「秋」帶「月」明

班婕妤詩曰、裁爲「合歡扇」、團々似「明月」。下云、動「搖

微風發」。

還取「同心契」、特表「合歡情」

沈約詩曰、贈「子」同心扇。班婕妤之詩也。以上三詠註此一本

註耳。今本注「零落而不遇耳」。

〔校異〕 1 ナシ―曰(天) 2 而西(天)―南西(天) 3 筵―簾(天)

4 音捷―音接(底)、其捷(天)。意により改む。5 注―註(天)

6 高宗―高祖(天) 7 資―貨(天) 8 ナシ―石字下に「中」(天)

9 授―捉(天) 10 如―ナシ(天) 11 歡―勸(天) 12 ナシ―之也

(天) 13 班婕妤之詩―班婕妤詩(天) 14 今本注―今上本註(天)

15 而―ナシ(天)

周禮曰、凡邦國大事、司烜氏共黃燭、祭祀共明燭。儀禮曰、燕則庶子執燭於階上。司宮執燭於西階上。甸人執燭於庭。閭人爲燭於門外。凡燭、至起也。(13オ)

寃月清光隱、龍盤畫燭新

有龍盤形也。言兔月光落、即設燭也。

三星花入夜、四序玉調辰

燭燼落似星也。一本、毛詩曰、三星在天。謂(三)心星始見(東)方(一)二月之合家。嫁娶者以爲(候)也。婚有(花)燭(一)似(落)星(也)言(候)嫁(娶)象(當)設(花)燭(一)春秋傳

曰、四序謂之四時也。四時謂之玉燭也。一本、四時

風雨順、四玉燭調和也。四時調謂之玉燭也。

吐翠依羅帳、浮香匝綺茵

梁元帝燭賦曰、飄輕煙而吐翠。又蘭膏有(香)茵席也。

一本、茵蓐也。

若逢燕相國、特以舉賢人

燕書曰、夜盡火不(明)相曰、舉燭者(高)明也。舉賢任(國)

以理也。一本、韓子曰、鄭人有遺燕相書者曰、舉燭者

高明也。舉賢任之國、乃理也。

孔明也。舉賢任之國、乃理也。

孔明也。舉賢任之國、乃理也。

〔書〕①欄上に「鄭人有遺燕相國〔書〕者。夜書、謂持燭者

曰、舉燭。而誤書舉燭。相受書曰、舉燭者高明。々々者舉賢而

用也。

〔校異〕1 祝(天) 2 隱(陰) 3 畫(盡) 4 合家

— 合宿(天)。(天)により改むべきか。5 候(侯) 6 也(天)

ナシ(天) 7 四(ナシ) 8 元帝

(天) — 李元帝 9 蘭膏(蘭亭) (天) (天)により改むべきか。

10 畫(天)。(天)により「書」に改むべきか。

080 酒

飲膳標題、酒者天之美酒。帝王所以享祀祈福。扶老交

歡。百福之會、非酒不行。酒有清濁(一)(13ウ)厚薄

之不同。故清者曰醴。清而甘曰醕。濁曰醢。厚曰醪。

重釀曰酎。薄曰醕。一宿熟曰醕。美者曰醕。紅者曰

醕。綠者曰醕。白者曰醕。麥酒不(去)滓而飲曰醕。

食療經云、五穀華味之至也。故能益人、亦能損人也。

孔座洽良儔、陳筵幾獻酬

后漢書、孔文舉、名融、爲北海相。常歎曰、坐上客恆滿、

樽中酒不空、吾無憂也。漢書、陳遵爲京兆尹。每大飲。賓客滿堂中。取客車轄投井中。雖有急不得去也。

初主人酌酒與客、名曰獻。客更酌與主人曰酬也。

臨風竹葉滿、湛月桂香浮

宣城出竹葉酒也。楚詞曰、奠桂酒兮椒漿。月中有桂。

又風前月下、古賢勝飲之也。一一本、桂酒々名也。

每接高陽宴、屢陪河朔遊

山濤每往高陽習都家池、飲酒大醉而歸也。一一本、晉書、

山簡、字季倫。爲荊州刺史。每往習都家池醉曰、我

高陽也。袁紹每盛夏大飲而避(14オ)暑、謂之河朔飲

也。一一本、典論曰、表紹常盛夏三伏際晝夜酣飲云、避一時

之暑、人效之。故河朔有避暑之飲。

會從玄石飲、羣液出圓丘

一一本、博物志曰、昔名玄石。從中山酒家、酤酒。々

家與千日酒、飲至家、醉以死。而葬。酒家計日滿、掘

塚而見之、醒也。眞人有玄碧之飲。圓丘眞人所居也。

一一本、后漢郭憲、爲光祿卿。從駕南郊、含酒、東北三嘍

云、齊國失火。后齊奏云、火災。是日有雨、作酒氣。

祭日於圓丘曰郊也。

〔書入〕①右傍に「余與反」。②右傍に「烏浪反」。③左傍に「吳人也」。

〔校異〕1 享—亭(底)(天)。意により改む。2 行—可(天)

3 薄—簿(天) 4 醕—配(天) 5 醕—醞(天) 6 醕—醞(天)

7 味—味(天) 8 能—却(天) 9 后—後(天) 10 坐—座(天)

11 宣城—宣城(天) 12 分—号(天) 13 月下(天) 14 ナシ

也字下に「桂香、桂煎有作酒。因桂酒名云桂香」(天) 15 習都、

意により「習郁」に改むべきか。16 簡—藹(天) 17 袁—表(天)

18 而—云(天) 19 表紹、意により「袁紹」に改むべきか。20 ナ

シ—飲字下に「焉」(天) 21 昔名玄石—「昔有人。名玄石」(天)

22 掘—握(天) 23 玄碧—玄石(天) 24 奏—美(天)

文物十首

081 經

孝經曰、經常也。廣韻曰、絞也。徑也。亦經緯也。

漢室鴻儒盛、鄒堂大義明

漢初置五經博士、崇儒業也。一一本、漢有二公孫弘匡衡

等一、并以儒術爲相也。混天圖云、孔丘、字仲尼。魯國鄒  
 邑闕里人也。周靈王二十四年辛亥十二(14ウ)月四日生。身  
 長九尺六寸。頭像尼丘山、頂窠。可受二升二合。額上  
 有乾字。垂手過膝。河目海口、耳目車輪。髮長七尺。  
 爲魯司寇。有二大聖德。刪詩書、定禮樂、贊易道、  
 修春秋、仁義禮智信君臣父子夫婦之道。開三堂、教誨  
 弟子。魯衛趙楚魏齊梁之等、三千餘人。事林云、學校之  
 制三代共之。皆所以治人倫也。自漢開設學校。至  
 明一章二帝而辟雍制大舉。鄒堂者孔子生魯國鄒邑之闕里  
 矣。建講堂、刪詩書、定禮樂。故曰、大義明也。恭王  
 四十一年四月四日乙卯午時卒矣。

五千道德闡、三百禮儀成

老子爲尹喜說五千言。名曰道德經也。禮記云、禮經  
 三百、威儀三千也。老君周定王三年乙卯三月十五日卯時生。  
 至簡王十三年爲周太史。赧王元年壬午避周之襄。聖紀  
 經云、老君生於周陳國瀨水柳曲仁里九井之西李樹下。母左  
 腋而生。々々時紅光滿空、紫氣浮天。玉女跪(15才)蓋捧。  
 仙童侍衛。九童吐水。麟鳳相候。歩々蓮生。素髮童顏、  
 相顏圓滿。懷(八十一載)以應太陽之歷數。指李樹

爲姓。遂駕青牛素車去周、西至陝州桃林縣。過函谷、  
 爲關令尹喜說道德五千言。今道德經是也。老子以甲寅年  
 四月二十八日於宅商山(館)與諸仙同上昇。  
 青紫方拾芥、黃金徒滿籬

夏侯勝曰、荷明二經、取青紫如俯拾地芥也。見明經、  
 位至丞相故也。一一本漢書云、韋賢曰、遺子黃金滿籬、  
 不<sub>レ</sub>如教子一經也。  
 誰知懷逸辯、重席控群英

漢書、上令講經、不<sub>レ</sub>如奪其席。侍中戴憑坐五十重席也。  
 事已見席詩注也。

〔校異〕 1孝經孝經序(天) 2日云(天) 3絞也徑也一經也。  
 絞也(天) 4也一ナシ(天) 5并竝(天) 6孔丘一孔子、名  
 丘(天) 7窠一穴(天) 8贊一替(天) 9魏一ナシ(天) 10治一收  
 (天) 11辟一壁(天) 12ナシ一制字上に之(天) 13舉一學(天)  
 14之一ナシ(天) 15尹(天) 16君 16說 疏(天) 17日一ナシ(天)  
 18云一曰(天) 19三一一(天) 20太一太(天) 21ナシ一赧字上  
 に至(天) 22々一ナシ(天) 23蓋捧一捧蓋(天) 24候一侯(天)  
 25懷一懷妊(天) 26西一而(天) 27爲一ナシ(天) 28二十八一

廿八(天) 29ナシ也(天) 30侯一候(天) 31注一註(天)

082 史

疎事切。說文作史。記事者也。

馬記天官設班固地理志也。班固修漢書。

司馬遷修史記。八書有(天)天官書也。班固修漢書。(15)

ウ一十志有地理志也。是謂漢史也。

談諧方輿々々、文質乃彬々

晉書、王濟三月三日禊飲洛水。明日人間、何如昨。

答曰、張華言談史漢。王戎談子房季札之間。超然著

文。臺々可聽。臺々清不絶貌。論語、文宣王曰、文勝質

則史。質勝文則野。文質彬々然。后君子重之也。

方朔初匡漢、荊軻昔向秦

東方朔上書曰、臣讀史書。史足用也。一本、桓譚新論

曰、司馬遷造史記。成以示東方朔。々爲平定。因署其

下。太史公者朔所加也。東方朔本姓金、初生代郡之東方

里。五月一日生。因號東方朔也。荊軻爲燕太子入秦

也。一本、荊軻以督燕地圖獻秦王。此是燕地之圖史也。

正辭堪載筆、終冀作良臣

左傳曰、史正辭也。禮曰、史載筆也。左傳曰、董狐古之良

史也。一本、班固曰、司馬遷古之良史也。(16才)

〔校異〕 1 史一史(天) 2 意により改む。 3 是ナシ(天) 4 華一花(天) 5 可一呵(天) 6 ナシ一不字

上に「言(天) 7 ナシ也(天) 8 后一後(天) 9 也一ナシ(天)

10 史一文史(天)。(天) により改むべきか。 11 々一ナシ(天)

12 平定一評定(天) 13 署一置(天) 14 太一大(天) 15 五月一正

月(天) 16 之也(天) 17 載一戴(天) 18 孤一珂(天)。意によ

り「狐」に改むべきか。

083 詩

詩序云、詩者志之所之也。在心爲志、發言爲詩。情動

於中、而形於言。々之不不足、故嗟嘆之。正義曰、人志意

之所適也。雖有所適、猶未發口。蘊藏在心、謂之

爲志。發見於言、乃名爲詩。故虞書謂之詩言志也。

都尉雙鳧遠、梁王駟馬來

漢書、李陵爲<sub>二</sub>都尉<sub>一</sub>。兵敗降<sub>テ</sub>匈奴<sub>ニ</sub>。與<sub>二</sub>蘇武<sub>一</sub>詩曰、雙<sub>一</sub>鳧<sub>一</sub>俱北飛、一鳧獨南翔。蘇武歸也。漢書、武帝宴<sub>二</sub>柏梁臺<sub>一</sub>。詔<sub>二</sub>群<sub>一</sub>臣賦<sub>二</sub>七言詩<sub>一</sub>。曰、王<sub>三</sub>驂<sub>一</sub>駒<sub>一</sub>馬<sub>一</sub>從<sub>レ</sub>梁來。續<sub>二</sub>連句<sub>一</sub>也。扇中<sub>二</sub>紈素裂<sub>一</sub>、機上<sub>二</sub>錦文迴<sub>一</sub>。

班婕妤詩、新裂<sub>二</sub>齊紈素<sub>一</sub>。一本、班婕妤詩已見<sub>二</sub>雪詩注<sub>一</sub>。晉<sub>二</sub>寶滔<sub>一</sub>爲<sub>二</sub>梁州刺史<sub>一</sub>。當<sub>レ</sub>去、與<sub>レ</sub>妻別約<sub>レ</sub>無<sub>二</sub>異<sub>一</sub>心<sub>一</sub>。至<sub>レ</sub>官<sub>一</sub>乃<sub>レ</sub>娶<sub>レ</sub>妻。蘇氏怨<sub>レ</sub>因<sub>レ</sub>織<sub>レ</sub>錦、作<sub>レ</sub>迴<sub>レ</sub>文詩<sub>一</sub>寄<sub>レ</sub>滔也。

天子<sub>三</sub>三章<sub>一</sub>傳、陳王<sub>三</sub>七步<sub>一</sub>才

一<sub>一</sub>本、穆天子傳曰、休<sub>二</sub>於迴中<sub>一</sub>。大寒<sub>二</sub>雪天<sub>一</sub>子作<sub>二</sub>詩三章<sub>一</sub>。魏<sub>二</sub>文帝<sub>一</sub>令<sub>二</sub>陳思王曹植<sub>一</sub>七<sub>一</sub>步<sub>一</sub>作<sub>二</sub>詩<sub>一</sub>。如<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>天<sub>一</sub>法<sub>一</sub>。即應<sub>レ</sub>聲曰、煮<sub>レ</sub>豆<sub>一</sub>燃<sub>レ</sub>豆<sub>一</sub>箕<sub>一</sub>。(16ウ)豆在<sub>二</sub>釜中<sub>一</sub>泣。本是同<sub>二</sub>根生<sub>一</sub>。

相<sub>レ</sub>煎<sub>レ</sub>何<sub>レ</sub>太<sub>レ</sub>急。帝感<sub>レ</sub>而釋<sub>レ</sub>之。

縉衣行 擅<sub>レ</sub>美、祖<sub>レ</sub>德<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>悠<sub>一</sub>哉

毛詩曰、縉衣美<sub>二</sub>鄭武公<sub>一</sub>也。云、縉衣<sub>一</sub>敝<sub>一</sub>、今改<sub>レ</sub>爲<sub>二</sub>謝靈運<sub>一</sub>述<sub>二</sub>祖德<sub>一</sub>詩曰、惠<sub>レ</sub>物<sub>レ</sub>辭<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>賞<sub>一</sub>、厲<sub>レ</sub>志<sub>レ</sub>故<sub>レ</sub>絕<sub>レ</sub>人<sub>一</sub>。迢<sub>レ</sub>々<sub>一</sub>歷<sub>二</sub>千歲<sub>一</sub>、遙<sub>レ</sub>々<sub>一</sub>播<sub>二</sub>清塵<sub>一</sub>。々々<sub>一</sub>竟<sub>レ</sub>誰<sub>レ</sub>嗣<sub>一</sub>、明<sub>レ</sub>哲<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>經<sub>レ</sub>綸<sub>一</sub>。

[校異] 1云—曰(天) 2ナシ—志字上に「蓋」(天) 3王<sub>一</sub>玉(天) 4迴—回(天) 5班—斑(天) 6注—註(天) 7晋—晉

書(天) 8ナシ—妻字上に「別」(天) 9陳(天) —陣 10曰—云(天) 11ナシ—也(天) 12擅—擅(天) 13敝—弊(天) 14迢—苕(天) 15綸—論(天)

084 賦

詩有<sub>二</sub>六<sub>一</sub>義<sub>一</sub>。二曰<sub>レ</sub>賦。釋名曰、敷<sub>レ</sub>布<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>義<sub>一</sub>。謂<sub>二</sub>之<sub>一</sub>賦。漢書、不<sub>レ</sub>歌<sub>レ</sub>而頌<sub>レ</sub>曰<sub>レ</sub>賦。又<sub>レ</sub>斂<sub>レ</sub>也。班也。稅也。

布<sub>レ</sub>義<sub>レ</sub>孫<sub>レ</sub>卿<sub>一</sub>子、登<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>楚<sub>レ</sub>屈<sub>レ</sub>平

漢書曰、孫卿及屈平、皆憂<sub>レ</sub>國<sub>レ</sub>作<sub>レ</sub>賦、以<sub>レ</sub>諷<sub>レ</sub>誦。賦者謂<sub>二</sub>鋪<sub>一</sub>布<sub>一</sub>其<sub>レ</sub>義<sub>一</sub>也。釋名、敷<sub>レ</sub>賦<sub>一</sub>同。毛詩曰、登<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>賦<sub>一</sub>也。

銅臺初<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>筆、平樂正<sub>レ</sub>飛<sub>レ</sub>纓

魏文帝造<sub>二</sub>銅雀臺<sub>一</sub>。初<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>諸<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>作<sub>レ</sub>賦。陳思王授<sub>レ</sub>筆、乍<sub>レ</sub>先<sub>レ</sub>立<sub>レ</sub>成。帝異<sub>レ</sub>之<sub>一</sub>也。季彥作<sub>二</sub>平樂觀賦<sub>一</sub>也。一本、前漢枝<sub>レ</sub>臯<sub>一</sub>作<sub>二</sub>平樂觀賦<sub>一</sub>特<sub>レ</sub>妙<sub>一</sub>也。拜<sub>レ</sub>爲<sub>二</sub>中<sub>一</sub>郎<sub>一</sub>、既<sub>レ</sub>蒙<sub>レ</sub>纓<sub>一</sub>綬<sub>一</sub>。故曰飛<sub>レ</sub>纓<sub>一</sub>也。

乍<sub>二</sub>有<sub>一</sub>凌雲氣、時(17オ)開<sub>二</sub>擲<sub>一</sub>地聲<sub>一</sub>

司馬相如作<sub>二</sub>大人賦<sub>一</sub>、奏<sub>二</sub>漢武帝<sub>一</sub>。々々曰、朕飄々<sub>一</sub>如<sub>レ</sub>有<sub>二</sub>凌雲之氣<sub>一</sub>也。孫綽、字興公。作<sub>二</sub>天臺山賦<sub>一</sub>。成<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>示<sub>レ</sub>范<sub>レ</sub>榮<sub>一</sub>期<sub>一</sub>曰、

卿試擲<sup>レ</sup>地<sup>ニ</sup>、金玉之聲<sup>ニ</sup>。范曰、子之金玉、非吾宮商中聲<sup>ニ</sup>也。

一 一本、孫綽爲三天臺山賦(二)、示范榮期(一)。々々曰、此賦擲<sup>レ</sup>地<sup>ニ</sup>作金玉之聲<sup>ニ</sup>也。

造端 恆<sup>ニ</sup>休<sup>レ</sup>物<sup>ヲ</sup>、無復<sup>レ</sup>大<sup>ニ</sup>夫<sup>ノ</sup>名<sup>ニ</sup>(二)

陸士衡文賦曰、賦體(一)物以劉<sup>レ</sup>亮也。一 一本、漢書曰、不歌而誦曰賦也。登<sup>レ</sup>高能賦、可<sup>レ</sup>爲大<sup>ニ</sup>夫<sup>ト</sup>。言感<sup>レ</sup>物造端<sup>ニ</sup>材智陳<sup>レ</sup>美<sup>ヲ</sup>。可<sup>レ</sup>與<sup>ニ</sup>圖<sup>ニ</sup>政事<sup>也</sup>。

〔書入〕①(底)(前)は「條(条)」に作りて、左傍に「樂敷」。

〔校異〕 1 曰一ナシ(天) 2 又一亦(天) 3 ナシ一也字下に「量也」(天) 4 ナシ一也(天) 5 子士(天) 6 樂(天) 一條(底) 7

令一ナシ(天) 8 季一季(天)。(天)により改むべきか。 9 枚

一枚(天)。(天)により改むべきか。 10 也一ナシ(天) 11 既一ナシ(天) 12 馬(天) 一長 13 々(天) 一ナシ 14 試一賦(天)

15 ナシ一金字上に「作」(天)。(天)により改むべきか。 16 恆一

恒(天) 17 大夫一丈夫(天) 18 劉亮、意により「瀏亮」に改むべきか。 19 ナシ(天) 一言字上に「言感能賦、可<sup>レ</sup>爲大<sup>ニ</sup>夫<sup>一</sup>也」。

20 政事一故事(天)

085 書

々序曰、伏羲始造<sup>テ</sup>書契、以代<sup>ニ</sup>結繩之政<sup>ニ</sup>。由<sup>テ</sup>是文籍生焉。

正義曰、書者舒也。書緯、旋機鈴云、書者如也。則書寫<sup>レ</sup>言如其意<sup>ニ</sup>。世本曰、沮誦蒼頡作<sup>レ</sup>書。釋名、書庶也。紀庶物也。

亦言著也。著<sup>ニ</sup>之簡紙<sup>ニ</sup>、求<sup>テ</sup>不<sup>レ</sup>滅也。

削<sup>レ</sup>簡龍文見、臨<sup>レ</sup>池鳥迹舒

后漢蔡邕篆書勢曰、或象<sup>ニ</sup>龍文<sup>ニ</sup>、或比<sup>ニ</sup>(一七ウ)龍鱗<sup>ニ</sup>。古時

削<sup>レ</sup>木爲<sup>ニ</sup>簡<sup>一</sup>札<sup>一</sup>之。一 一本、介子推題<sup>ニ</sup>晉文公門<sup>ニ</sup>曰、一龍矯

々、三蛇從<sup>レ</sup>之。龍飢<sup>ニ</sup>于野<sup>ニ</sup>、一蛇割<sup>レ</sup>股、二蛇入<sup>ニ</sup>草野<sup>ニ</sup>。趙

襄刀削<sup>レ</sup>之。文<sup>一</sup>字更分<sup>レ</sup>明也。漢書、蒼頡觀<sup>ニ</sup>鳥迹<sup>ニ</sup>、以作<sup>ニ</sup>

文<sup>一</sup>字。后漢張芝臨<sup>レ</sup>池學<sup>レ</sup>書。池水盡黑也。

河圖八卦出、洛字九疇初

伏羲氏王<sup>ニ</sup>天下<sup>ニ</sup>。龍馬出<sup>レ</sup>河、以書<sup>ニ</sup>八<sup>ニ</sup>卦<sup>ニ</sup>、謂<sup>ニ</sup>之河圖<sup>ト</sup>也。

一 一本、帝王世說曰、河出<sup>ニ</sup>龍圖<sup>ニ</sup>、授<sup>ニ</sup>伏羲<sup>ニ</sup>、遂書<sup>ニ</sup>八<sup>ニ</sup>卦<sup>ニ</sup>也。

天與<sup>レ</sup>禹、洛出<sup>レ</sup>書也。神<sup>一</sup>龜負<sup>レ</sup>文、列<sup>ニ</sup>於背<sup>ニ</sup>、有<sup>レ</sup>數<sup>ニ</sup>至<sup>ニ</sup>于九<sup>ニ</sup>。

謂<sup>ニ</sup>之九疇<sup>ト</sup>。初<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>十八<sup>ニ</sup>字<sup>ニ</sup>。禹因<sup>レ</sup>第<sup>レ</sup>之也。一 一本、洛龜書

曰、九疇以授<sup>レ</sup>禹。今洪範首篇是也。

垂露春花滿、崩雲骨氣餘

大篆體有<sup>ニ</sup>垂露<sup>ニ</sup>。鮑昭曰、勢輕如<sup>レ</sup>露、重似<sup>ニ</sup>崩雲<sup>ニ</sup>。一 一本、蕭子



良古今篆隸文體曰、垂<sub>レ</sub>露<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>者漢郎中扶風曹喜爲<sub>レ</sub>之所<sub>二</sub>章奏<sub>一</sub>也。雲<sub>レ</sub>氣<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>氣。書<sub>レ</sub>者黃帝時慶雲見。所<sub>レ</sub>取<sub>二</sub>其<sub>レ</sub>狀<sub>一</sub>以爲<sub>レ</sub>書也。

請君看<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>木、一寸信非<sub>レ</sub>虛。

王羲之文書入<sub>レ</sub>木一寸餘也。一(18オ)本、神仙傳、王方平、漢桓帝時入<sub>レ</sub>宮、乃題<sub>二</sub>門<sub>レ</sub>板<sub>レ</sub>扇<sub>一</sub>。帝使<sub>レ</sub>削、外<sub>一</sub>字去、内<sub>一</sub>字改。入<sub>レ</sub>木一寸也。

〔校異〕一書緯—緯(天) 2世—也(天) 3沮誦(天)—〔舊誦

4紀—記(天) 5著—箸(天) 6后—後(天) 7龍—龜(天)

8古時—古詩(天) 9ナシ—也(天) 10觀—ナシ(天) 11迹—

□〔赤—〕(天) 12池—地(天) 13黑—墨(天) 14義—義(天)

15說—記(天) 16神龜—神龍(天) 17也—之(天) 18書氣—ナ

シ(天) 19ナシ—曰(天) 20ナシ—入字上に〔徵〕(天)

086 檄

胡狄切。符檄。說文曰、二尺之書也。

羽檄本宣明、由來敷<sub>レ</sub>木聲<sub>一</sub>

檄宣<sub>一</sub>揚其事<sub>一</sub>。故言<sub>一</sub>宣明<sub>一</sub>。說文曰、檄者二尺也。從<sub>レ</sub>木

敷<sub>レ</sub>聲。於<sub>二</sub>木邊<sub>一</sub>敷<sub>レ</sub>字、古者未<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>紙、書<sub>二</sub>文字<sub>一</sub>於<sub>レ</sub>木<sub>一</sub>。又插<sub>レ</sub>鳥<sub>レ</sub>羽<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>其上<sub>一</sub>。言急<sub>一</sub>也。

聯翩<sub>一</sub>通<sub>二</sub>滿國<sub>一</sub>、迢遞<sub>一</sub>入<sub>二</sub>燕管<sub>一</sub>

一本、項羽檄<sub>一</sub>漢高祖也。言檄書<sub>レ</sub>上插<sub>レ</sub>鳥羽<sub>一</sub>。命急<sub>一</sub>故言<sub>二</sub>聯翩<sub>一</sub>、亦名<sub>二</sub>羽檄<sub>一</sub>也。史記云、魯仲連檄<sub>一</sub>燕將<sub>一</sub>。々々感<sub>レ</sub>之、泣<sub>二</sub>三日<sub>一</sub>而自<sub>レ</sub>殺<sub>一</sub>。

毛義捧<sub>レ</sub>書去、張儀韜<sub>レ</sub>壁征

毛義有<sub>二</sub>孝行<sub>一</sub>。張奉慕<sub>二</sub>其名<sub>一</sub>、往<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>之。見<sub>二</sub>府<sub>一</sub>檄<sub>一</sub>到<sub>一</sub>、義捧

檄也。白<sub>二</sub>其<sub>レ</sub>母<sub>一</sub>、有<sub>二</sub>喜<sub>一</sub>色<sub>一</sub>。奉辭<sub>レ</sub>去。怪<sub>二</sub>其<sub>レ</sub>無<sub>レ</sub>節操<sub>一</sub>。

及<sub>二</sub>後<sub>一</sub>義母終<sub>レ</sub>沒<sub>一</sub>、又<sub>レ</sub>徵<sub>レ</sub>義、々終<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>受。奉<sub>レ</sub>歎<sub>一</sub>云、義前<sub>レ</sub>受<sub>二</sub>

薄<sub>レ</sub>祿<sub>一</sub>者、蓋<sub>レ</sub>欲<sub>レ</sub>供<sub>レ</sub>母<sub>一</sub>之。東觀漢記云、盧江毛義少<sub>レ</sub>時家貧、

以<sub>二</sub>孝<sub>一</sub>(18ウ)行<sub>一</sub>稱<sub>レ</sub>。南陽張奉慕<sub>二</sub>其名<sub>一</sub>、往<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>之。坐定、

而<sub>レ</sub>府<sub>一</sub>檄<sub>一</sub>適<sub>レ</sub>至、以<sub>レ</sub>義<sub>一</sub>守<sub>レ</sub>令<sub>一</sub>。義捧<sub>レ</sub>檄<sub>一</sub>而入<sub>レ</sub>喜、動<sub>レ</sub>顔<sub>レ</sub>色。張奉

薄<sub>レ</sub>之。義母<sub>レ</sub>亡。遂<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>仕。奉<sub>レ</sub>歎<sub>一</sub>曰、居<sub>レ</sub>祿<sub>一</sub>者爲<sub>レ</sub>親<sub>一</sub>也。義養

母。檄<sub>レ</sub>義爲<sub>二</sub>彭澤令<sub>一</sub>。及<sub>二</sub>之<sub>一</sub>任<sub>一</sub>、后<sub>レ</sub>母<sub>レ</sub>亡。即<sub>レ</sub>避<sub>レ</sub>之、遂<sub>レ</sub>不

就<sub>一</sub>也。一本、張儀魏人。嘗<sub>レ</sub>從<sub>二</sub>楚相<sub>一</sub>。々々亡<sub>レ</sub>壁。意謂<sub>二</sub>儀盜<sub>一</sub>。

掠<sub>二</sub>答儀<sub>一</sub>。々後<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>秦、爲<sub>レ</sub>檄<sub>一</sub>告<sub>二</sub>楚相<sub>一</sub>曰、吾<sub>レ</sub>從<sub>レ</sub>汝<sub>レ</sub>飲、不

盜<sub>レ</sub>汝<sub>レ</sub>壁。吾<sub>レ</sub>今<sub>レ</sub>當<sub>レ</sub>盜<sub>二</sub>汝<sub>一</sub>城<sub>一</sub>耳。

頭<sub>一</sub>風雖<sub>レ</sub>覺<sub>レ</sub>愈、陳草未<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>名

陳琳作檄文章<sup>二</sup>、成呈魏武帝<sup>三</sup>。先患頭風<sup>四</sup>、是日臥讀<sup>レ</sup>所製<sup>一</sup>、翕然<sup>①</sup>而起<sup>二</sup>曰、是愈我病<sup>一</sup>也。

〔書入〕①左傍に「和樂貌」。

〔校異〕1 曰―ナシ(天) 2 之―ナシ(天) 3 從―漢(天) 4 滿―漢(天) 5 云―曰(天) 6 ナシ―也(天) 7 往―桂(天) 8 候―侯(天) 9 ナシ―又字上に「後」(天) 10 々終―之絶(天) 11 之―也(天) 12 仕―任(天) 13 ナシ―檄字上に「即捧」(天) 14 后―後(天) 15 亡―云(天) 16 城耳―拭月也(天) 17 日―曰(天) 18 製―制(天)

087 紙

釋名曰、紙砥也。謂平滑如砥石<sup>二</sup>也。古者以縑帛<sup>三</sup>依書<sup>一</sup>長短隨事<sup>レ</sup>截<sup>レ</sup>之。名曰幡紙<sup>一</sup>。故其字從糸。至後漢元興中<sup>二</sup>蔡倫<sup>一</sup>對<sup>二</sup>故布<sup>一</sup>、搗打作紙<sup>二</sup>。又其字從巾<sup>一</sup>。或云、倫搗<sup>二</sup>故魚網<sup>一</sup>作紙<sup>二</sup>、名網紙<sup>一</sup>也。

妙迹蔡侯施、芳名古伯馳

后漢書曰、黃門郎蔡倫造紙。故曰蔡侯<sup>一</sup>也。一本(19才)、三輔決錄曰、韋誕蔡邕書羊古伯紙、不妄下筆。可<sup>レ</sup>用<sup>二</sup>張芝

筆、羊古伯紙、及<sup>二</sup>臣墨<sup>一</sup>也。

雲飛錦綺落、花發縹紅披

后漢超岐落<sup>レ</sup>紙如<sup>レ</sup>飛。言文章如<sup>二</sup>錦繡<sup>一</sup>也。一本、書評曰、投筆若<sup>レ</sup>飛、紙落如<sup>レ</sup>雲。紙有<sup>二</sup>錦綺文縹青色<sup>一</sup>。照明序曰、名溢<sup>二</sup>於縹囊<sup>一</sup>也。一本、桓公詔<sup>二</sup>平準<sup>一</sup>、作桃花紙。縹<sup>レ</sup>紅輕<sup>レ</sup>綠色<sup>一</sup>。

舒卷隨<sup>二</sup>幽顯<sup>一</sup>、廉方合<sup>二</sup>軌儀<sup>一</sup>

言書中事似<sup>二</sup>幽冥<sup>一</sup>。舒展時類<sup>二</sup>顯揚<sup>一</sup>也。傳玄紙賦曰、方廉有<sup>レ</sup>度。體性眞素也。

莫驚<sup>レ</sup>反覆字、當取<sup>二</sup>葛洪規<sup>一</sup>

抱朴子曰、葛洪家貧無<sup>レ</sup>紙。伐<sup>レ</sup>薪賣、以給<sup>二</sup>紙筆<sup>一</sup>也。每寫<sup>レ</sup>書反<sup>レ</sup>覆而書<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>字。人少<sup>二</sup>能讀<sup>一</sup>也。

〔校異〕1 對―到(天) 2 布―南(天) 3 搗打―搗抄(天) 4 后―後(天) 5 日―ナシ(天) 6 羊古伯紙―羊古伯(天) 7 不妄不<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>已<sup>一</sup>(底)、妄<sup>一</sup>、(天)。意により改む。8 羊古伯紙―羊口(隔一格) 古伯紙(天) 9 若<sup>レ</sup>君(天) 10 照<sup>レ</sup>昭(天) 11 溢<sup>レ</sup>逸(天) 12 桓公―桓玄公(天) 13 花<sup>レ</sup>華(天) 14 ナシ―也(天) 15 類<sup>レ</sup>賴(天) 16 傳玄―傳云(天) 17 素<sup>レ</sup>潔(天) 18 伐<sup>レ</sup>代(天) 19 也―ナシ(天) 20 而―ナシ(天)

釋名曰、筆述也。謂述事而言レ之也。博物志曰、蒙恬造筆。

曲禮云、史載レ筆、士載レ言。又レ此則秦之前已有筆矣。蓋

諸國或未ニ其名ニ、而秦獨得レ其名、恬更爲之損益ニ耳。(19ウ)

握管 門庭側、含レ臺山一水隈

左思作三都賦、門庭戶牖皆著筆硯也。一本、后漢王充作

論衡。門戶置筆硯也。楚詞曰、登山臨水。賦言レ歸

也。一本、陸士衡文賦曰、或含レ毫而邈然。毫筆毛也。夫登

レ山臨レ水。詞人動レ詠也。

霜輝簡 上發

御史作二霜簡。言其如二霜之肅也。一本、御史執レ筆動二霜簡

也。謂二彈レ物事也。

錦色夢中開

梁江淹、夢郭璞與五色筆。文藻日新。後三十年夢取此筆

去。文章乃退也。錦繡者五色管筆也。南史、江淹、字文通。

以二文章二顯。仕齊爲二侍中、嘗夢一丈一夫自稱二郭璞一曰、

吾筆在二卿處二多一年、可レ還。淹探二懷中、得二五色筆二以

授レ之。后爲レ詩絶無二美句。時謂之才盡也。

鸚鵡摛レ文至

后漢禰衡鸚鵡賦序曰、筆不停輟、文不レ加レ點也。

麒麟絶レ句來

孔子作二春秋、絶筆於獲麟之一句也。

何當レ遇二良史

左傳云、董孤古之良(20才)史也。

左一右振一奇一才

禮記云、史載レ筆也。又曰、動則左史書レ之。言則右史書レ之也。

〔校異〕 1 曰一云(天) 2 載一戴(天) 3 載(天) 一ナシ 4 末

一末(天) 5 含一舍(天) 6 門庭一門廷(天) 7 后一後(天)

8 充一兌(天) 9 ナシ一兌字下に「也」(天) 10 詞人一詩人(天)

11 ナシ一簡字下に「書」(天) 12 璞一□「王莫」(天) 13 藻一操

(天) 14 一丈夫一一大夷(天) 15 ナシ一筆字上に「有」(天) 16

之ナシ(天) 17 云一曰(天) 18 董孤一薰孤(天)。意により「董

孤」に改むべきか。19 也一ナシ(天)

釋名云、硯者研也。可レ研墨使レ和。儒書譜云、用レ硯之法、石

爲第一、瓦爲第二。  
左思裁賦日、王充作論年

一本、左太仲作三都賦。門庭藩溷置著筆硯也。后漢王充、字仲任。於室內門戶牆柱、置筆硯。見事而作著論衡八十五篇也。

光隨錦文散、形帶石岩圓  
以依硯寫文。故言錦文散也。一本、有錦石作硯也。言硯形有山象岩形也。一本、吳都有硯石也。

積潤脩毫裏、開水小學前  
一本、梁徐璃、詠筆詩云、纖綺功績潤。崔寔曰、正月硯水凍釋、童子初入小學也。一本、后漢張芝、臨池學書。池水盡黑、池水似硯也。

君苗徒見燒、誰識士衡篇  
陸雲與兄士衡書曰、君苗能作(20ウ)レ文。每見兄文、輒欲燒其筆硯也。君苗崔[王処]從兄名。此言君苗見陸士衡文章勝、己乃空燒筆硯。誰復賞陸士衡文而傳詠之也。

陸士衡文章勝、己乃空燒筆硯。誰復賞陸士衡文而傳詠之也。

[校異] 1云日(天) 2ナシ也(天) 3ナシ也字下に「或曰

仲由。字子路。作硯也(天) 4左太仲一左大冲(天) 5門庭門廷(天) 6后一後(天) 7以一似(天) 8徐璃、意により「徐摛」に改むべきか。9織綺一織端(天) 10功一巧(天) 11黑墨(天) 12燒一藝(天) 13雲一(天) は一格空けて、小字にて「本ノマ、」と書す。14日一云(天) 15也一ナシ(天) 16崔[王処]一崔瑒(天)。意により「應璩」に改むべきか。17從兄名、從名兄(天)

090 墨

釋名云、墨晦也。言似物晦墨也。蔣鮐曰、以松一柏烟、和膠合一成也。混天圖云、那突造墨。

長安分石炭、上黨作松心  
長安初以石炭爲墨也。一本、長安明一石燒墨也。上黨郡以松一烟一作墨也。

繞畫蠅初落、含滋綬更深  
吳志曰、曹否與孫權畫屏風、誤落筆、點汚之。因便作蠅。權每見以手巾拂之。不更去。乃知是墨也。縣令墨綬也。一本、墨印也。綬二組也。

素絲光易染、阜疊映逾沈

墨子見素絲<sup>①</sup>而垂<sup>②</sup>泣。言其色不定也。一本、近墨則黑也。  
別有張芝學、書<sup>③</sup>池幸見<sup>④</sup>臨。

后漢張芝、字伯英。臨(21才)池學<sup>⑤</sup>書。池水盡黑。此言(3)別有(3)者、以爲張芝獨能令<sup>⑥</sup>臨池書<sup>⑦</sup>也。善草書、絶妙也。

〔書入〕①欄上に「毛韻、阜、在早反。馬閑。亦作皂」(この注記は異体字に言及したものである。校訂本文①の阜字は正字体に改めたもので、底本は俗字「皂」に作る。)

〔校異〕1 圖―ナシ(天) 2 ナシ―也(天) 3 也―ナシ(天)  
4 綬―後(天) 5 曹否興、意により「曹不興」に改むべきか。  
6 之―文(天) 7 墨印也綬二組也―「墨印綬、々組也」(天)。(天)  
により改むべきか。 8 素絲―絲(天) 9 黒―墨(天) 10 后―後(天) 11 池―一池(天) 12 獨―ナシ(天)

### 武器十首

091 劍

釋名云、劍者檢也。所以防<sup>①</sup>檢非<sup>②</sup>常也。四聲字苑云、似

刀而兩刃也。劍名紫電、白虹、龍泉、太阿、干將、莫耶、巨闕、水心、龍鳴、切玉也。

我有昆吾劍、來趨天子庭。

冲虛眞經云、周穆王征大戎。々々獻昆吾劍及赤刀。切玉如切泥。西海中多積石。名昆吾也。昆吾鐵石堅固也。

白虹時切玉、紫氣早干星。

劍色似白虹也。一本、崔豹古今注云、吳太皇有寶劍。

一曰白虹也。豐城有劍。每夜紫氣于牛斗。張華使雷煥

取劍也。見星注也。

鏐上蓮華動、匣中霜雪明。

言劍(21ウ)鏐如蓮華也。一本、吳越春秋曰、越王令歐冶子鑄劍。一名紙鈎。秦客薛燭曰、此劍如芙蓉始生也。

張華詩曰、利劍嚴秋霜。西京雜記云、漢高祖斬白蛇。

劍色如霜雪也。

倚天持報國、畫地取雄名。

宋玉大言詩曰、長劍耿介倚天外。又曰彎弓

扶桑、長劍倚天外。梁吳均戰城南詩曰、劍光夜如雷、

馬汗盡成泥。何當見天子、畫地取關西也。

〔校異〕 1云「曰(天) 2者ナシ(天) 3也ナシ(天) 4  
太(大)天(天) 5堅固一堅(天) 6注註(天) 7太皇一太伯(天)  
8日一日(天) 9劍一古劍(天) 10牛斗一斗牛(天) 11劍一ナ  
シ(天) 12華(天) 一花 13ナシ一「字上に「五(天) 14紙一  
純(天)。(天)により改むべきか。15華(天) 一花 16斬白蛇(天)  
一斬一白虹蛇 17臨一射(天) 18雷一電(天)

092 刀

釋名云、刀者到也。以斬至其所也。說文云、兵也。  
列辟鳴鸞至、惟良佩犢旋

魏文典論曰、太子否作璧寶刀。列國君佩鸞刀也。禮云、  
鸞刀之貴也。漢書云、龔遂、字孝卿。山陽人也。爲勃海太  
守。曲正。有帶劍刀者、令賣之以買牛犢也。  
謂帶牛佩犢也。

帶環疑寫月、引鏡似含泉  
刀頭有環似月。古詩云、何(22オ)當大刀頭。謂  
環也。取此意也。言有刀有水文也。一本、神仙傳言、  
河東孫博能引鏡爲刀。此言引鏡爲刀、似二道泉形。

割錦紅鮮裏、含毫彩筆前

左傳、子皮使尹何爲宰。子產曰、不可。子有美錦、面  
使(ニ)人學(レ)製焉。譬如(ニ)未能(レ)操(レ)刀而使(レ)  
之割(レ)其傷(レ)寶多也。玄天經云、理(大國)如烹(小鮮)也。  
古人以簡書用(刀)削。謂(之)筆削。故曰(刀)筆也。江淹夢  
得(五色)筆。故曰(彩)筆也。

莫驚開百練、輒擬定三邊

一本、崔豹古今注云、吳武皇有百練鑠刀也。劉琨詩曰、  
何意百練鑠、化作繞指柔。中華本無(東夷)難。故曰(三  
邊)。又曰、吳魏蜀三如(鼎足)。故云(三邊)也。

〔書入〕①欄上に「鑠(胡關反)。

〔校異〕 1云「曰(天) 2者ナシ(天) 3斬斬伐(天)。(天)  
により改むべきか。4至一到(天) 5太一太(天) 6否、意に  
より「丕」に改むべきか。7曲正、意により「典正」に改むべ  
きか。8劍刀一劍(天) 9犢一讀(天) 10ナシ一謂字上に「々  
々」(天) 11有ナシ(天) 12一本ナシ(天) 13言一云(天)  
14ナシ一也(天) 15何(天) 一河 16面一而(天)。(天)により  
改むべきか。17天一元(天) 18ナシ一也字下に「又注言作紅鮮

鱸。似割錦也。鮮魚也。〔天〕 19 注一註〔天〕 20 繞指柔。繞繞指

〔天〕 21 華一花〔天〕 22 如一ナシ〔天〕

093 箭

說文云、箭矢也。釋名云、矢指也。箭者竹名。因以爲號也。

按世本云、黃帝臣牟夷作矢。釋名云、笑音矢、其體曰箛也。

其旁曰羽。其箛箭受弦處也。〔22ウ〕

漢郊初飲羽。燕城忽解圍

漢將李廣見石、謂是虎。射之飲羽。謂沒箭羽也。

一本、史記曰、齊將田單破燕軍、復齊城。唯聊城不下。

魯仲連曰、書繫於箭之射城中。燕將得書泣三日乃

自殺也。

影隨流水急、光帶落星飛

河水流急、如竹箭也。有狂矢、如流星去也。

夏列三三成軌、堯沈二九日暉

周禮云、唐弓九合、夏箭三三成也。一本、夏禹作箭。法春

獻素、夏定射、秋獻成。淮南子云、堯時有二十日早。草

木并焦枯。堯遣羿射之、殪二九日。滄海之中化爲焦石。

也。

斷蛟雲夢澤、希爲識忘歸

一本、漢武帝至雲夢澤。自尋陽、浮江射蛟獲之也。

楚王載繁弱之弓與忘歸之矢、射兕於雲夢也。一本、

忘歸箭名也。

〔書入〕①欄上に「南方兕重千斤也」。

〔校異〕 1 云一ナシ〔天〕 2 矢一失〔天〕 3 云一曰〔天〕 4 因

一圓〔天〕 5 也一ナシ〔天〕 6 弦一絃〔天〕 7 曰一以〔天〕 8

於一ナシ〔天〕 9 ナシ一乃字上に「而」〔天〕 10 如流星去也一星

流如之也〔天〕 11 軌〔天〕一軋 12 射一休〔天〕 13 ナシ一也〔天〕

14 并一竝〔天〕 15 ナシ一滄字上に「落」〔天〕 16 之一ナシ〔天〕

17 ナシ一矣〔天〕

094 弓

釋名云、弓穹也。張之穹々然也。其末曰簫。又曰弭。以骨

爲之、弭々然滑也。中矢曰附。人所〔23オ〕持也。其

端曰彊。弓之用材也、六曰幹角筋膠絲漆。幹之本強所

レ及必遠、角之勢順、所發必疾、筋之力銳、所中必深、合之  
 以膠、則和、纏之、以絲、則固、環之、以漆、則霜雪不爲之損。  
 六材既美。又天時工巧不相違。此弓之所以良也。弧、  
 木弓、囊弓衣。亦曰、瓠。一名、鞞、韃。又馬上盛弓一  
 器材。又弓、繫。古史、黃帝之臣、揮、作弓。又云、羿。又云、僂。  
 易云、弦、木爲弧、剡、木爲矢。弧、矢之利、以威天下。  
 凡弓、人爲之、弓、取六材、必以其時、六材、既聚、巧者和之。  
 幹、也者、以爲遠也、角、也者、以爲疾也、筋、也者、以爲深也、膠  
 也者、以爲和也、絲、也者、以爲固也、漆、也者、以爲受霜露也。  
 凡爲弓、冬折幹、而春液角、夏治筋、秋合三材。又孫子  
 曰、天子形弓、諸侯彫弓、大夫黑弓也。  
 桃、文稱、避惡、桑、質表、初生。  
 左傳曰、桃弧棘矢、以除其災也。禮曰、士初生、桑、  
 一、弧蓬矢、以射天地四方。示此子有事於四方也。  
 一、本、禮曰、子生、設桑弧於門左。  
 宛轉、瓠、際、還如半月明。  
 古詩曰、瓠一弓玉宛轉。藏弓謂之韃。一、本、韃、弓袋也。  
 弓、形似、月、初生。故云、半月明也。  
 空、彎、落、雁、影、虛、引、怯、猿、聲。

國語曰、更盈侍楚王。見二雁過、曰、臣能遙張弓而落雁。  
 乃彎之、雁即落地。淮南子云、楚王見一猿、王射之、猿  
 轉之、使養由基射之。始調弓、而猿抱木而長哭之。  
 從切、鳥號思、攀龍遂不成。  
 史記云、黃帝於鼎湖、乘龍得仙。群臣七十人攀龍鬚上。  
 時隨黃帝、有二一人、抱弓號、群臣望見、故號、  
 爲鳥號也。

〔校異〕

1 云一曰(天) 2 穹一曰「雨弓」(天) 3 弭一曰「弓可」(天)  
 4 中矢一中央(天)。(天)により改むべきか。5 幹一韓(天)  
 6 幹之本一幹也木(天) 7 カ一刀(天) 8 膠一膝(天) 9 雪一  
 露(天) 10 號一「弓十止女」(天) 11 器材一器秘(天) 12 古史  
 一古史孝(天) 13 剡一削(天) 14 固也漆也者以爲一ナシ(天)  
 15 而一雨(天) 16 天子形弓諸侯彫弓一「天子彫弓、諸侯形弓」(天)。  
 (天)により改むべきか。17 也一ナシ(天) 18 子一男子(天)  
 19 ナシ一也(天) 20 楚王一魏王(天)。(天)により改むべきか。  
 21 ナシ一臣字上に一格空けて、小字にて「本空弓」と書す(天)  
 22 而一「過」に作りて、右傍に「當ヒ」(天) 23 基一基(天) 24



哭之―號也(天) 25得仙群臣七十人攀龍鬚―ナシ(天) 26同號

故號―因號(天) 27也―得仙群臣七十人攀龍鬚(天)

百步之外―也。

095 弩

弓弩。古史孝云、黃帝作弩也。

挺<sup>トス</sup>質本<sup>ニ</sup>軒皇<sup>一</sup>、申<sup>ス</sup>威振<sup>ニ</sup>遠方<sup>一</sup>

黃帝作<sup>レ</sup>弩、以威<sup>ニ</sup>遠方<sup>一</sup>也。一本、太皇兵法云、弩之(24

オ)神名遠望。故曰<sup>ニ</sup>遠方<sup>一</sup>也。軒皇々帝名也。

銅牙流<sup>ニ</sup>曉<sup>一</sup>液、玉<sup>ニ</sup>彩耀<sup>一</sup>星芒<sup>一</sup>

一本、銅作<sup>レ</sup>弩牙。曉<sup>ニ</sup>光照<sup>一</sup>如<sup>ニ</sup>津液<sup>一</sup>也。南越志曰、川常有<sup>ニ</sup>

銅弩<sup>ニ</sup>出水<sup>一</sup>。天有<sup>ニ</sup>玉弩星<sup>一</sup>。一本、尚書帝命驗曰、玉<sup>ニ</sup>弩發<sup>ニ</sup>

天下<sup>一</sup>。秦時有<sup>レ</sup>狂<sup>ニ</sup>矢<sup>一</sup>、則玉<sup>ニ</sup>弩星<sup>一</sup>也。爲<sup>ニ</sup>兵精<sup>一</sup>主<sup>レ</sup>秦也。

高雁行 應<sup>レ</sup>盡、玄<sup>ニ</sup>猿坐<sup>一</sup> 見<sup>ル</sup>傷

一本、通玄<sup>ニ</sup>眞經<sup>一</sup>云、高鳥盡而強<sup>ニ</sup>弩藏<sup>一</sup>。花陽國志曰、列艾往<sup>ニ</sup>陪

陵<sup>一</sup>、見<sup>ニ</sup>玄<sup>ニ</sup>猿抱<sup>レ</sup>子<sup>一</sup>、以<sup>レ</sup>弩射<sup>レ</sup>之。中<sup>ニ</sup>猿母<sup>一</sup>。其子爲<sup>レ</sup>拔

(レ)箭<sup>一</sup>以<sup>レ</sup>木葉<sup>ニ</sup>塞<sup>レ</sup>瘡<sup>一</sup>。艾歎曰、吾違物之性、其將死也。

蘇秦六百步、持<sup>レ</sup>此說<sup>ニ</sup>韓王<sup>一</sup>

戰國策曰、蘇秦說<sup>テ</sup>韓王<sup>一</sup>曰、天下之強<sup>ニ</sup>弓勁<sup>一</sup>弩自韓、射<sup>ニ</sup>六

〔校異〕 1古―元(天) 2云―曰(天) 3也―ナシ(天) 4挺

―挺(天) 5之―云(天) 6々―黃(天)。(天)により改むべ

きか。7川―龍川(天) 8ナシ―也(天) 9花―華(天) 10列

艾―劉文(天)。意により「鄧艾」に改むべきか。11往―征(天)

12弩―弓(天) 13其子―ナシ(天) 14「爲拔箭。以木葉塞瘡。

艾歎曰、吾違物之性、其將死也」―ナシ(削去により、二行十

二字格を闕す)(底)、「爲拔箭以木葉塞瘡。文歎曰、吾違物之性、

其將死也」(天)。意により改む。15自韓―皆自韓出(天)。(天)

により改むべきか。

096 旌

毛詩正義曰、析<sup>レ</sup>羽爲<sup>レ</sup>旌<sup>一</sup>。素絲祝<sup>レ</sup>之。祝作<sup>レ</sup>屬。謂素<sup>ニ</sup>絲

相連<sup>テ</sup>、屬<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>縵<sup>一</sup>、以爲<sup>レ</sup>飾焉。列子云、黃帝與<sup>ニ</sup>炎帝<sup>一</sup>戰、

以<sup>ニ</sup>鵬鴞鷹爲<sup>ニ</sup>旌幟<sup>一</sup>也

告<sup>レ</sup>善樓臺側、求<sup>レ</sup>賢開肆<sup>ニ</sup>中

管子曰、舜有<sup>レ</sup>告善之旌<sup>一</sup>也。書云、旌別<sup>ニ</sup>(24ウ)淑武<sup>一</sup>。

古人求賢於屠肆之間也。一本、旌自求賢屠市肆也。

擁旆分彩雉、持節曳丹虹。

書注云、狄雉名也。羽中旆旌也。詠霍將軍云、擁旆爲漢將。

一本、擁抱也。天子出羽林騎一人、旌頭執旆而麾。其旆上雉尾飾也。高唐賦曰、蜺爲旆、雌曰蜺、雄曰虹。

一本、將軍旌節之下繫幡如虹也。

影麗天山雪、光搖朔塞風。

一本、蘇武在匈奴天山食雪。執漢旌節、十九年不誤。

后遂還漢也。天山朔塞并是征戰地。常有旌。天山。

夏恆有雪也。

方知美周政、懸旆闐車攻。

帝命驗曰、甲子赤雀銜丹書入鄆、止昌戶。呂尚釣磻溪之水。王趨往拜曰、姬受命。臣佐旌遂置車。詩曰、車攻美周宣王。復會諸侯於東都也。一本、毛詩車攻。

美周宣王也。內修政、外攘夷狄。其詩曰、建旗旌。闐高也。言周家高宣王之德。作車攻篇一也。(25才)

〔校異〕 1析一折(天) 2素絲祝之祝作屬謂(天) 1ナシ 3繆

一驂(天) 4云一曰(天) 5鵬鵠鷹鳶一鵬鵠鷹鳶(天) 6旌幟

〔校異〕 1析一折(天) 2素絲祝之祝作屬謂(天) 1ナシ 3繆一驂(天) 4云一曰(天) 5鵬鵠鷹鳶一鵬鵠鷹鳶(天) 6旌幟

(天) 旌幟 7也ナシ(天) 8淑武一叔武(天) 9屠市肆

市肆(天) 10注一法(天) 11麾其(天) 一其麾 12后一後(天)

13并一竝(天) 14夏一冬夏(天) 15日一曰日(天) 16命一今(天)

17佐一伏(天) 18ナシ一攻字下に「日」(天) 19德一能(天) 20

ナシ一攻字下に「之」(天)

097 旗

釋名云、熊虎爲旗。々者期將軍所建。象其猛如虎。

與衆期之於下也。

桂影承宵月、虹耀接曙雲。

旗有桂。月中亦有桂。故言宵月也。楚詞云、建雄虹之

彩旗也。一本、絳旗似虹。曉雲又紅也。

縱橫齊八陣、舒卷列三軍。

兵法有八陣。方、圓、衡、輪、長蛇、偃月、鶴翼、雁行

等陣法是也。一本、蜀志曰、諸葛亮造八陣圖也。天子有

六軍。諸侯有三軍。一本、萬二千五百人爲一軍。

日蕩蛟龍影、風翻鳥獸文。

旗上畫蛟龍鳥獸形也。有龍旗九流。又前有水

則載青旗。前有士師。則載虎皮也。周禮云。蛟龍爲旂。熊虎爲旗。鳥隼爲旟。旗是也。

誰知懷二勇志、盤二地幾續紛。

孔子游驪山。使弟子各言己志。子路進云。願得(下、×、×)白羽如月、赤羽如日、鐘鼓之聲、上振於天、旌旗續粉下盤(中、×、×)于地(上、×、×)。文宣王云。勇哉也。(25ウ)

〔校異〕 1云―曰(天) 2ナシ(天)―虎字上に「其」。 3桂旗(天) 4宵―霄(天) 5又―之(天) 6方―法(天) 7陣法―陣(天) 8有―ナシ(天) 9ナシ―也(天) 10師―帥(天) 11旂―旆(天) 12游―遊(天) 13旌旗 旗(天) 14ナシ―也字下に「白羽、劍色。旗色也」(天)

098 戈

古禾反。于戈。說文云。平頭戟也。毛詩正義云。主於刺之。詳見于禮圖。

富父春喉日、殷辛泛杵年

左傳云。長狄喬如伐魯。富父以戈春其喉、殺之也。武王代

紂、前徒倒戈、攻其後以、此、血流漂杵。紂名辛。又名受也。

曉霜含白刃、落景駐一珣鉞

一本、庾肩吾詩云。霜戈曜一隴日也。有霜戈、魯陽揮一戈。日廻三人舍也。文選云。鉞彗一雲。鉞亦戈類也。一本、淮南子云。魯陽公與韓戰酣。日暮。援一戈麾一。夕反三舍。揚雄方言曰。鉞矛也。戈之屬。江南謂之鉞也。

夕 儂一金門側、朝提一玉塞前

一本、儂者行列之貌也。金門天子之門也。內有司一戈。故言一金門側也。外則裹糧負一戈。則云一玉塞。

願隨龍影度、橫陣彗雲邊

有龍旗也。言隨旗而出也。東都賦曰。戈鉞彗雲。易曰。雲從龍。今戈不能自致一青(26オ)雲之上邊。願隨龍影而彗一磨也。戈影又似龍也。

〔書入〕 ①欄上に「揮與磨同」。②欄上に「一舍三十里也。三舍九十里也」。

〔校異〕 1于戈―ナシ(天) 2ナシ―主字上に「戈」(天) 3之―ナシ(天) 4于―ナシ(天) 5父―文(天) 6云―曰(天)

7番一僑(天) 8伐一伐(天) 9代、意により「伐」に改むべきか。10此、意により「北」に改むべきか。11廻一回(天) 12援一拔(天) 13償一償(天) 14裏一裏(天) 15則一故(天) 16ナシ也(天) 17也一ナシ(天) 18從一隨(天)

699 鼓

風俗通曰、鼓者郭也。春分之音。萬物皆鼓レ甲而出。以助二萬物發生。故謂之鼓。周禮韞人、冒鼓、必以啓蟄之日。注、象雷之發聲也。以革蒙レ鼓曰冒。蔡邕獨斷云、鼓黃帝臣岐伯所作也。

舜日諧發響、堯年韻一土聲

舜有彝鼓也。一本、舜日下管彝鼓也。土鼓葦籥伊耆氏之樂也。堯姓伊耆也。一本、禮曰、土鼓、柷、楛、箎、伊耆氏之樂。堯姓伊耆也。世本曰、夷作鼓。蓋起于伊耆氏。注、曰、伊耆、舜姓也。

向樓疑吹擊、震谷似雷驚

一本、賀修詩曰、鼓吹樓下。能作曲聲。一本、龍魚河圖曰、雷為天下之鼓也。

仙鶴排 門起 靈龜帶水鳴

古老相傳曰、有鶴飛入會稽雷門鼓鳴。洛陽聞之。後孫息

破此鼓見、白鶴飛入雲中也。一(26ウ)本、會稽記

曰、會稽雷門鼓中有白鶴。打鼓、聲聞洛陽。孫息破見之、

鶴乃飛去。而後打之不鳴也。月令曰、伐蛟取鼃。注曰、

鼃皮可以冒鼓也。

樂云行已奏禮也冀相成一

論語曰、樂云々々、鐘鼓云哉。言禮樂相和而成也。一本、

禮曰、樂以爲鐘鼓。然后謂之樂乎。言而履之禮、行樂

之樂也。

〔書入〕①欄上に「韞(呼萬反。又于問反。靴也)」。〔校異〕1郭(天) 1助 2鼓甲 鼓郭皮甲(天) 3日一ナシ(天)

4注一註曰(天) 5以一ナシ(天) 6管一自「六」(天) 7

土鼓一ナシ(天) 8柷一蔽探(天) 9伊一ナシ(天) 10ナシ

也(天) 11注一註(天) 12修一循(天)。〔天〕により改むべ

きか。13鼃一龜(天) 14鼓一鼓中(天) 15ナシ一鳴字上に「鼓」

(天) 16伐一伐(天) 17注曰鼃皮可以冒鼓也一々皮可以註曰鼓

日口(一格闕損)(天) 18和一知(天) 19然后一然(天)

100 彈

①<sub>1</sub> 綃也。射也。唐韻云、放丸弓也。文集略云、作弦弓也。俠客遠相望、佳遊滿帝鄉。

言俠客多抱彈、遊於帝鄉也。

共持蘇合彈、來此傍垂楊。

張正見詩曰、蘇合彈珠罷。註曰、蘇合木彈也。帝京篇

曰、俠客殊彈垂楊道也。

金落疑星影、珠成似月光。

韓嫣以金爲彈丸。詩語曰、苦飢寒、逐彈丸也。

一本、漢武帝接幸人韓、以金作彈丸。人逐長安語

曰、苦飢寒、逐金丸也。蚌蛤珠胎與月虧全。言珠似月。

(27才) 柳輝詩曰、柘彈落珠丸也。一本、以珠作

彈丸也。一本、南華真經曰、以隨侯之珠、彈千仞之雀。彈

以丸。又珠也。

莫欣黃雀至、須憚微軀傷。

蔣辛諫楚王曰、郢必危矣。王獨不見黃雀。俯啄

白粒、仰栖茂樹、鼓翅奮翼、自以爲與人無爭。

不知夫公子孫左挾彈、右撮丸、以其頭爲的、晝遊

茂樹、夕調酸醎上耳。黃雀其小者也。君王因是已。左

羽侯、右夏侯、從鄢陵與壽陵君、飯封祿之粟、載高

府之金、與己馳乎雲夢之中、而不下以天下國家爲事。

不知夫讓侯方謀受命乎秦王、堪睥池之塞內、投已乎睥

池塞之外。襄王聞顏變、四體慄。於是乃執珪中投之。封

邑以爲陽陵君也。一本、韓詩外傳云、楚襄王伐晉。孫叔

諫曰、榆上蟬欲飲露、不知螳螂在後。蟬娘又不

知黃雀在後。黃雀又不知童子挾彈在後、放

榆下。童子又不分有掘株。此皆用前因之利。

不顧后害。王乃不伐晉也。(27ウ)

〔書入〕①欄上に「彈(軀也。弦也)」。②欄上に「綃(戈宰反)。

〔校異〕1 綃糾(天) 2 丸一□「丸瓦」(天) 3 文一反(天)

4 作弦弓一竹弦弓(天) 5 蘇合彈珠罷註曰(天)一ナシ 6 月(天)

一日 7 韓嫣、意により「韓嫣」に改むべきか。 8 語一話(天)

9 日一云(天) 10 彈一金(天) 11 韓一韓嫣(天) 12 ナシ一逐字

下に「之」(天) 13 蚌蛤珠胎與月一蚌蛤兩月(天) 14 虧全(天)

一虧金 15 柳輝一柳輝(天) 16 ナシ一也字下に「似月也」(天)

17 俯(天)一府 18 仰一「ア印」(天) 19 醎一「西威」(天)

20 因一自(天) 21 從一後(天) 22 堪、意により「填」に改むべ

きか。23 隴—澗(天) 24 隴池—地澗池(天) 25 標—懷(天) 26  
 投—授(天) 27 陵—侯(天) 28 云—曰(天) 29 伐—代(天) 30  
 孫叔—孫舛(天)。意により「孫叔敖」に改むべきか。31 后—後  
 (天) 32 后—ナシ(天) 33 放—於(天) 34 又—ナシ(天) 35 分  
 一知(天) 36 ナシ—有字上に「前」(天) 37 因—日(天) 38 伐(天)  
 一—代

音樂十首

①②③ 事林云、樂記曰、凡音之起由二人之心一生也。動一物使之然也。  
 感二於物一而動。故形二於聲二。々々相應。故生レ變。々々成方  
 謂二之音一、而樂レ之。及二于戚羽施一。謂之樂。々々者音之所二  
 由一也。其本在三人一之心之感二於物一也。是故其哀一—心感者其  
 聲。嗷一—以殺。其樂一—心感者其聲。嘩一—以緩。其喜一—心感者其聲。發  
 以散。其怒一—心感者其聲。粗一—以厲。其敬一—心感者其聲。直一—以廉。  
 其愛一—心感者其聲。和以柔。六—音非性也。感二於物一而后動。又  
 曰、知レ聲而不レ知レ音者、禽獸是也。知レ音而不レ知レ樂者、衆庶  
 是也。是故不レ知レ音者不レ可レ與言レ音。不レ知レ樂者不レ可レ與  
 言レ樂也。

〔書入〕①欄上に「按古今樂府」載、張翥自西域傳摩訶兜勒  
 一曲於長安。李延年因之、更造二十八解、以爲武樂。后  
 漢以賜邊將。俗用者、黃鵠曲、隴頭、出關、入關、出塞、入  
 塞、折楊柳、黃覃子、去蕤楊、望行人十曲也。②欄上に「開元  
 廿四年 升二胡部樂於堂上。而天寶樂曲皆邊地名也。若二  
 涼州、伊州、甘州、熙州之類也。③欄上に「又安開元傳信  
 記云、西涼州俗好音樂。制新曲曰涼州。開元中列上獻。  
 上召諸王便殿同觀曲。々々終、諸王賀、舞蹈稱善、獨寧  
 王不拜。上問之。曰、此曲雖嘉、臣有聞焉。夫音者始於宮、散  
 〔於商、成於〕角徵羽、莫不根柢於宮商。斯曲也、宮離  
 而少徵、商亂而加暴。(28才)臣聞、宮君也。商臣也。宮不勝  
 則商勢卑、商有餘則臣事僭。卑則逼下、僭則犯上。發於忽徵、  
 形於音聲。臣恐播遷之禍、悖逼之患、兆於斯曲。上默然。  
 及祿山作亂、乃見寧王審音之妙矣。  
 〔校異〕1 事林云—事林廣記曰(天) 2 ナシ—動字上に「人—心  
 之」(天)。(天)により改むべきか。3 形於聲々(天) —於レ聲  
 4 ナシ—而字上に「比音」(天)。(天)により改むべきか。5 嗷  
 一—燾(天) 6 敬心—愍(天) 7 音—者(天) 8 感—威(天) 9  
 后—後(天) 10 者—ナシ(天) 11 而—ナシ(天) 12 音—聲(天)

13 樂—音(天)

101 琴

帝王世記曰、炎帝作五絃之琴。桓譚新論曰、神農始制桐爲絃。又曰、周文王各加二絃。禮儀纂曰、堯使母勾作琴五絃。禮記曰、舜作五絃琴(一)、歌南風。廣雅云、琴長三尺六寸六分。象期之日。廣(28才)六寸象六合一、五絃象五行。周文武時加三絃。琴操曰、伏羲作琴、以修身理性、反其天真也。白虎通曰、琴者禁也。禁一止於邪、以正人心也。又上曰地、下曰瀆。前廣后狹象尊卑也。上圓下方、法天地也。大絃爲君、小絃爲臣。文武二絃以合君臣之恩。詩正義云、屬乎陽。舜歌南風、以養萬物馬犬畜也。伯牙秣馬也。

名士竹林隈、鳴琴竇匣開

嵇阮阮籍等七賢爲竹林之會。故阮籍詩曰、今朝竹林下、獨有仲容歸。嵇康能彈琴也。

風前中散至、月下步兵來

古老相傳曰、嵇康爲中散大夫。阮籍爲步兵校尉。并有風前

月下之興、以琴酒娛樂也。謝朓詩曰、又此風中琴也。淮海會爲室、梁岷舊作臺

淮海惟揚州會稽。戴安道有琴室。會稽舊屬揚州故也。司

馬長卿有蜀琴臺。故言梁岷也。

子期如可(一)聽、山(28ウ)水響餘哀

呂氏春秋曰、伯牙鼓琴、志在高山。鍾子期曰、峨々兮太

山也。志在流水。子期曰、洋々兮江河也。

〔書人〕①右傍に「或作武」。

〔校異〕 1 記(天) — 說 2 絃—弦(天) 3 文王—文武(天) 4

絃—絃(天) 5 琴—ナシ(天) 6 期(天) — 基 7 文武—文王(天)

8 操—揮(天) 9 反—及(天) 10 禁止於邪—禁止放邪(天) 11

地—池(天)。 (天) により改むべきか。 12 后—後(天) 13 狹(天)

— 狹(天) 14 舜—ナシ(天) 15 馬(天) — 焉 16 并—竝(天) 17 ナシ

— 娛字上に「相」(天) 18 又—復(天)。 (天) により改むべきか。

19 淮海—淮南(天) 20 司馬長卿—(天) は「司馬卿」に作りて、

卿字上に補入符を付して、右傍に「長歎」と書す。 21 有蜀琴臺

— 在蜀有琴臺(天) 22 太山也—ナシ(天)

① ② 事林云、世本云 庖犧作瑟五十絃。漢書、黃帝使素女

鼓瑟、哀不勝。故破五十絃。世紀曰、伏羲作瑟三十

六絃。隋音樂志曰、破爲二十五絃。山海經云、晏龍始爲

瑟三十七絃。伏羲所作也。禮書云、雅瑟長八尺一寸、廣

一尺八寸、三十三絃。頌瑟長七尺二寸、廣如前、二十

五絃。詩正義云、屬于陰。素女鼓五十絃、哀不勝。

黃帝減半。魚水屬也、瓠巴鼓而出聽焉。

蒼祇初制法、素女昔傳名

庖犧造瑟三十六絃。長八尺二寸。伏犧木德、故曰、蒼祇。

又曰、神農作也。黃帝使素女作五十絃瑟、以其聲悲

感、減二十五絃也。

流水潛魚聽、叢臺舞鳳驚

一本、流一水曲名也。沖虛真經曰、瓠巴鼓瑟琴、鳥(29オ)

舞魚躍浮貌。趙有叢臺。趙女鼓瑟而鳳舞也。一本、史

記曰、趙有叢臺。趙俗鳴琴蹈履、善歌舞。沈約詩曰、

挾瑟叢臺下。言舞鳳聞瑟而驚也。

嘉賓歡未極、君子娛樂并

詩曰、我有嘉賓。鼓瑟吹笙也。詩曰、既見君子、并坐

鼓瑟。一本、言燕飲相安樂也。

儻入丘之戶、應知由也情

孔子曰、由之鼓瑟、愛爲於丘之門。言子路鼓瑟、不令

雅頌也。一本、文宣王曰、由之鼓瑟、焉於丘之門。

々人不敬子路。文宣王曰、由也升堂、未入於室也。此意

文宣王不賤子路。故云、儻入丘之戶、應知下文宣王不

賤子路情焉。

〔書入〕①欄上に「杜詩、暫醉佳人錦瑟傍。注、彩繪其

文如錦花也。②欄上に「東坡云、錦瑟之爲器也、出其絃

五十、其柱如此。其聲也、適怨清和也。四曲瑟之四德也。

〔校異〕1紀一記(天) 2義一犧(天) 3三一二(天) 4禮書

(天) 一書。意により「禮圖書」に改むべきか。5廣一尺八寸

三十三絃頌瑟長七尺二寸(天) 一ナシ 6干乎(天) 7勝一絶

(天) 8ナシ一半字上に「其」(天) 9魚水屬也瓠巴鼓而出聽焉

一魚生水瓠也鼓而出聽音焉(天) 10犧義(天) 11感一ナシ(天)

12ナシ一也(天) 13浮貌一ナシ(天) 14瑟(天) 一琴 15驚一敬

馬(天) 16并一竝(天) 17愛一奚(天) 18鼓瑟焉一瑟兮(天)

19焉一也(天)



風俗通曰、琵琶近代樂家所作、不知所起。長三尺五寸。法天地人與五行也。四絃象四時。釋名曰、琵琶本胡中馬上所鼓也。杜襲云、秦末苦於長城之役。百姓絃鞞鼓。琵琶。隋音樂志云、曲項(29ウ)琵琶、出(自)西域。非華夏。樂府錄曰、始自烏孫公主造之。

裁規勢漸圓、鏤質本多端。規圓也。鏤磨也。質形也。琵琶形勢漸圓也。

半月分絃出、叢花拂面安。

王元長琵琶詩曰、抱月如可明。謂(上)開作半月形。

又爲「花彩」也。吳均琵琶詩曰、一剪一刻作琵琶、白壁規心覺明月、珊瑚拂面作風花也。

將軍曾入賞、司馬屢飛歡。

一本、語林曰、謝仁祖爲鎮西將軍。著紫羅襪、據珊瑚牀、在大市佛圖門樓上、彈琵琶作大道之曲焉。

一本、世説曰、桓大夫司馬溫曰、謝仁被襦胡牀北牖下、彈琵琶。故曰、眞有二天際之意也。

唯有「胡中曲」、希君馬上彈。

烏孫公主嫁蕃鳥。馬上彈琵琶、以慰道路之情之。一本、

釋名曰、琵琶出胡中所鼓曲也。推手前曰琵琶、引手却

曰琵琶。漢元帝時、單于來朝和親。以宮人王昭(30才)君爲公主。帝令畫師(14)宮人狀、醜者嫁之。昭君不與畫師金。乃受命行。昭君於馬上彈琵琶、作哀怨之曲也。

〔書入〕①右傍に「王昭君也」。

〔校異〕1日(天) 2末(天) 3曲項(曲煩(底)、曲須(天)。意により改む。4華(天) 5之(ナシ(天)

6剪(前(天) 7也(ナシ(天) 8世説(世記(天) 9日(ナシ(天) 10謝仁(謝人仁(天) 11之(也(天) 12手(乎(天)

13單于(呼那單于(天) 14一字闕するか。例えば、宮字上に「圖」を補いて「帝令畫師圖宮人狀、醜者嫁之」などに改むべきか。

104 箏

風俗通云、箏秦聲也。本五絃、今十三絃。隋音樂志、箏十三絃。

蒙恬所作。彈者用骨爪、以代指。其音箏然。蒙恬芳軌設、游楚清音列。

風俗通云、箏五絃。今涼州箏形如瑟。不知誰改也。或曰、

蒙恬所造也。一本、秦將蒙恬造箏也。遊楚爲駙馬都尉。好音樂。每行以琵琶、自隨身也。

形通天地規、絃寫陰陽節

言其形聲通、寫天地陰陽之規節也。那素善彈箏。雖伯

牙之妙、無以加之也。

鄭音既寥亮、秦聲復凄切

魏文帝詩曰、秦箏發西音。一本、李斯書曰、夫擊瓊扣鐘、彈

箏之、搏脾而歌。呼嗚快耳者、真秦之聲也。

君聽陌上桑、爲辯羅敷潔

燕歌有桑葉飛。羅敷曰、採桑城南隅、玉馬(30ウ)何

脚躑、使君自有婦、羅敷自有夫也。一本、崔豹古今注曰、

陌上桑出秦氏女。邯鄲人有女羅敷。爲千乘人妻。羅

敷出採桑。趙王登樓見之。欲奪之。羅敷乃彈箏。作陌上

歌以自明。故秦箏羅敷不從趙王。是貞潔也。

〔書人〕①欄上に「箏、秦蒙恬所作。五絃築身、絃柱十三。釋

名、箏施絃高、箏々然。庭均詩云、鈿蟬金雁皆零落。鈿蟬以金

花飾、箏上蟬之。雁金者箏柱也。貫休詩云、刻成箏柱雁相挨。

東坡詩云、箏聲遠。愁人參差雁。②左傍に「好馬也」。

〔校異〕1ナシ―志字下に「云」(天) 2ナシ―也(天) 3瑟―

琴(天) 4也―之也(天) 5寫―ナシ(天) 6也―ナシ(天)

7西(天) 一四8斯(天) 一期9ナシ―嗚字下に「之」。(天)

10玉―五(天) 11躑―「距朱」(天) 12注―註(天) 13爲千乘

人妻羅敷―ナシ(天) 14ナシ―敷字下に「爲」(天) 15貞―真(天)

事林云、月令章句云、上古聖人大陰陽、別風聲、審清濁、不

可下以三文載傳上。于是始鐘以主十二月。山海經云、炎帝之孫伯岐因鼓爲鐘。呂氏春秋曰、黃帝命伶

倫、鑄十二鐘。禮記曰、侖之和鐘。鄭康成注曰、侖、時

鐘、工也。釋名曰、鐘空、々内受氣多。故聲大。白虎通曰、鐘

之爲言動也、陰氣用事、萬物動成。五經通義云、

秋分之音也。世本云、倕作鐘。又山海經云、鼓延爲鐘。

既接南隣聲、還隨北里笙

左思詩曰、南隣擊鐘、北里吹笙。平陵(31オ)通曙響、長樂警宵聲

平陵有鐘。庾肩吾詩曰、遠聽平陵之鐘也。長樂宮有鐘。

徐陵云、厭<sup>ニ</sup>長樂之踈<sup>ニ</sup>鐘<sup>一</sup>也。

秋至含<sup>レ</sup>霜<sup>ニ</sup>鳴<sup>一</sup>

霜降則鐘<sup>レ</sup>鳴。言自相感也。又云、豐山有鐘。應<sup>レ</sup>霜而鳴也。一本、山海經注云、豐山有二九<sup>ノ</sup>鐘。々和則霜降也。

春歸應<sup>レ</sup>律<sup>ニ</sup>鳴<sup>一</sup>

月令曰、仲春之月、律中夾鐘也。

豈<sup>レ</sup>知恆待<sup>レ</sup>扣<sup>ニ</sup>、金篴有<sup>ニ</sup>餘清<sup>一</sup>

禮曰、善待<sup>ニ</sup>問者<sup>一</sup>如<sup>レ</sup>撞<sup>レ</sup>鐘。大扣則大鳴、小扣則小鳴。樂

有<sup>ニ</sup>筍篴<sup>一</sup>、以懸<sup>ニ</sup>鐘磬<sup>一</sup>。横曰<sup>レ</sup>筍、植曰<sup>レ</sup>篴也。一本、禮

曰、待<sup>ニ</sup>其春<sup>一</sup>容<sup>レ</sup>然、后盡聲是鐘清也。

〔書入〕①左傍に「然也」。②欄上に「筍 篴」。〔\*

篴字左傍に「ハシラノヤウ(ニ)立ル也)。

〔校異〕 1大、意により「本」に改むべきか。2別(天) 1列

3伯(天) 1佰 4注 1註(天) 5日 1云(天) 6ナシ 1也(天)

7爲(天) 1ナシ 8氣 1陽(天) 9云 1日(天) 10又 1文(天)

11竿 1箏(天) 12之 1ナシ(天) 13厭(天) 14降(天)

15自 1自然(天) 16山海經注 1山海注(天) 17豐山 1鄂山

(天) 18ナシ 1和字上に「初」(天) 19日 1ナシ(天) 20也 1ナ

シ(天) 21豈 1欲(天) 22懸 1縣(天) 23植 1桓(天) 24后 1後(天) 25ナシ 1盡字上に「其」(天)

106 簫

博雅云、大者二十四管無<sup>レ</sup>底。漢謂<sup>ニ</sup>洞簫<sup>一</sup>。小者十六管有

レ底。狀如<sup>ニ</sup>鳳翼<sup>一</sup>。其聲鳳聲。通禮義纂曰、伏羲作<sup>ニ</sup>簫<sup>一</sup>、

十六管(ニ)。事始云、女媧造。風俗通云、舜作<sup>ニ</sup>竹簫<sup>一</sup>。其形參差

以象<sup>ニ</sup>鳳翼<sup>一</sup>。十管長尺二寸。白虎通云、簫者中<sup>ニ</sup>呂<sup>一</sup>之氣也。

五經通義曰、編<sup>レ</sup>竹爲<sup>レ</sup>之。長尺有五寸。博雅曰、簫大者二

十三管無<sup>レ</sup>底。小者十(31ウ) 六管有<sup>レ</sup>底。古之善吹、弄玉、

蕭史、漢元帝、靈帝。大小其說不<sup>レ</sup>同。原<sup>ニ</sup>夫蕭聲所<sup>一</sup>生兮、

江南之丘壠。洞條暢<sup>ニ</sup>而罕<sup>一</sup>、節兮、標數紛<sup>ニ</sup>以扶<sup>一</sup>踈也。

虞舜調<sup>ニ</sup>清管<sup>一</sup>、王褒賦<sup>ニ</sup>雅音<sup>一</sup>

虞書曰、簫韶九成、鳳凰來儀。韶舜樂也。韶紹也。言其紹堯德

也。王褒字子淵、蜀人也。文帝爲<sup>ニ</sup>太子<sup>一</sup>、嘉<sup>レ</sup>褒、爲<sup>ニ</sup>洞簫賦<sup>一</sup>

也。

參差 横<sup>ニ</sup>鳳翼<sup>一</sup>、搜索 動<sup>ニ</sup>猿吟<sup>一</sup>

舜作<sup>ニ</sup>簫<sup>一</sup>。參差象<sup>ニ</sup>鳳翼<sup>一</sup>也。洞簫賦曰、玄猿悲嘯、搜<sup>ニ</sup>索其間<sup>一</sup>

也。

靈鶴時來致

簫史吹簫、善致白鶴。

仙人幸見尋

周靈王太子晉吹簫、道士浮丘公變作白鶴來也。

爲聽楊柳曲、行役幾傷心

短簫有楊柳曲。征役聞此曲傷心也。折楊柳枝送

行人一曲也。(32才)

〔書入〕①欄上に「毛韻、猿、禺、似猴。長臂。亦作猿。俗作爰。漢李廣爰臂也。」

〔校異〕1 鳳聲通禮義纂(天) — 通鳳聲禮義纂 2 始姓(天)

3 十一十六(天) 4 有—ナシ(天) 5 者—ナシ(天) 6 漢—後

(天) 7 ナシ—大字上に「世本舜造長三尺」(天)。(天)により

補うべきか。8 大小—小大(天) 9 原—厚(天) 10 兮—号(天)

11 兮—令(天) 12 標(天) — ナシ 13 德—從(天) 14 嘉—喜(天)

15 致—到(天) 16 也—ナシ(天) 17 ナシ—征字上に「言」(天)

18 楊柳枝—楊柳(天)

107 笛

① 太平御覽云、黃帝使伶倫伐竽昆溪。斬而作笛吹之。風俗

通云、笛滌也。所<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>滌<sub>レ</sub>邪穢<sub>レ</sub>、納<sub>レ</sub>中之雅<sub>レ</sub>正<sub>レ</sub>也。長一尺

四寸、七孔。笛音一定。諸絃歌皆從<sub>レ</sub>笛爲<sub>レ</sub>正。笛之所<sub>レ</sub>出、

有雲夢之竹、衡陽之幹、柯亭之竹。漢武帝時丘仲所造、京

房曰、丘仲工其事、不言所造也。

羌笛爲龍聲、長吟入夜清

馬融長笛賦曰、近世雙<sub>レ</sub>笛從<sub>レ</sub>羌起。龍鳴<sub>レ</sub>水中不<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>己。截

竹吹<sub>レ</sub>之相似。一本、幽明錄曰、巢氏有<sub>レ</sub>婢。往<sub>レ</sub>晉陵採

薪、忽有<sub>レ</sub>二人隨<sub>レ</sub>婢。還不<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>其形。每吹<sub>レ</sub>笛而歌。々

曰、閑夜寂々以清、長<sub>レ</sub>笛寥亮且鳴。若欲<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>我者、姓郭名

長卿也。

關山孤月下、來向隴頭鳴

古樂府有<sub>レ</sub>關山孤月曲。又有隴頭流水曲。皆羌笛吹<sub>レ</sub>之。

虞子陽詩曰、羌笛隴頭鳴。

逐<sub>レ</sub>吹梅花落、含<sub>レ</sub>春柳色驚

笛中有<sub>レ</sub>落梅曲、有<sub>レ</sub>折楊柳曲也。

行觀(32ウ) 向子賦、坐憶隣人情

向子期思舊賦序曰、予與<sub>レ</sub>嵇康呂安居止接近。經<sub>レ</sub>其舊居、

有隣一人吹笙者。發聲、寥亮也。追想曩昔遊燕之好、感音與歎也。

108 笙

釋名曰、笙生也。象物貫地而生。以匏爲之。其中空以受簧也。說文曰、笙正月之音。物生、故爲之笙。有二

十二簧。象鳳之聲。爾雅曰、大笙之謂笙。小笙之謂和。

白虎通曰、笙有七十一政之節焉。六一合之和焉。天下樂之。

故謂之笙。古之善吹、王子晉、董雙成、漢帝、魏杜夔。世本

云、女媧作笙。笙簧。曹植贊女媧云、造笙簧作笙。

隋音樂志云、笙竿并女媧之所作。禮音云、三十六簧。笙大者

十九簧。小者十三簧。衆管有匏有巢象。或曰巢笙也。

懸匏曲沃上、孤篠汶陽隈

崔豹古今注、匏瓠。可爲笙。曲沃者尤善也。潘嶽笙賦曰、河

汾之寶、曲沃之懸、匏焉、鄒魯之珍、有汶陽之孤篠焉。(33

才)

形寫歌鸞翼、聲隨舞鳳哀

笙賦曰、寫鳳翼、以插羽也。一本、笙似鸞翼也。書曰、

笙鏞以間、鳥獸踏々。踏々即舞也。

歡娛自北里、純孝即南陔

詠史詩曰、北里吹笙竿。南陔孝子相戒以養之。言鄉飲酒。

燕禮奏此詩於笙中也。詩義云、南陔、白花、々忝三篇周公

〔書入〕①欄上に「博物志載、洞庭賈客呂雲卿、以質販、遂一之利、有羨施貧。善笙。時中春、夜泊君山、獨飲、弄數曲。忽波上舟中有二父老。矍然曰、聞子笛聲、非凡。是以來我少業。遂於懷袖出笛三管。其大者如合、次者如常人所、蓄、小者如細筆管。雲卿請一吹、答曰、大者不可發。對諸天帝合天樂、其動則天地坼、日月五星失。次者亦然。對洞府諸仙合仙樂、飛砂走石、百獸腦裂、幼〔稚〕震死。小者可下與朋儕吹之。未可知終否。吹三聲、湖上風動、波濤洶湧、魚鼈跳噴、君山鳥獸叫噪、舟楫大恐。父老不復吹、引滿數杯、乃吟曲詩。又數杯酒、明年社期、君於此。遂掉舟而去。隱々没於波間。」

〔校異〕 1 溪(天) — 漢 2 ナシ — 雅字上に「於(天) 3 仲 — 中(天) 4 雙 — 反(天) 5 鳴 — 吟(天) 6 ナシ — 相字上に「聲(天)。(天) により補うべきか。 7 ナシ — 也(天) 8 往 — 征(天) 9 婢 — 婢(天) 10 タ — ナシ(天) 11 日 — 云(天) 12 有 — ナシ(天)

制<sub>レ</sub>禮<sub>レ</sub>用<sub>レ</sub>以爲樂<sub>レ</sub>章<sub>一</sub>。吹<sub>レ</sub>笙<sub>一</sub>、播<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>節<sub>一</sub>。遭<sub>レ</sub>戰<sub>レ</sub>國<sub>一</sub>及<sub>レ</sub>秦<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>世<sub>一</sub>而  
亡<sub>レ</sub>也。

今日<sub>レ</sub>虞<sub>レ</sub>音<sub>レ</sub>奏<sub>一</sub>、踰<sub>レ</sub>々<sub>レ</sub>鳥<sub>レ</sub>獸<sub>レ</sub>來<sub>一</sub>

虞<sub>レ</sub>音<sub>レ</sub>舜<sub>レ</sub>樂<sub>一</sub>也。踰<sub>レ</sub>々<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>文<sub>一</sub>也。

〔校異〕 1 二 三 (天)。(天)により改むべきか。2 笙有(天)  
一有<sub>レ</sub>笙<sub>一</sub> 3 改一 改(天) 4 漢帝、意により「漢桓帝」に改むべき  
か。5 贊女媧—女媧贊(天) 6 并—竝(天) 7 日—ナシ(天)  
8 注—註(天) 9 ナシ—日(天) 10 曲沃(天) —沃 11 河—阿(天)  
12 曲字上に「有」を補うべきか。13 間—聞(天) 14 踰々踰々、「踰  
々」は衍字か。15 之—也(天) 16 詩義—詩正義(天) 17 花—華  
(天) 18 見(天) —ナシ

### 109 歌

① 禮<sub>レ</sub>說<sub>レ</sub>曰<sub>一</sub>、舜<sub>レ</sub>作<sub>レ</sub>五<sub>レ</sub>弦<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>琴<sub>一</sub>、以<sub>レ</sub>歌<sub>レ</sub>南<sub>レ</sub>風<sub>一</sub>。釋<sub>レ</sub>名<sub>一</sub>、人<sub>レ</sub>聲<sub>レ</sub>曰<sub>レ</sub>歌<sub>一</sub>。

々者<sub>レ</sub>柯<sub>レ</sub>也。以<sub>レ</sub>聲<sub>レ</sub>吟<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>詠<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>下<sub>一</sub>、如<sub>レ</sub>草<sub>レ</sub>木<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>柯<sub>レ</sub>葉<sub>一</sub>也。堯<sub>レ</sub>冀<sub>レ</sub>言<sub>一</sub>、  
歌<sub>レ</sub>聲<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>柯<sub>レ</sub>也。

漢<sub>レ</sub>帝<sub>レ</sub>臨<sub>レ</sub>汾<sub>レ</sub>水<sub>一</sub>、周<sub>レ</sub>仙<sub>レ</sub>去<sub>レ</sub>洛<sub>レ</sub>濱<sub>一</sub>

漢<sub>レ</sub>武<sub>レ</sub>帝<sub>レ</sub>祠<sub>レ</sub>汾<sub>レ</sub>陰<sub>レ</sub>后<sub>レ</sub>土<sub>一</sub>。欣<sub>レ</sub>然<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>流<sub>一</sub>。而<sub>レ</sub>歌<sub>レ</sub>曰<sub>一</sub>、秋<sub>レ</sub>風<sub>レ</sub>起<sub>レ</sub>兮<sub>レ</sub>白<sub>レ</sub>雲  
飛<sub>レ</sub>也。周<sub>レ</sub>靈<sub>レ</sub>王<sub>レ</sub>太<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>晉<sub>レ</sub>好<sub>レ</sub>吹<sub>レ</sub>笙<sub>一</sub>。歌<sub>レ</sub>遊<sub>レ</sub>伊<sub>レ</sub>洛<sub>レ</sub>間<sub>一</sub>、浮<sub>レ</sub>丘<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>乘<sub>レ</sub>白<sub>レ</sub>鶴<sub>一</sub>  
而去<sub>レ</sub>也。

郢<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>吟<sub>レ</sub>白<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>ウ<sub>一</sub>雪<sub>一</sub>、梁<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>繞<sub>レ</sub>飛<sub>レ</sub>塵<sub>一</sub>

宋<sub>レ</sub>玉<sub>レ</sub>答<sub>レ</sub>問<sub>レ</sub>曰<sub>一</sub>、客<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>歌<sub>一</sub>、於<sub>レ</sub>郢<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>白<sub>レ</sub>雪<sub>レ</sub>陽<sub>レ</sub>春<sub>一</sub>也。冲<sub>レ</sub>虛<sub>レ</sub>眞<sub>レ</sub>經<sub>一</sub>、  
韓<sub>レ</sub>娥<sub>レ</sub>東<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>齊<sub>レ</sub>過<sub>レ</sub>門<sub>一</sub>、乞<sub>レ</sub>食<sub>レ</sub>鄉<sub>一</sub>而<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>歌<sub>一</sub>、餘<sub>レ</sub>響<sub>レ</sub>繞<sub>レ</sub>梁<sub>一</sub>、塵<sub>レ</sub>飛<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>日<sub>一</sub>  
而<sub>レ</sub>后<sub>レ</sub>止<sub>レ</sub>也。

響<sub>レ</sub>發<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>雲<sub>レ</sub>駐<sub>一</sub>、聲<sub>レ</sub>嬌<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>夜<sub>レ</sub>新<sub>一</sub>

冲<sub>レ</sub>虛<sub>レ</sub>眞<sub>レ</sub>經<sub>レ</sub>云<sub>一</sub>、薛<sub>レ</sub>談<sub>レ</sub>學<sub>レ</sub>謳<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>秦<sub>レ</sub>青<sub>一</sub>。餞<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>郊<sub>レ</sub>衢<sub>一</sub>、撫<sub>レ</sub>節<sub>レ</sub>悲<sub>レ</sub>歌<sub>一</sub>、  
聲<sub>レ</sub>振<sub>レ</sub>林<sub>レ</sub>木<sub>一</sub>、響<sub>レ</sub>退<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>雲<sub>一</sub>也。古<sub>レ</sub>樂<sub>レ</sub>府<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>夜<sub>レ</sub>曲<sub>一</sub>。  
願<sub>レ</sub>君<sub>レ</sub>聽<sub>レ</sub>扣<sub>レ</sub>角<sub>一</sub>、當<sub>レ</sub>自<sub>レ</sub>識<sub>レ</sub>賢<sub>レ</sub>臣<sub>一</sub>

此<sub>レ</sub>句<sub>レ</sub>亦<sub>レ</sub>因<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>寄<sub>レ</sub>情<sub>一</sub>也。甯<sub>レ</sub>戚<sub>レ</sub>扣<sub>レ</sub>角<sub>一</sub>、南<sub>レ</sub>山<sub>レ</sub>絮<sub>レ</sub>々<sub>一</sub>、白<sub>レ</sub>石<sub>レ</sub>欄<sub>一</sub>  
々。中<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>鯉<sub>レ</sub>魚<sub>一</sub>。長<sub>レ</sub>尺<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>半<sub>一</sub>。生<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>逢<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>堯<sub>レ</sub>與<sub>レ</sub>舜<sub>レ</sub>禪<sub>一</sub>。短<sub>レ</sub>布  
短<sub>レ</sub>衣<sub>レ</sub>終<sub>レ</sub>至<sub>レ</sub>飢<sub>一</sub>。長<sub>レ</sub>夜<sub>レ</sub>漫<sub>レ</sub>々<sub>レ</sub>何<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>旦<sub>一</sub>。桓<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>學<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>相<sub>一</sub>也。

〔書入〕 ① 欄上に「隋志、陳後主於清樂〔中〕造黃鸝留及〔玉〕  
樹后庭花、金釵兩臂垂等曲」。歌詞綺艷、極於輕薄。男女唱和、  
其音甚哀」。② 右傍に「土神也」。③ 欄上に「劉向新序、宋玉曰、  
昔有能歌者。其始曰下里巴人、屬而和者數人。而曰陽阿採

菱、唱而和者數百人。既而曰陽春白雪、朝日魚麗、含宮吐角、絕節赴曲、唱和者不過數十人。蓋曲彌高、和者彌寡矣。

〔校異〕 1 禮記—禮記(天) 2 弦—絃(天) 3 吟詠—吹詠(底)、

吟吹詠(天)。意により改む。4 也—ナシ(天) 5 柯—柯葉(天)

6 汾—紛(天) 7 ナシ—乘字上に「下」(天) 8 雪—雲(天) 9

娥—(天) は「娥」に作りて、右傍に「娥(本)」と書す。10 乞

—氣(天) 11 后—後(天) 12 響—歌(天) 13 雲—風(天) 14 ナ

シ—饒字上に「娥」(天) 15 ナシ—也(天) 16 臣—聲(天) 17 「中

有」到「時旦」—從朝飲牛至夜半(天) 18 桓公學以相也—「桓

公聞之、知賢臣、用以爲相也」(天)

110 舞

① 事林廣記云、唐七德舞、本名秦王破陣樂也。歌舞山海經云、

帝俊八子始爲舞。々名、萬舞、南舞、籥舞、沐猴舞也。

渝舞、公魚舞、回波舞、濯舞、八風舞、渾脫舞、胡族舞之。

妙妓遊入金谷

石崇金谷園樓綠珠於上舞也。

佳人滿石城

吳地記曰、吳縣(34才)西四十里有峴山、々上有石城。吳王闔閭造美人宮、於此舞也。

霞衣席上轉

綠衣似霞。舞筵似霞。

花袖雪前明

舞有七盤回雪曲也。

儀鳳譜—清曲

書曰、蕭韶九成、百獸率舞。鳳凰來儀也。冲虛真經云、堯

使—夔典—樂。擊石拊石、百獸率舞。

迴鸞應—雅聲

抱朴子曰、崑崙山圖曰、鸞鳳聞—歌、蹈節而舞也。

非—君—顧重

李延年侍漢武帝。因歌。北方有二佳人。絕代而獨立。

—顧。傾—城。平陽公主因言—延年女弟能歌舞也。武

帝詔—之。即李夫人是也。

誰賞—素腰輕

漢武帝趙皇后、名飛燕。細腰能歌舞耳。列女傳云、趙飛燕

初生、父母不舉、三日不死。乃收養之。乃壯。屬—河陽

公主家、學—歌—舞。帝微—行—主—家、見而悅—之。因立爲

レ后。有<sub>二</sub>女弟<sub>一</sub>。復爲<sub>二</sub>昭儀<sub>一</sub>。貴傾<sub>レ</sub>宮。飛燕體輕。故名<sub>二</sub>飛燕<sub>一</sub>也。

玉帛十首

111 珠

〔書入〕①欄上に「百獸舞、私云、按夫初上皇置<sub>二</sub>内教坊於蓬萊宮傍<sub>一</sub>、居新聲散樂倡優之伎。又出宮人、舞<sub>二</sub>霓裳衣<sub>一</sub>。又教舞<sub>レ</sub>馬、銜盃<sub>レ</sub>壽、及犀象、或拜或舞。祿山見悅<sub>レ</sub>之。既陷<sub>二</sub>長安<sub>一</sub>、搜樂器、工樂器、及舞獸。皆詣<sub>二</sub>洛陽<sub>一</sub>、宴于凝碧池、盛奏樂也」。

〔校異〕 1 破陣 (天) — 破陣 2 云— ナシ (天) 3 俊— 后 (底)、後 (天)。意により改む。 4 南舞— ナシ (天) 5 猴— 候 (天) 6

回波舞 (天) — 魚— 四— 波舞 7 濯舞— 鸚鵡舞 (天) 8 渾— 陳 (底)、

(天) は偏を闕して、旁を「東」に作る。意により改む。 9 胡

族舞— 故旋舞 (天)。意により「胡旋舞」に改むべきか。 10 之—

ナシ (天) 11 綠— 舞綠 (天) 12 舞— 歌舞 (天) 13 ナシ— 也 (天)

14 堯使夔典樂— 堯夔曲<sub>レ</sub>樂 (底)、堯使夔典 (天)。意により改

む。 15 拊— 折 (底) (天) 意により改む。 16 廻— 回 (天) 17 因歌

— 自歌曰 (天) 18 因— 曲 (天) 19 立— 主 (天) 20 宮— 後宮 (天)

21 體輕— 善體輕 (天)

混天圖曰、眞<sub>レ</sub>珠出<sub>二</sub>魚<sub>一</sub>腹中及蚌 (3 4 5) 内。龍珠出<sub>二</sub>龍腦<sub>一</sub>。如<sub>レ</sub>意珠、摩尼珠、并出<sub>二</sub>佛舍國<sub>一</sub>。火<sub>レ</sub>珠出<sub>二</sub>訶斯國<sub>一</sub>、向<sub>レ</sub>日即火出。貨源云、珠生<sub>二</sub>大海中及蚌蛤胎<sub>一</sub>也。採<sub>レ</sub>之者必齋 (1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11) 糧<sub>レ</sub>篝火 (12) 以<sub>二</sub>數十丈麻繩<sub>一</sub>、自<sub>レ</sub>絶<sub>二</sub>其身<sub>一</sub>、於<sub>二</sub>海岸底<sub>一</sub>取<sub>レ</sub>之。或爲<sub>二</sub>海獸<sub>一</sub>所害。小<sub>レ</sub>大有<sub>二</sub>九品<sub>一</sub>。徑<sub>レ</sub>寸爲<sub>二</sub>三寶瑟<sub>一</sub>、々珠之好者。次曰<sub>二</sub>璣<sub>一</sub>。璣也。

粲爛<sub>レ</sub>金<sub>レ</sub>琪側、玲瓏<sub>レ</sub>玉<sub>レ</sub>殿隈

後漢書、豫章<sub>レ</sub>黃向晨行得<sub>二</sub>金珠<sub>一</sub>。可<sub>レ</sub>直<sub>二</sub>三百餘萬<sub>一</sub>。求<sub>レ</sub>主還之也。天子乘輿、宮殿、皆珠—玉間錯、金碧粲爛也。又惠王照<sub>レ</sub>乘珠、照陽殿珠<sub>レ</sub>簾事在<sub>二</sub>上注<sub>一</sub>。

昆池明月滿

漢武帝遊<sub>二</sub>昆明<sub>一</sub>也。見<sub>二</sub>一魚銜<sub>一</sub> (1 2) 鉤、解 (3 4) 放 (5 6) 之 (7)。后

三日<sub>レ</sub>於<sub>二</sub>池道邊<sub>一</sub>得<sub>二</sub>魚銜<sub>一</sub>明月珠<sub>一</sub>來報 (8 9 10) 也。

合浦夜光開

后漢<sub>レ</sub>孟嘗爲<sub>二</sub>合浦太守<sub>一</sub>。郡無<sub>二</sub>耕稼<sub>一</sub>。所<sub>レ</sub>資<sub>二</sub>珠璣<sub>一</sub>、穢取<sub>レ</sub>以爲<sub>二</sub>寶珠<sub>一</sub>、乃飛去。先太守貪<sub>二</sub>珠寶<sub>一</sub>、因珠移、嘗清<sub>レ</sub>潔行政



レ之。期<sup>18</sup>年<sup>ノ</sup>去<sup>ル</sup>珠<sup>更</sup>還<sup>也</sup>。

彩<sup>テ</sup>逐<sup>テ</sup>靈<sup>蛇</sup>一<sup>轉</sup>

搜神(35才)記曰、隋國侯見<sup>レ</sup>傷蛇、救<sup>之</sup>。後蛇銜<sup>レ</sup>珠來報<sup>也</sup>。故

云<sup>二</sup>隋侯珠<sup>一</sup>、亦號<sup>二</sup>靈蛇珠<sup>一</sup>。照乘是也。

形<sup>ハ</sup>隨<sup>レ</sup>舞<sup>鳳</sup>來<sup>ル</sup>

漢書輿服志云、皇太后入<sup>ル</sup>廟。花<sup>勝</sup>上<sup>レ</sup>鳳凰<sup>以</sup>、翡翠<sup>爲</sup>。毛<sup>下</sup>

有<sup>二</sup>白珠<sup>一</sup>也。論語讖曰、鳳冠<sup>規</sup>珠。言<sup>似</sup>珠<sup>形</sup>而圓也。又

鳳<sup>一</sup>翼<sup>有</sup>珠<sup>一</sup>文也。

誰<sup>憐</sup>被<sup>レ</sup>褐<sup>者</sup>一

阮嗣宗詩曰、昔十四時、志向好書詩。被<sup>レ</sup>褐懷<sup>珠</sup>玉。

顏閔相<sup>與</sup>期也。

懷<sup>レ</sup>寶<sup>自</sup>多<sup>才</sup>

曹植與<sup>レ</sup>楊脩書曰、僕少<sup>好</sup>爲<sup>二</sup>文章<sup>一</sup>、迄<sup>二</sup>今<sup>一</sup>二十有五年

矣。然<sup>今</sup>世<sup>作</sup>者可<sup>レ</sup>略<sup>而</sup>言<sup>也</sup>。又曰、足下高視<sup>二</sup>上<sup>一</sup>京。當<sup>二</sup>

此<sup>時</sup>、人<sup>々</sup>自<sup>謂</sup>握<sup>レ</sup>靈<sup>蛇</sup>之<sup>珠</sup>、家<sup>々</sup>自<sup>謂</sup>抱<sup>二</sup>荆<sup>山</sup>之<sup>玉</sup>

也。

〔書入〕①欄上に「縫」(直僞反。懸索也)。②左傍に「堂上花形也」。

〔校異〕1腹腸(天) 2及ナシ(天) 3并竝(天) 4佛

舍國佛舍利國(天) 5詞斯國憫斯國(天) 6蚌蛤胎蚌胎

(天) 7齋(天) 費8自縫其身縫自身(天) 9有者(天)

10徑經(天) 11照昭(天) 12注註(天) 13昆明也昆明

池(天) 14后後(天) 15於遊(天) 16池道邊池邊(天)

17乃風(天) 18ナシ之字下に「化」(天) 19也ナシ(天)

20隋隨(天) 21蛇(天) 地22報ナシ(天) 23侯候(天)

24ナシ也(天) 25號名(天) 26照乘照乘珠(天) 27興

興(天) 28云曰(天) 29讖籤(天) 30鳳冠鳳冠(天) 31

規距(天) 32時ナシ(天) 33相祖(天) 34文章(天) 一

文帝35迄至(天) 36此時此之時(天)

112 玉

財貨源云、玉天地之精也。有<sup>二</sup>山<sup>一</sup>玄文<sup>者</sup>、有<sup>二</sup>水<sup>一</sup>蒼文

者。有<sup>下</sup>白如<sup>レ</sup>截<sup>肪</sup>、赤如<sup>レ</sup>雞<sup>冠</sup>、黑如<sup>レ</sup>純<sup>漆</sup>、黃如<sup>レ</sup>蒸<sup>栗</sup>

者上。生<sup>二</sup>於<sup>レ</sup>山<sup>一</sup>而木<sup>潤</sup>、產<sup>二</sup>於<sup>レ</sup>水<sup>一</sup>而流<sup>方</sup>。藏<sup>二</sup>於<sup>レ</sup>璞<sup>一</sup>文<sup>彩</sup>露<sup>二</sup>

於<sup>外</sup>。于闐<sup>産</sup>玉。河<sup>流</sup>所<sup>レ</sup>出、至<sup>レ</sup>此<sup>分</sup>爲<sup>レ</sup>三。東(35ウ)白

玉、河西綠玉、又南烏玉。河<sup>水</sup>潤、則<sup>撈</sup>焉。長<sup>瀾</sup>採<sup>レ</sup>玉

之地也。綿嶠採玉之山也。

映廡先過魏

一本、尸子曰、魏有二田父。耕得寶玉。徑尺不知其寶也。乃告隣人。々々誑曰、此怪石也。畜之不利其家。

田父置於廡下。明(一)照(二)室(三)。大怖棄之遠野。隣人取獻魏王也。

連城欲向秦

趙文王有氏璧。秦昭王聞之。乃使人遺趙王書曰、願

以二十五城易之也。

洛京連勝友、燕趙類佳人

晉書、潘安仁與夏侯湛二人爲友、同遊洛京。時人謂曰、

連璧友也。古詩曰、燕趙多佳人。美者顏如玉也。

方折晴虹媚

尸子曰、凡水方折者、必有美玉也。禮曰、子貢問玉。

文宣王曰、氣若白虹橫天也。

常山瑞馬新

孔孫氏瑞應圖云、天下一太平、常山出玉馬也。又曰、晉

東嬴勝公行次真定、於常山積大雪。當門前、方丈

消釋。怪而掘之、得玉馬。(36才)勝遂以馬姓、表上

爲瑞馬也。

徒爲卞和識、不遇楚王珍

史記曰、卞和得荆山玉璞獻楚王。々々問工人。云

頑石也。乃別和足也云々。

〔校異〕 1 ナシ―白字上に「於」(天) 2 蒸―煎(天) 3 栗―粟

(天) 4 木(天)―本 5 彩―采(天) 6 于闐―于闐國(天) 7

河流―河源(天)。(天) により改むべきか。 8 分―方(天) 9

三一玉(天) 10 白―自(天) 11 南―西(天) 12 潤―溷(天) 13

瀾―潤(天) 14 也―ナシ(天) 15 田父―田文(天) 16 寶―玉(天)

17 曰―言(天) 18 畜之―ナシ(天) 19 魏王―楚王(天) 20 湛―

堪(天) 21 洛京―洛京中(天) 22 孔、衍字か。 23 云―曰(天)

24 贏―贏(底) (天)。意により改む。 25 勝、意により「騰」に

改むべきか。 26 玉―ナシ(天) 27 云―々々曰(天) 28 則―則(天)

29 也云々―ナシ(天)

113 金

財貨源流云、金、々銀銅鐵鉛錫之總名。惟黃者獨爲之長。

久蕪<sup>①</sup>不<sup>レ</sup>爲<sup>レ</sup>之生<sup>レ</sup>衣。百鍊不<sup>レ</sup>輕。於<sup>レ</sup>從革不<sup>レ</sup>違。西方之行、獨以<sup>レ</sup>金名<sup>レ</sup>之。彼銀白金、次<sup>レ</sup>之。銅金又次<sup>レ</sup>之。鐵

地知、汝知、吾知。何謂<sup>レ</sup>無<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>知<sup>レ</sup>也。謂<sup>レ</sup>之四<sup>レ</sup>知<sup>レ</sup>也。見<sup>二</sup>漢書<sup>一</sup>也。

黑<sup>一</sup>金、鉛青金、錫亦白<sup>一</sup>金<sup>二</sup>鐵也。又次<sup>レ</sup>之。釋名曰、金禁也。

爲<sup>二</sup>進退之禁也。金名天成地生。商聲。易義混天曰、金出<sup>二</sup>

〔書入〕①欄上に「埋與鍾同」。②右傍に「金也」。

山<sup>一</sup>海中及益州<sup>二</sup>、西域<sup>一</sup>。又出<sup>二</sup>於華山<sup>一</sup>也。

〔校異〕1 財貨源流云金―財貨源云流金(底)、財貨源云金者

南楚<sup>一</sup>標<sup>二</sup>前<sup>一</sup>貢<sup>一</sup>、西秦<sup>一</sup>識<sup>二</sup>舊城<sup>一</sup>。

(天)。意により改む。2 爲<sup>レ</sup>得(天) 3 從<sup>レ</sup>(天) は「後」に

禹<sup>一</sup>貢、荊州<sup>一</sup>厥<sup>一</sup>貢<sup>一</sup>金<sup>二</sup>三<sup>一</sup>品也。史記曰、漢高祖都秦。張良曰、

赤(天) 6 白金鐵―白鐵(天) 7 城(天) 8 於<sup>レ</sup>ナシ(天)

秦城有<sup>二</sup>四塞之固。謂<sup>レ</sup>之金城也。

9 三―二(天) 10 金日磾(天) ―金日磾 11 匈奴休屠王―仗屠王

祭<sup>レ</sup>天封<sup>レ</sup>漢氏<sup>一</sup>。

(天) 12 此―比(天) 13 注―註(天) 14 射(天) ―射 15 人知―

病爲<sup>二</sup>驃騎將軍<sup>一</sup>、收<sup>二</sup>匈奴休屠王<sup>一</sup>。々以<sup>レ</sup>金<sup>一</sup>人<sup>一</sup>祭<sup>レ</sup>於<sup>レ</sup>祁連山<sup>一</sup>也。此山漢(36ウ)地也。

擲<sup>レ</sup>地響<sup>二</sup>孫聲<sup>一</sup>。

114 銀

孫綽天臺山賦曰、試擲<sup>レ</sup>地金聲也。孫綽事見<sup>二</sup>賦詩注<sup>一</sup>也。

周禮、荊州其利銀也。爾雅曰、白金謂<sup>レ</sup>之銀也。詳見<sup>二</sup>金注<sup>一</sup>也。

向<sup>レ</sup>日披<sup>レ</sup>沙淨、含<sup>レ</sup>風振<sup>レ</sup>鐸鳴。

思<sup>レ</sup>婦屏輝掩。

一本、謝混曰、陸機陸雲文章若<sup>二</sup>披<sup>レ</sup>沙簡<sup>レ</sup>金<sup>一</sup>。往々見<sup>レ</sup>寶也。

言<sup>レ</sup>婦人坐<sup>レ</sup>銀<sup>一</sup>屏<sup>一</sup>、以<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>之也。

有<sup>二</sup>金鐸也。木鐸以振<sup>二</sup>文教<sup>一</sup>、金鐸以振<sup>二</sup>武教<sup>一</sup>也。

遊<sup>レ</sup>人燭影長。

方同<sup>二</sup>楊伯起<sup>一</sup>、獨有<sup>二</sup>四<sup>一</sup>知名。

古詩曰、何乘<sup>レ</sup>燭不<sup>レ</sup>遊也。言<sup>レ</sup>遊<sup>レ</sup>人乘<sup>レ</sup>銀燭<sup>一</sup>遊也。

人與<sup>二</sup>楊伯起<sup>一</sup>、不<sup>レ</sup>取。人曰、無人知<sup>一</sup>。伯起曰、天知、

遊<sup>レ</sup>人燭影長

玉壺新下<sub>レ</sub>箭<sub>ヲ</sub>

穆天王傳曰、披<sub>レ</sub>圖視<sub>二</sub>天下之寶器<sub>一</sub>、有<sub>二</sub>銀燭漏刻<sub>一</sub>。以<sub>レ</sub>玉

爲<sub>レ</sub>壺、以<sub>レ</sub>銀爲<sub>レ</sub>箭。

桐井舊<sub>レ</sub>安<sub>レ</sub>牀<sub>ヲ</sub>

梁昭明太子詩曰、桐井銀牀牽<sub>二</sub>轆轤<sub>一</sub>。古詩曰、后園鑿<sub>二</sub>37オ<sub>一</sub>

井銀作<sub>レ</sub>牀。又曰、雙<sub>レ</sub>桐生<sub>二</sub>露井<sub>一</sub>也。

色帶<sub>二</sub>長河色<sub>一</sub>、光浮<sub>二</sub>滿月光<sub>一</sub>

一本、天有<sub>二</sub>長河<sub>一</sub>也。天河謂<sub>二</sub>之銀河<sub>一</sub>、亦曰<sub>二</sub>銀漢<sub>一</sub>。月

重<sub>レ</sub>輪詩云、入<sub>レ</sub>戸燒<sub>レ</sub>銀燭。

靈山有<sub>二</sub>珍瓊<sub>一</sub>

瑞應圖曰、銀瓊者<sub>レ</sub>刑法中<sub>レ</sub>度。人不<sub>レ</sub>悲則出。一本、禮曰、

山有<sub>二</sub>器車<sub>一</sub>。注云、銀瓊丹<sub>一</sub>甌之屬也。

仙闕薦<sub>二</sub>明王<sub>一</sub>

海中<sub>二</sub>三神山<sub>一</sub>、盡以<sub>二</sub>白銀<sub>一</sub>爲<sub>二</sub>宮闕<sub>一</sub>。又天子子所<sub>レ</sub>居曰<sub>二</sub>

仙闕。有<sub>二</sub>銀宮金闕<sub>一</sub>也。

〔校異〕 1也<sub>一</sub>ナシ(天) 2注<sub>一</sub>註(天) 3何<sub>一</sub>秉燭不遊也<sub>一</sub>何

不<sub>レ</sub>秉燭遊也(天) 4穆天王傳<sub>一</sub> 穆天子傳(天) 5以<sub>一</sub>ナシ(天)

6ナシ<sub>一</sub>也(天) 7太<sub>一</sub>(天)は「夫」に作り、「大」と上書す。

8后<sub>一</sub>後(天) 9桐<sub>一</sub>相(天) 10日<sub>一</sub>云(天) 11云<sub>一</sub>日(天)

12度<sub>一</sub>ナシ(天) 13不<sub>レ</sub>悲、意により「不爲<sub>レ</sub>非」に改むべきか。

14ナシ<sub>一</sub>三字上に「有」(天) 15白銀<sub>一</sub>金銀(天) 16闕<sub>一</sub>(天)

は親本の闕損狀況を模寫し、右傍に「闕敷」と書す。

115 錢

貨源云、錢之爲<sub>レ</sub>幣、以<sub>レ</sub>銅爲<sub>レ</sub>之。體<sub>一</sub>圓孔<sub>一</sub>方背<sub>一</sub>面同<sub>一</sub>好。皆

有<sub>二</sub>周郭周流四方之象<sub>一</sub>也。爰自<sub>二</sub>禹湯<sub>一</sub>始<sub>レ</sub>周<sub>一</sub>金<sub>一</sub>鑄<sub>レ</sub>幣。周

太公立<sub>二</sub>九府圖法<sub>一</sub>。始名<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>錢之。圓<sub>一</sub>含<sub>レ</sub>方。輕<sub>一</sub>重<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>銖所<sub>一</sub>

從<sub>一</sub>來<sub>一</sub>遠矣。錢名<sub>レ</sub>青臯、龜貝、地馬、榆莢、天<sub>一</sub>龍、事林

廣記云、周通元寶、周世宗廢<sub>レ</sub>佛寺<sub>一</sub>三千<sub>一</sub>三百<sub>一</sub>六十<sub>一</sub>佛法<sub>一</sub>、

割<sub>一</sub>截<sub>レ</sub>身體<sub>一</sub>。利<sub>レ</sub>物猶<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>之。又管子曰、湯七年旱、禹

九年水、湯以<sub>二</sub>莊山銀<sub>一</sub>、禹以<sub>二</sub>歷山之金<sub>一</sub>、并鑄<sub>レ</sub>幣以

救<sub>二</sub>人困<sub>一</sub>也。國語注云<sub>二</sub>萬泉<sub>一</sub>。后轉<sub>レ</sub>而<sub>二</sub>37ウ<sub>一</sub>曰

錢也。漢志、秦始皇鑄<sub>レ</sub>質<sub>一</sub>如<sub>二</sub>周錢<sub>一</sub>。文曰<sub>二</sub>半兩<sub>一</sub>、重<sub>二</sub>如其

文<sub>一</sub>。漢呂后鑄<sub>レ</sub>重八銖<sub>一</sub>、文帝鑄<sub>レ</sub>重四銖<sub>一</sub>。應群曰、

今民間半<sub>一</sub>兩中最<sub>一</sub>小、輕<sub>一</sub>者是<sub>二</sub>四銖錢<sub>一</sub>。武帝建元<sub>一</sub>年鑄<sub>レ</sub>重

三銖、如<sub>二</sub>錢文名<sub>一</sub>三銖。封氏曰、三銖又有<sub>二</sub>別種<sub>一</sub>。穿<sub>レ</sub>下

有三、<sup>二</sup>銖堅<sup>一</sup>文。恐<sup>レ</sup>以此<sup>三</sup>三、<sup>二</sup>畫<sup>一</sup>爲<sup>レ</sup>三、<sup>二</sup>銖之記<sup>一</sup>錢。重<sup>三</sup>三銖、<sup>二</sup>文曰<sup>一</sup>半兩。々々、錢今有折。二有<sup>一</sup>小錢。々々、共有<sup>二</sup>六、<sup>一</sup>樣錢。又云、漢武帝元狩五年、罷<sup>レ</sup>半兩錢、行<sup>二</sup>五銖錢<sup>一</sup>也。

漢曰五銖建

漢書曰、元狩五年王宮初鑄<sup>二</sup>五銖錢<sup>一</sup>也。

姚年九府流

書有<sup>二</sup>九府<sup>一</sup>。舜姚姓也。太公爲<sup>二</sup>九府圖法<sup>一</sup>。即錢也。

天龍帶泉寶

貨殖志曰、在<sup>レ</sup>天莫<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>龍、在<sup>レ</sup>地莫<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>馬。貨寶流行。故謂<sup>二</sup>之泉<sup>一</sup>布。又云、王莽罷<sup>二</sup>五銖錢<sup>一</sup>、更鑄<sup>二</sup>小錢<sup>一</sup>。重

一銖、文曰<sup>二</sup>泉布<sup>一</sup>。此乃光武中興之象也。謂光武時居<sup>二</sup>南陽

泉鄉、王令<sup>レ</sup>布<sup>一</sup>行於<sup>二</sup>天下<sup>一</sup>之兆也。天龍亦錢名也。

地馬列金溝

世說曰、王濟、字武子。晉人也。移<sup>レ</sup>鄆於<sup>二</sup>北邙山<sup>一</sup>、買<sup>レ</sup>地作<sup>二</sup>八才<sup>一</sup>射埒。編<sup>レ</sup>錢布<sup>レ</sup>地。時人號曰<sup>二</sup>金溝<sup>一</sup>也。地馬亦錢

名也。

趙壹囊初乏

后漢趙壹詩曰、文籍雖<sup>レ</sup>滿<sup>レ</sup>腹、不<sup>レ</sup>如<sup>二</sup>錢囊<sup>一</sup>也。

何曾筋欲收

晉何曾、字穎孝。爲<sup>二</sup>太宰<sup>一</sup>。日食萬錢、猶云、無<sup>レ</sup>下筋之處。金門應<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>論

東方朔待<sup>二</sup>詔金門<sup>一</sup>、上書曰、侏儒長<sup>二</sup>三尺、俸<sup>二</sup>一囊粟<sup>一</sup>二百錢。臣長<sup>二</sup>九尺、亦一囊粟<sup>二</sup>二百錢也。侏儒飽欲<sup>レ</sup>死、臣飢

欲<sup>レ</sup>死也。一本曰、晉書、魯褒、字元通。作<sup>レ</sup>錢神論曰、親

之如<sup>レ</sup>兄。字曰<sup>二</sup>孔方<sup>一</sup>。失則貧弱、得則富貴。解<sup>二</sup>嚴毅

之顏、開<sup>レ</sup>難發之口。多者處<sup>レ</sup>前、少者居<sup>レ</sup>後。錢之所<sup>レ</sup>祐、若

無<sup>レ</sup>不利。何必讀<sup>レ</sup>書、然後富貴。無<sup>レ</sup>德而尊、無<sup>レ</sup>勢而烈。

排<sup>二</sup>金門<sup>一</sup>而入<sup>二</sup>紫圍<sup>一</sup>。危可使<sup>レ</sup>安、死可使<sup>レ</sup>活也。

玉井冀<sup>レ</sup>來求<sup>一</sup>

后漢鮑瑗於<sup>二</sup>井中<sup>一</sup>得<sup>レ</sup>錢也。

〔書入〕①欄上に「銖(十黍重)曰(一)」。〔校異〕

1 同(一)圓(天) 2 周金(一)用金(天)。(天)により改む

べきか。3 弊(一)錢弊(天) 4 以錢之(一)錢(天) 5 圓(一)曰(天)

6 楡(一)揄(天) 7 云(一)ナシ(天) 8 歷(一)曆(天) 9 并(一)竝(天)

10 困(天) 11 注(一)註(天) 12 后(一)後(天) 13 也(一)ナシ(天)

14 ナシ(漢字上に「又曰(天) 15 ナシ(一)云(天) 16 文曰(一)半兩

ナシ(天) 17 群(一)劭(天)。(天)により改むべきか。18 重(一)ナ

シ(天) 19名―日(天) 20畫―益(天) 21重三銖(天) 一銖22  
 二一々(天) 23云―日(天) 24五銖錢(天) 一銖錢 25漢書(天)  
 一漢日 26太―大(天) 27殖―植(天) 28罷(天) 一ナシ 29王  
 令布行―布王令行(天) 30濟―齊(天) 31耶 茅(天) 32邨―  
 亡(天) 33埒―埒(天) 34編錢―偏錢(底、編(天)。意によ  
 り改む。 35臺―臺(天) 36滿(天) 一漏 37穎孝(天) 一孝穎。  
 意により「穎考」に改むべきか。 38日―日(天) 39ナシ―也(天)  
 40倅―棒(天) 41口―日(天) 42少(天) 一少 43若―吉(天)  
 44圍―圍(天) 45活(天) 一治

116 錦

説文云、錦金也。其用功重。價如金。故制字從帛與金也。錦織文也。出於蜀者爲十繡、五色(38ウ)備也。締爲質、刺成。故名締也。繡、綺、羅、皆文繪也。

漢使巾車促

漢宣帝以錦飾車、送烏孫公主也。巾駕也。

河陽步障新

王君夫作絲布步障碧裏、四十里、石崇作錦步障

五十里也。石崇有河陽別業。

雲浮山石晚、霞滿蜀江春

一本、有錦山錦石。庾肩吾詩曰、錦石鎮浮橋。有錦雲

錦石故也。石上生苔蘚。文似錦。謂之石錦。蜀都人織

色美廻文妾

寶滔妻織回文錦詩、寄滔也。

光輕縮黑寶

子皮欲使尹何爲邑宰。子産曰不可。子有美錦。不使一人

制之。縣令縮黑繫也。

若逢朱太守、不作夜遊人

一本、漢時朱買臣、會稽人也。爲本郡太守。帝曰、鄉衣

錦襦、還故鄉矣。史記、項羽滅秦、不都關中、欲

還楚曰、富貴不還故鄉、(39オ)如錦衣夜遊耳。

此云太守誤也。

〔校異〕 1云―ナシ(天) 2從―後(天) 3也―ナシ(天) 4

刺―刺(天) 5ナシ―也(天) 6晚―曉(天) 7吾―語(天)

8錦雲―ナシ(天) 9謂之石錦―謂錦石也(天)。(天)により

改むべきか。10 廻一回(天) 11 縮黒―縮墨(天)。(天)により改むべきか。12 繫撃(天) 13 太守―太子(天) 14 矣―ナシ(天) 15 「史記」到「故郷」―ナシ(天) 16 錦衣―衣錦(天) 17 太守、(天)は守字に「子」と上書す。

117 羅

々綺也。古登氏初作羅也。爾雅曰、鳥罽謂之羅。見「錦注」。妙舞隨裾動、嬌歌入扇清。

一本、羅裾也。言舞者羅衣。歌有羅扇羅衣、曰「飄飄」也。何孫詩曰、偶婦掩歌扇。一本、羅扇也。

蓮花依帳發

鄴中記曰、石虎和名帳安。傘蓮花中懸薄織成文羅也。

又有紅蓮羅也。

秋月鑑帷明

阮籍詩曰、薄帷鑑明月。言有羅帷帳故也。

雲薄衣初卷

洛神賦曰、被羅衣。言薄雲文似羅也。雲亦言衣也。

蟬飛翼轉輕

古詩曰、羅衣飄蟬翼。言蟬翼輕似羅。若珍三代服、同擅綺紈名。

一本、司馬彪續漢書曰、馮魴父子兄弟三代爲侍中。并帶清紫羅綺也。一本曰、三代夏殷周也。(39) 之「漢班伯爲侍中常侍、講金花殿。雖綺紈袴之門、非其所好也。此稱三代淳素之風焉。

〔校異〕 1 芒―芑(天) 2 也―ナシ(天) 3 注―註(天) 4 裾―裙(天) 5 舞―舞者(天) 6 羅扇羅衣―羅扇衣(天) 7 曰―白(天) 8 飄飄―飄々(天) 9 孫―遊(天)。意により「遜」に改むべきか。10 偶、意により「倡」に改むべきか。11 「一本」到「扇也」―ナシ(天) 12 花―華(天) 13 薄―蓮(天) 14 ナシ也(天) 15 馮―馬(天) 16 并―竝(天) 17 曰―云(天) 18 門、意により「間」に改むべきか。19 所―ナシ(天)

118 綾

野王曰、綾似綺而細者。考聲切苑云、紋、吳越謂之綾也。詳見「錦注」也。

金縷通秦國

魏略曰、大秦國有金縷繡雜色之綾。

青縑值漢君

漢典職儀曰、供青縑綾被也。一一本、魏志曰、楊阜爲城門校尉。見帝著縑綾半袖。指問此、於禮何法服。

帝默然也。

落花遙寫霧 飛鶴近圖雲

言文縑若圖雲也。一一本、縑有花文。又有雲鶴縑。

色帶水凌影、光含霜雪文

漢書曰、齊俗織作水紈之。言其潔白如霜雪也。班婕妤詩

曰、皓潔如霜雪也。言此紈也。

何當下畫秦女、煙霧出氛氳

江文通詩曰、綾扇如團月、出自機中素。畫作秦玉女

乘鸞向煙霧也。(40才)

〔校異〕 1野一郢(天) 2日一云(天) 3考聲切苑一孝聲切苑

(天)。意により「考聲切韻」に改むべきか。4注一註(天) 5ナシ一也(天) 6典(天) 一曲7阜一隼(底)、集(天)。意により改む。8紈一綾(天) 9之一也(天) 10此紈一紈扇(天)

11氣一氳(天) 12團一傳(天)

119 素

列子、太素者質之始也。又空也。故也。帛也。說文作素

白緻繪也。見錦注也。

濯手天津女、織腰洛浦妃

古詩曰、皎々河漢女、織々濯素手。曹植洛神賦曰、腰

如一束素也。

魚腸遠方至

古詩曰、客從遠方來、遺我雙鯉魚。呼兒烹鯉魚、

中有三尺素書(之)也。

雁足上林飛

漢使至匈奴、說曰、漢帝上林射雁得蘇武書。古人多以

素白爲書也。一一本、蘇武在匈奴中、作素帛書繫

雁足。武帝射雁得書也。

砧杵調風響、綾紈寫月輝

皆是擣素也。一本、曹擣練詩、婕妤機中裂素紈。直置

砧杵能擣切。況復月淨風音節也。



非<sup>ハ</sup>君<sup>カタル</sup>下<sup>ニ</sup>山路<sup>ニ</sup>、誰<sup>レ</sup>賁<sup>レ</sup>故人<sup>ノ</sup>機<sup>ヲ</sup>

古詩曰、上山<sup>ニ</sup>採<sup>ル</sup>靡<sup>ニ</sup>蕪<sup>ニ</sup>、下山<sup>ニ</sup>逢<sup>ニ</sup>故<sup>ニ</sup>夫<sup>ニ</sup>。又曰、新人能

織<sup>ル</sup>素<sup>ヲ</sup>。長跪問<sup>ニ</sup>故<sup>ニ</sup>夫<sup>ニ</sup>、故人復如何<sup>ヲ</sup>。新人工織<sup>ル</sup>縑<sup>ヲ</sup>、故人

工織<sup>ル</sup>素<sup>ヲ</sup>。織<sup>ル</sup>縑<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>一<sup>ト</sup>疋<sup>ト</sup>、織<sup>ル</sup>素<sup>ニ</sup>五<sup>ト</sup>丈<sup>ト</sup>餘<sup>ト</sup>。持<sup>ル</sup>縑<sup>ヲ</sup>持<sup>ル</sup>此<sup>ニ</sup>素<sup>ヲ</sup>、

(40ウ) 新人不<sup>レ</sup>如<sup>ニ</sup>故<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>一<sup>ト</sup>耳<sup>ト</sup>。

〔校異〕 1 素白(天) 1 潔白 2 注 1 註(天) 3 雙 1 及(天)

4 之也 1 也(天) 5 日 1 云(天) 6 素帛書 1 素書(天) 7 擣素

1 木搏素(天) 8 也 1 ナシ(天) 9 曹擣練詩 1 曹植詩曰(天)

10 裂(天) 1 列 11 能 1 ナシ(天) 12 靡蕪 1 藥(天) 13 下山 1 ナ

シ(天) 14 夫 1 人(天) 15 織素織縑 織<sup>ニ</sup>底<sup>ニ</sup>素<sup>ニ</sup>縑<sup>ニ</sup>底<sup>ニ</sup>(天)。

意により改む。 16 日 1 曰(天)

### 120 布

々帛、又陳也。周禮、錢<sup>ナリ</sup>行<sup>レ</sup>之<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>布<sup>ト</sup>、藏<sup>レ</sup>之<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>泉<sup>ト</sup>。四聲字

苑云、織麻及紵爲<sup>レ</sup>帛。詳見<sup>ニ</sup>錦<sup>ニ</sup>注<sup>ニ</sup>也。

潔<sup>シキ</sup>績<sup>シ</sup>創<sup>シ</sup>儼<sup>シ</sup>皇<sup>ト</sup>

古冠績<sup>ニ</sup>麻<sup>ニ</sup>三十升布以爲<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。言古謂<sup>ニ</sup>儼<sup>ニ</sup>皇<sup>ト</sup>也。又曰、伏儼

教<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>績<sup>ス</sup>麻<sup>ヲ</sup>作<sup>ル</sup>布<sup>ヲ</sup>也。

緇冠表<sup>ス</sup>素<sup>ヲ</sup>王<sup>ト</sup>

禮<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>緇<sup>ニ</sup>布<sup>ニ</sup>冠<sup>ト</sup>。孔子刪<sup>ニ</sup>詩<sup>ニ</sup>書<sup>ニ</sup>、定<sup>ニ</sup>禮<sup>ニ</sup>樂<sup>ニ</sup>也。左傳序<sup>ニ</sup>仲尼

素<sup>ヲ</sup>王<sup>ト</sup>、丘明素<sup>ニ</sup>臣<sup>ト</sup>。一<sup>ト</sup>本<sup>ト</sup>、文宣王曰、麻冕<sup>ハ</sup>禮<sup>也</sup>也。冕<sup>ハ</sup>緇<sup>ニ</sup>布<sup>ニ</sup>冠<sup>也</sup>也。

瀑泉非<sup>レ</sup>掛<sup>ニ</sup>鶴<sup>ニ</sup>

天臺赤城山懸<sup>ニ</sup>溜<sup>ニ</sup>千仞<sup>ト</sup>、謂<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>瀑<sup>ト</sup>水<sup>ト</sup>。臨海記<sup>ニ</sup>郡<sup>ニ</sup>西

有<sup>ニ</sup>鶴<sup>ニ</sup>山<sup>ト</sup>。上<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>池<sup>ト</sup>水<sup>ト</sup>懸<sup>レ</sup>流<sup>ト</sup>。遙<sup>シ</sup>望<sup>シ</sup>如<sup>シ</sup>三<sup>ト</sup>倒<sup>ト</sup>懸<sup>ト</sup>白<sup>ト</sup>鶴<sup>ト</sup>也。

浣<sup>ル</sup>火<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>炎<sup>ト</sup>光<sup>ト</sup>

十州記、炎州有<sup>ニ</sup>火<sup>ト</sup>獸<sup>ト</sup>如<sup>シ</sup>鼠<sup>ト</sup>、毛<sup>ハ</sup>長<sup>シ</sup>三<sup>ト</sup>四<sup>ト</sup>寸<sup>ト</sup>。取<sup>レ</sup>毛<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>爲<sup>ス</sup>

布<sup>ヲ</sup>、以<sup>テ</sup>名<sup>ス</sup>洗<sup>ニ</sup>火<sup>ニ</sup>布<sup>ト</sup>。有<sup>ニ</sup>垢<sup>ト</sup>汚<sup>ト</sup>、唯<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>洗<sup>ニ</sup>火<sup>ニ</sup>布<sup>ト</sup>而<sup>シ</sup>良<sup>ク</sup>久<sup>ク</sup>出<sup>ス</sup>

振<sup>レ</sup>之<sup>ト</sup>、白<sup>ク</sup>如<sup>シ</sup>雪<sup>ト</sup>之<sup>ト</sup>。一<sup>ト</sup>本<sup>ト</sup>、神異記、南方火山長<sup>シ</sup>四<sup>ト</sup>十<sup>ト</sup>里<sup>ト</sup>、

晝<sup>ニ</sup>夜<sup>ニ</sup>火<sup>ト</sup>。風<sup>ハ</sup>雨<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>滅<sup>ト</sup>。火<sup>中</sup>有<sup>ニ</sup>鼠<sup>ト</sup>。重<sup>シ</sup>百<sup>ト</sup>斤<sup>ト</sup>。毛<sup>ハ</sup>長<sup>シ</sup>三<sup>ト</sup>尺<sup>ト</sup>。可<sup>レ</sup>爲<sup>ス</sup>

布<sup>ト</sup>。若<sup>シ</sup>不<sup>レ</sup>淨<sup>ト</sup>、火<sup>ト</sup>燒<sup>テ</sup>、即<sup>チ</sup>淨<sup>ト</sup>。號<sup>シ</sup>(41才)爲<sup>ス</sup>火<sup>ト</sup>洗<sup>ニ</sup>布<sup>ト</sup>。

事林廣記、火州在<sup>ニ</sup>南<sup>ニ</sup>海<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>。地<sup>ハ</sup>方<sup>シ</sup>三<sup>ト</sup>千<sup>ト</sup>里<sup>ト</sup>、去<sup>リ</sup>岸<sup>ニ</sup>九<sup>ト</sup>百<sup>ト</sup>里<sup>ト</sup>、

洲<sup>ハ</sup>一<sup>ト</sup>面<sup>ト</sup>數<sup>シ</sup>千<sup>ト</sup>里<sup>ト</sup>。地<sup>ハ</sup>蒸<sup>シ</sup>焰<sup>シ</sup>巨<sup>ト</sup>天<sup>ト</sup>。飛<sup>鳥</sup>高<sup>ク</sup>空<sup>ト</sup>、不<sup>レ</sup>敢<sup>テ</sup>度<sup>ト</sup>。海<sup>水</sup>

四<sup>ト</sup>面<sup>ト</sup>爲<sup>ス</sup>之<sup>ト</sup>沸<sup>ト</sup>。上<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>火<sup>ト</sup>山<sup>ト</sup>。鼠<sup>ハ</sup>毛<sup>ハ</sup>長<sup>シ</sup>數<sup>シ</sup>尺<sup>ト</sup>。仙<sup>人</sup>採<sup>ル</sup>毛<sup>ヲ</sup>爲<sup>ス</sup>布<sup>ヲ</sup>、名<sup>ス</sup>

曰<sup>ク</sup>火<sup>ト</sup>洗<sup>ニ</sup>布<sup>ト</sup>。凡<sup>レ</sup>爲<sup>ス</sup>衣<sup>ト</sup>。以<sup>テ</sup>水<sup>ヲ</sup>洗<sup>レ</sup>之<sup>ト</sup>、終<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>瑩<sup>ト</sup>潔<sup>ト</sup>。用<sup>テ</sup>火<sup>ト</sup>燒<sup>テ</sup>

之<sup>ト</sup>、其<sup>ハ</sup>白<sup>ク</sup>如<sup>シ</sup>雪<sup>ト</sup>。又<sup>シ</sup>産<sup>シ</sup>風<sup>ヲ</sup>生<sup>ル</sup>獸<sup>ト</sup>。青<sup>シ</sup>色<sup>ト</sup>如<sup>シ</sup>狸<sup>ト</sup>。積<sup>シ</sup>薪<sup>ヲ</sup>燒<sup>レ</sup>之<sup>ト</sup>、

其<sup>ハ</sup>毛<sup>ハ</sup>如<sup>シ</sup>故<sup>ト</sup>。其<sup>ハ</sup>獸<sup>ハ</sup>觸<sup>ル</sup>風<sup>ヲ</sup>乃<sup>チ</sup>活<sup>ス</sup>。上<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>火<sup>ト</sup>丹<sup>ト</sup>流<sup>ル</sup>火<sup>ト</sup>之<sup>ト</sup>宮<sup>ト</sup>、仙<sup>家</sup>萬<sup>衆</sup>。漢

時曾通<sub>二</sub>中國<sub>一</sub>。

孫被登<sub>三</sub>相<sub>一</sub>

公孫弘爲<sub>二</sub>御史大夫<sub>一</sub>。以<sub>二</sub>布被<sub>一</sub>卧。後爲<sub>二</sub>漢丞相<sub>一</sub>。言<sub>三</sub>相<sub>一</sub>者<sub>二</sub>三公也<sub>一</sub>。

劉<sub>カ</sub>衣<sub>ハ</sub>闢<sub>ク</sub>四<sub>方</sub>一

漢高祖以<sub>二</sub>布衣<sub>一</sub>提<sub>二</sub>三尺劍<sub>一</sub>、取<sub>二</sub>天下<sub>一</sub>。高祖姓劉也。

佇<sub>タテ</sub>因<sub>レ</sub>春<sub>クニ</sub>斗<sub>ツ</sub>栗<sub>ツ</sub>、來<sub>テ</sub>睦<sub>ニ</sub>棣<sub>ハ</sub>花<sub>ハ</sub>芳<sub>ニ</sub>一

一本、漢書、淮南厲王長文帝異<sub>レ</sub>母弟也。徒<sub>カチヨリ</sub>蜀<sub>ノ</sub>嚴<sub>ニ</sub>道<sub>ニ</sub>行<sub>ニ</sub>至<sub>テ</sub>

レ雍<sub>ニ</sub>病<sub>ニ</sub>乃<sub>レ</sub>死<sub>ス</sub>。時<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>歌<sub>フ</sub>曰、一<sub>レ</sub>尺<sub>レ</sub>布<sub>レ</sub>尚<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>縫<sub>フ</sub>、一<sub>レ</sub>斗<sub>レ</sub>粟<sub>レ</sub>尚<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>舂<sub>フ</sub>。

兄弟<sub>二</sub>一人<sub>一</sub>不<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>容<sub>ト</sub>也。一本、毛詩曰、常<sub>ニ</sub>棣<sub>ノ</sub>燕<sub>ノ</sub>兄弟<sub>一</sub>也。

常<sub>ニ</sub>棣<sub>ノ</sub>之<sub>レ</sub>花<sub>、</sub>萼<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>離<sub>イ</sub>々<sub>、</sub>喩<sub>ニ</sub>管<sub>ノ</sub>蔡<sub>ノ</sub>失<sub>レ</sub>道<sub>、</sub>如<sub>ニ</sub>花<sub>ノ</sub>萼<sub>ノ</sub>不<sub>レ</sub>光<sub>、</sub>明<sub>ニ</sub>相<sub>ノ</sub>映<sub>一</sub>

也。今日<sub>レ</sub>春<sub>ニ</sub>斗<sub>ツ</sub>栗<sub>ツ</sub>之<sub>レ</sub>歌<sub>、</sub>若<sub>レ</sub>兄弟<sub>レ</sub>和<sub>一</sub>（41ウ）<sub>レ</sub>睦<sub>、</sub>如<sub>ニ</sub>華<sub>ノ</sub>萼<sub>ノ</sub>芬<sub>一</sub>

芳<sub>二</sub>也<sub>一</sub>。棣<sub>ニ</sub>樹<sub>ノ</sub>子<sub>レ</sub>似<sub>ニ</sub>櫻<sub>ノ</sub>桃<sub>一</sub>、可<sub>レ</sub>食<sub>ル</sub>也。說<sub>レ</sub>文<sub>ニ</sub>曰<sub>、</sub>棣<sub>ニ</sub>糖<sub>ノ</sub>棣<sub>一</sub>也。

〔校異〕 1 泉—帛（天） 2 織—織（天） 3 紵—紵（天） 4 注—

註（天） 5 ナシ—矣者（天） 6 序—ナシ（天） 7 ナシ—曰（天）

8 ナシ—也（天） 9 也—ナシ（天） 10 瀑（天）—曝 11 懸—縣（天）

12 溜—緇（天） 13 水—泉（天）。衍字か。 14 炎州—火林（天） 15

浣<sub>レ</sub>火<sub>レ</sub>布—浣<sub>レ</sub>布（天） 16 以<sub>レ</sub>火（天）—火 17 雪—白<sub>レ</sub>雪（天） 18 之—

也（天） 19 ナシ—火<sub>レ</sub>字<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>に「有」（天） 20 火州—炎州（天） 21 三

—二（天） 22 沸—佛（天） 23 瑩（天）—熒 24 「其白」到「燒之」

—ナシ（天） 25 官—官（天） 26 以<sub>レ</sub>布<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>卧—以<sub>レ</sub>卧<sub>レ</sub>布<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>以（天） 27

取<sub>レ</sub>收（天） 28 花—華（天） 29 異<sub>レ</sub>母<sub>レ</sub>弟—異<sub>レ</sub>母<sub>レ</sub>弟（天） 30 徒—

徒（天） 31 常—尚（天） 32 明—ナシ（天） 33 ナシ—兄<sub>レ</sub>字<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>に「能」

（天） 34 華—花（天） 35 棣<sub>レ</sub>樹<sub>レ</sub>子（天）—棣<sub>レ</sub>梅<sub>レ</sub>子 36 似（天）—

ナシ 37 棣<sub>レ</sub>糖<sub>レ</sub>棣—積<sub>レ</sub>棣<sub>レ</sub>糖<sub>レ</sub>棣（天）

百二十詠詩注下終（42オ、以上下冊）

〔校異〕 百二十詠詩注下終—百二十詠終（天）